

滿洲日報

年頭の辭

歳華改まつて此に昭和四年の新春を迎へ、萬象咸清新に、神氣自ら爽澄なるものあり、先づ恭しく寶祚の無窮を壽ぎ奉り、我國運の隆昌を祈らんとす。

顧るに昨昭和三年は、今上陛下御即位てふ、我皇國の一大慶典行はせられ、擧國一致之に奉仕するの實を致し、我國體の精華を宇内に光被したといふ點に於いて、我國民が永く記念すべき年であつたことは、今更謂ふまでもない。而して内外の時局は、年初我等の豫測せる以上に多端であり、特に支那時局の變轉に伴ふ對支外交は極めて複雜且つ微妙の狀勢を示し、其の推移如何は啻に我政局の變動のみならず、國歩の上に最も重大なる影響を及ぼすものとして、内外の注視は擧げて此に集中せられたる儘越年を見たのである。卽ち對支外交の展開如何、之が差當り今年に於いて我等に與へられたる中心命題でなければならぬ。

昨年の支那時局は更めて叙述するまでもなく、黨軍北伐奏功し、北方の舊勢力は忽然として其の影を潜め、歳晩に至つて青天白日旗は東北各省にも翻へり、國民政府支那統一の覇業は此に第一段の成功を見た。然しながら其の間に於いて兵燹相踵ぎ無辜の良民は生命財産に危害を受け、行政未だ其の緒に就かず、國土は疲弊の極に達したるに加へて、兵匪蜂起して漢口、南京、濟南等の各地に、外國人の財産生命を傷害し、其の善後の措置は、國民政府の創業始政に伴ふ法權、税權の回收、條約の改訂等の諸案件と併せて對外折衝中に屬し新政府當事者の心勞察すべきものあるに、一方内部に於ける各種勢力の抗爭依然として舊態を離脱するに至らず、動もすれば戰雲復び長江沿岸を掩はんとし、裁兵歸農の施設未だ完からず、新政府の礎地の固定する、前途尚ほ遼遠の觀なきを得ない。各國の對支外交難の主因實に此に存すと謂ふべきである。

更に我が國策に關係の最も密接なる滿蒙方面を見るに、從來日本の經濟的施設を中心に、日支兩民族相融和し、協力して産業の開發福祉の增進に努め、支那本土累年の兵亂を外に全く別個の安易郷たりし觀ありしに、昨春、東三省を本據とする北方政團の沒落に伴ひ、政變の波及を免れずして、從來の特殊地域たるの本義は、南方及び奉天の兩政團に依て殆ど無視せられ、滿蒙開發に對して甚大の犧牲を拂へる日本の努力は感謝の代りに怨嗟を以て報いられ、輕躁なる排日の氣風は漸次東三省にも瀰漫するに至らんとしてゐる。是れ我國として最も考慮すべき傾向でなければならぬ。

斯くの如くにして我國の對支外交は停頓し、我對支商權は脅威を受け、在滿邦人の前途行詰まりの聲を聽く。日支兩民族の融和と發展のために速に此の境地を打開するの途を講ずることが、兩國民共同の問題に他ならぬ。而も停頓といひ、行詰まりといひ、又總て是れ一の觀方に於ける比較的の用語に止まる。日支民族の前途は悠久である。我國家の存在は永遠である。永遠と悠久との前には、眞に一彈指の間にも如かない眼前の現象の如きは、或は深く意とするに足らぬかも知れない。素より過去の經緯と現在の事實は之を無視するわけには行かない。然しながら我等は時に高き見地に立つて永遠の將來に眼を濺ぐ必要がある。卽ち今日を新なる出發點と觀て新なる努力をなし、新なる歩みを開始する心持を有するに於いては所謂る「停頓」「行詰まり」必しも深く意とするに足らないであらう。否、寧ろ徒に眼前の功に喘いで、所謂る政治的解決を急がんとするとき却つて其の歸結の好ましからざるものある場合の多きを憂へるのである。繰返して曰ふ、日支兩民族の融和を基調とすべき兩國の關係は永遠である。對支問題は我日本民族の常に心すべき悠久の命題である。二三の政治家が手に唾して解決すべく餘りに重大であることを我等は痛感する。此の意味に於いて我國内の政治家が、對支問題を論議の中心とするは歡迎する處なるも、此の問題を以て或は政黨の離合集散の口實にし、或は政權爭奪の具に供せらるゝことを衷心より欲しない。我等は又當面の政治家に一切を委託して晏如たり得べきにあらず、我等自ら手を伸べて日支兩民族の融和を圖り、兩民族の將來のために深く圖る處なければならぬ。是れ昭和四年に於いて、我等に與へられたる重大使命であると確信する。

尊皇愛國の精神で不純思想に備へよ
光輝ある新年を迎へて
内閣總理大臣 男爵 田中義一

曠古の大禮は滞りなく濟まさせられ新に光輝ある年を迎ふるに方り謹みて上皇室の御繁榮を壽ぎ奉り下忠良なる國民の益々壯健ならんことを祈るものである。

顧みれば昨昭和三年は即位禮を中心として國民精神の最高潮に達した年であつた、近年動もすれば不純思想や頽廢的風潮の侵入に對して憂慮すべきものあるは爭はれぬところであつたが、大禮を中心として現示された尊皇愛國の精神は我國古有の美風が毅然として中外に輝き建國の精神の倍々高調せられつゝあることを證據立てたのである。

此の快心の事實が國民の希望を新にし其の愛國的活動を刺戟して彌々國家の隆盛を期待せしむるものであるは甚だ愉快である、併しながら茲にお互ひ國民の戒心を要するのは世界共通の不安である、不純思想は今後に於ても間隙に乘じて侵入せんと試みるであらう。之に備へるためには當局者の施設宜しきを得なければならぬのは勿論であるが、お互ひ國民として大禮に際して示した愛國的精神を倍々發揮せしむることは更に緊要である。以上の如き準備と心掛を基調として國民が協力一致するならば帝國の前途は洋々春の海の如く希望に輝き滿帆の風を孕んで昭和新政の理想に向つて船出するの感がある、現内閣成立以來の大使命であつた大禮は滯りなく濟ませられた、現内閣の政策的準備時代は無事に經過した、本昭和四年は何等後顧の憂ひなく一路昭和新政の具體化に向つて邁進すべき年であると確信して重大なる使命の前に責任を感ずるものである。茲に希望に滿ちた新年を迎ふるに際し所懷の一端を國民諸君に告げ相倶に帝國の前途を祝福し度いと思ふ。





内は同胞と協力し外は外人と融和
以て相互の福祉利益を増進せよ
滿鐵社長 山本条太郎

歳華茲に改まりて光明に輝き瑞祥に滿ちたる昭和四年の新年を迎へ天地一新日月光を増して實に感懷の言宣し得ざるものがある。

一年の始め新春の期に際して自から心を新にして奮發鼓舞し來日に邁進の覺悟をなすといふとは何れの國、何れの歳も萬人の同じく感じて同じく力むることであるが我帝國國民は本年の歳首に於て殊に一種特別の生氣と活力の心胸裏に横溢漲盈するありて將々洋々春海の如き感に充ち希望と光明の溢るゝものあるは何故であらう、是れぞ誠に昨年十一月を以て聖上陛下が曠古未有の御盛儀を以て即位の大禮を行はせられ八千萬蒼生が神聖文武の聖帝を戴きて皇室の御繁榮と國運の隆昌を目のあたり仰ぎ奉れるに因れるなり、吾々國民たる者は此の目出たき大機運に際して大に奮勵興起して國民の本分を盡くすべきである。

顧みて滿蒙の地域が日華兩國に密接の關係ありて其の開發經營は兩國親善の楔子となり國際上極めて重要の意義を有することは今更多言するまでもない惟々此の第一線に立ちて此間に活躍する吾々は居常如何なる覺悟と態度を取るべきか此の心得こそ實に將來結果の善惡、事功の成否に關する重大事と思ふ、これは外ではない、吾々は常に公明正大の心を以て共存共榮を理想と爲し國家を忘れず人道を思念し極めて着實に極めて堅忍に各其の事に當り内は同胞の協力を固くし外は中華人及び其の他の外國人との融和を力め大なる義力を以て邁往直前すべきである、斯くして學術に思想に産業に此の地の開發文化を圖り天惠の利源に頼りて人爲の樂郷を造り以て相互の福祉利益を増進すべきであると思ふ。

希望と光明に充ちて意義ある新年を迎へ愉快と慶祝に勝へず所懷を飾り無く吐露した次第である

年頭所感
滿鐵副社長 松岡洋右

私はこゝに光輝ありて意義ある昭和四年の新年を迎へて在滿二十萬の同胞諸君と共に昨年に繼いで復皇運の御長久を祝し奉り國運の安泰を祈ることは誠に感慨深くして又光榮のことゝ考へる次第である。

特に本年は昨年十一月今上天皇陛下御即位の大禮を行はせられ瑞氣祥雲津々浦々に滿ち盈ちて國民の胸裡には新たなる希望と光明が溢れ前途洋々として春海の如き感を爲し國光環球に輝き渡れる千古記念すべき御盛事後の御一開歳である。

我滿鐵會社も創立二十二年に垂々とし諸方の同情援助の下に其の使命に精進しつゝあるが昨年一月既に言明せし如く社内整理も所期の如く進捗したるに因り更に進んで積極的に産業の開發、經濟の伸張に力を盡くさんとして居る、此際私はつくづく思念し實に感激に勝へないことは昨年の御大禮に對して七千萬蒼生の感喜敬慕の情は果して如何でありしか實に言語形容に超越して居る是れ誠に我國特有の事象である此の如き聖天子を戴き此の如き國體を奉ずる我國民は此の大典を機會として忽ち擧國一體、世界を驚かせる精誠忠愛の發露を爲し頻年動もすれば世人の目に映ずる種々の悲觀的陰翳を一掃して新しき希望に蘇がへり潑剌たる元氣を生じた我社も此の氣運に乘じて大に努力せねばならぬ然るに今日は國際の關係ありて外交上の顧慮を要することが多いが我國の眞意は聖天子屢次の詔勅に見れば反復懇欵に宣まはせられる共存共榮、王道蕩々の聖旨は益々各國に明かになり支那側に於ても既に識者間には根本の諒解を爲し居れば事に觸れて起る一時の誤解等は漸次氷釋することになるべく又既に正當の理解を爲し居る歐米列國は彌々益々我國に同情諒察を爲すに至るべく誠に國家の爲め東洋平和の爲め賀すべく喜ぶべきことである、私は此の如き環境の時機に在つて滿蒙に活躍する同胞諸君を人生の快事を領有せらるゝ者と祝福すると同時に國運の益々發展することを望んで止まないのである。」

大國民の理想を以つてその職に淬勵せよ
關東長官 木下謙次郎

昭和四年の新春を迎へ茲に八千萬同胞と共に國運の隆昌と聖壽の無疆とを祈り奉るは洵に欣悦に堪へざる處である、古語に「一年之計在于春一日之計在于晨」とあり、年々歳々年頭の所感を繰返す次第であるが御即位式後第一の新年であり昭和隆運の第一歩とも考へられるので何人も自ら人心を新にして更張の氣分の溢るゝものあるを覺ゆるであらう。

熟ら宇内の形勢、世局の推移を觀察するに眼前に幾多重大なる問題が起伏して居る、一方に於ては軍備縮小、不戰條約等の國際的和平運動や經濟、勞働、保健其他各般の社會問題に付人類の福祉と進化の爲に凡百の運動が國際的にも人類的にも努力せられつゝあるに拘らず一方に於ては國際的憎惡、階級鬪爭乃至經濟鬪爭益々熾烈となり生存の競爭は彌々激甚にして世相の險惡、人心の不安未だ嘗て今日より甚だしきは無い、翻つて我日本を省みるに政治經濟其他諸般の社會問題漸く複雜ならんとし動もすれば思想の趣舍を異にし經濟の利害を相同じくせざるに至つて來たが併し乍ら我國民の歸嚮に關しては聖勅炳乎として遵由の大道を教へ賜ひ内は陛下を慈父と仰ぎて擧國心を一にして敬忠上に奉じ下は民心相和會して日進日新の國是に努め外は國際の敦誼と世界の平和を期し常に一致戮力國家の隆運と人類の幸福に努むることを以て使命として居る。

昨秋御大禮に當り全國民が皇室に對して發露したる無比の感激と緊張とは眞に崇高の感に堪へざるものであつて能く此の民族的使命を全うするに充分なる民族的力のあることを如實に示したるものであると思ふ。

殊に吾々在滿洲の邦人は能く國運の隆昌と一視同仁常に人類の慶福を軫念し給ふ聖旨を奉體し年と共に其の氣宇を大にして能く大國民の理想を以て各其の職に淬勵すべきである、顧みれば支那の國情は比年の爭亂熄まず蒼民厚生の方なく友邦の蒙る迷惑も甚だ夥からざるものがあつたが近時漸く和平の際を見んとしつゝあるは誠に喜ぶべき現象である、一日も速かに政基を整へ善隣の和會を進め嘗て我等の祖先が相提携して東洋の文化を建設し擁護し來つた如く今後一層其の提携を密にし共存共榮の果を收むるは勿論進んで世界文化の爲に大なる寄與を爲すべき日の來らむことを切望して止まない、茲に新年に方り在滿の同胞と共に重ねて皇國の隆運と聖壽の無疆とを頌禱し併せて在住内外人各位の繁榮を祈る。

年頭の辭
關東軍司令官 村岡長太郎

新年は人生に更新の動機を與ふる深い意義を持つて居る。

吾等は此機會に大覺猛省して此新なる年に處する確乎不拔の決意を固めねばならぬ、白玉靈塔の光胡沙に明滅たるの夕、老鐵頂上の白雪旭光に閃めく朝、千想萬感交々腦裏に去來する。

今や隣邦支那は全土に亘り革新の氣分横溢して居る事の成否は別とし吾等は其立場と意氣とに對し同情と敬意とを拂ふに吝でない而も翻つて吾等日本民族の國際的環境と其使命とを想ひ吾等の住する滿洲の現狀を直視するに迄び感慨禁じ難きものがある。

吾等在滿同胞は新年を迎ふると共に眞日本精神を作興し國民的一大自覺を以て過去一年間相互に奮勵した以上更に鞏固なる團結の下に各其分に應じて活躍し昭和維新の大業に貢獻せねばならぬと信ずる。

吾等の住む滿洲を日支共榮の世界的理想郷たらしむることは在滿同胞の崇高なる當面の責務である吾等は杯を擧げて此目的の爲めに勇往邁進する在滿日本民族の前途を祝福する。

年頭の感
大連民政署長 田中千吉

萬民が等しく有らん限りの赤誠を以て御迎へ奉つた曠古の鴻典も些かの滞りなくいと嚴肅に目出度く終りを告げ聖德赫々四海に洽く國威益々中外に輝き大八洲の基礎一段と鞏固となり國民の決心強烈なる今日に勝ることはない樣な感がする。

かゝるうちに光陰は何時しか流れて早や昭和四年の春となり、瑞雲は天に靉き、萬祥は地に滿ち、戸々の旭旗も仁風を濡はし例年と異る愉悦を感ずることは獨り私のみの氣持ではないと信ずる、皇室に於かせられては、陛下即位の大禮を終えさせ給ひ、秩父宮殿下御成婚の盛典を擧げさせ給ふ等いや榮えに榮え給ふ御事、洵に歡祝の極みである茲に新年に當り謹みて寶祚の無窮と聖壽の萬歳を祝ぎ奉る。

今や帝國は世界の列強と伍し國運隆々として進展し國威は正に全世界を蔽ふの勢ひである此偏に我皇室の稜威の然らしむる所であつて此の盛世に生れ此の昭代に會することを得たるは吾等無限の喜びである茲に於てか吾等は如何にして此の聖恩に對へ奉るべきかを考へなければならない。

天皇陛下即位の大禮に際し下し給へる勅語に「爾有衆其レ心ヲ協ヘ力ヲ戮セ私ヲ忘レ公ニ奉シ以テ朕カ志ヲ弼成シ朕ヲシテ祖宗作述ノ遺烈ヲ揚ケ以テ祖宗神靈ノ降鑒ニ對フルコトヲ得シメヨ」と仰せられたのである此の御言葉を拜讀し臣子の分として誠に恐懼に堪えない所である協心戮力奉公の道は帝國臣民として因より勅旨を待つ迄もないことである。

明治大帝が維新の鴻圖を闢き給ふて以來、大正天皇を經て今上天皇に至る間幾度となく優渥なる勅語を降し給ふたが是皆國民の據ふ所を示し給ふたのであつて何れも國家の隆替と國民の幸福を軫念あらせらるゝ聖旨の程が窺はれ唯感激に打たるゝの外はないのである昨臘教育振興に關する御沙汰を下賜せられたが此れを以て陛下が如何に國民教化に御心を注がせ給ふかを拜察することが出來る惟ふに國民の文明と無知とは國民の興亡國家の盛衰を左右する重大な問題であつて輓近我が國に於ける教育の普及文化の進歩は大に見るべきものありと雖も又一面多少の缺陷なきを保し難いのであつて畏くも大正天皇が關東地方大震災の後詔書を下し給ふて「輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萠シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル」と仰せられたことを以ても察知される次第で誠に畏多い極みである又教育振興に關する御沙汰に於て「篤ク教化ヲ敷キ以テ人心ノ歸趨ヲ正シ大イニ學藝ヲ振ヒ以テ國運ノ伸張ニ資セムコトヲ念フ」と論させ給ふたことも彼是對照して考ふる時に何處迄も國家の基礎は國民にある國民の教養を全からしむることが國運を伸張し國光を顯揚する所以であることを示し給ふて居るのである。

私は昨冬親く御大禮の諸儀に參列し目のあたりに、今上陛下が日々下し賜へる勅諭を拜誦するに及んで帝國臣民たる者は一人一人が聖旨の程を良く體得して健全有爲なる國民としての教養を完ふする樣に心掛けねばならぬことを痛感するのである今や隣邦中華民國は何時完全なる統一を見ることを得るや測り知るべからざる狀態に在り殊に滿蒙の事態は東洋平和の爲共存共榮の爲帝國に取り最も警戒を要する時機である從つて海外に第一歩を踏み出して滿洲に在住する吾々の覺悟は又格別でなければならぬ宜しく聖旨を奉體し奉公の誠を致して聖恩の萬一に報い奉らなければならぬ。茲に即位大禮直後の新年に當り感ひを深くしたる點を述べて年頭の辭とする次第である。

謹賀新年
滿洲日報社
山崎猛
尾間明
平山秀雄
總務部 臼井龜雄 宮本三郎
編輯局 米野豐實 長友與吉 細田審造 三好濟太郎

張學良氏を首席とする東北政治分會組織さる

作相氏外十二氏を委員に任命 楊氏は參加しをらず

【奉天特電卅一日發】東北政治分會委員大要左の如く內定した

首席委員　張學良

委員　張作相、萬福麟、翟文選、常蔭槐、劉哲、張景惠、方本仁、劉尙淸、袁金鎧、莫德惠、沈鴻烈、何淸濬

東北四省政府委員正式に發表さる

委員は殆んど奉天派內より任命 關內各省と同一組織

【奉天特電卅日發】東北四省の各省政府委員卅日夜左の如く發表された

奉天省政府

首席　翟文選

委員　（民政廳長）陳文學　（財政廳長）張振鷺　（教育廳長）王毓桂　（農鑛廳長）劉鶴齡　高紀毅　彭志雲　王鏡寰　王樹常

吉林省政府

首席　張作相

委員　（民政廳長）章啓槐　（財政廳長）榮厚　（教育廳長）王華林　馬德恩　孫其昌　王之佑　誠允　鍾毓　熙洽　高維嶽　邢士廉

黑龍江省政府

首席　常蔭槐

委員　（民政廳長）馬景桂　（財政廳長）龐作屏　（農鑛廳長）高家驥　（建設廳長）陳耀光　孫潤宇　孫旼文　萬國賓　李彭年　宋文郁

熱河省政府

首席　湯玉麟

委員　（民政廳長）鄢克庄　（建設廳長）梁國棟　（財政廳長）佟兆元　李元著　金鼎臣

奉天熱河の兩省は張氏の直系で堅む

吉林は吉林の現任幹部を以てし黑龍江は楊宇霆氏派

【奉天特電卅一日發】四省政府の各主席及び委員の顏觸れについて某消息通は各省とも現任の民政幹部で堅めてをり結局名目は變つたが中味には何等の變化はないとみてゐる

先づ奉天についてみるに陳文學氏は現任政務廳長であり張振鷺氏は同代理廳長、王毓桂氏は敎育廳長、高紀毅氏は全省警察署長、王鏡寰氏は交涉署長、劉鶴齡氏は實業廳長、王樹常氏は命令廳長であるなどすべて現職にある者のみである、而して金、張、王（毓桂）高（紀毅）劉氏等の五人は何れも張學良氏の直系でこれ等の點からみても張學良氏から人選して南京政府に認可申請許可されたものであることが判る

〇

他の三省また同樣で吉林は現任の幹部を以て堅め黑龍江は萬福麟の息萬國賓以外は殆んど常蔭槐氏系統である、就中馬景桂、高家驥、陳耀光氏等は常氏旗下の四天王といはれるもので黑龍江には楊宇霆氏の息がかゝつてゐるものとみることが出來る、熱河にありては梁國棟氏は現東邊道尹佟兆元氏は現瀋遼道尹で先づ張學良氏系とみられる、以上の如くみると吉林は吉林で堅め黑龍江は楊派で堅め、奉天と熱河とは張學良氏系で堅められたことが明かにみられる

〇

なほ今後の問題としては各省政府の主席及びその委員は國民黨の黨則によれば當然國民黨に入黨せねばならぬことになつてゐるが楊宇霆、袁金鎧、劉哲氏等の如く舊保安委員にして國民黨に入黨するを心よしとせざるもののあるのみならずこれ等は別に國家主義團體を組織せんとする形勢もあり東三省の將來は新國民黨員と非黨員との間に相當勢力爭ひやその他の問題が發生することは免れぬであらう、なほ國民黨々則では新入黨者は宣誓の前に形式的にもせよ試驗を受くる必要あり何人がこれが試驗に當るかが見物であらうとされてゐる

北平市黨部と協調組織す

共產黨系分子を極力排除 黨部の組織準備進む

【奉天特電卅一日發】東北四省黨部及政府の確立に就いては現在の首腦者が此の機會に於て共產黨分子の活躍せんことを慮るゝと共に自己等の地位の確保を主眼として周到に人選を行ひ大部分は學良氏直系の人々を網羅して以て其地步を固めんとしたものであつて特に共產黨乃至左傾學生の動勢に注意を拂ひ不穩分子を檢束したほどで豫め不穩分子を檢束したほどである、尙黨部組織及人選に關しては北平市黨部首席委員たる張繼氏の推薦せる陳震麟、寧夢巖、張宗衡、霍庚等の人々の着奉後に於て先づ奉天、吉林、チチハル、ハルビン等より之を開設し順次他の地方に及ぼす方針であると

政府委員の就任式

監誓委員の來着後行ふ

【奉天特電卅一日發】東北四省の政府委員は卅一日午前十時半東三省黨務籌備處より一般に內示されたが此等の就任式は南京中央政府の監誓委員の來奉を俟つて行ふ筈

對支外交の前途は多事になつてきた

日支交涉の將來に相當影響せん わが軍部方面の觀測

【東京卅一日發電】東三省に於ける青天白日旗掲揚問題に關し軍部方面に於ては張學良氏がいよ〳〵東三省に青天白日旗を掲揚するとすれば從來の關係から見て事前に日本に對し何等か通告位はして來るものと信じてゐた、然るに今回突如として掲揚するに至つたについては何等か內部に事情があつてのことであらうが

日本としては決して輕々に看過出來ぬ問題である、政府としては未だ公電に接せぬ場合でもあり且つ歲末で各閣僚とも大部分旅行中だから直に對策を協議するといふことは出來ないが來春早々閣僚の歸京を待つて從來の經過並に今回の顚末を詳細に報告して對策を協議する豫定である、今回の青天白日旗掲揚問題は曩に林總領事が南北妥協中止を勸告した當時とは事情も變化してゐるから今日直に日本に對して重大な影響ありとも思はぬが將來の日支交涉に對しては相當重大なる關係を及ぼすに相違あるまい、即ち滿洲における鐵道交涉をはじめとして各種の交涉案件は全部擧げて國民政府の手に

移ることゝなるだらうから、日本としては之等の點に關し相當對策を講究して萬遺憾なきを期せねばなるまい、何れにしても出先官憲からの報告に接した上で對策を講究せねばならぬのだが對支外交の前途は益々多事となつて來たといはねばならぬといふに在つて對支外交の

英帝御良好

【倫敦三十日發電】ジョージ陛下の御不例につき今夜發表された容體書に依ると本日は安靜なる一日を過ごさせられ御病狀にも別段の御變化を拜さず

總稅務司代理エ氏きのふ辭表提出

海關行政回收を期せん

【北平特電三十一日發至急報】總稅務司代理エトワーズ氏は本日辭表を提出した、國民政府はこの機會に支那人を總稅務司に任じ海關行政の根本的回收を期す筈であると

急激な變化は來たすまい

總ての處置は訓令次第

關東廳及軍部方面の觀測

東三省は遂に青天白日旗を掲揚し實質は第二として表面だけでも南京政府の統制下に統一されたが、關東州內及滿鐵沿線附屬地の我行政下にある地域に於ては未だ青天白日旗は掲揚されてゐない、現に旅順港に碇泊中の東北艦隊定海、同安の二艦も依然五色旗のもとにある、東三省保安總司令部からの命令が達しないのか或は易幟の必要がないと考へられてゐるのかまつてゐることは見逃す譯には行かない、これをひらたく言へば日本に氣兼をしてゐることは事實だ

然し關東廳及び軍部方面としては勿論未だ易幟に關して正式の通告を接受してをらぬので承認するとかしないとかは第二義的問題として東三省が易幟をしたからと云つてわが滿蒙の權益には何等の變化も起らないので、從つて青天白日旗の掲旗によつて治安が紊亂される危險があれば直に當然撤去を命ずる意嚮であるもの如く本省よりの命令に基くことになつてゐる、其點は今朝本紙東京特電による「專ら成行の監視」を以て終始一貫される筈だが、大體に於て東三省が易幟をしても南京政府から特派代表が俄に三省の要席に割込み運動を起すもので無く假令制度は改正されても急激なる變化は來さぬと云ふ見解に意見は一致してゐるもの樣だ但し東三省の對外關係、即ち日本との交涉懸案が南京政府に全部一任されることは現東三省の首腦者等が自ら墓穴を掘る結果を招來することになるから其點は三省側でも相當考慮するだらうとみてゐる

たゞ直接の影響あるものは關稅と地方の不當課稅問題だが南京政府と日本との協定成立すれば當然統一的に實施されるは瞭で若し不幸にして不成立に終つた際は現行の狀態を以て日本側は何處までも進むもので些少の變りは無く卽ち日本の行政地域外ではアンダーブロラストを以て進み大連の如きは特殊の事情なれば現狀の儘で行くであらうと觀測してゐる

對支問題では現內閣支持

民政黨との合流を避ける 新黨の討議會度態

【東京特電卅一日發】新黨クラブには表面的に政友會と提携することは自派の立場より見て不得策であるから恰も常任委員長の選擧に於けるが如くドコまでも自主獨往の態度を一貫し强て政府に迎合せざる代りに民政黨とも合流を避くるに於ては比較的多數黨たる政友の對政府關係は未だ確定的でなく內部には種々の意見を有するものあるも床次氏其の人の腹は既に大體決定的であると見ることが出來る、即ち床次氏は過般の支那視察の結果現內閣の對支方針には多少不滿の點あるも此の際は現內閣を支持し其の方針を基礎として適當に是正せしめ行く他に良策なきこと及び自己の政治的立場の好轉のためにも此際現內閣に

好意を寄せ置くことが妥當であるとしてゐる而して之が爲

少數黨に對して臨機適宜に處置

床次氏の態度は信用出來ぬ 民政黨の對議會策

【東京三十一日發電】民政黨は床次氏歸朝後の行動につき從來の行懸り感情を抑えてその行動に依つて生ずる政界の動きに注目を拂ひ時に依つては對支問題に就て議會に於て反政府的態度に出づべしとの議論も出で極めて强硬なる幹部も一應その形勢を見てゐたが、床次、田中兩氏の會見に當り何等對支意見の聲明もせず會見後もその內容を秘して發表せざる態度に對し同氏の行動は要するに當初の觀測通り政府との提携に一歩を進めたるに過ぎず首相に何等かの要求をなしその問題が如何に進展するにせよ最早同氏の態度は信用するに足らずとなし今後は一路黨の結束を圖り之等少數黨對策は臨機適宜に處置し自主獨往の根本方針で邁進するの外なしとするに至つた

分延期されるであらうといふ

政友內に近東俱樂部

【東京三十一日發電】京都以來繰返された數次の會見に依り憲政一新會及び新黨クラブと政友會との間には一脈の友交關係が釀成せられ今議會に於ける大勢既に定まつたかの如く見えるが、實際には一新會も新黨クラブも

態度なほ頗る曖昧で準與黨として賴むに足らず、さればとて自黨獨自の力をもつて今議會を切拔けるには絕對過半數の條件を缺ぎ政友會內には今なほ不安の氣が漂ひつゝあつて風說が風說を生み各派の策動が行はれ何等自信ある落着を示してゐないが、先般來黨內の關東、東北、東海、近畿の有志代議士卽ち岩本武助、四田銳吉、伊坂秀五郎その他約二十名は深川亭に會合して寄々これが打開策につき協議を遂げた結果、右有志をもつて近東クラブなるものを

組織し四田銳吉、郡谷照一郎、中島鵬六、伊坂秀五郎、池田龜治の五氏を世話人に推し虎之門ホテル內に事務所を設けて一、飽くまで現總裁を支持すること

二、黨內に在つて嚴正中立本部中心主義を持し黨內外に私心を抱いて無節操な言動をなす者があれば直にこれを剔抉すること

三、床次氏復歸を見るような場合は廂を貸して母屋を取られる程に非ずともさらでだに將來一大內訌を豫想される政友會に百年の禍根を植えるものであるから極力復黨の實現を阻止すること

の三つを目標として活動を開始することゝなつた

併しながら右の目標は表看板であつて內實はその顏觸れから見てこれもまた黨內不平組結成の一例に過ぎないと見られてゐる

鮮銀券發行高

廿九日の現在

十二月二十九日現在の朝鮮銀行兌換券發行高は總額一億三千四百八萬三千六百九十六圓にしてその內譯左の如し（單位圓）

正貨準備　八四、一〇六、三六九

保證準備　四九、九七七、三二六

上海標金情報

支那人氣乘り薄

【上海卅一日發電】本日の標金事情は材料薄と年末關係にて支那人氣乘りうす引前三井圓の一月物七十二兩八分の一約三十萬、標金約八百箱を買ひたる爲め人氣稍良好なりしも一般は日支問題懸念の傾向あり今後の雲行き注視さる

人事

▲川越茂氏（吉林總領事）卅日來連數日滯在の筈

▲高柳保太郞氏（滿鐵囑託）上京中の處卅日歸連

安與楠子

▲故寺內伯の長男現朝鮮軍參謀長の寺內壽一少將十數年前例の事件で夫人を亡つて以來、孤獨生活で專ら軍務にいそしんでゐたが▲此のほどフトしたことから故山下檢事正の遺子順子といふ薄倖の佳人を迎へることになつて五十二の舊郞が芳紀廿七の新婦と手に手をとつて京城に歸任の新婚旅行の頗るアマい所▲關釜連絡船で偶然出會つたのが內地から歸連を急ぐ高柳將軍と山崎代議士の二人、門司から京城までの間二人とも大に當てられて了つた▲高柳將軍は流石に此の途でも千軍萬馬を馳驅した人だけあつて大したことは無かつたが山崎氏はお蔭で發熱し本ものゝ病人になつて歸つて來た

本日朝刊廿八頁

御繁多に在す兩陛下の御日常

すく〳〵と御育ちの照宮樣

岡本侍從謹話

天皇、皇后兩陛下には曠古の御盛典である御卽位式を芽出度御終了遊ばされ昭和四年の新春を迎へさせられましたが恰も今年は兩陛下並に照宮樣には赤坂離宮より

◇…宮城に移御になつて初の新年を宮城に迎へさせられた事とて御意義は一入深きことゝ拜察して居ります、兩陛下には昨年十一月二旬に亘る京都御駐蹕中の諸御儀及び十二月に入つてからの諸部隊の御觀閱や行幸啓にも些かの御疲勞の御模樣も拜せず玉體愈御健勝に渡らせらるゝことは眞に恐懼感激の至りに堪へません殊に天皇陛下には御儀式や地方行幸の他に親しく政務をみそなはせられなどし御日常は極めて御繁劇に渡らせられ、最近にては御愛好の

◇…運動も兎角御日課通りには御實行が難く一日僅に一時間內外を御乘馬遊ばされる位で之れ近侍一同が御繁劇中を特に御運動の奏請をするからに因るとが多く御政務の御繁多拜察するだに恐懼に堪へません陛下の御日課は

月曜　臨時御進講三上參次博士の明治大帝の御偉業其の他文學方面の御進講

火曜　行政法淸水博士

水曜　拜謁、賜謁、外國人、樞密顧問官、麝香間祗候等

木曜　午前軍事學（陸軍、南次長、海軍、軍令部長）財政經濟山崎覺次郞博士、午後講話、實驗學者御召

金曜　皇室令制淸水博士

土曜　生物學、服部弘太郞博士

で月、木曜日には大概皇后陛下も御陪席遊ばされ土曜日には右の外伊達博士の國際法、服部宇之吉博士の論語が何れも原稿で御手許に差出されるのを

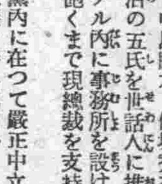
◇…御閱讀　御研究になりますがこうした中にも陛下の御裁可を仰ぐ上奏書は御机に山積し尠くて二十件位で、年末や議會前後には百件にも達すること屢あり陛下には御熱心に一々御目を注がれ御決裁遊ばされます陛下には多忙に渡られます、皇后陛下には

◇…論語を　御研究になる外每土曜日には天皇陛下の御許に御陪聽になるも研究者として範を蒼生に垂れさせ給ふ大御心の程之を拜して感涙の下るを禁じ得ません、皇后陛下にはビタミンの學說から七分搗の米食を御食り遊ばされ生物學の一御日にも御陪席になり更に佛國より招聘のド、ラ、サル夫人より佛語を御修得遊ばされて國母陛下としての御教養を積ませられて在す、御繁多な天皇陛下の御身邊の御注意に女官等を督勵遊ばされる上靑山に淋しくゐます皇太后陛下を御訪問御慰めになるなど麗しき御孝養の數々を盡される上に秩父宮、高松宮澄宮、各殿下を始め各皇族殿下に御心づけになりますがわけて御手許には照宮樣が居ますことゝて御想像以上の御日に幾度となく照宮樣を

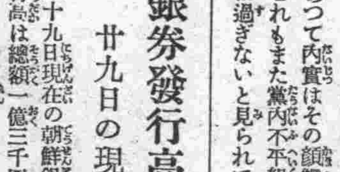
◇…御訪問　になります日曜などは兩陛下御揃ひで照宮樣の御部屋に御成り遊ばし半日を御費しあらせられることが屢と承つてゐます、宮樣には蓄音機が殊の外御好きでレコードに合はされて色々の童謠を遊ばされることもあれば女官を御相手に可愛いゝ遊戲に御たわむれになり兩陛下の御覽に入れることもあります、兩陛下の御慈愛を身一つに受けさせられ幼き宮樣は御あたゝかくとよなき

◇…御幸福　の內にすく〳〵と御育ち遊ばされ竹の園生は新しき御代と共に彌榮えに榮えるを拜すること存じ上げます。

第十二回決算報告
貸借對照表（昭和三年下半期）
株金 三、〇〇〇、〇〇〇
未拂込株金
支拂手形
借方計
未拂及預り金
土地建物機械什器
原棉製糸及仕掛物
假出金未收入金
工場及寄宿舍用品
銀行預金、現金
新設勘定
次期繰越損失金
借方計
滿洲福紡株式會社
關東州周水子會周家屯

觀相大家泰幹先生

人相骨相運命鑑定
一月二日より十一日迄
若狹町二二三番地
（向陽門下車）
滿洲觀相學會本部
電話七五七八番

謹賀新年
旅館鶴の茶屋
延壽廣く齊麗家族主義三圓均一
大阪北區茶屋町九
長期御滯在ノ御方ハ御相談ニ應ズ



喪中に付年賀缺禮仕り候
關東州在勤海軍武官
海軍中佐　久保田久晴

旅行中に付年賀缺禮仕候
吉野直治

旅行中に付年末年始の禮を缺く
播磨町
菊地秋四郞

新年の御慶芽出度申納め候本年も不相變御引立の程偏に御願申上候
大連市信濃町二八
山田商店株式部

新春特別大興行
曾我廼家五九郞劇
入場料
特等　一圓五十錢
一等　一圓
二等　七十錢
三等　四十錢

◆御目見得狂言◆
第一　喜劇　田家の春　中山靜波作　四場
第二　舊喜劇　葵の短刀　一堺老人作　三場
第三　社會劇　日陰の花　中山靜波作　二場
第四　喜劇　平ちやん　五八郞十八番の內　二場
一月一日より
歌舞伎座

謹賀新年
舊年中は格別の御愛顧を蒙り厚く御禮申上候猶本年は一層努力可仕候間倍舊の御用命奉希候
大連市大山通
實用タクシー
電話（三五二一）（五八六四）番

當る正月元旦より開演
東京女優歌舞伎
淺尾信治一座

御目見得
一、三番叟
一、小野道風
一、義士外傳
一、土屋主税
一、妹脊山
於大連劇場

元旦封切
全國一番の封切
マキノプロダクション最大級作品
壽々喜多呂九平原作脚色
二川文太郞努力監督
マキノ智子更生第一回主演
綺斑鮫
共演　谷崎十郞、根岸東一郞、大林梅子
帝キネ超努級作品
實川延松主演
尾上紋十郞、高津愛子共演
河邊新太郞監督
人喰蜘蛛
春にさきだつ花は…
謹賀新年
演藝館

對外貿易の伸長を期し 產業の振興を計り

國際競爭上優秀な地位を占めよ

大藏大臣　三土忠造

昭和新政が茲に第四年を迎ふるに當り、昨秋行はせられたる即位の大禮の後を受けて國民の意氣は自から揚がり、我經濟界の前途も更に一層の刷新を期待せしむるものがあります。

我財界が世界大戰以來幾多の困難蹉跌に遭遇したるに拘らず、漸次健全なる發達を遂げて其の富力を充實し組織の大を來すに至つたことは何人も疑はざる所であります。例へば輸出入總額は大正三、四年ごろの十二億圓臺に比較して最近數年間は四十餘億圓となり、銀行預金の總額は大正三四年頃の二十億圓臺に比べて今日は百二十億圓に上つて居ります。之は一、二を採錄したのに過ぎませんが、之と同時に國家公共團體の歲計も國民の經濟も亦著しく增大して居ることは計數を擧ぐるを待たずして明かであります。從つて今後國民各自が經濟界に立つて活動するに當つては此大組織に對應したる才能と準備と覺悟とを以てし、國際競爭上に於て優秀なる地位を占むることに努力致さねばならぬと信じます。

最近金融界の情勢を見まするに金融機關の基礎は鞏固を加へ資金の供給は漸次圓滑となり事業界の整理も進捗し財界の基本は著しく良好となつたのでありますが、將來尚解決を要する問題が少くないのであります。金輸出解禁の如きは其著しきものでありまして、之が解決に付いては各方面の準備を要しますが國際貸借の改善の直接不可分の關係あることは申す迄もありません。昨年は一昨年に比し輸入超過額を增加しましたことは甚だ遺憾でありますが、尚國際貸借の狀況は二箇年に亙り著しく改善せられたのを認むるものであります。本年は官民更に一層の努力を以て內は國內產業の振興を計り外は對外貿易の伸長を期し此趨勢を益々顯著ならしむることに努めたいと考へます

曉の色を見せて 榮えゆく滿鐵事業

目まぐるしい程の新規事業も 着々として具體化

滿鐵は昭和二年七月山本社長就任依賴實務化、經濟化をモツトーとして躍進的事業振作を行つた結果は昭和三年末に至り幾分それ等に目鼻が付き出した、今山本社長就任以來の滿鐵事業の推移を見やう

◇

昭和二年度決算に於て概數を以て營業收支を見るに

總收入　二億三千五十六萬圓
總支出　一億九千四百廿八萬圓
純益　三千六百萬圓

而して元年度決算に對比すると收入の點に於て一千四百九十四萬圓增收、支出の點に於て一千二百八十二萬の增加差引元年度より二百十一萬圓の增加を示してゐる。

◇

內譯を見るに

鐵道　收入一億一千三百二十四萬圓、支出四千五百二十四萬圓、利益六千八百萬圓
港灣　收入一千二十八萬圓、支出九百三十一萬圓、利益九十七萬圓
鑛業　收入八千二百七十九萬圓、支出七千三百四萬圓、利益九百七十五萬圓
製鐵所　收入九百二十二萬圓、支出九百三十八萬圓、損失十六萬圓

◇

さて鐵道は滿鐵の中樞をなすもので年一年收入も增加してゆく、二年度から鐵道部內にて一種の請負制度式なものにし收益を上げられるだけ上げ、支出を出來得るだけ減ずる方針を樹てゝゐるが、三年度は既に十二月十七日現在に於て七千六百七十七萬圓を上げ二年度同期に比し二百三萬圓の增額鐵道收入は一層殷盛を示してゐる。

◇

鑛業（撫順）撫順炭出炭高は元年度六百四十八萬噸、二年度は六百八十萬噸で一日二萬一千噸平均と云ふのであつた、ところが一足飛んで今年（四年）は八百十萬噸を出炭させると言つてゐる、撫順炭は今後益々出炭量增加で滿鐵の事業としては鐵道に次いでの立役者である。

◇

かくして撫順炭は年一年出炭を增しかてゝ加へて煙臺、本溪湖等の出炭を入れると大連の埠頭は狹隘を感ずると云ふので、さきに甘井子に於ける三百萬噸積出しの石炭埠頭の創設（六年度迄には第一期の分利用し得らる）その他營口の石炭埠頭も四年の七月迄には完成しこゝでは約六十萬噸、旅順の新舊バースから約七、八十萬噸の積出が出來ることゝなるから增炭に對しては十分な手配は出來てゐるわけである、尚その上滿鐵は鶴見と名古屋に埠頭計畫を樹て既に土地の買收も出來るに至つた。

◇

次は鞍山の製鐵所である、此處は例年缺損つゞき、元年度の損失は約三百三十萬圓、所が二年度に至つて社內計算法を改めて石炭鐵道運賃を原價に近き値段を以てやると云ふことゝしてやつと十六萬圓弱の缺損となつたが、三年度即ち四年四月迄には百萬圓の收益を上げて見せると力んでゐる、鞍山は三年度現在三百噸爐二基によつて二十萬噸の銑鐵產出をなしてゐるが更に五百噸爐の完成を待つて二十八萬噸となる豫定である、尚それ以上の計畫即ち一貫作業その他の點では目下研究中に屬してゐるが鞍山も漸く曉の色を見せ出して來た、山本社長は殊に鞍山製鐵所には力を入れてゐるもので山本社長に云はせると製鐵、燃料、肥料の三種を以て滿洲の基本工業であるとなしこれが達成には懸命の努力を拂ふ方針であると云ふ、而して滿洲の製鐵は早晚日本の市場に入る外國の鐵を驅逐するに至るであらうと見られてゐる。

◇

その外滿鐵の新規事業としては南滿信託會社の設立である、これは既に關東廳の認可を得て大藏省に回附され今年（四年）早々認可されることゝなるであらう、その內容は資本金一億で拂ひ込は五千萬圓、即ち滿鐵の所有する有價證券四千萬圓（各傍系會社及助成會社の持株）に各會社に對する滿鐵の貸金六百五十萬圓及び運輸資本として現在五百五十萬圓を出資すると云ふことで一種のシヤア、ホールデング、コルパニー（株持會社）であるが、今後專ら支那人の信託申込に應じ、大いに國際的活動を試み、滿鐵が交通政策によつて滿蒙を開發するのに對し信託會社は金融、信託の方で活動する方針であらう。

◇

その他硫安工場設立、曹達灰工場東亞勸業の引受等滿鐵の新規事業も目まぐるしい程である、かくして昭和四年となりこれが次第に具體化して行かうとしてゐる。

印度の奇鳥 夜明造巢

正隆銀行常務　糸賀庄造

元旦の形容は「新」の一字に盡きる、時間も空間も、身心も共に更新する、輪廻極まりなき時の流れに始め終りの別もなく、踏む大地は昨日のまゝで、仰ぐ太陽に變りのある筈もないが、觀る者の心氣が自から新しいのである、斯くの如く心氣の更新をもたらすところに元旦の貴さがある

× ×

曆の劈頭に立つとき各人の胸裡に往來するものは將來に對する新しい理想と希望とでなければならぬ、古い言葉だが「一年の計は元旦にあり」といふ、何も努めて計畫を立てやうなどいふ考へはなくとも、元旦になれば自から何かそこに考へられて來て、兎に角普通の日とは違つた氣分になることは否まれぬ事實である、所謂心機が新しくなるのである、言ひ換へれば人間が眞面目に歸るのである

× ×

人が眞面目に歸るとき、その心的態度は自から敬虔とならざるを得ない、多くの人が元旦に社に詣で神前にぬかづくのは即ちこの心境の表れである、醉拂つて神に詣でる人は先づあるまいと思はれる、この敬虔なる心的態度を以て人生の理想と希望とを祈るとき何人といへども良心のさゝやきを聽かざるを得ないであらう、實に元旦は人心を淸め且つ新にする、ところが、元日が過ぎて二日から五日となり十日となりお餅が次第に乏しくなるに伴れて心のねばりも漸く弛んで來る、私はこゝに特に青年諸君のため印度の不思議な鳥の話を紹介したい

× ×

印度といへば直に炎熱灼くが如き熱帶を連想するが、その北境には皚々冷雪を頂くヒマラヤの高峰が脈々と連なつてゐる、その邊一帶の氣候は晝夜によつて寒暖の差が激しく、晝の間は丸で春のやうな暖かさであるが、夜に入ると全く嚴冬のやうな寒さでとてもやり切れない、其の山奥に棲む不思議な鳥があつた、夜になると「夜明造巢々々々々」と鳴きつゞけるので夜明造巢と名づけられてゐた、この鳥は晝の間は暖かいので野や山を飛び廻つて思ふ存分陽春の享樂をほしいまゝにするが夜になると寒くて堪らぬので夜中「夜明造巢」と鳴き通すのである而も夜が明けるとまた暖かくなるので巢を造ることを忘れて再び春の生を樂しむ、こんな風にいはゞ「夜明造巢、夜明造巢」を繰返してゐる內に一夜非常な極寒が來て遂に死滅して了つたといふ哀れな鳥である

× ×

過去を顧みるとき夜明造巢の感甚だ切であるが、願はくば元旦によつて更新された氣分の緊張を持續して夜明造巢の歎を後に遺さぬやう特に前途ある滿洲の青年諸君に切望してやまぬ。

輸入業者の期待する下半期

經濟界の前途を樂觀す

滿洲輸入組合理事長　神成季吉

長い間の懸案となつて居た例の金解禁が愈今年の三月から五月の間に實行されるものと一般に觀測されて居る金解禁後の前途については世間に

色々の

說があるが、私は頗る樂觀して居る、勿論解禁前後に於て財界に一波瀾起るは豫期せねばならない、然し一般財界は此を底として漸次安定の域に向ひはしまいか、杞憂されるが如き金の流出の如きも引締めて有頂點とたらざる限り左程心配の要はあるまいと思ふ、更に又銀相場は今日まで印度の銀の賣出が豫想されて人氣は頗る沈衰し殆ど生產費近くまで低落して居たが、それも當分實現しさうにもなく且つ支那財界を困惑した年中行事の

動亂も

今後暫く起るとも見えず、時局は安定して諸種の復興事業も勃興し外債募集の必要も起らう、斯くて銀價は之等に刺戟せられて騰貴し、銀價騰貴すれば支那人は儲かる、購買力は增大する、從つて輸入業者の新販路も此に追隨する譯である、一方關稅改正を控へて居ることゝて見越輸入も旺に行はれるであらう、斯くて上半期は兎に角として下半期からは財界の安定と相俟つて時に輸入業者は有卦に入る

時代を

迎へるに至るであらうと想像される、私は此の意味に於て頗る樂觀した氣分を持つて居る次第である

舊習を脫して 「大團結を計れ」

大連商議副會頭　高田友吉

昭和四年の年頭に於て所感を述ぶる機會を與へられたる事を感謝致します、元來愚物にて貴重な紙面を汚し徒する事もないと思ひますが御勸めに從ふことゝ致します「元日や昨日の鬼が禮に來た」と云ふ俳句があります如く新年と共に

心身を

新しき光輝ある希望に生きるべく舊年の俗事を捨て新魂を迎へ精進する事は人生の必要な行事であります、此神の心になりたる際一年の計を建て針路を定むる事は有意義であります、今や世界の何れを見ましても多事多端でありますが就中東洋に於て其甚だしきを見るのであります、現在の日本は不景氣に閉ざゝれて諸業行詰り、人口は每年八十萬乃至百萬人の增加を見青壯年の遊民夥しく貿易は入超する等悲觀材料陳列場の觀があります、之れを解決するには產業立國政策の完成であります、之れが完成には擧國一致の要ありと思ひます、擧國一致を私等の如き一介分子が叫んだ處實現するものではありまんが此大方針の下に各自が假令二人三人なりともお互ひに團結して進めて行けば必ず完成に達するものと思はれます、彼の輸入商組合の如き始めは各所に於てそんな馬鹿な事が成立するものか、出來れば結構なるも見込なしとの評を受けましたが、微力な數人の

骨折り

でしたが幸ひに山本滿鐵社長の御贊同を受けて今日の如く成立を見有力なる團體となり社會に貢獻しつゝあります、而し私は現在にて安心するものにてはなく更に今日の三人小團員が一商店（一經濟）となり其業を擴大し遂に輸入商組合員全部が一丸となつて强固な團體となし世の生存競爭に打ちかたねばならぬのであります、又現在行詰りつゝあります油房工業も斬新なる設備と流通資本とを以てせば打開の道があるのであります、之等も互ひに合同して缺陥を除き信用を回復致せば輸入商組合と共に生る事が出來ると思ひます、其他農業にても、工業にても團結力が足りない爲に發展が出來ないのであると思はれます依て產業に從事する人々が其親戚友人又は同業同種、地勢とを考察して假令小なりとも打解けた團體の下に漸進せらるゝ事を切望します、以上の如く互ひに團結して進めば不景氣も恐るゝに足らず此一端が實現せば

勇氣も

百倍して初期の目的を達成する事は容易であると思ひます、昭和維新第一年は御大典の御盛儀に浴し國民一同擧國體に感激し、大御心を奉戴し專心奉仕を誓ひたる秋偕度昭和維新第二年の新年に際會したる事は誠に芽出度き次第でありますから此機會を逸せず舊習を脫して大團結の計を遂て生存の安全を期せられん事を望み以て年頭の所感と致します

財界の好轉を 冷靜に期待

寧ろ昨年の裏を行くか

大連商議會頭　佐藤至誠

昨年は戊辰の年を迎へ、年初から更生の氣運漲り、財界も又好轉を見越され、殊に曠古の御大典が取り行はせられると言ふので一般も緊張し、上半期における貿易等の狀態から推しても下半期に相當多額に

出超額は

上るものとみられてゐたのであるが、その期待は不幸にして裏切られ、商工界は依然として不振狀態に推移し、且又日支懸案等も未解決のまゝ經過したので對外貿易も在外不勢を示したのであつた、殊に財界における最大懸案である金解禁問題に關しては作秋銀行團或は實業團體において即時斷行を要望するの氣運を生じたので、これは將來は兎も角現實的には可なり重大なる影響を及ぼす問題であるから、財界一般も之を警戒して萎靡不振を免れなかつた、而して新規事業も起らず證券界等も歲晚に至りても例年證券界にみるが如き

春高人氣

の擡頭もみず人氣は飽くまで冷靜で平穩裡に越年したのであつた、さて新春を迎へて本年の財界が如何に展開するか、もとより將來のことは既に豫斷する事は出來ないが、舊年が全く期待はづれの連續であり、且又歲末における一般人心が飽くまで冷靜であつたことを考へると、無謀な期待をしないだけに、落着いてゐるだけに、所謂窮すると通ずると言つた工合で本年の財界は或は昨年の裏を行くのではあるまいかと思ふ、即ち金解禁の如きも本年中において斷行されることになれば勿論一時的には可なり影響を及ぼすであらうが、財界は常道に復し今までの暗雲を一掃することにならうし

支那問題

の如きも本年內には何とか目鼻がつくことになりはしないかと思ふ、又米國の所謂フーバー景氣の如きも多少反動を示したこともあるが、可なり根强いものがあるから、これはやがて生糸等の購買力を增大せしむることになり對外貿易の好轉から商工界も之に刺戟され惠まれることになりはしないかと想像されるから昨年とは異つた期待を以て善處したいと考へてゐる次第である

己巳元朝口占

武田南陽

他鄉千里又逢春
僕々風塵寄此身
三十六年流落客
傍人應笑酒徒貧

傍人應笑酒徒貧
陋巷簞瓢證淨因
誰識風流文墨樂
心無畛域結交頻

心無畛域結交頻
醉裏狂言意最眞
握手可談天下事
同文同種亞東人

同文同種亞東人
唇齒尋盟守四鄰
相共洗心忘小憤
今朝拂拭去年塵

今朝拂拭去年塵
佳氣蒼々眼界新
來事可追吾未老
從今發憤更精神

從今發憤更精神
筆陣堂々說公道
逢著[illegible]根氣益振
男兒豈懼喫酸辛

男兒豈懼喫酸辛
一片丹心草莽臣
北馬南船家未定
他鄉千里又逢春

賀正

四平街

四平街警察署長 警視 森脇留吉
四平街地方事務所長 三浦秀治
旅行中年始の禮を缺く 四平街取引所長 宮內虎雄
四平街信託專務 茶谷榮治郎
四洮鐵路局會計處長 宇佐美喬爾
四洮鐵路局工務處長 鈴木長明
四平街國際支店長 原田辰雄
四平街輸入組合理事 桂馨三
四平街電燈專務 平林市郎
四平街 鶴見次世
四平街 山口成淳
四平街 山添尚江
四平街 洪淳璣
四平街 岸久造
四平街 伊藤新八

四平街地方事務所 庶務係長 近藤次郎 地方係長 松田進 會計係長 野村稔人
四平街 石炭販賣 信和洋行 電話一九番
松昌公司 電話九番
陸軍御用 和洋御菓子司 四平街日進街 久月堂本店 電話二〇八番
同 奧陸街 同 支店 電話一七三番
四平街 料理店組合
四平街 いさむ號 電話五一三番
晝間活動開始 山本興行部 電話五一三・二五九番
四平街 中村疊襖工場 中村濤吉 電話一七〇番
醬油釀造元 四平街 ⌂池田醬園 電話六五番
櫻井教輔
菊池國治

四平街火曜會
朝鮮銀行四平街支店
正隆銀行四平街支店
四平街取引所信託株式會社
國際運輸四平街支店
交通銀行
四平街電燈株式會社

四平街 植半旅館 電話三〇番
滿鐵、會社、陸軍、關東廳御指定 四平街 小松屋旅館 電話一一六番
和洋雜貨 旅行用具 四平街 東澤洋行 電話一七番
四平街 渡邊齒科醫院 電話三二九番
四平街 竹村洋行 竹村石次郎 電話二七〇番
構內販賣 四平街 和田庄太郎 電話構內二三三・自宅五〇八番
四平街 竹本醫院 竹本二丸 電話七八番
四平街 佐藤龜記商店 電話一三番
四平街 晝夜金融株式會社 電話二七五番
藥品雜貨 クラブ代理店 四平街 大連洋行支店 本店大連、支店[illegible]、龍口
四平街 日華特產商聯合組合 電話一二八番
四平街輸入組合 電話二二〇番

賀正

奉天

（順序不同）

太田雅夫　深川菊太郎　彌永茂太郎　村岡敬四郎　稻葉逸好　林榮　庵谷忱　小田信治　弘岡半次郎　横田一雄　富村順一　吉植庄三　高橋清一　先川喜代治　中村政市　上木仁三郎　皆川秀孝　原田孝七　中山東一郎　高橋健

三谷末治郎　宮川隆　志和俊陽　野原正雄　大賀一郎　林興七　野添孝生　高橋由太郎　上田利一　香取眞策　森下知次郎　名和長正　宮越正良　清野清太郎　西尾一五郎　守田福松　手塚安彥　西岡正治

東亞煙草株式會社奉天支店　石原峯槌

市岡乙熊

奉天鐵道事務所
鈴木二郎　山口十助　下津春五郎　白井喜一　秋田豐作　河邊義郎　西村龜千代

東亞勸業公司

滿洲土地建物株式會社

金曜會
朝鮮銀行奉天支店
東洋拓殖奉天支店
正金銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店
正隆銀行奉天支店

奉天製麻株式會社

奉天取引所信託株式會社

滿洲市場株式會社

東省實業株式會社

滿蒙毛織株式會社

滿洲醫科大學　同大學豫科　同附屬病院　從事員一同

株式會社滿洲取引所

奉天信託株式會社

井上商事株式會社出張所

奉天石炭商組合

奉天材木商組合

奉天理髮組合員一同

征矢野寫眞館

千代田自動車商會

橋口洋行

合資會社橋本商會貿易部　稻葉町六番地　電話園七五一

アストマトール製造元　鶴原藥房　電話園一五〇五・三二八

千代田通三九　株式會社滿蒙牧場　電話園四四　支店 撫順松田橋外（電話一〇六）

森林洋行

奉天橘立町一六　內海工作所　電話二五七

奉天千代田通三四　泉德號　泉德藏　電話二〇〇一

三昌洋行

奉天春日公園內　保健浴場　一般料理　奉天溫泉俱樂部　電話一八〇〇　貴賓館用二〇〇〇

奉天十間房　合名會社大松號支店　電話六三五番

身上興業部

大陸堂書店

南滿印刷社主　石本力造　奉天

奉天富士町五　ノダ運動具店

奉天千代田通一五　精養軒　井上駒吉　電話五七番

奉天驛前　西洋御料理　朝日軒　木村邦明　電話九九一番

奉天江ノ島町　金十三（キントミ）洋行　電話六〇七番

森洋行

春日町七　東榮洋行　電話一七一三番

門永ラヂオ店　電話一六〇七番

市場食堂　大友佐平　電話一二一一番　一八〇四番

合名會社藤田洋行　藤田九一郎

奉天千代田通一六　藥品と賣藥　那須藥局　處方箋調劑藥劑師　那須要

滿洲土木建築業協會奉天支部員

長谷川組出張所　原組出張所　細川組出張所　大倉土木株式會社詰所　吉川組　高岡久留工事部出張所　葛井組出張所　今井組出張所　上木組　久保田工務所　藤城組　福井高組出張所　近藤組　榊谷組出張所　三田組出張所　島田組　志岐組出張所　岡組出張所　川畑組出張所　大同組出張所　田中組出張所　笠原組出張所　久保田組出張所　山崎工務所出張所　福昌公司工事部出張所　草場組出張所　東洋コンプレッソル　多田工務所出張所

長谷川倍次　山本秋太郎　盛義綾　矢田部潤吉　吉川康　長谷川巳弍　佐伯長太郎　今井行平　上木仁三郎　久保田伊平　藤城堅太郎　山地博　油井文一郎　菊地省一　堀江勇平　島田正人　和田信義　伊奈久忠　深町親重　高垣信郎　村田久雄　梶原太郎一　廣川信正　吉見光次　淡河助　城戸竹次郎　中込周藏　岩本泰次郎

奉天地方委員會（イロハ順）
原田覺次郎　萩原昌彥　鳥合八十二　尾崎濟　彌永茂太郎　山口精一　山本謙幹　河野通雄　赤松慶太　安達都　赤塚眞清　安藤基平　木谷辰巳　峰節翁　鹽尻彌太郎　末光源藏

奉天旅館組合
瀋陽館　ミヤコホテル　大星ホテル　大丸旅館　日進館　常盤旅館　武藏屋旅館　一力旅館　東亞旅館　滿洲旅館　春日旅館

奉天附屬地
料理屋組合員一同

奉天三業組合有志
金城館　金六　奉天檢番　菊文　金龍亭

書籍、土産物、骨董、寶石　開光堂書店　電話一九九番

鵬遊記（第五信）

ロザンにて　大谷光瑞

十月七日午前八時、マルセーユに着す。直に上陸し停車場に向ふ。郵船代理店の多川氏來たり迎ふ。伴にグラッスに到る。十時三十三分マルセーユを發し、十三時四十三分カンヌに着す。沿道の風光極めて明媚、最も旅情を慰む。地中海岸は秋光正に闌なりと雖も、木葉未だ黄ならず、プラタナス猶緑なり。處々桑樹を見る。然れども、一般はオリブと葡萄園なり。最近はフヰロキセラの害を防ぎ得て、葡萄最も利あり。故に田畝の大半は葡萄を栽へ、オリブ及桑は多く伐りて之に代ゆ。地味は一般に佳ならずと雖も施肥の術天然の氣候を償ふて餘りあり。

◇

カンヌより自動車にてグラスに向ふ。カンヌ、グラス間十七キロメートルは鐵道無きに非ざるも、自動車を以てするの便なるに如ず。道路歩々高く、カンヌの海岸よりグラスは三百メートルの高きにあり。沿道は葡萄の外、香料植物を栽ゆ。ジャスミナム、グランフロラム正花あり。此附近は世界第一の香料產地なり。大正十五年來り遊ぶや此の地を訪へり。今復來るに往昔の電車鐵道は棄て草莽に委せり。蓋し自動車の便は電車をして存在を容さゞるに至れり。汽車は獨重量荷物の爲めその用をなせりと雖も旅客は殆と搭乘するもの稀なり。將來の交通は恐らくは短距離に於ては自動車に敵するもの無かるべし。

◇

午後ミセル氏に會す。同氏はグラスの紳士にして稱好あり。ジヤバ農園に大正十五年ローズ・ド・メー及びジヤスミナム・グランテ、フロラを供給せし人なり。同氏の談ずる所によるに、最近化學人工香料の勃興するやグラスの栽培業者は打撃を蒙り大半は皆化學香料、若くはアルコホールを混入し、純粹の香精のみを販賣するものなし。從つてグラス香精の聲價を損ずるに至れり。纔かに兩三の工場のみ嚴に純粹の眞品を產出すと云ふを見る。同氏と伴にコオペラチーブ工場を見る。此工場は純粹品を產出する第一流の工場なり。現時はジヤスミナム、グランテフロラを抽出せり。抽出方法は精製ベンチンを用ゆ。此の花は從來はエンフレユヂにより脂肪轉移せしむと雖も、工費の增加は功勞に償はず。今ベンチン抽出法によるを以て抽出量を增加し、工費を減少せり。而してベンチンの放散は極めて微量にして論ずるに足らず。此れにより始めて完全に花香を抽出するを得。

◇

薔薇も亦此法を用ゆと云へり。花香は葉香、根香、實香等に比せば放散し易く、蒸氣抽出法を用ひ難し。故に往時は皆エンフユヂ法を用ゆ。唯薔薇と橙香は蒸氣抽出を用ゆと雖も、蒸氣の高温なるを以て、動もすれば佳香を損ず。ベンチン法を用ゆれば、低温なるを以て決して佳香を損ぜず。ジヤバ、スカハヂの工場は葉香、根香を抽出するを以て蒸氣抽出をなすと雖も、將來花香を抽出せんと欲せば、必ずベンチン法に賴ざるべからず。トルコの香料工場は明年度より香料抽出をなさんとす。故に盡くベンチン法による事に決し、その機械をミツセル氏に依賴せり。同氏はトルコの薔薇は優良なりと云へり。

◇

グラスの附近は薔薇とジヤスミナム、グランテ、フロラを主とす。ジヤスミナム、グランテ、フロラは花は茉莉、素馨に類すと雖も、香更に高し。樹幹は纖弱にして概ね直立せず。ジヤバ產のジヤスミナム、サンバツクの如き強幹に非ず。現時ジヤバスカハヂに此の花を移植せりと雖も、風土の異なるや、グラスの如く繁茂せず。寧ろジヤバに於ては、ジヤスミナム、サンバツクを栽培抽出するを可とす。グラス土人の言ふ所によれば、薔薇の栽培に比し多少有利なりと。蓋し八月より十一月に至るまで、花は次第に開花するを以つて、勢力の分配上薔薇の如き短期開花に比し有利なるべし。花圃は薔薇、ジヤスミナム、グランテ、フロラの外、チユベロース、ゲラニユームも亦栽培せり。其他の花香も多少これを栽へり。

◇

グラスを去る七八キロメートルにルバールと云ふ地あり。此の附近は橙を栽ゆ。橙花は皆用ゆべしと雖も、シトルス、ビガルヂアを最上とす。此の果實は苦味多く生食の用に供し難し。果皮よりも芳香を抽出し得べしと雖も、花香の爽快なるに如じ。橙花はネロリと通常稱せり。橙香はイタリ、シシリーを最大產地とすと雖も、一般にグラス產を最上とす。グラスの產出はシシリーの百分の一に及ばず。蓋し我邦の茶葉は、山城宇治を第一となすが如し。シトルス、ビガルヂアのみならず、一般のシトルス類は皆芳香なきに非ず。生食用の柑橘も芳香用に供し難きに非ざれども、口腹の慾は鼻を壓して之れが用となせり。故に概ね香用に供せず。シトルスビガルヂアは苦味なるを以て口腹是を好まず、故に鼻之を專用す。然れども果皮に糖を配し、マーマレードを作り芳香と少苦味を配し、朝餐の用に供せり。蓋し口腹の慾は人生五官の慾中優先權を占有せるが如し。

◇

此地にジロウと云ふ兄弟の香料工場あり。皆ミセル氏の友人なり。此工場を訪ふに兄弟共に來り、種々說明をなせり。兄弟は三十歲前後の有爲の青年なり。深くグラス香料の純粹を維持せざるを慨し、憤然自力にて工場を創設し、前に云ふコオペラチブ工場と連絡し、純粹のみを以て製品を產出せんと期せり。工場は殆ど落成すと雖も、未だ開始に至らず。恐らくは數週の後器械の運轉を見るべし。兄弟の意氣極めて賞讚するに足る。時正に六時。暮色既に暗く談ずるに時なし。再會を約し去る。

◇

グラス附近は地價高し。蓋し香料作物の如きは、極めて集約方法を用ゆるを以て、小面積に多產を期せざるべからず。特に摘花の如きは、農夫の閑暇に無償勢力を使用せざるべからず。然らざれば摘花の工費は收益を損す。故に幾十アールの地も幾萬フランを產出せんと期せり。此に於て極度の集約方法を用ひ從つて地價の高直を免れず。本よりグラスの地は有數の避寒地にして、而も暑氣も海岸の如く甚だしからず。故に別莊地としてその需用なきに非ざるも決してその爲に高價なるに非ざるが如し。一平方メートル二十フランに價する花畝も亦少からず。葡萄も亦多く栽培せり。生食と釀造と兩ながら之を產す。然れども未有名の釀造地に比すべからず。概ね農家自らその用ゆる所を釀し、剩あらば之を市場に出すが如し。土人の言によれば本年は乾燥異常にして、一般に作物は不良なりしがグラス附近は灌水の便ある爲め枯害を出さず、葡萄はこの異常乾燥により大豐作なりと云ふ。農夫に乞ひ畦間の葡萄を採り之を食ふに、甘味他に異れり。特にマスカツトを最優とす。

◇

此の附近は傾斜極めて急なるを以て灌渠を作り難し。故に極くアルプスより鐵管を以て水を引き飲料に供し、その餘剩を灌水となせり。從つて花香、果實の如き耐乾作物を植ゆるを以て、少許の灌水を得ばその用に足る。故に山角岩頭皆一枝の鐵管により水を得べし。

◇

グラス三日の淸遊を終りカンヌに歸り、更に轉じてエストレルの風光を賞せんと欲し、テウルよりトラヤに至る。トラヤは奇なりと雖も小なり。寧ろテウルの山角の大觀なるに如ず。テウルは一小漁村なり。その上方の山角に登れば、カンヌよりアンチブ岬角に至る大灣は開けて目にあり。島嶼列を前に布き、グラスより上方の峻嶺大山は、遠くアルプスに至るまで天平に聳ゆ。蓋しアッヅル海岸中部の第一の勝景なり。

午後アンチブに至る。雨あり、遊眺を恣にする能はず。アンチブの上方に至るや雨更に急なり。車を返しカンヌに歸るや急雨沛然、街道溪間の如し。カンヌに着するや、天既に暮る。夜來電雷あり。翌朝マルセールに向ふ。

◇

十一日午前九時四十分、マルセールを發しアヴヰニヨンに至る。ローン下流の景を勝せんが爲なり。故城崖に依り形勝雄大なり。城樓に登り望むに千里双眸に入る。惜むらくはローンの淸流この附近に於て兩分し、中間に樹洲を挾み、樹高くして水を見るべからず。故にローン脚下を流ると雖も、唯だ大橋を望み淸鑑を見ず。午後法皇の故宮に至る。時にチエツペリの飛行船は頭上を掠め、南天に走れり。彼はコンスタンス湖畔のフリドリツヒハーフェンより南下し、地中海に出て轉じて西向し、アッヅル島を經て、北米合衆國に至るなり。法皇故宮の湧の小公園は正にローンの淸流に臨めり。その景は對岸ウヰルヌーブの故城の雄大なるに及ばずと雖も、ローンの水は是を償ふて餘りあり。十五時四十分の汽車に搭ぜんと欲し、停車場に至るや汽車は三十分延着せり。二十時十分リオンに着す。此夜泊す。翌日帝國領事館を訪ふ。小川領事幸ひに在り、南佛の蠶糸業の事を問ふ。午餐は三菱菊池氏の招を享く。更に再會を期し、十五時十分リオンを發しパリに向ひ、二十二時五分着す。

◇

パリ五日の滯在は全く口腹の慾樂を完ふせんが爲なり。ガストロノミーは佛國を最上とす。此事別に記すべし。十八日夜安達大使の招宴を辱なふす。大使は廿年來の舊知なり。大正十五年歐洲に遊ぶや大使はブルッセルに在り。今石井大使の後を襲ひパリに駐都す。河合參事官も亦從ふてパリに在り。佐藤公使も亦國際聯盟の帝國代表として正にパリに在り。皆舊知なり。談笑刻の盡きるを知らず。子夜辭し歸る。

◇

十九日ロンドンに向ふ。海峽偏南風急なりしが、波未だ高からず。ロンドン二日の滯在は戸澤中佐の約を踐み、幷せて中佐に光學の教を乞はんが爲なり。幸ひに中佐に會し、シンガポール以來の談をなし、ジヤバ滯在中光學につき群疑の百出せる問へり。豪を啓くこと多大なり。野原正金支店長は舊知なり。同氏の招を蒙り、午後同氏と伴にキユ植物苑及リツチモンドの公園を散策せり。此日は幸ひに快晴なり。ロンドン十月に快晴を見るは稀なり。蓋し前日極め深厚なる低氣壓のアトランチツクより來り、スコツトランドの北方を通過せしにより、その後邊に一時の快晴を出せり。然れども更に深厚なる低氣壓、大西洋を東走せるを以て、二十一日午後は陰曇なるべく、二十二日は暴風雨なるべし。故に二十一日午前意を決し海峽を渡りベルヂユムに向ふ。ドウア、カレーの間波極めて高し。カレーよりブルツセルに向ふ。

◇

翌日永井大使を訪ひ面談數時に及ぶ。午後和蘭デンハーフに至る。廣田公使は舊知なり。ジヤバの事情を談せり。翌日十三時十分デンハーフを發し、パリに向ふ。途中新聞を見るや二十二日夜八時、颶風ロンドンを襲ひ、ヴヰクトリア停車場の邊よりピカデリサーカスを經てオツクスフオードサーカスに至る間家屋を破壞し、大害を與へり。我等幸ひに前日決意海峽を渡れるを以てこの不慮の災難を全く免るを得たり。この颶風はロンドンに於ては稀有の事に屬し、その狀アメリカのトルナドに類す。幅員は狹小なれど破壞力は絶大なり。ロンドンに於ける通過區域は第一に殷盛の地なり。家屋のごときも極めて堅牢の大厦なり。然るに猶その害を免る能はず、風威の暴なるや知るべし。パリーに在りては安達大使の招に應ぜん爲なり。大使は今回歸朝の小幡大使の別を送らんが爲の招宴なり。不肖亦小幡大使と二十餘年の舊知なり。特に最近トルコに起業するや大使を煩はすこと少からず。今共に離杯を酌む。大使は本國に歸らんとす。我はトルコに行かんとす。君向瀟湘我向秦の感なき能はず。二十六日十三時二十分パリーを發し、スウヰス、ロザンに向ふ二十七日ロザンに着す。此行スウヰスの秋色を賞せんが爲なり。其勝は次回に記すべし。（十月二十七日）



初鶏　菊澤武江氏筆

賀正

公主嶺

公主嶺郵便局長　加藤三吉

公主嶺取引所長　田邊鐶

公主嶺電燈株式會社　郭家店支店

公主嶺土曜會
滿洲銀行公主嶺支店
公主嶺電燈株式會社
公主嶺取引所
信託株式會社
正隆銀行公主嶺支店

公主嶺石炭商組合

公主嶺農事試驗場長　神田勝亥

公主嶺地方事務所長　久保田賢一

小松齒科醫院

和洋雜貨商　小松洋行

公主嶺正隆支店長　竹田計二郎

公主嶺滿銀支店長　大倉太七郎

公主嶺地方委員　大口靖太

公主嶺電燈株式會社取締　宮川嘉門

公主嶺合利洋行主　小松光治

公主嶺公學堂長　大隈勘次郎
外職員一同

公主嶺驛長　深澤住男

公主嶺滿鐵醫院長　加藤榮

公主嶺信託會社專務　藤井省策

會席料理　やまと

陸軍、滿鐵御指定　丸福旅館

東京名物せんべい　細田商店

武富洋服店

丹宗吳服店

滿鐵社員倶樂部　食堂

驛構內食堂　榮商店

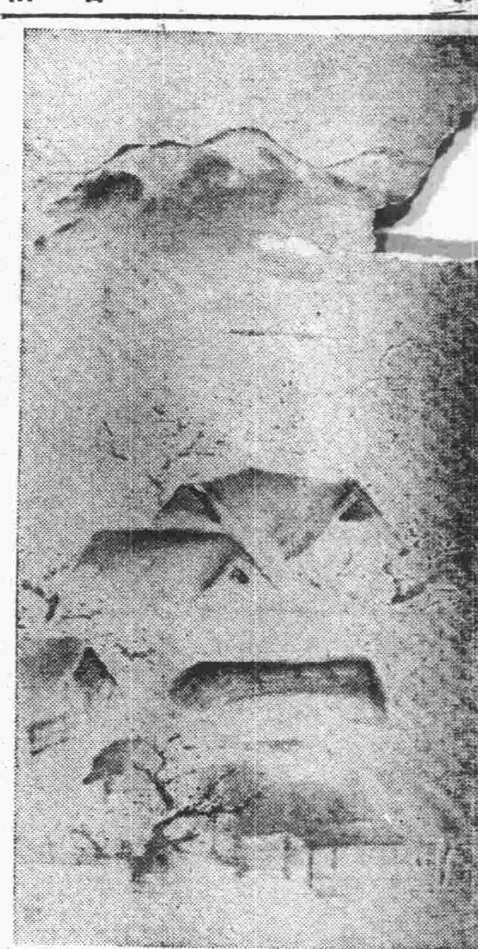
金昌堂　隆旗金次

公茂堂　山本茂之亟

東亞藥房　足立準

和洋雜貨書籍　小久保洋行

陸軍御用　楠田菓子店


「家の朝」 菊澤武江氏筆

事業界の整理と中小工業金融

日本興業銀行總裁 鈴木島吉氏談

大正十四年頃より社債の發行は逐年增加して昭和三年十一月末に於ける會社々債の現在高は大約二十七億圓の巨額を算するに至つた、之れは大體に於て金融緩慢

金利低落の

情勢に順應した結果なること申す迄もないが、就中昭和三年に至り特融の結果、金融は一段緩慢となり金利は更に低落したので社債の發行簇出し同年十一月迄の累計十億九千八百餘萬圓其内借替發行に屬するもの實に八億二千六百餘萬圓の巨額を算し社債現在高の約三分の一を占めたのである、而して右借替發行社債は大抵三四年前に發行されれ昨年に入りて据置期限を經過したものが低利に借替へられたのであるが、試みに其の

平均利廻を

比較せんに大正十四年中發行社債の平均利廻り八分一厘二毛、昭和三年(一月至十一月迄)中の同利廻り六分二厘六毛であつて一分八厘六毛の低下を告げた、即ち昭和三年中に借替たる社債は其れ丈有利に發行し得た次第であつて借替による差益大約一千五百萬餘圓は事業會社が利息負擔を輕減するを得たのである之れは今後數年間年々享受する事業界の利益である、加ふるに金利低落に基づく利息負擔の輕減は單に社債のみに限らず廣く商工業者の借入金並に

手形割引等

も亦同樣之に均霑し得た所であつて昭和三年十月末と前年十月末即ち其の一年間に金利低落のため全國手形交換所社員銀行の貸付、貸越及び割引金額總計に對する金利の輕減額は大約四千六百餘萬圓の巨額に達して居る、隨つて一般商工業者は金利低落の結果、社債及び銀行借入割引金だけにても合計六千百萬餘圓の利息の負擔を輕減することを得た譯であるから、事業の經營の上に何の位役立つたかは想像に難からぬのみならず、銀行整理の結果事業界の整理を促したるもの少からず之れを恐慌前に比較すれば實に霄壤も啻ならずであつて事業界は殆と安定せりと言ふも差支無き樣である、然るに安定したと思はれる事業界裡に尚時々不始末を暴露する會社ありて內容改善のため

配當の減少

を免れざるものあり、不經濟なる競爭を止まずして放資家に不安の念を與ふるものなどありて斯界の暗影未だ消えぬやうである。事業界には右の如く多少不安の暗流潛在し今尚相當整理改善の餘地あるやを思はしむるのみならず、今日業況圓滿に進行せる諸事業中にも紡績、絹糸紡績の一部、製紙、製糖、セメント、モスリン、晒粉、過燐酸、石炭等の如き操業短縮とか販賣價格協定とかによつて其の經營を維持せる現狀であつて、若し斯かる協定が十分實行されない場合には果して今日の狀態を持續することが出來るか何うか疑問である、固より協定協調は各種の事業が眞實安定に到るの道程たるに相違なく又事業經營を適度に有利ならしむる爲に之れを必要とするのであるが、協定は一種のトラストであつて之れを

極度に惡用

すれば消費者に不利益を與ふること明白で、其の結果生活費を高め延いて一般事業にも惡影響を生じ大局より觀て不利益たるを免れぬが、販賣協定もせず生產制限をも行はず無益の競爭を爲し可惜事業をして共倒れの運命に陷らしむるに比ぶれば遙かに思慮ある、殊に現時に處する妙對策と信ずる、併し生產制限は之れを解剖すれば設備の一部を睡眠せしめ其の資本に對しても相當の配當をなすものであつて決して理想的のものとは思はれぬ何とかして別段成績を惡化することなく各事業に投ぜる全資本の活用、即ち全能力の運轉をなし依つて生じたる生產品の

剩餘部分は

之れを海外市場に於て處分することは出來ないものであらうか、能力の一部睡眠は如何にも惜むべき事である、況んや我國の如く金解禁の準備の爲め國際貸借の改善を要すること焦眉の急なる國に於てをや、若し此の事が可能なれば我國際貸借決濟の上に資する所大なるのみならず商品の海外販路の開拓となり軈て又事業の將來を確保する素因を作るものであるから我工業の發展策として極めて大切なる事と思はれる、次に中小業は大工業を初め一般事業の發達を補助する上に於て大切なる事業であるから金融上之れに便益を與へて其の維持發達を期すべく所謂中小工業金融問題の解決に就て各方面に種々論議されて居る

政府の方針

も此の問題の解決を期し段々實行方法を講じて居る次第であるが、本行の立場も亦同樣其の解決に盡すため年來中小工業者に對して力めて資金の供給に任じて來たのであるが何分にも中小工業者は全國各地に跨がりて其數甚だ多く其の範圍も亦甚だ廣きため本行獨り如何に努力しても僅に一部分の金融を賄ひ得るに止まり、其の効果甚だ薄く一般の大なる期待に添ふことが出來ず大に遺憾に思つて居る、從つて中小工業金融を完全に遂行して圓滑の域に達せしむるには單に一金融機關に委することなく普く一般金融業者の協力に俟つの外無いと思ふ其の中にも

一二三流銀行

の營業が復活すれば元來中小工業金融に密接の關係を保つて居つたのであるから此の問題の一部は解決されるであらう、又各地の農工銀行が中小工業金融に活動することになり同時に多數の農工銀行を合併した勸業銀行に於ても同樣活動することになれば之等銀行の本支店が全國各地に散在せる關係上本問題は餘程解決されるであらうと考へる、元來我國は人口過多にして手工業國であり、中小工業國である全工業發展の爲めに其の經營を維持助長するは極めて緊要なるのみか之に從事する職工の多數なる點から考へても社會政策上放任すべきものでない、殊に近年中小工業の生產品輸出か

漸增の趨勢

を呈するより觀ても大に之れに保護を加へる必要を認めるのである、右の如く對中小工業金融は政府の督勵と特種普通兩金融機關の新活動とによりて漸次疏通されるにしても銀行界整理前に於て行はれたやうに、不健全なる銀行から不健全なる融通が容易に得られるものと考へるならば、それは中小工業者の甚だしき考へ違ひと云はねばならぬ、中小工業者に於て堅實なる經營をなし銀行業者をして安んじて資金の需要に應ぜしむる樣改善を爲すことが肝要である、之は當業者の自ら勉む可き點であるが、更に中小工業の發達の爲めに府市の如き公共團體に於ても一個の

指導機關を

設けて機械工場其他設備の改善を促すとか又は經營上の相談に與るとか、或は徒弟のため其れ其れ專門の夜學校を設けて實際的智識を授け進步せる技術を習得せしむる等の施設に依て今日日進月步の工業界に適應せしむる樣相當設備を爲すことは中小工業を向上せしむる所以であつて金融問題の解決と同樣に深甚の考慮を費すべき要項なりと深く信ずる者である、中小工業の或るものは碌々帳簿を有せず自己の事業の成績を明示する證憑なきは金融を爲す者の最も不便を感ずる所であるから、會計士又は適當なる方面に就いて完全なる帳簿と其の記帳方を習得することも亦

極めて必要

と思はる、倘原料の仕入製品の販賣に就いても多くは問屋の手を通じて不當の口錢を貪られ又廉賣高買を餘儀無くされて居るもの少からず此の如き場合には金融機關の一擧手一投足に因り彼等の受くる利益は蓋し大なるものがあるであらう。大[illegible]ロイドバンクは倫敦に於ける大銀行の一であるが或雜誌に據ると中小資金の貸出しが口數に於て八割四分金高に於て四割三分の多きに達して居るとのことである、我國の大銀行の中小工業に對する放資の統計は分らぬ蓋し相當の割合であらうと思ふが大銀行も特殊銀行及び二三流銀行と相協力して本問題の解決を促進せんことを祈る次第である。

年頭の所感

大連取引所長 山崎平吉

昭和戊申の歳も暮れて茲に昭和四年を迎へた事は同慶の至りである、舊年に於ける當取引所の特產、錢鈔市場は共に大なる活氣を呈せずして、先づ

平凡裡

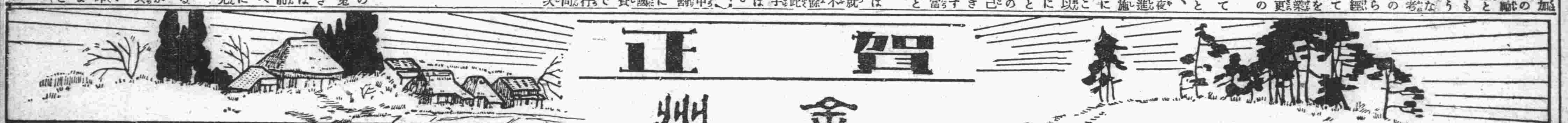
に經過したが、是は年來引續く一般財界不況に伴ふ自然の結果と見て、必ずしも悲觀するに及ばないと考へる、世の中は興廢時に繞り、經濟界も亦盛衰を繰返す事言ふ迄もない、顧みれば大正八九年を絕頂とする大戰後の財界は、その反動で大正十一年頃より世を擧げて不況の淵に沈み今に至りたる次第であるが、此の間十年の歳月を經過し、又再び財界復興好轉の兆候は、漸次諸方面に認められる、此の芽出度き

新年に

於て、更に一段の勇奮をなし、滿洲財界に愈々復興氣分の瑞光を見ん事を切望す、まだ本年に於ては直に好轉活躍の時期に入る事を期待し得ないが兎に角既に不況のドン底を通り過ぎ多少の新光候を想望し得るとせばお互ひは茲に氣分を一掃して、前途の好望を認めつゝ奮勵努力すべきであると思ふ、諺に「眼前に太陽の光輝を眺めて進むときは元氣出るも、後より日沒の

光線の

影を踏んで辿るときは道遠し」と云ふ事もあるが我々は常に前途の光明を見失はないやうに注意したいと思ふ、私も昨年圖らず取引所の一人となりてより茲に一年未だ此の方面の知識と經驗淺しと雖も、新年と共に益々本務に努力したい覺悟である



金州民政支署 職員一同

關東廳農事試驗場 職員一同

綿糸紡績 內外綿株式會社 金州支店

金州農業學堂 公學堂南金書院 職員一同

關東廳種馬所 職員一同

加世田彌次郎

內外綿株式會社金州支店 村山增雄

金州驛長 廣谷源助

金州民政支署警務課長 松木勘十郎

金州郵便局長 太田鐵也

金州金融組合理事 鹽澤角兵衛

金州驛前郵便所長 三浦健造

本丸弘

金州尋常高等小學校 職員一同

金州保線區 立光清一

盧元善

日本赤十字社金州支部 松元計介

金州海關 長岡重太郎

原田農園 戸崎靖雄 電話一三〇番

土木建築請負業 泉屋輿吉 電話三六番

土木建築請負業 倉重光藏 電話一〇一番

土木建築請負業 櫻町茂 電話一二四番

南山通 福昌農園 電話一八番

南山通 南山園 電話一〇三番

鮮魚商 西園商店 西園慶助 電話一二五番

金州驛前 白石兄弟タクシー 電話一二八番

南金州大孤山間乘合 金城タクシー 電話四三番

諸雜貨 阿津坂商店 電話三二番

御料理 文廼家 電話一二一番
辰巳之助 五郎金政 清香小歲 十郎千苗 とぼ早玉 おいん おな

諸官衙御用達 圖書雜誌 內海商店 電話一〇五番

御料理 三浦屋 電話一二番
濱勇 鈴龍 文子 かほる 玉枝 はる

御旅館 金州旅館 棗田多都代 電話三一番

金州驛前 棗田洋行 棗田久助 電話三一番

會席御料理 筑紫 田中しな 電話三七番

和洋御料理及麵類 千代乃家 重田長槌 電話七八番

御菓子商 小島商店 電話一二六番

金州奧町 關東廳購買會指定 中空吳服店

滿洲日報並大阪朝日新聞販賣、洗濯クリーニング 山本甚太郎商店 電話六四番

滿洲日報販賣店 藥種雜貨 鳴瀬商店 電話五八番

滿洲日報社支局長 江口光夫 內地歸省中ニ付年賀缺禮仕候

大連 大連石炭商組合
滿鐵特約販賣人 石炭
佐藤組 熾昌厚 東萊洋行 共同組 鶴田號 大宮組 宮崎商會 東華公司

各種煖房工事設計 竹山式放熱器 附屬品製作 竹山商會 竹山吉治 大連市山手町四番地 電話四六五五三番

船具、鐵金物、諸機械油、塗料 大連市監部通 岸洋行 電話四三七六・六四二〇番

大連生命保險同業組合

キツコマタ 大連市信濃町 河又醬油

賀正

撫順

山西恒郎

久保孚

大林太久美

草野友次郎

內野捨一

大尾袈裟助

田中廣吉

撫順輸入組合 理事 中原祥光

後藤愛助

飛島井埥他郎

平尾鬪太郎

撫順炭礦個所長一同

野田慶

合名會社大松號 大江維賢

矢野組出張所 平井誉治郎 東十條通り 電話園三七二番

古賀初市

中山豊

大島勇

塚田清

齊藤茂一郎

角德一郎

松井佐兵衛

石原洋行 電話七番

石炭商 四國洋行 電話八二番

石炭細工 山羊乳 撫順炭礦指定洗布所 大谷商會 電話二八二番

中央大街 撫順公司本店 電話八八番

滿鐵石炭特約販賣 三榮公司 電話三八八番

蓬萊洋行 電話一四五番

東四條通 綿絲雜貨 前田洋行 電話二二〇番

朝日町一丁目 隅田順吉 電話二二番

飯田工業所 飯田彌三郎 電話一六四番

石炭商 西三條通り七 共榮公司 電話園三八七番

能文堂書店 電話一一四番

貴金屬時計商 山田洋行 電話三二一・一七番

森口直次郎 電話五二番

東十條通五一 榊谷組出張所 電話園三五〇番

神田工務所 電話一九七番

富澤寫眞館 本町 電話二一八番

石炭商 明星公司 電話二七八番

大衆雜誌 月刊撫順 城島德壽 撫順中央大街

滿洲土木建築業組合撫順支部
三田工務所 長谷川組 坂本組 村松組 飛鳥井組 福昌公司
矢野組 高岡組 後藤工務所 大倉組 伊賀原組 福井高梨組
田中商會 細川組 吉川組 神田工務所 榊谷組

撫順地方委員會委員一同

撫順地方醫師會 (イロハ順)
長岡歯科醫院
中島歯科醫院
中村歯科醫院
柳瀬病院
山路歯科醫院
松井醫院
天生病院
淺田病院

能文堂新聞部 電話一三九番

撫順會社團

菓子商 花月堂 電話園一三番

中央大街五條停留場前 原田靴鞄店 電話三九二番

和泉呉服店 電話一一・五二九番

永安大街 履物一式 長門屋 電話四四〇番

船橋洋服店 永安大街

滿洲朝鮮專賣所 藥專門 ハレルヤ藥店 電話四二八番 振替大連三二九四番

和洋菓子 パン 明治屋本店 電話四四九番

撫順料理店組合
濱美家 新高亭 蓬萊館 近江亭 右左滿 旭館 山陽樓 金龍亭 みどり 新喜樂 一二三 日の出館 松月 いろは 山田館 組合事務所

撫順純料理店組合

新らしい使命のもとに若い主人が經營する、おでんと喫茶の小さな店、青い塔……をぜひ 女學校通り 山口和夫

ビルブローカー 岡田辰藏 東二條通り

泰盛洋行 電話三〇番

白蓮舍 後藤民藏 電話一八七番

山口タクシー 山口喜市 電話二五八・三六〇番

昭和タクシー 富田金次郎 驛前西ビル 電話五二一番

撫順驛前旅館 筑紫館本支店 本店電話[illegible]九番 支店電話園六四番

永安大街 壽旅館 電話園三番

旅館 食堂 撫順榮町 天・地 保健浴場 電話四五六番 池田知賀良

大連

大連市浪速町二丁目 文房具測量用具 內田洋行支店 電話四五一七番 四八五六番

大連常盤橋 御菓子 みなと屋 電話六〇八五番

大連市西公園町六五番地 大連質業株式會社 電話七〇七三番

事務所 近江町一番地 大連飲食店組合員一同 電話三八四五番

大連西檢番 香壽美 電話六〇三六番

大連市乃木町 中村電氣工業所 電話五六五四番

コドモページ

一等當選 童話

お年玉とスケート

山田建二作 淺枝次朗畫

順チャンはスケートが大層上手でしたが未だ下駄スケートなので皆と同じ様な靴スケートが欲しくて欲しくてたまらないのです。未だろくに走れもしない者でも銀色にピカ／＼光つたのを肩にかついで行くのを見ると順チャンは自分の下駄スケートがはづかしくてソツとマントの下にかくしてしまふのです、區長さんの子供は長さが一尺もあるロングをつけて氷の上をツバメの様に走つてゐるのを見ると順チャンは赤ン坊の様に長い紐で下駄と足を結びつけるのがたまらなく恥づかしいのでした。

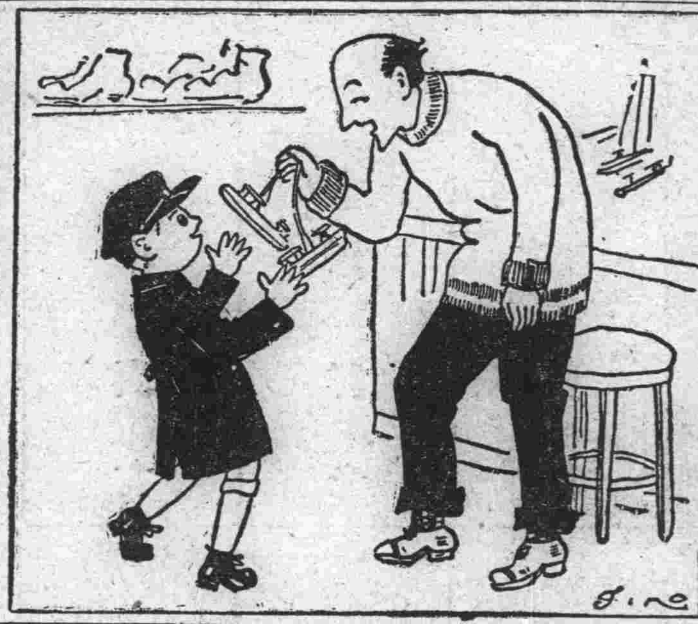
「順チャン……どうして靴スケートを買つてもらはないの……？」

組の中で只一人下駄スケートをつけてゐるのを不思議に思つてゐる友達は時々こう尋ねるのでした。

「……お正月になつたら買つてもらうのだ」といつも答へるのでしたが貧乏な順チャンの家では高い靴スケート等買つてもらへるはずがありませんので順チャンはお正月が來るのが何だか恐ろしい様な氣がしてなりませんでした。

しかしお正月は遠慮なく來ました、順チャンは矢張り下駄スケートなのでもう滑りに行く元氣がありません。

「順チャン……スケートに行かない？」道順なので區長さんの坊チャンがロングを肩にしてさそひに來ました。



「あゝ僕一寸お使ひに行かなければならないから先に行つてくれ給へ」と玄關にかけてある下駄スケートを眺めながら答へました。

そして順チャンは伯父さんの家に年始に行きました、伯父さんは大層喜んでストーブの側で色々の馳走をたべさせて下さつて歸る時

「おゝ順チャンにお年玉をあげやう何か欲しいものがあるかね……？」とお尋ねになりました

「………」

「遠慮しないで言ひなさい……ハモニカか……？……空氣銃か……？エツ違ふ…一體何だい？」

「あの……」

「あの何だい……？」子供のない伯父さんは順チャンを自分の子供の様に可愛がつてくれてゐましたので大抵のものは買つてくれるのですがスケートは大部高いことを知つてゐましたので順チャンは言ひだせないのでした。

「早く言ひなさいよ……何でも買つてあげるよ」

「あの……」

「いつまであの……ばかり言つてゐるのかね……」

「あの……スケート！」と思ひ切つて言つて下を向ひてしまひました

「なーんだスケートかい。早く言へばよいのに、買つてあげるよ……」

「ヱ、本當ですか……」

お正月早々「うそ」は言はないよ……」

「チヤー指切しませう……」

「ハヽヽ、指切なんかしなくても今直お金を上げるから買ひに行きなさい」と言つて伯父さんは金入の中から札と五十錢銀貨をまぜて三圓だして紙に包んでくれました

「さーお年玉だよ……早く行つてすきなのを買ひなさい……」

「伯父さん有難う……これから皆と一處にスケートが出來ます今まで僕一人下駄スケートでとても恥かしかつたのです……伯父さんさようなら……」

落付いた順チャンにも似ずチョコンと頭をさげて飛び出す様にして伯父さんの家を出て△△運動具店に急ぎました

處々凍つた道の上でころびさうになりましたがその度にポケットのお金の包みをさわつて見ながらハーハー息を切て走つて行きました。やつと運動具店の前に來て入口の戸をあけやうとしますと丁度そこに支那人の小孩が二人ロシヤドロップのカンの様な中にある少しばかりの焦たご飯をうばひ合つて食べてゐました。

二人は兄弟の様でしたが枯木の様にやせてこの寒さに着物が所々破れて血の氣のない青黑い皮膚が見えてゐます。手は腐つたザクロの様で二度と見られませんでした

わずかなご飯をうばひ合つて食べてしまふと二人は元氣のない聲で「めーししんじやう……」と言ひながら店の中をのぞいてゐます。順チャンは入口のハンドルに手をかけながら入らうともせずこの有様を見てゐました

可哀相だな──あの小孩たちはたべるご飯もないのだ……あの小孩のことを考へたら靴スケートなんか買ふのはぜいたくだな──……？」

「さうだ伯父さんにはうそを言つた様になるけれど神樣はきつと許して下さるだらう……頂いたお金を少しやらう……そしてそれだけ安いスケートを買はう……」と決心しましたが、しばらく金包をおさへたまゝじーツと見てゐました店の内の人が不思議そうに順チャンを見てゐます、小孩はご飯がもらへないと知るとポツリ／＼歩きだしました……

「あーツ小孩……マンマンデー……」と順チャンは夢中で呼び止めてポケットからお金包を出して中から五十錢銀貨を一つ取つて小孩に渡しながら

「小孩……ヌクイ／＼でメシ、メシ、ホ」と申しました。小孩はビツクリして銀貨を眺めてをりましたが本當のお金だと分かるとおどり上つて喜びながら頭を地にすりつけてお禮を申しました。

順チャンはもうスケートのこと等忘れて一緒におどりたい様な氣持になりました……小孩は何遍も頭をさげながら行つてしまひました。

順チャンは相變らず店の入口におりましたが我にかへつて思はず戸をあけて店の内に入りました。

「小父さんスケート下さい！」

「ハイ」と人のよさそうな主人が色々のスケートを持つて來て見せました。

包紙の中から銀色のスケートが見へると順チャンはもうたまらなくなつてくるのでした。

「小父さんこれいくらですか……？」

「五圓です」

「エツ五圓高いなもつと安いのはないですか？」

「さうですね……これなら三圓八十錢ですが……」

「三圓八十錢……こまつたな……小父さん一番安いのはいくらですか？」

「一番安いのと……これが一番安くて三圓です……」

「一番安くて三圓……！」

順チャンはガツカリしてしまひました「小孩にさへやらなければ買へたのに……」と思ふと何んだかとりかへしのつかないことをした様な氣もしました。

「困つたなー……」と順チャンは小さい聲で申しました。

「お金が足りないのですか……？一體いくら足りないのです……？エツ五十錢……坊チャンではこれを二圓五十錢にまけてあげませう……」

「エツ！負けてくれる……！小父さん本當ですか？エ、小父さん？」

順チャンは目を丸くして小父さんの顔をみつめました。

「エ、負けてあげませう、私が小孩にやるのをお坊ちやんが代りにあげてくれたのですから……」

「じゃア小父さん僕が小孩にお金をやつたのを見てゐたのですか……？」

「えゝよく見てゐましたよ、本當に私は坊ちゃんの親切に涙が出る程嬉しかつたのです、ごほうびにバンドもつけてあげませう……」

と小父さんは赤い線の入つた丈夫そうなバンドを一緒に包んで順チャンの前に出しました…」

「小父さん有難うございます…僕この靴スケートがないとお友達と一處に滑れないのです…その內にお小遣ひをためてきつと拂ひますから……」

と順チャンは嬉しそうにスケートの包を胸にだきかゝへて

「小父さんキツトお金を持つて來ます……。さようなら……」と丁寧に頭を下て店を出て行きました（をはり）

新年漫画 トン吉の正月 向沙弥作



合作童話

お窓の星(一)

石森延男作 淺枝次朗畫

第一回 石森延男　第二回 上村哲彌
第三回 弓削應明　第四回 青山捨夫
第五回 今永茂　第六回 中溝新一

「お母さん
お星さんつて、生れるものなのえ」

みいちゃんは、ベランダのおまどから、すんだ夜の空を、みあげながら、お母さんに、たづねました。お母さんは、おへやのなかで、一生けんめい、お針しごとです。もう、ぢきに、冬がくるんですもの。みいちやんが、かうおたづねしても、お母さんは、ごへんじもなさいませんでした。

「お母さん
お星さんつて、咲くものなの、え」

みいちゃんは、やつぱり、まどに、ほゝづえ、つきながら、空を見あげて、おたづねしました。それでも、お母さんは、おきゝとりなさいません。

「お母さん
お星さんて、降つてくるものなの、え」



みいちやんは、じつと、お星さまの世界を、みつめて、ゐるうちに、さまぐ＼な、けしきが、目に、みえはじめてきました。まつ白な、お星さんが、そつと歩いてきて、碧いお星さんの、そばによりそつて、きました。すると、碧いお星さんは、しづかに、手を、さしのべました。二つのお星さんは、手をくんで、かろくダンスをはじめました。これを見た、ほかの、紅いお星さん、緑のお星さん、黄のお星さん、紫のお星さん──がた、てんでに、うでをくみあつて、いつのまにか、をどり、はじめました。それが、一れつにならんで、弓なりに、をどるときは、虹のやうに見えます。ばらばらに、はれて、とびまはるときは、花ぞののやうに、見えます。

「まあ、きれいだわ。たのしさうね、あんな、ところにいけたら、まあ、どんなに、きれいでせう」

みいちゃんは、ひきつけられるやうにして、兩手をのばしてみました。すると、どうでせう、しらぬまに、みいちやんは、ふはり／＼と、空中を、とんでゐるではありませんか。ふと、下を見ると、みいちやんの家のまどは、明るくて、おへやの中には、お母さんが、やつぱり、一生けんめい、お針しごとを、なさつておいでになるのが、小さく、見えました。

入選童謠

一等 捨てられ小犬

上倉童夢

大さむ小さむ
冬のあさ。
小犬がおもてゞ
泣きました。
夜明の六時に
泣きました。
ねまきにたんぜん
着て出たら。
捨てられ小犬が
尾をふつて、
坊やのお手手を
なめました。

二等 おてらのかね

柴田正一

おてらのかねが
ゴーンとなつた
も一つきこうと
まつてるけれど
なかなかはやく
ならないな
きつとおてらの
ぼうさんが
きつくてやすんで
ゐるんでせう
やつとゴーンと
なりました。

懸賞兒童讀物

入選者發表

作品は順次掲載

懸賞兒童讀み物は締切日までに集つたもの童話第一種九十五篇同第二種六十二篇、童謠二百十八篇、笑話二百五十一篇、計六百二十六篇に達したが編輯局に於て嚴選の結果左の作品が入選した。

童話（第一種）

一等 お年玉とスケート 長春常盤町三丁目十一 山田健二
二等 草はほゝゑむ 朝鮮慶尚南道龜浦向島 西谷一之
三等 樂しいお正月 長春常盤町三丁目十一 山田健二

佳作

甚兵衛の子（旅順狹山武雄）美しい人魚（朝鮮西谷一之）まあちやん（大連佐々木四郎）蝸牛（大連中溝惠子）ロバと豚（大連猪飼千代子）民夫さんと名馬（大連鈴木石陽）

童話（第二種）

一等 シヤウジキナヒヤクシヤウ 開原孫家大家 豐村修
二等 ジラウサントロバ 安東縣一番通四丁目 西元靜男
三等 ミゴトナモモ 大連市近江町三 坂口としろ

佳作

ラウサンノテブクロ（開原豐村水星）ヤナギノエダ（大連猪飼千代士）オシヤウガツヲムカヘニ（長春山田健二）シナジンノコドモ（尾宮具美子）シナクリトケンチヤン（奉天小早川義夫）スズメノコ（大連武藤一枝）

童謠

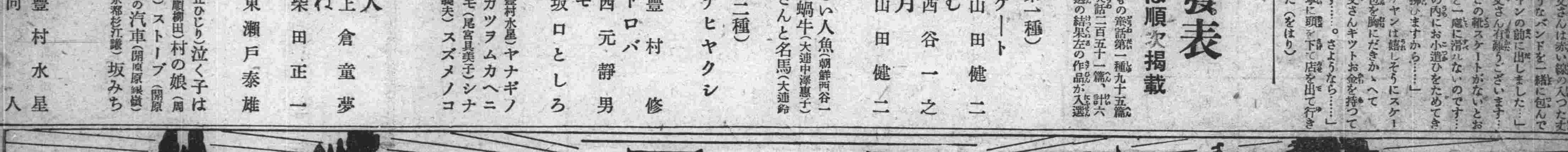
一等 捨てられ小犬 旅順月見町六二 上倉童夢
二等 おてらのかね 大連大廣場小學校尋一 柴田正一
三等 寒雀 大連伏見臺小學校尋三 東瀨戸泰雄

佳作

ろば（開原原銀嶺）煙突掃除（大連丘ひじり）泣く子はだまろ（旅順上倉童夢）四十雀（撫順柳田）村の娘（周水滿潮龍象）山羊追ひ（周水滿潮龍象）ストーブ（開原豐村水星）燒薯（大連濱藤正雄）滿洲の汽車（開原原銀嶺）田舍の驛（大連林秀逸）影法師（京都杉江讓）坂みち（同人）

笑話入選

四大都市 開原 豐村水星
高粱 同 同人



綿糸布商聯合會
會員一同（いろは順）
大連市山縣通 日本綿花株式會社大連支店
大連市山縣通 東洋棉花株式會社大連支店
大連市監部通 株式會社大信洋行
大連市大山通 株式會社角田洋行
大連市山縣通 滿洲共益社
大連市山縣通 丸永商店大連出張所
大連市大山通 永順洋行

大連市浪速町三丁目
辻利大連支店
電話三三八七・四七七六番

建築壁材料商
大連市西通り四七ノ二三
合資會社 田崎商店
電話四七一九番

チエルベルジス樂續合資會社
松浦壽吉
事務所 大連市山縣通二一三 編昌公司 電話七一七一番
自宅 大連市薩摩町七番地 電話四九五八番、

遞信局（いろは順）
在倫敦 中村富士太郎
緒方治郎
大津義雄
日下部鉦次郎
三木卓
篠原忠男

牧田太猪藏
大津瀧藏
泉文三
星武
中原不耀夫

大連醫師會



本社懸賞當選小說

人生の曲藝(1)

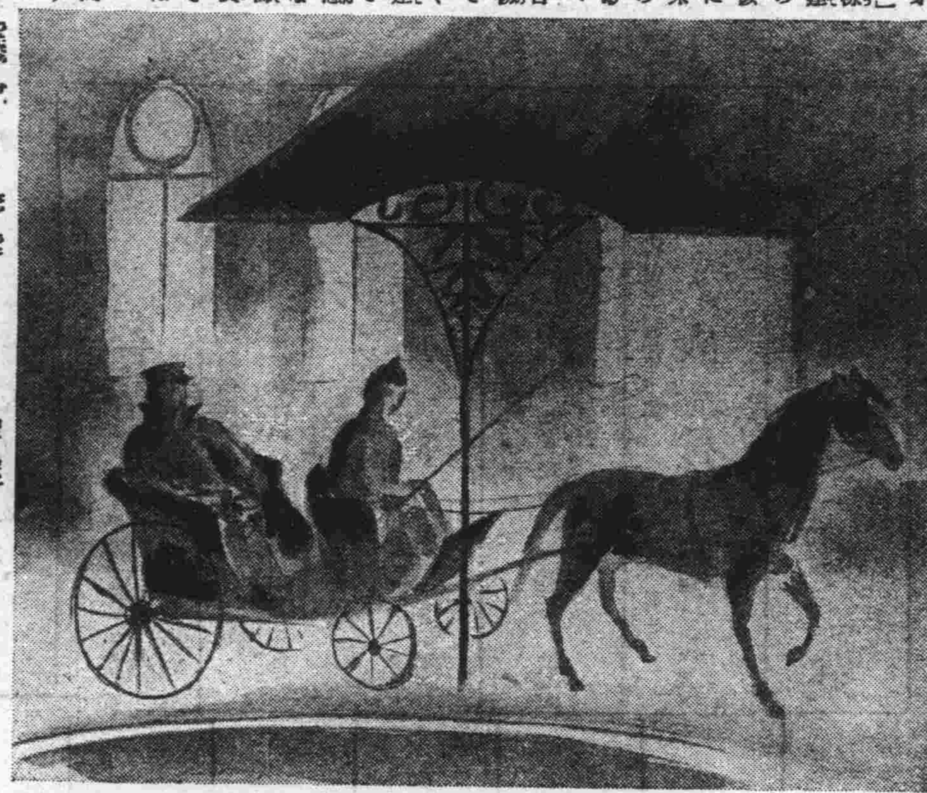
瀨野皓太作
小谷津三郎畫

ホテル・オブ・ミラクルス(一)

北満の魔都、哈爾賓市は、華やかで而も憂鬱だ。わけても殷賑を極めてゐる東洋のモンマントルなるキタイスカヤ街は、多漸く去つて、街頭の人々もその毛皮の耳覆ひを脱ぎ、深々と兎の毛で覆はれた怪物の眼の様な不氣味な防寒眼鏡を外して了つたとはいへ、餘寒は零度下十度を上らず、色彩さまぐ\なる電飾の店舗のみ徒らに淋しい。

街燈は青白く裸の白楊を照らし街路は寒く明滅燈に輝かされる所、キタイスカヤ街の南外れに近く、豪奢なる一軒のホテルが建つてゐる。

「哈爾賓ホテル」は土地の人たちが「ホテル・オブ・ミラクルス」と呼んでゐる様にその宏大な建物に似ず、この繁華な街にも似つかず、如何にも暗く、不氣味な感じを、その外觀に見せてゐる。例へて言へば、荒廢した古都の中央に魔物の様に睥睨してゐる古城の如く誰しもがその建物の前に立つて私かな戰慄を感じないものはない。蒼白く電飾された「哈爾賓ホテル」の小さな表札の下には重い黒色の扉。その扉は絶え間なく奇妙な軋りの音を立てゝ、その度毎に街路の人達は吸はれる様に、その扉の中に消されて行く。人々は、この不思議な黒い扉の前に立つ時、この飾られない黒さが、どうして、斯くも魅惑的であるかを常に疑ひながらも、その奇妙な軋りの音を聞くと、思はず足早に扉の中に呑みこまれて了ふのである。



キタイスカヤ街を驅ける自動車はその幾十臺とも知れず、このホテルの玄關に集り、綺羅に包まれた若き露人の男女を、モダーンな支那青年淑女をあるひは又邦人の幾組を、この黒い扉の中に送りとゞけてゐる。しかも意味深い扉の軋りは、その度毎に重く、悲しく響いてゐる。

午後十一時頃、一しきりその軋りの音も淋れた頃、エメラルド色に塗られた自動車が一臺、滑るかの様に明かるい街路を走り續けてゐたが、ぴたりとホテルの玄關につけると共に、一人の若い支那青年將校が下された。

彼は、ほんの暫くその黒い扉の前に立つて、首をかしげてゐたが、カツカツと拍車を鳴らして二三歩あるいたかと思ふと、忽ち扉は彼をも、重たく呑んで了つてゐた。

あとは暫く靜けさが續いた。街の電飾は、殆ど一定の間隔をおいてゐるかの様に、パツパツと消えて行つた。

「ホテル・オブ・ミラクルス」に集つて來る此のおびたゞしい華美な人達と、この黒く氣味悪い建物その黒い扉とに、一つのつながりがあらうとも見えない。だのに、この扉は今宵は數百人の人達を吸ふて、なほも扉を鎖さうともしない。

けれども「ホテル・オブ・ミラクルス」の様はこの不思議のために、言はれてゐるのではない。一度、この重い扉を排して、ホテルの中の人となり、ホテルが誇る大食堂に入る時は、華麗全く、凡ての魂を奪ひ、歡樂全く、凡ての人の其の凡てを奪ふ壯觀は、その重く暗い外貌に比べて、殆どその對比の妙、想外に餘るものがある。

さてこそ、神秘なる不思議なる奇妙なるホテルの稱呼のある所以である。

エメラルド色の自動車を乗り捨てたかの支那青年將校は、黒い扉を押して中に入る共に、外套を預るボーイに小聲で尋ねた。

「ホールのテーブルは開けてあるだらうね」

「はい、お電話がありましたので二十五番のボックスをとつてございます」

ボーイは慇懃に答へた。

青年將校は更に聲をひそめて問ふた。

「よく見渡せるところをと言つておいたが」

「はい、舞臺近くの所ですから、充分ごらんになれます」

「いやさ、ステーヂはどうだつて好いのだ。ホール全體の人たちがよく見える所なら好いのだ」

ボーイは不思議さうに彼を見あげたが、直に彼に答へた。

「勿論、それも充分に」

「よろしい」

青年將校は、拍車を鳴らして、大またに、階段を上つて行つた。

俳句

選外佳作 「新年雜詠」

島田青峰選

○ 大連　楢本歌洲子

春聯や板戸板塀傾きて
春聯を貼りたる荷馬車通りけり
年賀人道連れとなり別れけり

○ 鹿兒島　島田直三

水苔のゆるゝ若水汲みにけり
寄せ返す波も靜かや今朝の春
曉白む舟に若舟運びけり
初み空靜かに潮の響きけり
初日さす白き障子の草家かな

○ 撫順　大野賓雨

繭玉や客の出入の絶えまなし
繭玉や騷客どつと踊りたる
雪の消賑かに來し禮者かな
醉ひしれて再び來たる禮者かな
ホ句一つやうやくよみし三日哉
日當りて部屋明るさよ初暦
門前に居て受取りし賀状かな
叮嚀に會釋交はして初稽古
賣初めの看板娘着飾りて
名刺受出して靜かや御玄關
初風や人通る見ゆ雪の原
初竈飯よく出來て目出度さよ
輪飾や曉暗き深廂
門松や移り住みたる新社宅
犬と遊ぶ妻の暇や松の内
古[illegible]や小松飾りし軒柱
老犬や貧居の春の門を守る
雪晴れて僅かの寒さ初日影
掃初の塵をもやせるペチカかな
次の間に母人居ますかるたかな
隣の子かりて入れたる初湯かな
凍土に賽錢鳴りぬ初詣
回禮やあと一軒の山社宅

賀正

大連

- 唐澤準吉
- 津田元吉
- 榊谷仙次郎
- 高岡又一郎
- 大連民政署高等官一同
- 恩田熊壽郎
- 高崎弓彦
- 大連金融組合 組合長 平井大次郎
- 武田正吉
- 立川雲平
- 野津孝次郎
- 安住時太郎
- 高山勝司
- 小島鉦太郎

- 山葉龜五郎
- 藤沼誠一郎
- 田中知平
- 大連工業株式會社 取締役 桝田憲道
- 大連市美濃町九拾一番地 材木建築材料商 早野康治郎 電話(二)四二〇七番
- 前川郁夫
- 田邊三槌
- 日下卓四郎
- 寺田良之助
- 大連會屯金融組合 理事 橘辰之助 事務所 大連民政署内 電話八一九一ノ三六
- 能登町四四 森谷竹二郎 電話六二六七番
- 大連市吉野町 村上寅造 電話四九三七番
- 相川米太郎
- 河内山武雄

- 三田芳之助
- 副島善文
- 今村貫一
- 鈴木丈太郎
- 野本謙治
- 井上高富
- 三宅亮三郎
- 手島薫
- 金井章次
- 大西正弘
- 佐藤恕一
- 有馬邊
- 若月太郎
- 大内成美
- 内海安吉

- 高橋仁一
- 今井榮量
- 高橋猪兒喜
- 岡本英敏
- 村田懿麿
- 品田直知
- 立石保福
- 佐多彥美
- 仙波久良
- 宮崎恩一
- 槐常藏
- 藤田秀助
- 早川高志
- 船田要之助
- 高橋武夫

賀正

安東

安東縣郵便局長 西村元治郎
羽生實
矢口清藏
折田廣嗣
古川繁二
金原辰之助
吉田平次郎
櫻間四萬年

安東地方事務所長 粟野俊一

安東地方事務所 各係長

三井物産安東支店長 池上常太郎

滿鐵用度事務所安東支所主任 石橋房吉

安東滿鐵醫院長 梅田嘉四郎

安東商工會議所書記長 上田耕一郎

安東警察署長 尾崎三郎

安東保線區長 大木延邑

大村工務所々主 大村寛藏

安東縣郵便局長 河野秀雄

安東縣日盛公司 金井佐次

河合洋行主 河合芳太郎

安東縣市場通五丁目 北田榮太郎

安東地方委員會委員 金虎賛

安泰利店主 來栖健助

荒井組出張所 古賀諭

滿鮮坑木事務取締役 新羅祐三

安東驛長 白石寅治

富士瓦斯紡績安東工場長 栖原常三郎

安東守備隊長 田中信男

安東商工會議所會頭 高橋貞二

南滿電氣安東支店長 高橋芳藏

安東時事新報社長 中野初太郎

安東地方委員會委員 新美平四郎

安東取引所取引人組合委員長 原田市松

安東憲兵分隊長 廣田充雄

安東石炭販賣所主任 星澤研壽

東亞煙草安東販賣所 增田良三

伊佐奈商會安東支店長 森谷貞吉

辻山洋行主 山縣寅吉

鴨綠江採木公司
理事長 内藤確介
總務課長 橋本秀久
度支課長 吉田良繼
參事 大津峻
秘書 大野幸作

鴨綠江製材無限公司
代表者 式村茂
支配人 田中喜一

滿洲鑛山藥株式會社
社長 吉家敬造
常務取締役 明石東次郎

大連汽船株式會社支店
支店長 有吉峻作
電話 事務所二五〇番 支店長宅三〇七番

安東縣江岸通五丁目
安東挽材株式會社
電話 事務所一〇八・八一四番 事務自宅七〇二番

富士瓦斯紡績株式會社
安東工場
電話八九番

南滿洲安東縣
鴨綠江製紙株式會社
電話一六三・三〇五番

安東縣六道溝
滿鮮杭木株式會社
電話 事務所一一三〇番 現場詰所六三一番

明治四十一年九月創立
資本金北洋銀三百萬元
日支兩國政府合辦
鴨綠江採木公司
電話 日 二一番(受付)一七五番(販賣) 一六番(會計)五九番(秘書) 支 六番(受付)一九六番(總務)

安東縣銀行集會所

南滿洲電氣株式會社
安東支店
六道溝出張所
發電所

安東縣六道溝桃源
滿洲鑛山藥株式會社
電話 事務所一三三番 倶樂部五〇一番

安東縣六道溝
鴨綠江製材
無限公司
事務所電話 四五〇番 五一〇番

安東窯業株式會社
電話一三二番

安東縣驛前通四八番地
日之出製材所
日之出製軸匣所
所主 和田賢太郎

安東取引所
取引人組合

安東縣輸入組合
理事長 中村太郎
電話六四番

安東縣六道溝南四條通三丁目
原木製材
合資會社 宮下洋行
電話 三三・一八三番 長距離(ミア)
安東縣郵便局私書函第一四號

朝鮮郵船株式會社
近海郵船株式會社
日本郵船株式會社
安東代理店
國際通運株式會社
安東支店

御料理
由良之助
電話 二九三番 五九二番
主人用事 九二番

御料理
卜一
安東縣五番通八丁目
電話二四六番

安東縣市場通二丁目二番地
國際運輸株式會社
安東支店
支店長 北村文藏

大豆粕、滿洲粟、大豆雜穀
安東縣大和橋通五丁目
朝鮮肥料株式會社
電話長四五九番

安東驛前
安東ホテル
經營主 秋吉次郎
電話代表二四 長八四五番

石炭貿易商
安東縣五番通八丁目
藤平兄弟商會
藤平泰一
電話一七一・二二七番

安東炭友會

安東縣江岸通四丁目
滿鮮製函株式會社
電話三五二・七七三番

支那料理
安東縣大和橋通九丁目
金谷園
電話 日八 中四 三五 二四番

安東縣四番通四丁目
須田商會
須田武夫

舶來品蓄音器各種
レコード並ニ附屬品
キユーピー商會
電話五二四番

安信無盡合資會社
電話四五三・二二六番

安東公會堂
食堂部
電話八九二番

御料理
東雲
電話一三八番

安東縣
料理店組合

和洋菓子商
横濱堂
電話一二二・七四二番

安東縣五番通
森本寫眞館
電話三四七番

歐米蓄音器輸入商
榮商會支店
電話六四七番

安東縣市場通八丁目
柞蠶糸商
福原茂平治

安東縣大和橋通六丁目
三巴商店
電話一〇四・二三四番

安東縣市場通八丁目
一木藥舖
電話一五八番

安東縣市場通六丁目
滿洲屋吳服店
電話一〇六・一〇七番

安東附屬地
商務會

安東縣市場通
富久壽美旅館
電話四七番

安東縣市場通九丁目
協興洋服店
莊昇昌

鳳凰城之部

南滿洲鳳凰城
南滿黃煙組合

鳳凰城煙草耕作組合

鷄冠山之部

喪中に付年始缺禮仕候
近藤勘助

安東地方事務所鷄冠山派出所
所長 木口政之助
立石成人
井上和藏
日高清一郎

鷄冠山驛長 石川翠

鷄冠山地方委員會議長 橋口市之助

安東警察署鷄冠山派出所 栃久保武

鷄冠山保線區長 中山善七

鷄冠山公醫 占部雫

鷄冠山郵便局長 山中數雄

鷄冠山地方委員會委員 小杉輝男

鷄冠山小學校長 久居寛

安東支局
草葉强太郎
池口武男

瑞氣天地をこめて 元旦の宮中御儀
大典後最初の御迎春

己巳の元旦、旭光は燦と輝いた柔き朝靄に包まれた大内山の曙は瑞氣をこめて霽れに晴れた常緑の禁苑は清澄な濠に浮ぶ水鳥の幾群れに搖るゝ金波銀波の中に深き影をおとして天皇、皇后兩陛下即位大禮後初めての年宮城移御あらせられて又最初の新年の朝は八千萬赤子なべて竹の園生の彌榮に慶祝と歡喜のまことをさゝぐるなかに燦然と明ける

四方拜御儀
綾綺殿に出御
神々しき御姿にて 天神地祇を御遙拜

いとも目出度きこの朝、天皇皇后兩陛下は霜まだ深く曉闇猶濃き中に御離床遊ばされ御淨心の事もお濟ましになつて五時半といふに綾綺殿に出御、かくて陛下にはこゝにて御宿居の侍從等御介添へに奉仕するまゝに神々しき黃櫨染の

御袍に
お召替遊ばされ神嘉殿への出御にと御手水を執らせ給ふて御劍御裾、御鞋、御笏捧持の侍從等を前後に隨へられつゝ九條掌典長の御先導にて御拜の御座に進ませられる、陛下御拜あらせらる神嘉殿南庭は夜半の中に鋪設の裝飾を終はつて前庭中央に設へられた屋のうちには香り高き簀薦を敷き參らせ御屛風二雙は御座を限つて大古ながらのしゞまに二基の燈臺脂燭の灯たゆたう搖れて神威はひしくと迫る、かゝるう

御座に
着御の天皇陛下は御劍を御脇の御案に御笏を正させ給ひいとも神々しき御姿にて伊勢神宮、畝傍山陵、伏見桃山、多摩陵を初め天地四方なる天神地祇を御遙拜遊ばされ畏くもしばしを御默禱に御過させ國家の安穩萬民の多幸の御祈念を凝らし給ふのである、この頃曉闇漸く薄れて東天紅の空高く神苑のねぐらを放れる瑞鳥の羽ばたきはこの年の朝の大氣の中に高らかに響き渡つて輝かしき朝を迎へる、尙四方拜の儀に先立ち午前五時賢所

皇靈殿
神殿は一日祭の鋪設を申しあげ神饌幣物を供奠掌典長祝詞を奏し訖ると四方拜の儀を濟まさせられた天皇陛下は內掌典奉仕の神さびた御鈴の中に御拜玉串を獻ぜられ順次三殿に御拜禮遊ばすのである

て御開扉に續いて海のもの山のもの、神饌を供し奉り本多掌典次長は年の初めの御祭祀の趣きを祝詞に奏し訖れば五時半天皇陛下御代拜の侍從は衣冠單の袖を朝風になびかせつゝ綾綺殿を出る、白の淨衣に身も心も淨められた高木內掌典は一振り！二振り！御鈴の音は嚴かな響きを傳へるしゞまの中を草鞋の跫音も

靜々こ
歩みを止めた同侍從は懇なる御代拜申しあげて退下、引續いて皇靈殿神殿に御代拜し六時を過ぐる頃御儀は終るのである

御由緒深き 晴御膳
鳳凰の間で

かくて未明の御儀二つを濟ませられた天皇陛下は午前七時半鳳凰の間なる晴御膳につかせ給ふ、これよりさき五つ衣つけた竹屋女官長は御儀の間の北口にその他の女官は何れも東西南の各口に控えて大膳寮職員お運びまゐらす御膳の物を女官達は恭しくうけて臺盤に載せ御座の前に進めまゐらせた、やがて出御の陛下には御膳「ひしはなびら」を聞こし召されて程もあらせられずに御箸を立てさせ給ふて入御こゝに年の初めの御出緒も深き御膳の儀を終へられ御內儀に入御遊ばさるが陛下には更めて皇后陛下御共々皇女照宮樣をも交へられた御親子水入らずにて限りなきよろこびのうちに目出度き年の最の御祝膳の朝餉を遊ばされる



田家の朝……（星ヶ浦にて）

伊勢大廟の 嚴かな歲旦祭
大御饌を奉奠して

即位大禮も御終了になつてわけて意義深き新春を迎へた神都伊勢神宮では、輝かしき大御代奉禱の爲め大御饌奉奠の御祭典を元旦未明執行される、この朝二時より三條西大宮司以下神官等齋戒沐浴に潔齋を濟ませ三時より瑞垣御門前に庭燎を焚いて祭典の諸準備鋪設し四時三條西、熊谷大少宮司以下整列の第三太鼓を階いて內宮齋館から參進修祓をうけ饗を調理するの儀あつて再び列を整へて正面より參入伶人の奏樂裡に大御前に神饌並に御酒を奉ると大宮司は恭しく御代萬歲を奉禱する祝詞を奏し一同拜禮次いで二獻三獻の銘酒を奉奠し撤饌の上退下こゝに內宮歲旦祭を終り午前九時から外宮において同樣御儀次第で行はれる

歲旦祭の 御儀
侍從御代拜

この朝賢所三殿の在ます神域のほとりは全く淨めを終り松、楠の常盤木の枝參差とした中に神秘の靈氣は迫つて神々しき限りである、五時二十分宮內勅奏任官總代大禮服にて先づ

賢所に
參入し御儀に移るを待ち奉るうち、いと雅びた神樂歌の韻律とどろくと響き渡つて掌典等恭しく神前に參進し

乘込み

通信の任にあたり午前三時昭和四年元朝の東天未だ紅を告げず淑氣滿街をこめ保敏氏が

今曉三時、爆音勇ましく 耐寒踏破隊出發す
大連神社に參拜、聖上の萬歲を奉唱 自動車を連ね奉天へ

日支自動車研究所主催、本社後援の大連、奉天、撫順間耐寒自動車踏破隊は愈今拂曉三時大連を出發壯途についた、踏破隊は自動車三臺を以て組織し各自動車には車體の横腹に「大連、奉天、撫順間自動車踏破隊」の十三字を記して標識とし、研究所長阿部種藏氏指揮の任にあたり、本社特派員加藤周水子

る時大連神社に參拜し、遙かに東天を望んで聖上陛下の萬歲を奉禱し、轡を連ねて爆音勇ましく出發ヘッドライトに霜おく道をてらしつゝ歲末始めて開通したばかりの關東州幹線道路を辿つて

周水子
に向つたが、それより一路奉天を志し道なき道をわけて猛進する筈である

西班牙移民會社の苦力募集

【青島特電卅一日發】當地で苦力募集中であつたスペイン移民會社は保證金問題で支那側と交涉決裂したので廿一日募集苦力二千三百名に對し十圓宛の旅費を支給し解放した

初春の三ヶ日 天氣晴朗
少し寒いが風は柔ぐ

◇…十二月卅一日大連觀測所の豫想し得るお正月三日間の天氣は――お正月の三日間は天氣晴朗で雪は降らぬ、がしかし氣溫は少しく下り零度下五、六度のところを上下し、風は三十一日正午十米突そこくであるが一日、二日、三日となるにつれ次第に衰へてゆくと云ふのである、コウして見るとお正月はまあ寒いが天氣はよしと云ふところであらう。

◇…目下（卅一日正午觀測）シベリヤ方面は低氣壓で一般奧地は寒氣きびしくその影響で南滿一帶も氣溫は下つてゐる滿洲の十二、一、二の三ヶ月は世界に於ても珍しい晴天の好時期であると云ふ、これを統計によつて見ると明治三十八年以來二十五年間に正月元旦に雪の降つたのは四十四年四十五年その他計四回で風はあつても天氣はよい方であると。

巳歲生れの藝妓
卅七歲はとめ姐さん一人 廿五歲が十八人ゐる

輝かしい新玉の初春を迎く美濃町の花街の美しい藝妓さんで巳年生れの當り年に相當する別嬪さんが七九名ゐるその顏振れを紹介すると



◇…井筒とめ（三七）

北村席	美奴
同	小勝
同	宇女二
淡月	歌吉
同	三彌
同	市松
哲のや	喜美勇
同	喜久若
鷹のや	力〇
同	勇美子
同	お京
富や	光奴
玉のや	まき子
相生	榮龍
吉田屋	とし三
紀の國	須磨子
小川席	美津彌
松坂屋	三津編

（以上明治三十八年生れ）

井筒 とめ（明治二十六年生れ）

と云つた順序で三十八年生れが十八名二十六年が一人である



◇…北村席 美奴（二五）



=◇追ひ羽子◇=

けふ蓋開けの 賑かな初春興行
久振りに活氣を呈す

一年中の書入時である新春を迎へた大連興行界は一齊に活氣づき元旦より華々しく正月興行の蓋を開け大童となつて觀客の吸收に努めてゐる、先づ映畫界は寶館が環歌子主演の「火の車お萬」帝國館が阪東妻三郎主演の「開化異相」演藝館が帝キネ作品「人喰蜘蛛」とマキノ映畫「紅蛇」浪速館は日活の御大典記念映畫池田富保監督の新舊兩部總出演の特作品「維新の京洛」を第一週に据えて人氣を煽つてゐる

また三日から五日まで晝夜二回協和會館に於て社員俱樂部後援の下に帝國館演藝館浪速館の三館聯映會が催されるが、第一日は浪速館の「つばさ」第二日は帝國館の「開化異相」第三日は演藝館の「夜鴉」と「森の石松」である其他青年會館では洋劇「ゴリラ」を三日から上映する

一方芝居は歌舞伎座が元旦から喜劇會我廼家五八郎一座で大連劇場はお馴染の女歌舞伎淺尾信治一座が多數の新顏を加へて元旦初日で午後五時開幕で二日替りで開演すにものんきである

奉天の興行界

る、遊樂館は浪花節如雲一行、各方面とも久し振りに興行界らしい景氣を煽つてゐる

奉天館
元旦より三日間晝夜二回、佛國パテー社作品連續活劇「黃色の腕」全六巻、日活現代劇父娘哀話「きつね」全七巻、日活作品「清水の次郎長」第一篇五八巻、入場料特等八十錢一等六十錢

演藝館
元旦より六日間晝夜二回、大津お萬一行、江戶一流餅の曲搗き「住吉家社中」奇術網拔け術「松旭齋一派」江戶名物丸一曲藝「都家連一派」藝題毎日替り入場料特等一圓八十錢、一等一圓卅錢二等八十錢、學生軍人半額子供卅錢

風呂敷包の中に 奉票三萬五千圓
奉天驛前で格闘のうへ逮捕 紅梅町馬賊の片割か

【奉天特電三十一日發】奉天紅梅町の馬賊事件に關し奉天署に於ては更に三十日正午ごろ二人、同午後一時ごろ二人、午後六時ごろ一人の嫌疑者を引致し、松井司法主任主となつて三十一日朝にいたるまで徹宵取調べを續けたが、未だ眞犯人は判明しないものゝ如くである、また卅一日午前九時ごろ巡捕が驛前廣場で怪しげな支那人を格闘の上逮捕したが、風呂敷包の中に奉票三萬五千圓を所持してゐたので奉天署では眞犯人の一味ではないかと取調べてゐる

のびんり 暮れた大晦日
いづれの街でも迎春の準備整ひ

逝く昭和三年歲暮の宵は浪速町から伊勢町界隈にかけて寒つ風の中にも賑やかなざわめきを見せてゐる、街々は長の不景氣にすつかり馴れつ子になつてそゝくさとしたあわたゞしい樣子は見えず悠暢な中にも賑はしさを示してゐる、各街々には大きな門松は案外少いが正月を迎へる準備は出來上つて新しい年よもういゝぞと云つた氣分が見えてゐる、歲晚の風景は餘りにものんきである

大晦日の火事
痴情の放火か

三十一日午前七時四十分ごろ市內西通三四番地信託ビル三階清水久子（二〇）方押入の中より失火幸ひにも近隣の人々の發見努力により押入內部布團衣類等を燒失したのみで大事に至らず消火したが大連署司法係では失火の原因に疑はしき廉あり痴情關係による放火ではないかと久子並に關係者を招致目下嚴重に取調べを進めてゐる

東京管內の 年賀狀
七千九百四十萬

【東京三十一日發電】年賀郵便特別取扱は二十九日で締切つたが東京遞信局管內總數は七千九百四十萬

消防出初式
瓦房店に於る

【瓦房店特信】瓦房店における消防出初式は七日午後零時半警鐘三點打と共に事務所前廣場に隊員集合し人員の點檢、監督官の訓示、消防長答辭等あり閉式の順序であるが、なほ當日は市內を練り廻り氣勢を上たるのち午後三時より公會堂に於て新年の宴會を催す筈である

奉票二十一萬八千百十一通で昨年に比し二割五分七厘の增加である

天氣豫報

一日（晴）北の風

日出七時十二分日沒四時四二分
滿潮前一時四十分 後二時五分
干潮前八時三十分 後八時卅分

各地の溫度
午前十一時　昨日最低

大連	零下五、三	零下四、五
旅順	三、〇	同 三、四
營口	五、二	同 一二、一
奉天	七、三	同 一五、四
長春	一二、七	同 一五、五

けふのラヂオ

昭和四年一月一日（火曜日）
自午前十一時
一、祝歌 大連高等音樂學校生徒
二、挨拶 遞信局長 櫻井學
三、謠曲 高砂 梅若流滿櫻會
四、謠曲 老松 喜多流白井靖
五、獅子舞 櫻川連中
六、長唄 末廣がり 唄ピアノ 村岡榮…、三味線中村愛子

賀正

大連若名商店

昨年中は厚き御愛顧を賜り深く御禮申上ます本年は猶一層總ての點に改善を加へまして皆樣日頃の御愛顧に酬ゆべく努力致しますから何卒倍舊の御眷顧を御願申上げます

和洋雜貨化粧品類の豐富なること大連第一

浪速町の 浪華洋行 電話代表五一七九番

昨年中は格別の御引立に預り厚く御禮申上候昨冬類燒の厄に遭ひまし弊店も皆樣の御高庇によりて店裝を新にして尙一層改善し御眷顧に酬ゆるべく期して居ります此上とも彌增しての御引立御願申上ます

大連市浪速町一一〇番地
和洋家具 世帶道具商 船塚商店 電話 四三七九番 七五四三

舊年中は格別の御引立に預り御厚禮申上候尙本年も一層の御愛顧奉願上候
舊冬賣出中は人員不足の折柄萬事不行屆勝にて何とも申譯無御座候甚だ略儀にては候へ共紙上を以て御詫申上候

昭和四年一月一日
大連市浪速町 岩倉洋行 一同

三井ならでは出來ぬこの催し興味津々たる
◎三井の福袋大賣出し
◇正月二日、三日、四日の三日間。◇金五圓袋、拾圓袋、拾五圓袋（每日各々百袋づゝ）◇アット驚く在庫品豐富◇御正月の晴着に市價相場より絕對三割安にて！
裾模樣、訪問着、繪羽羽織
丸帶、古濱小紋、西陣御召
賣出期間中 當店特製印入 風呂敷、ドル入呈上
大連 三井吳服店 電話長六六六五番

確實 低廉
時計、貴金屬、寶石商 營口近江洋行
大連販賣部 大連市浪速町（浪速館前）電話六七三番

營業種目
ピアノ、オルガン、バイオリン、ハーモニカ蓄音器、レコード、其他洋樂器並附屬品一式西洋家具、室內裝飾品、水道衛生器具、建築材料、內外電氣、瓦斯材料直輸入

株式會社 山葉洋行
大連市信濃町五拾六番地 電話代表四一四八番 振替口座大連八二番
出張所 奉天浪速通三十六番地 電話四六九八番
賣店 大連市浪速町三丁目 電話四二一〇番


明るく淸らかな
昭和四年の初春になりました
皆様には愈々御淸福に御越年遊ばされまして芽出度く御慶びを申納めます。昨年中は一方ならぬ御引立を仰ぎまして健かに業責を果すことの出來ましたのは偏に御高情による處と厚く御禮を申上げます。
ミツワ石鹼
改暦と共に心氣一新し、更に業務に努力精進し、商品の品質の改善應需の至便を念じ、皆様の御厚誼の萬分の一に報ひ度いと存じます。何卒一層の御眷顧を賜はります様お願申上げます。
昭和四年元旦
ミツワ石鹼本舗
丸見屋商店
藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋
營業所 東京市下谷區二長町
店主 三輪善兵衛

滿洲日報 元旦號 其の二

經濟界の前途は一層落着くだらう

日本銀行總裁 土方久徵氏談

上半期に

考慮し

政策上

促進策

普通銀行

金融の緩漫は依然繼續か

好景氣來は未だく

勸銀總裁 馬場鍈一氏談

高利舊債

金融緩漫

波及し

將來の農政問題

帝國農會長 矢作榮藏

有効な

農會の

實現を

改正を

案件で

活動が

基礎を

滿洲特産物に

爲替市場と商工業者の覺悟

樂觀される世界の趨勢

正金銀行頭取 兒玉謙次氏談

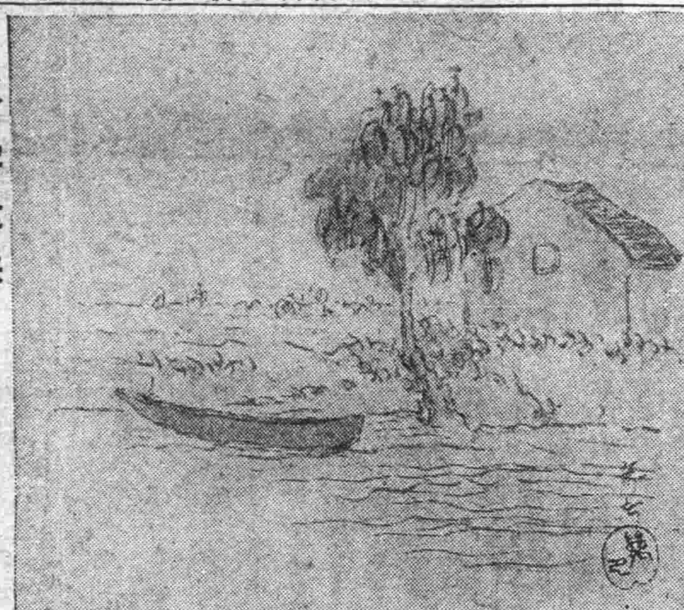
下半期

内地に

金解禁の

外國の

經濟界は



水邊逢春 小林萬吾氏筆

經濟界の活況は未だ望まれぬ

速に金解禁を斷行せよ

朝鮮銀行總裁 加藤敬三郎氏談

金融恐慌以來

活況を帶びて

お正月と古川柳

〔上〕

高橋月南

賀正

大連

大連 水曜會

東洋拓殖會社大連支店
朝鮮銀行大連支店
中國銀行大連支店
横濱正金銀行大連支店
大連商業銀行
大連株式商品取引所
大連取引所信託株式會社
大連取引所錢鈔信託會社
滿洲銀行
交通銀行大連支店
金城銀行大連支店
正隆銀行

滿洲の住心地と滿洲で得た體驗

本社の質問に對する在滿各地有力者夫人の回答（一）

本社は在滿各地の有力者夫人に對して左の如き質問を試みた

一、滿洲の御生活は幾年になられますか

二、滿洲は住みよいと思ひますか、住み惡いと思ひますか

三、滿洲の生活によつて如何なる御體驗を得られましたか

四、これからの滿洲邦人は如何なる家庭生活を目標とすべきでせうか、

右の御條に對して左の如き回答があつた、回答を寄せられた人々に對して謝意を表する

旅順 大津しづよ

一、前後通して十八年

二、住みよいと思ひます

三、日々の生活がすべて貴い體驗と思ひます、特別に申上ぐる事はありません

四、平和、圓滿、誠實、勤勉、禁酒、禁煙等、以上は元よりこれからの滿洲婦人の家庭生活に限つたことではありますまい、只一つこれからは一層質實に子供達にも「勿體ない」といふ觀念をもう少し注入したいと思つてゐます

開原 佐竹ひで子

一、明治四十二年十月に渡滿しましたので丁度二十ケ年になります

二、住みよい土地と存じます

三、私は子供養育上非常に苦心致しました、それは滿洲の氣候が乾燥し勝なので受ける病氣に惱まされたからです、故に滿洲では四季を通じて室內の溫潤を完全にせねばならぬことを深く感じさせられました

四、滿洲は內地と異り天然の風景に依り慰安さるゝ天惠がありませぬから自然之れを家庭に求めねばなりませぬ、故に私は主人の精神と趣味に服從同化致しまして助ける迄は及ばずとも妨げぬことを目標として參りましたが、今は子供も大きくなりましたので之れからは一歩進んで內外共に主人の精神と趣味に一致して暮したいと存じます

旅順 丸茂初子

一、滿二年八ケ月になります

二、住みよいと思ひます

三、內地で全く使用いたしました事の御座いませぬペチカの暖かい體驗をいたしました

四、なかなかむづかしい御質問で簡單に御答出來ませぬ

奉天 小川勇

一、十七年

二、住みよいと思ひます

三、短しと雖も十七年間の體驗を此狹い紙面へ一々書くわけには參りません、如何なる事が聞きたい眼目ですか

四、滿鮮婦人と申しても日本婦人も支那婦人もあるわけですから人類愛を目標とするに限ると思ひます

營口 小川さく

一、十九年

二、住み善いと思ひます

三、體驗と申せば寒いが溫かく暮せてありがたいと申す位です、但し體の字に就いて申しますなれば

四、お質ねの旨趣が能くわかりませんが日本人として恥かしからぬことでも申しませうか

哈爾賓 栗栖蔦子

一、滿十一年になります

二、物質的には住みよいと思ひますが精神的には住みにくい處だと思ひます

三、社會といふことを知る年頃から私の滿洲生活が始まりましたので特に滿洲に於てといふものでありませんが、此處もやつぱり日本內地の延長で男子の橫暴と婦人の無自覺とを體驗したと思ひます

四、植民地生活といふ考への標語「どうせ」といふをやめて郷土生活「働き」を目標とすべきでせう

奉天 久野文子

一、滿八年七ケ月

二、住みよいと思ひます

三、衛生上の注意が大切と存じました、殊に氣候の代り目に子供の上に注意を要します

四、質素儉約を主としてもつと働くことの尊さを知つてほしいと思ひます

旅順 宮下みね

一、五年になります

二、住みよいと存じます

三、特にとりたてゝ申上る程のことも御座いません

四、極せまき見聞で御返事申上るのも如何かと存じますが、あまりに呑氣すぎるやうに思はれます、今少しお互ひに眞劍味をもつてよりよき家庭生活を營む事が出來ますやう心がけたいと存じます

瓦房店 谷時子

一、十二年になります

二、住みよいと思ひます

三、目下の時期に直面して思ひ浮ばれますのは防寒採暖の點から引いて服裝や住宅等相當改善を要すると思はれます

四、質實簡易化、時間の經濟化等を目標として

旅順 篠□子

一、四年になります

二、滿洲と申しましても旅順より外存じませんが大變すみよい處だと思ひます

三、生活樣式が全然變つたといふ程でもありませんからとりたてゝ申す程の事もありません

四、眞面目でありたいと思ひます

旅順 河本久子

一、二年と九ケ月になります

二、まことに住みよいとおもひます

三、御國に對する感謝の念を深くしました

四、舊弊を改むると共に日本婦道を忘れぬ樣に

大連 藤根八重

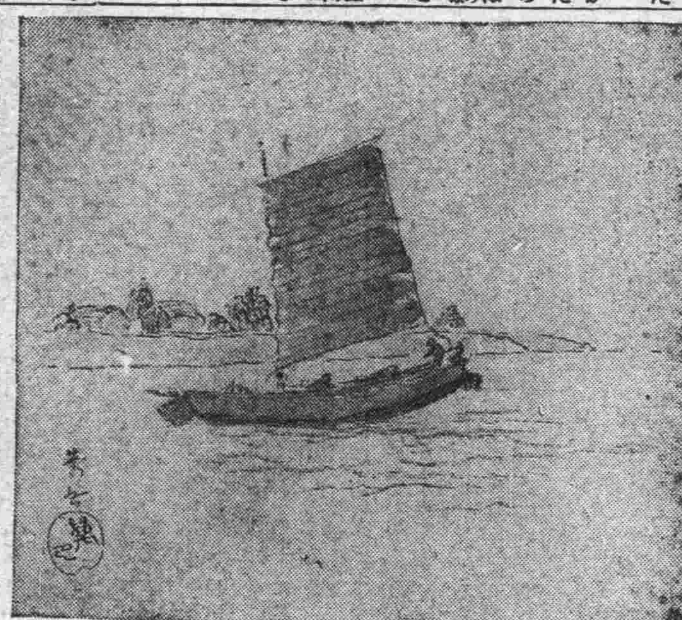
一、二十二年になります

二、家庭を持つた初から滿洲の生活ですから住みよいと思ふ外ありません

三、最初は隨分不自由も見ましたが今は全く內地と差なくむしろ却て暮し易いのだそうで一度歸つた人が再び來ることを思へば惠まれたものだと思ひ植民地でかうした心で暮せるのも皇國の有難さとつくづく感謝してゐます

四、堅實な精神を以て少しづゝでも進歩に志したら立派な內助者であらねばなりません

春帆 小林萬吾氏筆



大連 大內光子

一、九年になります

二、住みよい處と思ひます

三、諸國の方々の御集まりの事に人情美の豐な處は御座いますが……周圍の刺戟が御座いませんだけに時勢に一歩づゝおくれがちに思ひます

四、下馬評を遊ばしてるひまに讀書でも澤山遊ばして智識慾をさかんにし自己の信念をモツと強めまして強く明るく生きたならばと愚考迄に

大連 岡內光子

一、大正十年四月に來ましてから約八ケ年になります

二、住みよい所である樣に思はれます

三、東京に比較して何となく伸んびりしてゐますが、その代り餘り呑ん氣過ぎてこれではならぬと反省することが多う御座ります

四、月給取の家庭でも實業家の家庭でも夫にばかり働かせて主婦が逸樂に耽る樣なことなく滿洲を理解すると共に夫の職業をもかく理解し同心協力繁榮幸福なる家庭を形造るのを目標と致しませう

四平街 竹本初子

一、在滿十四年になります

二、住みよいと思ひます

三、國と國との日支親善は容易ではありませんが、支那の個人性を理解することによつて個人と個人との日支親善は困難でなく吾々在滿邦人の心掛けによつて鞏固なる日支親善の實を擧げる事の出來ることを深く體驗致しました

四、滿洲を墳墓の地と定め健實に子女の教養に努力すべきでせう

撫順 草野すま

一、二十年になります

二、住みよいと存じます

三、內地に比して心身共により多く刺戟を受け易いやうに存じますこれは寒暑共にはげしき自然の力に依るのではないかと存じます、又反面には內地よりも幾分經濟的に惠まれてゐますのと周圍の環境に依つて不如不識の間に緊張を缺でるやうに存じます

四、總てに健實なる合理的生活を目標と致すべきで御座いませうまれには私共婦人の修養と向上を計らなければなりますまいと存じます

遼陽 吉井嘉代子

一、三ケ年になります

二、住みよいと思ひます

三、虛禮に過ぎて居る事、冗費の多い事、總て勞力をおしむで居る事

四、國家觀念の基に經濟を計る事勞力をおしまざる事、總て嚴肅にすること、仁義愛を目標とすること

大連 岡部捨子

一、八年

二、大變暮し良いと思ひます

三、西洋風の生活を少しとり入れて餘程簡單になつたと思ひます

四、種々の無駄をはぶき其內に樂しい家庭生活を造り上る樣に心懸けたいと思ひます

長春 古川けい子

一、十四年

二、雨も少くて住よい土地です

三、大陸氣分とでも申しますか氣分がのんびりして日暮しが出來ますが子供の教育は滿洲よりか內地が宜しい樣な氣持が致します

四、滿洲十四年の生活を振り返つて考へますと御はづかしい樣です、子供相手に唯其の日暮しで過ごしました、社會の文化は日に進んでまゐります、夫れに連れて人の思想も變化してまゐりますが、如何に文化程度は進みましても人の思想は變りましても家庭生活だけは婦人は婦人たるべき良妻賢母の心掛けで家庭にのぞまなければならんものと思ひます

齊々哈爾 早川芳子

一、十四年（南滿八年北滿六年）

二、所謂感覺的の滿足を以て人生の幸福の標準とするならば滿洲殊に私共の居る北滿は「住み惡い處」と申す外はありません、零下四十度の酷寒、四季を通しての殺風景な自然、新鮮なお魚を味はふ事も出來ず、よい藝術を鑑賞する事も出來ず。然し私はそれにも拘らず「滿洲は住みよい處」と御返事する事を躊躇致しません。

第一、因習に囚はれず周圍の何の拘束も受けずに自分の善いと信ずる處を遠慮も氣兼もなく家庭生活に實行して行ける爲め思ひ切つた衣食住の改善も出來、從つて自由にのびやかに家庭生活を心から樂しむ事が出來る點

第二、邦人の比較的少い奥地にあつては家庭以外に慰安少き爲め夫婦間の信賴、同情等の念が強められ自然家庭は圓滿になり得る點

第三、內地生活者に比し經濟的壓迫を受けざる點

第四、滿洲生活者は男女とも比較的向上心強き知識階級である爲め交際に依り相互に啓發さるゝ處多く且愉快なる交際が出來る點

第五、文化都市ならざる當地に於てさへ保溫、採光、排水等に申分なき設備の社宅住居には何等不便の點なきのみならず寒氣の爲めの苦痛等は一向に蒙らざる事

三、當地で數年間の支那大官夫人達との交際に依り彼等の無爲なる日常生活を見た眼で我日本婦人の大多數の肉體的にも精神的にも潑剌たる緊張したる生活振りを思ふ時誠に心強い感じが致しますが尚一方眼を轉じて英米獨婦人等の聰明なる主婦振りを見る時まだまだ彼等から學ぶ處多きをシミジミ感じさせられます（之は第三の御答には當らないかも知れませんが實感そのまゝを）

四、第一滿洲の天地を益々住心地よく又各自がもつと健全な眞面目な充實したる然も潤ひある生活をなす事が出來る樣主婦としての努力をなす事、第二家庭婦人といへどもたえず社會の動きに眼を開き少くとも時代の落伍者にならぬ樣不斷の精進をなす事。

賀正

大連

鈴木呉服店
大連市浪速町伊勢町角
電話（代表）五二九八番
振替大連四八番

德海屋洋服店
大連市大山通り
電話（四三四一）七五一五二番

株式會社 大連株式信託會社
株式會社 第二大連株式信託會社
大連市吉野町六七番地
電話八〇八五番

滿洲特產物輸出貿易商
瓜谷長造商店
大連市山縣通一〇一番地
電話（長四四二六）六九三六番、七七六四番
發電略號（ウ）又（ウリ）

奥田時計店
大連市浪速町二丁目
電話六七三一番

同 支店
大連市浪速町三丁目
電話三八九七番

藥品 貿易商
株式會社 乾卯大連支店
大連市山縣通
電話（三五）六〇九一〇七番

日本賣藥株式會社大連支店
營業所 大連市浪速町三丁目
電話（代表）六一三三六八五六九六番

營業品目 鋼鐵材、建築材料 諸工業機械、雜穀肥料
株式會社 大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店 大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店 奉天小西邊大街
鋼鐵工場 大連市香取町六番地
製油工場 大連市千代田町十一番地
倉庫部 大連市東鄉町二五番地

營業科目
一、電燈電力の供給並に附帶する事業の經營
二、電氣鐵道乘合自動車の經營並に附帶する事業の經營
三、電氣機械器具の販賣又は賃貸
四、當會社と同種事業に對する投資
五、所有土地建物の賃貸
資本金貳千五百萬圓
南滿洲電氣株式會社
專務取締役 横田多喜助
本店 大連市常盤橋中央ビルヂング
支店 奉天支店、長春支店、安東支店、鞍山支店
出張所 連山關出張所、海城出張所

大連市山縣通
三井物產株式會社 大連支店
電話代表七一〇一番

瓦斯 熱用 燈火用 動力用 工業熱用
副產物 瓦斯コークス コールタール 硫酸アンモニヤ 瓦斯カーボン
資本金壹千萬圓
南滿洲瓦斯株式會社
專務取締役 富次素平
本社 大連市西通一一七番地
電話代表八一八一番 （重役應專用）八四七八番
支店 鞍山支店、奉天支店、安東支店、長春支店

先驅—滿蒙開發の
楔子—東洋貿易の
國際運輸株式會社

賀正

大連

大連市常盤橋中央ビルデイング
大連海上火災保險株式會社
電話四五一二番

大連市紀伊町八番地
株式會社 **金福鐵路公司**
電話八五七二番

大連製氷株式會社
常盤町三三
電話四八七二、五四八〇、六三一三

大連市監部通三九番地
政記輪船股份有限公司
總理 張本政鞠躬
電話代表番號四一四一番

大倉商事株式會社
大連出張所
大連市山縣通大倉ビル

貿易鐵鈔輸出入商
大連市大山通り五十八番地
永順洋行
電話 四三三九番 五四八六番 七六六五番

大連市敷島町四十九番地
大連株式商品取引所
商品取引人組合
商品現物取引組合

大連市伊勢町
山本運動具店
電話五九七九番

大連市信濃町
遼東ホテル
電話長（四一一七三一番）

大連市磐城町八九（西通り筋）
博多屋本店
電話四四五三番

純植物性 テイワイ脂（特製硬化大豆油）
西洋料理、西洋菓子、天麩羅用
大連油脂工業株式會社

大連市八幡町二番地
株式會社 **大連車夫合宿所**
電話六〇二〇番

大連市浪速町三丁目
花乃屋本店
電話四九五九、七二〇七番

輸出入
土木建築
大連市山縣通二百十三番地
FC **福昌公司**
電話代表番號七一七一番
振替貯金口座大連一〇六〇番
鐵金物、電機並機器、自動車、ロープ、ペイント、鑛油
SKFベアリング、其他工場並に船舶用品
石材、ドロマイト、木材、セメント、煉瓦、其他建築材料
麥粉、砂糖、海産物其他食料品
洋酒、毛糸、陶器其他洋雑貨

倉庫　一般倉庫業務　大連市寺内通二十九番地（電話六〇六三番）
保險　豐國火災、大阪海上火災、日本共立火災、セ、ノース、ブリチシ、エンド、マーカンタイル　各保險會社代理店

大連市山縣通大倉ビルデイング内
株式會社 **鴻業公司**
電話 七七四八番 七三九五番

大連市山縣通
東亞土木企業株式會社
電話三六九八番

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
大連中央土地株式會社本店
大連市若狹町三番地
大連中央土地株式會社大連支店
電話三四五一番・八二二〇番

大連木材組合一同

大連市奥町
大連商品信託株式會社
電話八一三一番

大連市淡路町
菱川大昌堂薬局
電話七八九三番

大連市伊勢町
井町大連製肉所
電話七二〇八番
同支店
電話四〇二三番

大連市伊勢町五十一番地
榮商會
電話八三九〇番

ニチロパン
大連市浪速町
日露洋行
電話六六六〇番

は
大連市信濃町市場
羽月商店
電話七二九六・四五四三番
本店 西通一〇四番地

滿洲日報配達
共同新聞店
大連市但馬町
電話六六六七番

大連市信濃町一〇八
製薬原料問屋
菊水堂
電話四六八九番

大連市監部通二丁目百〇九番地
水道、衛生、煖房、温水、設計、監督、工事請負並に建築材料販賣
(高) **高石商會**
電話三五〇二番

大連市信濃町一三五番地
木村屋本店
電話七〇八七番

大連市大山通一四
藤川篤助商店
電話四七三九番

大連市岩代町
三島屋洋服店
電話六五四九番

文房具、運動具
大連市浪速町三丁目
天野満書堂
電話四九九四番
振替大連六三三番

活版、石版印刷、文房具
大連市大山通り
小林又七支店
電話六一六一番

大連生命保險同業會

逢阪町遊廓組合員一同

賀正

哈爾濱

八木元八

古澤幸吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高橋貫一

宗像金吾

和登商行哈爾濱支店主任
龍田道德

山崎金次

[illegible]

岩永浩

哈爾濱松浦洋行
水上多喜雄
哈爾濱中央大街
電話三三九一・三九六九
支店 齊々哈爾雷家胡同昭和祥
電話一九一

北滿ホテル

横濱正金銀行
哈爾濱支店

哈爾濱モストワヤ街
寶石貴金屬蓄音機
前田時計店
電話三一九一振替大連三三九〇

國際運輸株式會社
哈爾濱支店

哈爾濱モストワヤ街七八號ジヤパンツーリスト局會員
純日本式
茶代廢止
名古屋ホテル
電話客室用三〇〇七・事務用二〇二八
振替口座大連四五八
自動車部・食堂直營
電話二〇二八

和登商行哈爾濱支店

増田貞一

釋河野龍丸

成發東

萩原紙店

寶石類金銀裝身具
御求めの節は
ハルビンモストワヤ街名古屋ホテル隣
岩間商會寶石部
丈夫で柄の上品なロシヤ緞紗を販賣致します、御入用の節はハガキで御申越下さいますれば早速見本を御送りします

哈爾濱埠頭區地段街
新隆號
石川竹二
私書函三七〇番
自働電話 事務所四六三八番 貯炭場二三九五番
電話略語（イシ）又ハ（イ）

哈爾濱日本醫院

東洋拓殖株式會社
哈爾濱支店

朝鮮銀行
哈爾濱支店

石原重高

日清製油株式會社
保田文雄

軍司義男

忌中に付年末年始の禮を欠く
佐々木盛一

岡茂

石炭商組合
日隆洋行
合昌泰
竹内商會
松茂洋行
新隆號
ゼレズニヤコフ

島田千代治

東省實業株式會社
哈爾濱支店

中東海林採木有限公司

得昌號
金隆號
德泰號
組合事務所

熊澤洋行

講談　巳形金（みなるかね）

松林伯知

元祿の末江戸日本橋石町一丁目に深堀屋三右衛門といふ小間物問屋、その頃の金で十萬兩以上の財產と云はれました、女房お露との間に正太郎、お豐といふ男女二人の子を擧げ、正太郎は、早二十歳お豐は十七の花盛り、ことに天性備はる美人でございますから、親としては可愛くて堪らない、或る時三「モウ、乃公達も追々老る年又お豐に、やがて嫁に出さなければならん身體ゆゑ、今の內に京、大阪、大和廻りをして來たい」と家は正太郎と、確かりした番頭に任せて親子三人、外に治兵衛といふ若い者を一人供に連れて江戸を出立したのは秋の初め、品川から五十三次を恙なく京都へ着し、此處は名所古蹟の多い所ゆゑ、數日を費して隈なく見物いたし、それより奈良大阪を廻つて居る內に妻のお露が　露「ねえ貴夫、此娘は日頃辨天樣を信仰して、本所一つ目の辨天樣へ毎日參詣をして居ますが、貴夫が平常仰しやる通り、辨天樣は福の神樣、信心を籠めたら家も繁昌し、娘も良い所へ縁づけられるだらうと思ひますから此處まで來たのを幸ひ、寧そ嚴島の辨天樣へ御參詣をしたら何うでせう」三「成る程、然うだ、嚴島は日本三景の內の一つ、只でさへ見物したい所、況して信心する辨天樣へ參詣するといふ、こんな結構なことはない、それでは、然うしやう」とそれから大阪の川口へ來て、船問屋へ頼み、小倉丸といふ船へ乘つて、安藝國廣島へ着し、此處も見物して、翌日、嚴島へ參詣の船を出して貰ひ、好い心持に波の上、渡つて島へ着き、辨財天の大廊下に登りました時には、宛然龍宮城へ入つたやうな心地がいたしました、その日は、參詣をして近所だけを見物し、大鳥居を前に見たる海岸の結構なる宿屋へ着いて風景を見ながらゆつくりと休息をいたし、翌日は山へ登り、景色の宏大なるを見物し、此處彼處と見て歩いて居ると、その邊に襤褸を纏ふた一人の乞食、年の頃二十五六にもなるか、色淺黑くしても筋骨逞しき立派な人物、頻りに謠をうたつて居ります、三右衛門之を見て　三「ヤレ〳〵、見受ける處人品賤からぬ樣子、定めし、由緒ある人の成れの果と思ふが、お氣の毒の事である」と云ひつゝ若干かの鳥目を與えた、乞食は格別有難いといふ態度もせず、一寸頭を下げて　乞「是は〳〵恐れ入る、手前は此の土地の者であるが、世にも人にも疎まれて、耻かしながら乞食の境遇、イヤ面白からぬ浮世でござる」三右衛門聞いて　三「イヤ、お前さんの境涯としたら面白くない世の中と思ふは道理だが今天下泰平に治まり、誠に有難い德川樣の御治世、又良い事もあらうから、決して不遇を悲觀してはなりませんぞ」乞「ヘヽヽ、御貴殿などは有難く思はれるか知れんが我等に取つては一向に有難くも忝なくもない、併し飛んだ疎忽を申して甚だ失禮、お見受け申せば江戸のお方らしい、美くしい娘御を持たれて嘸樂しき事でござら

う」三「是は恐れ入つた、サアサ豐參らう、乞食に賞められても餘り有難くもないな」と笑ひながらその場を去り、見物を濟まして宿へ歸つて參りました、處が俄に空合が惡くなり、風さへ出でて何となく暴模樣、假令僅かの處でも海を越ゆるに暴られては大變、これは寧そ、モウ一日逗留して終はうと、誠に此の嚴島が居心地が好いので、その夜も泊る事になり、居る間に、お豐は供の治兵衛と宿屋の門口へ出て往來を見て居りますと、ベロ〳〵に醉つた武士が二人突然それへ來掛り　○「ヤツ、是は江戸の娘好い處で出會つた、最前其方の親父が乞食と話をして居た時に傍から一寸垣間見て、扨ても美しい娘と思つたが、當家に逗留して居られたか、乞食などに言葉を交すとは苦々しい、拙者等は直此の先の旅宿に居る者、同道して酒の酌をして貰ひたい」と無理に連出し丁度五日目、お豐が突然立歸つて參りました、宿の者は之を見ると「アレお孃さんお歸んなさいましたか」と早速深堀屋三右衛門へ告げる、三右衛門夫婦並に治兵衛も店へ出て來て「マア、無事に歸つて來て目出度い」と喜び　三「それにしても五日の間何處にどうして暮して居た」と尋ねると　豐「アノ日兩人のお武家さんに山の中へ連れ込まれ、已に酷い目に遭ふ處を、賓間父さんがお金を遣つて口を利いたお孫さんが來て助けて下され、而して今日まで山の中を彼方此方歩いて居ました」三「ナニ山の中を歩いて居た」豐「ハイ、それで漸く此處まで出て來ました」といふ言葉に、どうやら怪しい節もあるが、何しろ無事に歸つたのが何より目出度いと深く

も訣さず、その翌日早々船に乘つて大阪へ戾り、東海道を滯りなく江戸へ着しましたのはその年の暮、間もなく明けて春になると不思議やお豐の腹が段々せり出して來ました、サア茲に大問題が起つて、あれこれと詮議の末、終にお豐の口から打ち明したのは「彼の日嚴島で惡漢兩人に拐帶され、既に强姦されんとする處を助けて呉れた乞食といふのは彌六と云ふ人で、暴風雨のために宿へも歸れず、或る堂宮に一夜を明す中、ツイ恥かしき契りを結び夫から四日別れともなく、お孫さんと一緒に山の中に暮らして居ました」といふ實に以外の話、扨ては乞食彌六といふ者の胤を宿せしかと今更驗いだ處が斯うなつては仕方がない、嫁の口はあつてもやれず、次第に腹は膨れて、終に月滿ちて生れたのは男の子、その乞食が彌六といふから彌太郎と名を命け、育てゝ居る中に早や十年の星霜を送りました、その中に不幸にも深堀屋の隣家から出火し全燒けとなり、其後續いて稼業は寂れ、昨日に變る貧しき生活、その年の暮には僅か三兩の金の爲に、大晦日が越されぬと云ふ情ない始末、此の時お豐が「私は今まで出さう〳〵と思ひながら、出さずに居ましたが、兄さん、アノ唐木の小箱を開けて見て下さい」正「何だ、唐木の小箱といふのは」豐「いつぞやアノ宮島で彌六さんといふ人に別れる時、お前死ぬほど困る事があつたら此の小箱を壞して身を立てろと仰しやつたが、是までは死ぬほどの難儀もしません故出さずにゐましたが、今たつた三兩のお金の爲に大晦日が越されないと云ふ深堀屋の哀れな境遇、兄さん事に依つたらお金でもあるかも知れない故、どうぞ之を壞して……」と神棚に載せて置いた唐木の小箱を下ろしてそれへ出した、正太郎も　正「成る程是は何か仔細があるだらう何であるか兎も角もさういふのなら開けて見やう」と漸くの事で蓋を開けて見ると、何やら書いたものが一枚貼つてある　豐「何か兄さん書いてあるぢやアありませんか」正「ウーム、お父さん、斯なものが書いてあります、世の中に手詰るものは黃金なり、中あけて見よ福德の神」三「それでは中に何かあるのだらう」正「然うでございませう」とその紙を剝すと唐木の小箱の中に又桐の箱が入子になつて居る、この桐の箱を開けると、金木綿に包んだ綿がある、その綿を脫つて見ると這は如何に、目方二百匁もあらうといふ黃金にて、金色燦爛として映ゆきばかり、何れ名人の作らしい小蛇が一つ、驚した正太郎　正「ヤツ、是は黃金の蛇、どうして斯んなものが…」三「オ、是は容易ならん品、中々三兩や五兩の物ではない、事によつたら二三百兩もする、餘程の作物らしい、家主初め借金取りが來たら、之を見せて來春まで待つて貰はう」といつて居る處へドヤドヤやつて來た借金取連中、此の黃金の蛇を見せて來春まで待つて呉れと賴むと、何れも承知して歸つた一夜明けると正太郎が右の作物を金庫役人の後藤さんの處へ持つて行つて見て貰ふと後藤さんが「是は世にも稀らしい品だ」とある鑑定家に見せると　鑑「此の品こそ昔藝州廣島の城主福島正則の家に傳はつた蛇形の黃金と云つて、元內義弘から傳はつたものにて、天下の逸品ともいふべき重寶である」といふ鑑定が付いたので、終に之が役人の手から將軍家へ尊覽に入れると、八代の將軍吉宗公、悉く御意に召し、此の蛇形の黃金を御買上になつて金千兩といふ大金を深堀屋へ下げられました。深堀屋のみならず之が御緣となり、深堀屋が大奧へ御出入をして小間物一切を入れることになつたから、忽ち身代も回復して麴町隼町へ立派な店を開き今まで遠退いて居た出入の者も昔に返つて繁々足を入れるといふのは是れ世の中の人情、一時は見すぼらしき姿をして居たお豐も美しく化粧して、奧に祀る辨財天を守護して居るといふ有樣所かある日黑繻子の衣類に仙臺平の袴を穿き、五所紋の羽織を着し

裝飾も立派な大小を帶し、供の者を連れて深堀屋の店へ來た武士、主人に面會して少し內分の話があると云つて奧へ通る、正太郎が出て來意を尋ねると　武「つかん事を伺ふが、お妹御のお豐さんは御健康か」正「ハイ、健康でございますが、貴所樣は誰方樣で…」武「イヤ耻を申さんでは分らんが手前は十餘年前、場所は安藝の嚴島で、若氣の至り心ならずも其頃乞食に身を變へて辨財天に參籠し神の利益を受けんとして、却つて道ならぬ行ひをなした福島彌六と申す者、お豐どのと契りを籠めて五日の間の樂しき夢、本意なき別れを致したる際、家に傳はる重寶、蛇形の黃金を後の記念と御變し申した處、その黃金が近頃上樣の御手に入りしと承り、ます〳〵我喜び之に過ぎず、御役に立つて僥倖でござる、併しお豐どのは其後如何致されたかと存じ、面皮くも懷しさの餘り今日お尋ね致したる次第でござる」正「ヱ、」とビツクリした正太郎　正「扨ては貴所が彌六樣でございましたか」彌「イヤ、誠に面目次第もない」正「阿父さん、阿母さん、一寸來て下さい、お豐〳〵早くお出で」三「何だえ、正太郎」とそれへ出て來た三右衛門夫婦　三「オ、お前さんは先年のお乞食…」露「アレ、お前さん飛んでもない事を仰しやつて、どうぞ貴所、お氣にお掛けなさらないやう」と云つてる所へお豐が　豐「何です兄さん」とそれへ來て彌六を見て一時はアツと驚いたが、又嬉しさが込みあげて、長の星霜待ちに待つたる甲斐あつて、戀しと思ふその人が訪ねて來たとは夢かとばかり氣も勇み、一子彌太郎の手を取つてそれへ進み寄り　豐「マア、彌六樣、いつも御無事でお目出度う存じます、私も此のやうな子まで出來まして」と、彌「オ、扨てはお前はあの時に姙娠して斯樣な子を擧げたか」と膝へ引き寄せ顔を眺め、餘りの嬉しさに淚さへ浮め　彌「耻かしや御當家の御主人、一夜二夜と思ふ內五夜の契りに御貴殿の娘を長く寡婦同然、一人の子まで擧げさせ、捨置きし此身の罪どうぞ勘辨に與りたい、一旦乞食と身は窶せども夫れは全く心得ありて致せし事、今は松平安藝守に召抱へられ、八百石の祿を食み福島彌六正房と申す」之を聞くと正太郎が　正「夫れでは若しや貴所は福島正則樣に御由緒のある御方ではございませんか」彌「如何にも、お話申すも淚の種、今は八百石に甘んじて、安藝殿臣下になり居れど、元を質せば大々名、先祖は豐臣家股肱の臣福島左衛門太夫正則、幼年の頃より殿下に仕へ、未だ秀吉公姬路に在して正則は市松と言ひし頃熊見川にて南條元續、小鴨元晴の首を討ち、初めて百石を賜はつてより、山崎の合戰、賤ケ嶽の戰ひに戰功を顯はし、文祿の役には朝鮮に渡つて大功を立て、殿下薨去の後正則は德川家の養女たる滿天院を妻とし、關ケ原の戰ひに又拔群の功を奏し、之が爲めに備後安藝の二ケ國を賜はり、四十九萬八千石の大々名となりしが、慶長八年正則の嫡子正之、德川家に背きし事あり、それが爲め幽閉の後首を縊られ、次男正勝相續せしが、慶長十五年に至り正則又德川家に背かんとし、元和五年終に改易となり僅に越後國魚沼、信州川中島の二ケ所に於て六萬石の祿をあてがはれ

生涯を川中島に詫しく送つて寬永元年六月四日相果て申した、茲に於て幕府はその祿高を沒收され一族其跡を絕ちしが、只一人正則が玉江といふ妾に產せし八郎丸といふ男子あり、之は庶子なるが故に他に匿きしを後に玉江が八郎丸を連れ舊領安藝へ歸り、其儘八郎丸は土着し、其倅を八郎次郎と云ひて矢張り安藝國にあり、其八郎次郎の子と生れしが則ち此の彌六正房、父の八郎次郎が死に臨んで我祖先が一旦領せし安藝の國、萬一德川に事あらばその機に乘じて此の國を我が有に歸せよと遺言したれど、今は德川の天下泰平にして夫れも成らず、なれども亡き父が最後に臨みて遺せし言葉は耳を去らず、後に乞食に姿を窶し、嚴島に參籠して、只管德川の滅亡を祈りしも、運勢昌んにして名君現れ、迚も我等が望むこと難しと終に、その心止み、江戸表へ來らんとする時、圖らずも、松平安藝守殿の江戸入府の途中須磨の浦にて多くの狼藉者現れしを某出で追ひ散らし安藝守殿の御身に恙なかりし功に依つて召抱へられ、初めは國表へ送られ僅か二百石の小祿なりしが、其內福島正則の血統なりと相分り、破格の沙汰にて八百石の高祿を賜り、此度江戸へ召されし處、我祖先より傳はれる蛇形の黃金が當將軍へ御買上げになりしと聞き、不思議のことに思ひ、段々樣子を尋ねしに、當家より出でし事が分り、お豐どのゝ貞節と孝道とに依つて彼の記念に渡せし蛇形の黃金が役に立ちしを喜び、耻を忍びて今日罷り出でたる次第」と、彌六正房が始終の物語りに、お豐は勿論正太郎、三右衛門夫婦の者の喜びは幾千か　三「誠に福島樣、こんな目出度い事はございません、此の上はどうぞお豐をば改めてお迎へ下され度いものでございますが、如何にございませうや」彌「それは素より某も娘御に對し、一旦誓ひし言葉もあれば、未だ今日まで妻も迎へず、商家に生ひ立ちし娘が堅苦しき武士の妻となるは迷惑でもあらうが、豐どのに是非參つて貰ひたい、正太郎殿も否やはあるまいが」正「何で否やがございませう、此のやうな結構なことはございません」と茲に話が整つて、先づ御目出度いといふので酒宴を開き、內祝言を致し、改めてお豐、正太郎を福島の家へ引取り、婚禮の披露も濟ませ、いとも樂しき家庭を作りました、深堀屋に於ては其後又本石町へ戾り、居付地主となつて愈繁昌いたしました、本年の干支に因み、巳金と題する講談これにて讀切と致します。（終り）



和◦歌　氷見曉美氏選

天　京城岡崎町一〇一阪谷方　齋藤葡秋

めでたしや醉ひたるらしき聲高に誰やらむはや年始に來たる

だしぬけに年始にきたる[illegible]

溫突に眠らむとしつゝ[illegible]

初荷いま投げつゝ通る小[illegible]

地　大連市岐阜町大連神社前館本方　天明生

日毎逢ふ人々ながらこの朝け言更めて祝詞まをさむ

人　鐵嶺、[illegible]方　坪倉重美

ひそやけき元日の朝にありにけりかへりみらるゝこその事など

ひとすぢに步みきたりし[illegible]

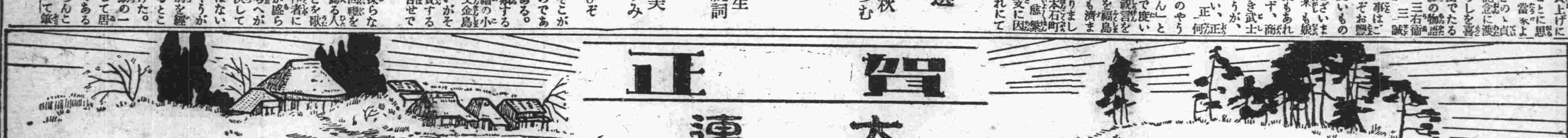
選後の言葉

氷見曉美

滿日社から囑されて諸氏の新年應募歌を選すると云ふのは何かの因緣である。眼力乏しく珠を瓦と見損なつた點があるかも知れないが小生としては左樣なことのない樣充分心は配つたつもりである。應募歌數は總計五百九首應募者は新潟、山形、長野、大阪、兵庫、香川、愛媛、福岡、佐賀、大分等の內地各府縣、朝鮮各地、南滿洲一帶の地にあつて相當盛であつたことをよろこぶ。採つた數は總て八十二首、應募總歌數に比してその數の少いのは紙面の都合もあつて止むを得ないのである。

採らなかつた歌に就いては若干の感想がある。一々に就いて愚見を述べることの出來ないのが遺憾であるが、總じて歌に生動する命がなかつた。これは賀言慶語とでも言ひたいおめでた盡しの言葉或は材料の綴り合せに終つたからである。さう云ふ側には「賤が伏屋」「賤が軒端」と隨分賤々と言ひ放つて居るのが多かつた。必ずしも作者その人が時代に取殘されて居るのではあるまい。歌の場合にのみさうなのであるまいか、そこが自分等には奇妙に思はれるのである。今はもう昭和の四年である。明治時代の所謂新派の歌に類するものも採らなかつた。蒔き繪の小櫛が光らうが光るまいが、文金島田が羽子をつからうがつくまいが、そんな材料は兎も角それに一貫する感動がない、小手先の綴り合せであるからである。

以上の外になほもう一類採らなかつたものがある。新年の回禮を罵倒し、名刺受に叩頭して歸る人のつまらなさと言ふ樣なことを歌つた類である。この一類の作者には現代人の歌には現代思想が盛られて居るべきであると言ふ考へが働いて居ると思つた。歌は決して思想そのものを盛るの器ではない、これはかりは昭和百年が來やうが變らぬと思ふ。斯うした類別を經て小生は小生の主義主張するところに一致するものを選びあげた。選んだものには、作者の感動の一々異れるものが夫々に生動して居ることをかたく信ずるものである。終りに滿日歌壇の愈盛ならんことと應募者各位の御精進を祈つて筆を擱く、妄言多罪



社團法人 滿洲土木建築業協會 在大連有志（イロハ順）

市川工務所	市川金太郎
伊賀原組	伊賀原岩吉
合資會社 池內組	池內新八郎
今井組	今井半平
原組	原半次郎
林工務所	林七藏
星野組	星野優司
右近組	右近熊吉
千輪工務所	千輪進
岡組	岡常次郎
加藤組	加藤眞利
大桑洋行	大桑辰雄
大江組	大江卯之松
河村組	河村統治
高岡久留工務所	高岡又一郎
合資會社 多田工務所	多田耕助
葛井組	葛井新一
辻組	辻吉太郎
草場工務所	草場又一
合資會社 久保田組	久保田勇
西津組	西津春治
福昌公司	相生由太郎
福井高梁組	福井猪和太
柳谷組	柳谷仙次郎
合資會社 三田組	三田芳之助
白川洋行	山內基信
高石組	高石清彥
蛭田組	蛭田福太郎
石井組	石井本一
吉田組大連支店	碇山順亮

社團法人 滿洲土木建築業協會

體育堂　大連市大山通り三十二番地　電話三七二三番

大連海運業聯合會々員

山縣通一八一	日本郵船株式會社出張所
山縣通一二九	栃木商事株式會社出張所
山縣通二三三	大阪商船株式會社支店
山縣通一九九	大連汽船株式會社
山縣通一八	高橋商會
山縣通一四四	大連東和汽船株式會社
紀伊町二二	辰馬商會
山縣通一五三	大三商會
加賀町三〇	田中商事株式會社支店
山縣通一三〇	堤商店
北大山通四	宇田商店
加賀町四	山下汽船會社支店
濱町三	滿洲船渠株式會社
敷島町六	國際運輸株式會社
山縣通八七	丸二商會
敷島町六	後藤商會
土佐町二六	永和公司
山縣通二〇〇	帝國汽船株式會社出張所
須磨町六	阿波國共同汽船株式會社 澤山兄弟商會出張所
山縣通一八二	三井物產株式會社船舶部
山縣通一七七	宮崎商會
山縣通一九二	靖和商會

久保田寫眞製版所　大連市武藏町六六　電話八六三一番

滿洲船渠株式會社　大連市濱町
大連工場　大連市濱町三番地
同埠頭出張所員詰所　大連市大棧橋甲埠頭　電話六三〇三番
同旅順工場　旅順市東鄕町

大連市信濃町市場組合　電話四七六三番

大連錢鈔取引人五日會
和盛泰錢莊　義升福錢莊　和泰錢莊　永泰錢莊　泰信錢莊　仁記錢莊　泰記錢莊　德泰公司　山田錢莊　山本錢莊　廣來錢莊　純昌號錢莊　永順錢莊部　東裕錢莊　東華錢莊

大連旅館組合　大連市信濃町

大連質屋業組合　電話六〇二四番

賀正
大連

大連華商公議會
正會長 張本政
副會長 劉仙洲
同 李升海
電話四八四三・六五八六番

鐵材商
大連市吉野町四十一番地
畑中佐太吉商店
電話四七二七二番
振替口座大連九三七番
電信略號（ハタ）

大連市西崗子安濟街七七番地
積善堂
主人 朱春山
電話四四五二番

建築材料
石炭販賣
大連市近江町二番地
徳和公司
電話六一八一番

大連市伊勢町五十九番地
北支那青果株式會社
電話八七七〇番

大連市信濃町
滿洲水産株式會社
電話四五三三・七〇五七番

滿洲寫眞通信社
大連市三河町
荻野順次
電話六八〇五番

大連市伊勢町四八
合名會社 高橋商店
電話四七〇七・三八三九番
忌中に付年始の禮を欠く

大連酒商組合（いろは順）
白鶴 醸造元 嘉納合名會社大連支店
澤龜 同 宅合名會社大連支店
白鹿 同 合名會社辰馬商會
大關 同 黑岩大連支店
富久娘 同 富久洋行
忠勇 同 増屋
櫻正宗 同 扶桑號高見商店
白菊盛 同 合資會社肥塚大連支店
菊正宗 同 鐵谷商店
富士東洋一 同 株式會社柴谷洋行
白雪 同 鈴鹿商店

磐城會
ラクダ屋 石田卯吉郎
和盛洋行 西川虎太郎
東亞物産館 大波多具一
勝又洋服店 勝又文彦
羅紗貿易 河野小七郎
三井呉服店 田村英雄
田中屋 田中乙吉
伊勢屋 高尾晋次郎
三好野 村地俊次
泰昌公司 山本靜夫
松井商店 松井市右衞門
柳霞堂 藤田政太郎
新高屋 藤村喜平
滿壽屋 小嶋新三
カフエーアオヤマ 青山政雄
新潟物産 佐藤繁豊
森薬舗 森八
モリタヤ 森川正二

大連米穀同業組合員（いろは順）
同生厚精米所
大矢組株式會社
渡邊商店
大連精糧株式會社
田中商店
泰宏洋行
中矢商店
桑野商店
慶和徳
復茂東
甲信洋行
越後屋商店
協盛泰精米所
城川洋行
志摩洋行
城島商店
盛進商行
遼東精米所
大島屋商店
河又出張所
泰東精米所
高山商店
名藤商店
村上商店
山喜商店
福永洋行
福順茂精米所
永順義
寺田商會
共進洋行
裕泰洋行
順記精米所
泉陽精米所

宮内省御用 和洋家具 室内装飾 建具 製造販賣
大連市西通二丁目
ヤマトヤ商店
松浦常一
電話六八三一番

大連市吉野町二六
一萬堂印房
電話七八五九番

大連タクシー
營業所
本店 常盤橋 電話五三七八七六七四番
支店 西部 電話八三五六一八四番
出張所 若松町 電話九三二一四番 旅順驛前 電話四五五二三五〇一番

金銀兩替錢鈔取引
公債社債株式賣買
大連市山縣通五番地
株式會社 徳泰公司
電話 錢鈔部 四六六六番 四六六六番 五七六五番
證券部 （長距離）
振替貯金口座（大連八五六番）
受信略號（カブトク）

營業科目
油布、雨具、足袋、天幕、洋服、履物、運動靴、靴、洋服、室内装飾、家具、其他各種材料並に以上の營業に附隨する各種の營業
大連市橋立町
大連工業株式會社
電話 四一六八一番 八二三八番
登錄受信略號 タイレンタイコ（タコ）又は（コ）發信略號

大連市監部通
東亞煙草株式會社
大連販賣所
西村義郎
電話四二七三番

大連食料品問屋組合員
大谷支店
三星洋行
京和洋行
禰宜田商店
中村商店

大連市山縣通五十四番地
三菱商事株式會社
大連支店
電話代表八一五一番

大連市磐城町
滿壽屋モスリン店
電話五二〇七番

營業種目
醫療器械 衛生材料 工業藥品 製藥販賣
大連市三笠町五番地
昭和洋行
電話四六二九番

森永製菓會社特約店
明治製菓會社
製菓卸問屋
機械製菓類、花アラレ、煎豆、ピーナツ、掛物類、其他各種
大連市若狹町五丁目一九九
木村屋分店
電話六八六八番
振替大連一三〇八番

小崗子露天市場事務所
電話三七二四番

大連老虎灘
御料理
千勝館
電話七〇四六番

大連市トキワ橋中央ビル
中央食堂
電話八四八三番

大連市信濃町日本橋際
吾妻旅館
電話四六四六番
富士屋旅館
電話五二八六番

小崗子料理店組合一同
電話四三三六番

大連市若狹町六〇番地
ベーチカ 煖房器具
宮崎組大連支店
電話五二四二番

アカシヤ洗布所
電話三八〇七・五七五一番
KOダイオーク
電話七九三六番

吉野町八五
おきな
電話八二四八番

日本足袋株式會社代理店
アサヒ地下足袋、アサヒ、マタナシ地下足袋、アサヒ家庭用足袋、アサヒ小供靴種々
大連市磐城町八十一番地
泰盛洋行
電話八一一七番

大連市岩代町
夏木瀬印刷所
電話六三三七番

小間物化粧品雜貨
大連市信濃町一四一
小泉專治商店
電話七二〇三番

菓子原料卸問屋
大連市西通九〇番地
松村兄弟商會
電話四九七一番

大連市愛宕町（正金裏）
松本洋服店
電話三九三五番

大連市敷島町六二
歌舞伎座
電話四五三八・六七四六番

大連市若狹町
大連劇場
電話三九三八番

日活共營
大連市浪速町一〇七
浪速館
電話四六五四番

大連市岩代町三七
寶館
電話三七五八番

帝キネ共營
大連市西廣場
演藝館
電話五三〇七番

松竹共營
大連市信濃町三三
帝國館
電話六九五四番

映畫のお話

森岩雄

【一】

日本映畫界に對する幾つかの議論を試みやうと思ふ。先づ規模を大にして、日本映畫界對外國映畫界の問題から始める。

日本は元來、活動寫眞發明の一事から、常に映畫上の後進國であり、外國映畫の刺戟によつて、漸く今日の地歩を占めるに至つたのである。その間、恩惠を蒙る以外のことは殆ど爲し得ない狀態である。尠くとも、市川左團次によつて露西亞に「カブキ」を紹介した程のことすら、日本映畫は對外的に積極的な進出を示してはゐない。

その代り、歐米映畫、並に映畫上の理論の輸入に就いては、日本は正に世界有數であらう。米國映畫の重なる作品は殆ど大部分輸入されることは勿論、歐洲、主として獨、佛、英の優秀畫の目ぼしいものも大抵は製作後餘り年數を經ない內に、日本市場に表れるやうになつてゐる。現に、外人によつて經營されてゐる支社の數も五、六數へることが出來る。

映畫製作上の理論は、單行本として發行されたものは云ふまでもなく、當業雜誌、その他文藝雜誌新聞等に揭載されたもので、相當價値あるものは續々と飜譯又は紹介されてそのあたりに何等の間隙はない程である。

是を文學と比較する時、外國文學のいかにも飜譯紹介の速かなことには感心するが、映畫の如く直接的ではなく、時間の關係から云つても映畫程ではない場合が多いと思ふ。第一、映畫の場合、飜譯されるものは映畫中の文學的材料である「字幕」だけで、生命である畫面は飜るまでもなく原形そのまゝが映し出されるのである。更に之を映畫と形式に於て最も近似してゐる「演劇」と比較する時、我々は「外國演劇」の姿を捉へるには、その一要素たる脚本を讀み、場面の寫眞を見、更に演出者の意見、又は批評家の紹介等によつて想像するより他にはなく、その眞價を把握することは到底出來得ないことである。それに比べて映畫はどうであらう。我々は稀な例を除けば紐育で、巴里で、伯林で封切られたそのまゝのプリントに接することが出來るのである。

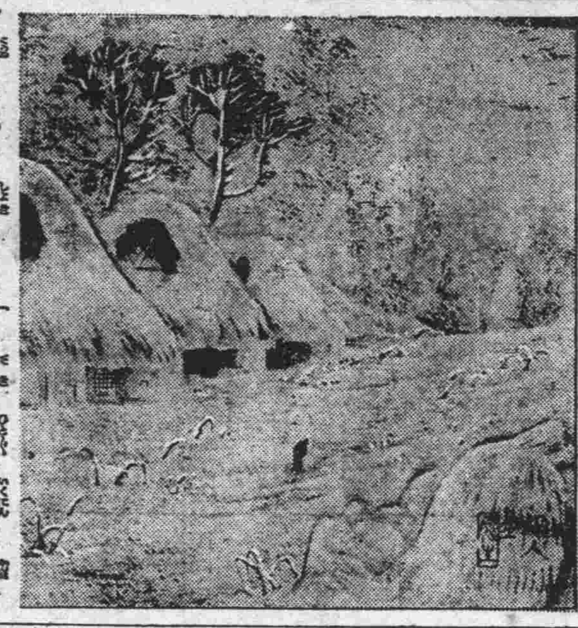
かうした點からばかり考へても映畫に携はる者が、いかに正確に、いかに迅速に、外國映畫の傾向を觀察し、採り入れ可きところは採り入れることが出來るか、驚くべきものがある。

その上に、價値ある實際家、及び批評家の文獻の紹介は不斷の注意と努力に依つて日々行はれてゐるし「映畫の國際化」はあらゆる文化的事業の中で、最も有效に且つ敏速に行はれてゐるのである。

だから我々はチヤプリンの心を、ムルナウの意見を、ガンスの信仰を、何等の誤譯なしにそのまゝスクリンの上で探し得られるのである。而もそれは所謂「少數なる知識階級」ばかりではなく、ひろく大衆的にである。

實際の如くに、日本映畫界は、外國映畫の影響を受けるとは極めて便利な立場にあつて、何等の痛痒を、文學の如くに、演劇の如くに感ずる必要はないのである。ところが、左樣なる有利な日本映畫界にして私の意見に從へば不滿なることが二つある。それは私共映畫界の者が當然此の不滿を除去すべく昭和四年度の事業としなければならない「二つ」なのである。

その一つは「發聲映畫」である。發聲映畫は明かに一つの流行である。流行病が非常に猖獗を極めてゐる如き恐ろしき狀態を以て世界に蔓りつゝある。米國は既に「流行」の域を脫し、今や歐洲の地を席捲せんとしてゐる。極東の地へ使はるも、單に時期の問題となつてゐる。發聲映畫に對しては、一部の人々、殊に映畫藝術家と稱せられる人々からは、映畫の本質を損ふものであつて、映畫上の邪道を行くものであると云はれてゐる。誠に「邪道」であつても、それは立派な「存在理由」を持つてゐる。映畫は科學の產物である。映畫科學の進步が、發聲映畫を生むだことが、それ程、不自然な現象ではない、極めて當然だと思はれる位である。その初期のものがいかに不完全だからといつて、日本映畫界が冷笑を事とし、これが輸入に垣を作るが如き偏見に對してはあく迄も戰はねばならぬと思ふ。活動寫眞の最初がどれ程完全であつたか、映畫史の最初の頁を回顧すれば自から解ることゝ思ふ。



田家の朝　於川龍人氏筆

第二の不滿は露西亞映畫の輸入されないことである。我々は過去より殆ど十分過ぎる程、米國映畫を研究することは出來てゐる。それに伴つて獨、佛、英等の映畫もひとり新露西亞の代表作品なるものが、それは傳はるところに依れば新しき內容と形成を持つたものであると云ふが、それらに接することの出來ないことである。映畫商人は映畫の內容から日本政府の干涉を恐れて輸入しないし「赤化宣傳」の意の强調されてゐないと思はれるものまでが、その傾向に曳づられてゐるのは殘念至極である。當局の露西亞映畫に對する干涉が噂の如くであるならば、今年の事業の一つとして、その諒解運動に着手すべきではないかと思ふ。

【二】

對外の映畫問題は以上でその要點を評した。これから、日本映畫製作の方向を主として論じてみやう。

日本映畫製作の中心は「映畫劇」に力點が置かれてゐる。曾て我々は舞臺劇をそのまゝ撮影したに過ぎぬ、演劇代用映畫の横行を嘆いて此映畫劇運動に努力したことがあつた。此の運動は大體に於て成功したといつてよく、日本映畫劇の二種別たる時代劇も、現代劇も、映畫特有の技巧によつて組立てられ、日に日に演劇模倣から遠ざかりつゝある。新派劇に於ける女形の活躍、舊劇に於ける臺詞の跋扈等はその影をひそめ、西洋風の映畫手法によつて作られるに至つたことは我等の喜びである。けれども、現在の映畫劇の程度を以てしたらまだまだ演劇的に過ぎるものが多分にあることを認めなければならぬ。而も映畫的技巧を驅使することばかりが映畫製作者の本領であるべきではない。更に民衆の生活の上に、新しい健やかな力となつて働きかける內容を、今後の映畫は持つことに努力しなければならない。映畫が新時代の藝術たることの價値は、一つにその點に存在すべきである。此の立場から、現在の日本映畫製作者の働き振りを見てみる。成程、其處には外國映畫乃至外國映畫理論より學び得た知識によつて映畫的な技巧を自由に驅使することの出來る人々の幾人かを考へることは出來る。併し果してその幾人かゞ今述べたが如く我々の生活を充實せしめ、勢ひづけることを滿足させてゐるかといへば決してさうは云へない。

最近の作品を檢討した結果、自分は、例へば伊藤大輔、大河內傳次郎の努力による作品、牛原虛彥、鈴木傳明の奮鬪による作品等の一部分に、映畫の明日的進路を發見する位である。

從つてから云ふことが云へると思ふ。我々は既に舞臺から映畫を開放する運動には殆ど成功した。今後は映畫の中に民衆の心を掴み民衆の生活を力づける「意圖」を有ち、しかもそれを愈洗練された技巧によつてその映畫を作らうとする新人の出現こそ日本映畫界が最も望んでゐることであるといふことだ。

【三】

右に述べたのは、日本の映畫劇に就いてゞある。映畫の範疇で「映畫劇」は一番に勢力を占めてはゐるが、同時に芝居的な技巧に毒されるところも價値の上から十分考慮すべき點である。さうしたことから我々は所謂實寫物と稱せられる部類に屬する映畫に非常なる期待を持つてゐるのである。「實物」といふからには、要するに觀兵式、火事、水泳等の記錄的映畫なのではあるが、最近に於ては「自然」を撮影する技術が進むと共にその編輯仕上に著しい進步が見られて來た。そして遂に現在では一つの「映畫藝術」としての存在價値さへ、有するものが出來上るやうになつた。併し此の實例と理論は遺憾ながら日本映畫界を左迄こ動かしてはゐない。過去に於て或は日本アルプスの實寫に或は黑部峽谷の實寫に相當の優秀作品もないではないが、何れも單なる實寫に終つて報告的な興味、記錄的な目的以上には出でず、外國の「モアナ」「チヤング」「地上」等の映畫には到底比較すべくもないのである。「チヤング」には動物學上の興味以上に貴い人間生活の努力が、見てゐる者の心をうつ「地上」に於てもやはり同じことが云ひ得る。「モアナ」の魅力は南海風物の美しさより島人の純な美しさが虛僞に滿ちた我々の醜さを反省させる程强いところにある。我々はさうした魅力を日本映畫に求めて止まないのである。監督だ、脚本だ、俳優だ、大道具だ、さうしたこしらへものゝ世界に眞を求める仕事も面白く且つ意義はあらう。併し大自然そのまゝの美しさを映畫的に再現する道を切りひらくことも日本映畫界は全く誰も手を染める者がないだけに必要なことではないかと思ふ。

【四】

昨年度の調査に依ると日本全國の映畫常設館數は一、〇四三で、一昨年度の調査に依ると一ケ年を通じての觀覽者數は一億三千六百廿九萬人以上で、現在人口の二・二八倍に相當するといふ。粗雜な譬へにして云へば、日本人は一年に誰でも二回以上映畫を見てゐるといふことになる。

而も我々が考へなければならないことは人々は義務的に映畫を見に行くのではなく自ら進んで行くといふことである。他動的に與へられるのではなく自ら求めて赴くのである。さう考へて來ると千有餘の映畫常設館が夜毎そのスクリンを飾る映畫の內容に思ひがうつらざるを得ないのであるが、果して我等映畫人は恥なくして是を省みることが出來るであらうか。

何等の意味なき劍戟、唾棄すべき低級なる感傷主義、適用を誤りたる愛國心、それらが實に主要なる題材として扱はれてゐる怨みがないであらうか。

映畫事業家は云ふかも知れぬ。これでお金が儲かるのだ。これでよいのだ。これ以上のものを求める必要はないのだ。映畫は商賣であつてその他何ものでもないと。

今かゝる考へのいかに誤りであるかを十分に說く餘白を持たぬが簡單に說かう。映畫の價値は根本に於ては、その精神的所產にあるべきでその他の何ものにもないことである。映畫事業の利益問題は第二義的なものとして考ふべきでこれが映畫の根本的な價値になるべきものではないのである。映畫は適確なる知識を民衆に與へ且つ明るく正しい情操を民衆に養はしめるところにのみ使命を有してゐるのである。利益を映畫製作より得んが爲めに、誤れる知識を强ひ、時代錯誤的教訓を與へやうとする行爲は一種の罪惡である。（終り）

賀正

開原

井上芳雄　羽原力太郎　二之宮景吉　二之宮謙　千々和正彥　大川廣太郎　大重篤　川崎亥之吉　川島定兵衛　上部山九效　高垣寬吉　龍田道德　奈良正彥　牛島義雄　山本松次郎　安田佳藏　前田信二　前川勝三郎　松本辰吉　牧野武次　增谷定一　藤井武夫

遠藤憲治郎　相良禮三　佐竹今信　佐藤祐太郎　菊地薰　三田泰三　宮田春信　清水楠次郎　久富一二三　平岡雄吉　關野芳造　杉之原孝善　洪淳亨　鄭冕極

特產物貿易　委託賣買　開原公司　電話四三八三番
出張所　哈爾賓地段街　電話四三一八番　朝鮮定州城內　電話長六一番

滿洲電氣株式會社　電話長一二〇番

開原取引所信託株式會社　電話一三五番　二五五番　三二三番

橫濱正金銀行開原支店　電話長二五番

朝鮮銀行開原支店　電話長一〇〇番

正隆銀行開原支店　電話長一一〇番

日清製油株式會社開原出張所　電話長二番

開豐長途鐵軌汽車公司

和登商行開原出張所　電話長三〇番

高等旅館　二葉旅館　電話長二二八番
高等料理　二葉　電話二八番

石炭商　利生洋行　電話長三五九番
松昌公司　電話長一二四番

藥種賣藥、精米業、糧賣買　村田保之　電話長三三四番　五九番

開原市場株式會社　電話長三二四番

上郡山　倉岡　合名會社　開原屠獸場　電話長三〇一番

喪中ニ付キ年賀缺禮仕候　谷口良友

賀正

大連

大連火曜會々員名簿（イロハ順）

飯塚祇吉　石本鏆太郎　石田禮助　糸賀庄造　原田光次郎　保々隆矣　堀諫　富次素平　岡虎太郎　奥田千之　和田敬三　西山勉　神成季吉　貝瀬謹吾　横田多喜助　田中千吉　田中喜介　田邊敏行　田村羊三　高柳保太郎　竹中政一　谷口英次郎　安田柾　村井啓太郎　村井啓次郎　宇佐美寛爾　黒田誠　山本条太郎　山口啓三　山崎平吉　松岡洋右　松田義雄　古澤丈作　藤根壽吉　藤田臣直　神鞭常孝　小日山直登　寺田虎次郎　櫻井學　齋藤良衛　佐藤至誠　佐方文次郎　木部守一　北代眞幸　杉野耕三郎

大連市西公園町六九　鶴見齒科醫院　電話八二〇三一

大連市伊勢町九四　川越口齒腔科醫院　電話六五三五番

大連市浪速町　㊎まるきんや小間物店　電話五六一〇番

大連市浪速町三丁目　和洋雜貨　野崎洋品店　電話二二七九番

大連市信濃町一二三　藥種直輸入　石川萬壽堂　電話四三四四番

大連市若狹町越後町角　吉成製販所　電話三六九一番

大連市浪速町一五　貴金屬細工　大村洋行　電話三七二八番

大石橋

大石橋電燈株式會社

警察署長　植田德次

郵便局長　岩井繁守

地方事務所長　河内由藏

醫院長　新井泱

小學校長　上田鎚彌

驛長　稻川利一

機關區長　七田積

電燈會社主事　原豐吉

神職　山内茂義

白川洋行　山下義明

井上齒科醫院　井上竹四郎

本願寺住職　浮津弘道

西島常次郎

喪中に付年賀缺禮仕候　梅廼家旅館　小林才治

伊藤謙次郎　關甲子郎　黄子臣　任獻忱　梁海民　張子香

大石橋煤廠　電話七七番

陸軍御用達　雜貨商　石川洋行　電話四十四番　振替大連九二五番

圖書雜誌　紙類　文房具　山口石文堂　電話二十八番

御料理　日本館　外藝妓酌婦一同　電話十番

和洋料理　福住　外藝妓酌婦一同　電話十一番

手打そば　御仕出し　福住庵　電話五十一番

御料理　仕出し　環之屋　外藝妓酌婦一同　電話四十六番

御料理　芙蓉樓　外具性岳　酌婦一同

陸軍御用達　和洋菓子商　三谷日新堂　電話三十番

梅月旅館　電話二十七番

諸新聞取次　代書業　細野芳枝　電話四十四番

吉林

吉林日本領事館　工藤正次

吉林滿鐵公所長　吉原大藏

森林經營附屬企業　各種原木製材鐵道　用枕木坑木電柱等　共榮起業株式會社　電話二七六番

共榮起業株式會社　取締役　戶田盛次

吉林官商合辦　華森製材公司　電話三〇〇番

東洋醫院　鈴木浩　前田翠山　謝文

華森製材公司　經理　細野喜市

東洋醫院長　齋藤源治郎

製函製材原木　吉林木材興業株式會社　電話七〇二番

裕豐號　堀井覺太郎

國際運輸支店長　三ケ島伊作

吉林同文商業學校長　井ノ上暉雄

闘昌號　吉武常一

吉長鐵路管理局　吉林工務段長　吉田貞次郎

吉長鐵路管理局　吉林事務段長　私市一太郎

吉敦鐵路工程局　第一工務段長　蕭定先

東洋醫院　花田孫平

東洋醫院　河内清大

鋸寸及軸木製造販賣　木材買賣並ニ製材業　吉林燐寸株式會社　電話二五八番

吉林質屋組合

各種原木枕木坑木　其他特種材　富士木材公司　電話二五七四番　二六五番

高等洋服調進　松本洋服店　電話一〇七番

高等旅館　名古屋旅館　電話二〇〇番

高等旅館　日清ホテル　電話四番

吉林料理屋組合

滿洲日報
元旦號 其の三

醫學の上から見た現代人の文化生活 すべてが矛盾だらけ

醫學博士 高田義一郎

一、現代文化生活

現代人は賢明である、現代人は敏感である、その賢明で敏感な人々のすることに、もとよりそつのあらう筈がない、一から十まで頭の底邊から足の爪先まで中々上手に立廻つて居ることを肯定するに對して、誰れでも躊躇することは出來ないであらう、しかしその現代人の所謂「文化的生活」なるものにも醫學といふ眼鏡をかけて見る場合に少々ばかり「如何かなあ?」と首を傾けさせられる點が無いでもない、それを一つ二つ御紹介──と云つては不都合であるから──御披露に及んで江湖の指教を仰ぎたいと思ふものである、斷じて文化生活に對する反逆でもなければ又冒瀆でもないのであるから、怒るのを後にして氣を靜めて此のわからず屋のダヽツ兒の言葉に、一應耳を傾けて貰ひたいと思ふ心が切である、

二、藥品愛好

現代の人々は中々藥品が好きである、病氣の時には止むを得ないけれども、平生達者でピン〳〵して居る時にでも少くとも二、三種の藥を服用してゐるのがザラに在るのは一體どうしたものであらうか─食事の前後に何か粉藥を飲んでゐるので

「何處かお惡いのですか?」と尋ねて見るとニヤ〳〵笑ひ乍ら

「いゝや、病氣ではありませんが、ヂアスターゼを一寸……」

と答へる人がある、そうかと思ふと、旅行先にまで「ヴイタミンA」といふ樣なものをわざ〳〵携帶に及んで三度々々缺かさずに飲んで居る人もある、今ではもう下火になつたが數年前カルシユーム入のパンが流行してカルシユーム入の飲料水、その他いろ〳〵の飲食物が出來た頃に日々の米の飯を炊く時にカルシユームの何とかいふのを入れる人が多かつた、而して

「それを入れると何か違つた所がありますか?」

と質問して見ると

「ハイ、第一飯の澤までが違ひますよ!」

と得意になつて答へる。しかし考へて見るのにヂアスターゼもヴイタミンAも或は又カルシユームも普通に飲食をして居る場合ならば特別にそれを藥劑として藥屋から購入してまで飲まないでも決してその缺乏を訴へない筈である、無論、それを藥劑として内服しても決して有害ではないから飲んではいけないと云ふのではない、たゞ特に内服して果して著しい効果が現れるか如何かを疑ふこと並に食物としてそれを攝取するのに比して藥劑として内服するのは遙かに高價に上るから少からず不經濟であらうと思ふまでゝある、故に若し

「それは乃公の趣味である──或は道樂なのである、金は有り餘つて居るから、餘計な差出口は無用だ!」

と云はれるならば我輩又何をか云はんやで、默々として引下るまでのことである、又特に弱さうにも見えない人や、寧ろ人並以上に強壯らしい人でありながら、好んで補劑や滋強劑の類を常用したり精力旺盛に見える癖に、日常何々強精劑と稱する効力の如何はしい藥劑の類を、絶えず愛用する人々の多いことも亦注目に値する樣に思はれる、そう云へばその人々は反對に

「乃公達はその藥劑を愛用するが故に強壯なのである──或は勢力旺盛なのである、お前は原因と結果とを逆に見て居るからいけない!」

と反駁するかも知れないが、これこそ少々一種の道樂に近いかと──失禮ながら──考へさせられる節がある、更にもつと以上の藥劑通になると、好んで鼻の孔へ「コカイン」を滴下して、之を頭腦明晰法の一種の樣に心得て居るが如く見えるが、之は「コカイン」の爲めに鼻の通りがよくなつて一寸氣持がよくなるからであらう、しかし此の氣持のよいのは、ホンの一時的のことで、之を味はんが爲には幾度も〳〵此の「コカイン」滴下を反覆すべき必要を生ずるのであるし「コカイン」はだん〳〵馴れるに從つて利き目が少くなつて來るから日月を經るにつれて、著しくその分量を增加しなければ到底以前の如き氣持のよさを味はへないことになつてしまうものである、而してその裏面には直にコカイン中毒症といふ恐るべき病魔が凄い微笑を湛へながら爪牙を鋭くして今にも攫みかゝらうとして立つて居るのであるが、それを知つてか知らずにか、すまして勇敢に「コカイン」の滴下を繼續して止めない人々に對しては、一寸挨拶の仕樣に苦む次第である、」之でこそ藥屋は萬歳であらうけれども、まさか藥屋を喜ばさんが爲の慈善的行爲でもあるまい、一體全體、何が故に現代人はかくまでいろ〳〵の──無くもがなの──藥劑を愛好するのであらうか?考へれば考へる程わからなくなつて來る次第である。

三、海水浴全盛

數年來の海水浴の流行はすばらしいもので、海水浴は現代人に缺く可からざるものゝ樣に考へ、海水浴に行かない者は共に文化を談ずるに足らぬ樣な有樣で、全國到る處の海岸に、赤綠黃紫、色とりどりの美しい海水着が春の花の如く開展せられて居る姿は全く物凄いばかりである、無論海水浴は衞生上によろしい、萬里の長風を心行くばかり呼吸し、玉の肌に惜げもなく日光浴をさせるだけでも既に十分の効果はあるから新調の上等な海水着の午前海水に入ることを躊躇して砂の上を羽を廣げた孔雀の樣に濶歩するだけでも決して文句を云ふ必要は無いのである、しかしながら腑に落ちないのは、「避暑」といふ言葉であつて暑を避けんが爲に海濱へ行くならば、海濱生活が都會にある自宅よりも涼しくなければならないのに、事實は反つて之を裏切つて居はすまいかといふ懸念である、海濱も北海道か樺太まで遠征するならば氣溫が低いから直に首肯し得られるのであるが、鎌倉や須磨、明石では東京、大阪邊と氣溫に大差があらうとも思はれないから、住居の方で涼を求めなければならないことになつて來る、然るに猫も杓子も押出して借屋も民家も大入滿員を極め、室室の少い關係から、自宅よりも遙かに狹つ苦しい部屋に起居することを餘儀なくせられるのみならず、スグそばに他所の人々が居る關係上、自宅でならば猿股一つ、腰巻一枚で寢そべつて居る人までも、義理にも浴衣の一枚位は引つかけて居なければならないと云ふ始末である、自宅よりも狹い所に自宅以上に衣服を羽織つて他所行きの態度を取つて居ては假令都會よりは少し位風通しがよいとしても、果して何の避暑ぞやと云ひたくなつて來るではないか!その關係を十分承知して居ながら──中には苦い金の無理算段をしてまでも──その暑苦い「避暑」と稱する海水浴をしなければならないのは表面は兎に角、事實は衞生の爲ではなくつて近所や友人乃至親戚等への見えが少からず手傳つて居はしないか?

「お隣の××さんとこでも避暑したんですもの、うちでも行かなきや見つともないぢやありませんか!」

と云つたり、或は

「あの〇〇(同僚の名)でさへ、うち中、鎌倉へ出かけたから、乃公の所も明日から逗子へ出かけやう!行かずにくすぶつて居ちやア、氣が引けるからね!」

といふ樣なのが、存外、避暑の動機になつて居るのが多いことは無いであらうか?之が若し一度も避暑の出來ない私の邪推であるならば幸福である。

四、温泉陶醉氣分

夏の海水浴のそれの如く多には温泉へ行くことが又中々盛んである、温泉!之も亦至極衞生上にいゝこと勿論である、底の知れない深い地中から、滾々と流れ出て盡くる時のない天然の靈泉に心行くばかり温められていろ〳〵の鑛物の溶液に依つて靜かに柔かに撫られて居るばかりか、出でゝは又山懷の淸らかな自然の風光を恣まにして居れば幾十年來の痼疾ゝ必ず輕快せずには居られない道理である、卽ち温泉の流行は衞生思想の普及を象徴したものとして大いに謳歌しなければならないのであるが……親く温泉地の此所彼所を見て見ると、必ずしもさういふ人ばかり居るに定まつて居ない樣である、温泉地、又はその附近には、申合せた樣に、藝者屋や料理屋の類はあるが、それ以外の娛樂機關はあまり見當らない樣である附近の名勝舊跡を尋ねるにしても本來山間の溪谷の樣な所に多い、交通に不便勝ちな温泉地である上に、リヨーマチで運動の自由を缺いたり、慢性病で活動の出來にくい人々は、山川の跋渉を望むことは無理であらう、豫め心掛けて讀むべき書物や、書くべき原稿を携へて行く人でない以上、長期間の退屈凌ぎに、どうしても藝者を招いで酒を飲むとになるのはもとより自然の數であらう、そんな關係から折角の結構な温泉の陶醉が酒色三昧に陷り酒池肉林の逍遥になつてしまつて、衞生とは正反對に、不攝生の限りを盡すことになるのは不堪議千萬なことである、これに對して、現代人は果して何と答へるであらうか?、卽ち

「酒池肉林の消遥が出來るからこそ、温泉へ行くんぢやないか!野暮なことをいふな?」

とせゝら笑ふか或は又

「失敬なことをいふな!それは温泉へ行くべき金と時間とを持つて居ない處の、汝のひがみに過ぎないのだ!」

と叱り飛ばすか?、私は何卒、その後者であらんことを願つて止まないものである。

五、郊外住宅

煙筒の煤煙と、自動車の臭氣と、塵芥の土砂や、いろ〳〵の黴菌の類を交へた紅塵萬丈の渦巻となつて、そこで執務しなければならない都會人の健康を、むごたらしくも奪ひ去らうとして居る今日郊外の生活が喜ばれ、且つ理想とされるのは、もとより當然のことである、況んや、地價が安く、町内のつき合ひが少く、經濟的であつて、一擧兩得なるに於いてをやで、之には誰一人、異論のあるべき筈がない、けれども郊外の文化住宅といふものが、或は傾斜の急は赤瓦の屋根といふ、お定まりの外形に重きを置き過ぎて、採光や通風、乃至煖房裝置等の衞生的設備に至つては、あんまり考へない樣な氣味はないであらうか、無論良い家も澤山あるが、屋根さへ赤瓦ならば文化住宅で、どんなに日あたりが惡くつても苦にならない──否得意である人も、一人や二人は有りはしないかと氣づかうのである、それに郊外となれば、水道か瓦斯かのどつちかが、不便になり勝ちである、瓦斯の方は或はない方が反つて衞生上いゝ點があるかも知れないが、水道の方になると、井戸を掘る必要が起つて、水質の良否が問題である上に、飲用水の貯へ方等に、少からず衞生上考慮すべきことが起つて來る、或は場所に依ては、之が爲に腸チブス等に罹る心配があるかも知れない、兎に角、郊外生活には不便が附き物で、瓦斯はあつても壓力が少かつたり、電氣は無論有るけれども往々停電をして見たりするのであるから、郊外生活といふ以上は十分郊外氣分の味はへる處、山林や田畑に近くつて、野趣横溢といふ空氣と日光とに惠まれた處を選ばなければその本旨に添はない譯である、然るに郊外生活を口にしながら、町はづれで未だ紅塵萬丈の域を離れないばかりか、道路の完備して居ないことや、撒水等の不行屆きの爲めに、市内より以上に不潔な砂塵濛々と捲上る處で、草木の如きは一本も見へず大小の工場は近所まで建込んで居る處にお定まりの文化住宅を建て、得意になつて居る人のあるは、不思議所か反つて氣の毒な樣な心持さへ起つて來るのである、これでは郊外生活の長所を一つも持つて居ないで、市内と異なる點は單に不便と不潔との二つのみではないか、執務するための通勤に時間がかゝつたり、郵便の速達がきかない位はかまはないが、砂ほこりや飲料水の惡いことが氣にならないのは寧ろ滑稽に思はれてならない郊外生活をする位ならば、多少の不便はもとより覺悟の上のことであるから、通勤に十分や二十分位餘計の時間を要しても、瓦斯があつてもなくつても思ひ切つて都市から遠ざかつた日光と空氣との天惠の豐富な地域を選ばなければならないであらう、途中の時間はそれだけ早く起きることに依つて補はれて、それが爲に一層健康になることも出來る、瓦斯のない位は石油コンロでも間に合はすに十分ではないか、而して水質の選定は少しく注意すれば、いくらでも良い所を見出し得るであらう、郊外生活ならば、思ひ切り離れた方が良い、生はんかの都市續き──町はづれ──の郊外ならば寧ろ、都市の中央に居る方が、遙かに衞生的で良からうと考へるものである屋根瓦は赤くなくつても、文化住宅といへるのではなからうか?若し内容が合理的に考へられてありさへすれば!赤瓦の屋根があつても、郊外に建つて居ても、内容や場所の選定が無方針であれば、文化住宅といふにふさはしくないものなのではなからうか?。



石榴圖　大野斯文氏筆

一層の努力と奮鬪を希望

◇……昭和四年を迎えて

伯爵 兒玉秀雄

思ひ出の深い滿洲を去つてから丁度一ケ年になる。自分が初めて滿洲に赴任したのは、恰も大震火災の

直後であつた、隨つて其東海道線もまだメチヤ〳〵で、自分達が汽車で横濱を發つた時分など、京濱地方はまだ餘燼濛々として天に沖し、轟々たる爆發の響きは夜となく晝となく隨所に起つて實に慄然身に迫るの感があつた、此の時代に於て初めて滿洲に着任した自分達はその一たび大連埠頭に上陸するや「ア、斯くの如き平和境が現世に於て又と外に見得られやうか?」とは其

瞬間に深く自分の腦裏に刻み込まれた第一印象であつた斯くて足掛け五年に亘る在官の期間を自分達は在滿の諸君並に支那官民諸君の深甚なる同情によつて最も愉快に經過して來た、隨て其の去るに臨んでも、又となき晴れ〴〵した氣分を以て滿洲と袂を別つた譯であつて、爾來一年に垂〳〵として居るけれども自分は今に尙その愉快なりし在滿の當時を偲ぶとき常にその平和的印象を

感謝―居る次第である

過去一年間に於ける滿洲は比較的激甚なる變化を各方面に及ぼして居るとは云へ苟くも我國權の發揚に至つては毫厘も之れに動搖を來さないのは御同樣國家の爲め洵に慶賀に堪へざる處であつて、斯くは一面に於て我國策が儼として不變不動のものであると共に他面に於て在滿の諸君が滿洲に於ける事態を克く理解し其の進むべきは勇敢に進み、隱忍すべきは能く自重して以て共存共榮の

大精神を遂行するに於て遺憾なき努力の結果に外ならない。想ふて玆に到れば自分は只管に在滿諸君の國家的精神の旺盛なるに對し深き敬意を表せざるを得ないのである。今や曠古の御盛儀たる御卽位の大禮も滯りなく終つて玆に昭和四年の新天地を迎ふることゝなり我々八千萬國民は擧つて叡明なる聖天子を戴いて更に

新しい時代を創せんとする此の希望に滿ち〳〵た時に方つて自分は我在滿の諸君が滿洲に於ける文化的開發と經濟的發展に直面して一層の努力と奮鬪とを惜まれざらんことを、國家の爲め遙かに衷心から希望して止まないのである。玆に昭和四年の新春に當り我滿洲日報から求めらるゝまゝに一言以て

年首の所懷を陳ぶると共に滿洲及び滿洲に在住する諸君の將來を祝福せんとするものである。

支那キネマ界の 銀幕明星

上海にて 品花生

一昨年だつたか、大連で邦人に支那映畫紹介の意味で支那映畫鑑賞會が中日文化協會によつて催されたはずである。大連に居ない筆者はそれに

◇…**參會** する由もなかつたが、あの會で支那映畫をはじめて見た人たちは恐らく日本のそれにも增して支那映畫のまだまだ幼稚極まるものである──ことを感得されたであらう。あのとき紹介された映畫は「紅玫」だつたかと思ふが「紅玫瑰」なり支那映畫中にあつて〻別段とりたてゝ言ふほどの作ではないが、しかし傑作と言はれるのだつてまだ大したものではない。支那のキネマはまだ〳〵幼稚なものではあるが、しかし幼稚ながら現狀まで漕ぎつけて來た過去に於ける

◇…**努力** と進歩、および將來に於ける好望までをもそれによつて否定すべきでないと思ふ。キネマ好きと言ふだけでその道には全く門外漢の筆者は、もとよりキネマ論をやる分際ではないが、支那映畫を見るとき映畫の幼稚なのに比して女優だけは過ぎものだと思はれる程傑れてゐるように思ふことである。支那キネマ界の

◇…**將來** は「男明星」によつてではなく「女明星」によつて開かれるように見受けられる。支那キネマ界の「女明星」の目星いところを紹介してみたい。



楊耐梅 支那キネマ界の最初の明星で今日なほ第一人者を以て自他ともに許してゐる。小説「玉梨魂」を脚色した映畫で筠倩に扮して出演したのが人氣を博したはじまりでその後、パテー會社の「探花女」に出演し、明星プロダクションでは「誘婚」「好哥々」「新人的家庭」「空谷蘭」に主役を演じ、最近ではモダンガール余美顔の事跡を脚色した「奇女子」に出演して人氣を呼んでゐる。聲樂、ダンスにも長じて舞臺にも立つことがある。

王漢倫 當今聲望並びなき明星で、王漢倫の出現によつてさしもの楊耐梅も押され氣味で現在天一プロダクションに所屬してゐるが、月給三百弗、支那「女明星」中の最高給料とりとある「棄婦」「摘星之女」「春閨夢裡人」「好寡婦」等が有名である





張織雲 支那のリ、アンギツシユである。悲劇に巧みで、又天眞にして人をして可憐を覺えしめる。「空谷蘭」「梅花落」「玉潔冰淸」等近年來の代表的作品を作つてゐる。

黎明暉 新文學家黎錦暉氏の愛女である。「葡萄仙子」「可憐的秋香」等支那最初の歌劇を演じたのみならず、斷髮の先驅者でもある。キネマ界に入つてからは「戰功」「小廠主」等によつて謳はれ、最近では「透明的上海」が有名である。



丁子明 内氣な讀書好きなこの社會には珍らしい明星だそうな。「愛情與黃金」が傑作である。

李旦旦 辛亥革命の起る少し前、廣東將軍鳳山を爆殺した李應生君の娘である。父に從つて永く歐洲に遊び歸國後父應生君が黎民偉君とゝもに民新プロダクションを始めるに及んで民偉君の細君林楚々とゝもに出演するに至つた。「玉潔冰淸」が處女出演である。



韓雲珍 ロマンテイクな表演に於て第一人者とされてゐる。「透明的上海」「上海三女子」「風流少奶々」等でフアンをよろこばしてゐる。



林楚々 民新プロダクション監理の民偉君の細君である。アメリカ生れ、アメリカ育ちで夫君が民新の經營を始めるとゝもにカメラの前に立つようになつた。「和平之神」「三年以後」等に出演し端重大方を以て珍重がられてゐる。

毛劍佩 支那劇の老生として有名な毛韻珂の娘である。親の阻止を肯かず一昨年はじめてキネマ界に投じたが親ゆづりか藝がうまい。最近「金鏤恨」を主演した。



黃柳霜 これはハリウツドで働いてゐるが、支那人は「黃明星」を海の彼方アメリカに有することを大に得意がつてゐるので附錄に……

蔣耐芳 まだ少女であるが商務印書館の國光プロダクションの「歐場奇緣」の主役を演じて人氣を博した。

胡蝶 舊劇物に秀でゝゐる「白蛇傳」「孟姜女」「西遊記」等が評判である。

田家朝　鈴南 森幾太郎

山廓田村箇々松、朝暾一拂著新容、太平恩澤冬藏滿、處々炊烟淑氣濃

御題恭賦「田家朝」　吉川鐵華

隔水橋邊四五家、炊煙上處見晨霞、風前識得寒香近、門外紅梅欲發花

新年卽事　前人

老虎灘

松籟濤聲洗俗塵、海天東望曙光新、休言邊塞猶氷雪、日麗風和迎上春

賀正

本溪湖

本溪湖煤鐵有限公司

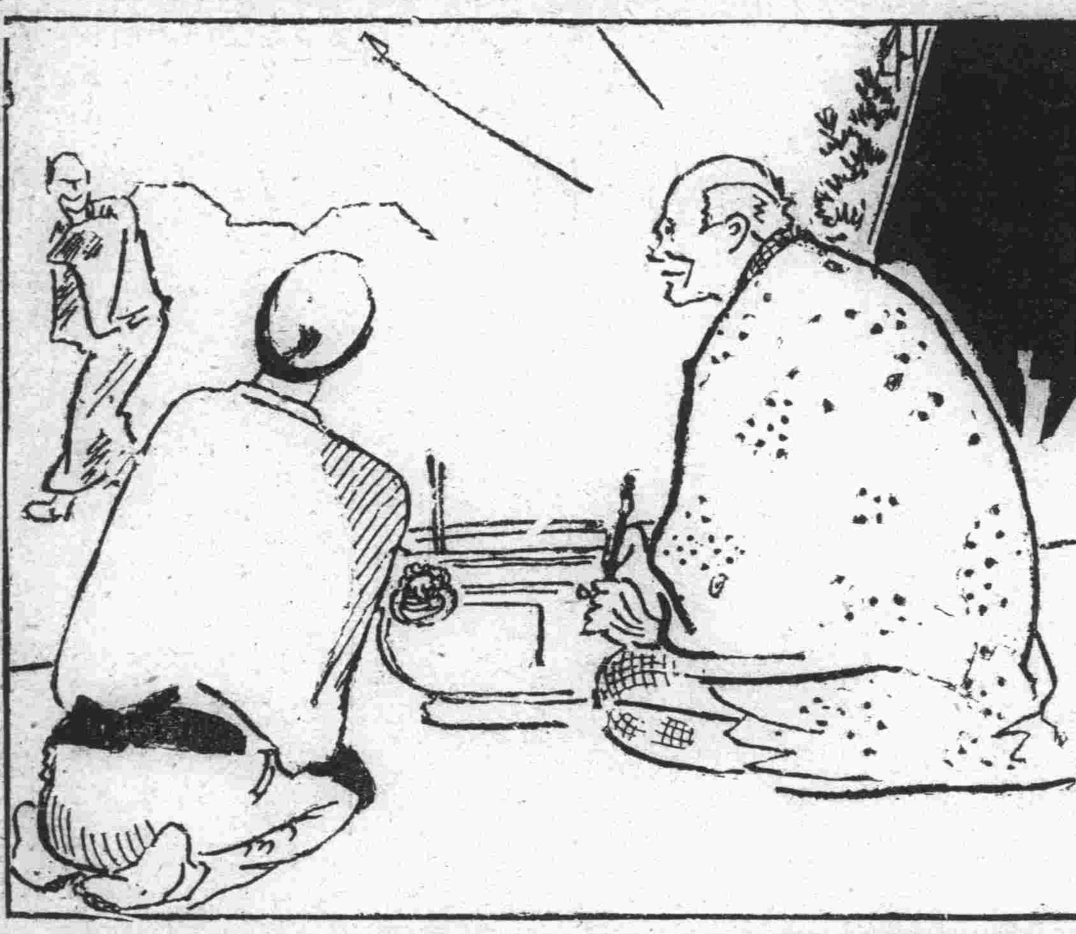
山口金吾
羽山喜郎
鮫島宗平
梶山又吉
日高長次郎
市毛正敬
須田德市
中山通治
野尻虎
吉村藤吉

落語　七福神

三遊亭圓生

初春の事でございますから、七福神、寶船といふ御目出度いお噺を申上げます、物事を能く氣にして縁起を祝ふなどといふ方がございますが、總て世の中は、目出度い事があるから、目出度ないこともあるし、悲しい事があるから嬉しい事もあるのですから、悟つてしまへば何でもないもので、けれども何方が宜いかといへば、誰しも目出度い方を好むのが人情でございますが、最も甚だしい人があります、之れを俗にかつぎやと申します、お古いお噺に、僧侶さんが帳面を誂へたといふのがございます。僧「帳面を一つ拵らへて下さい」帳面屋「ヘイ〳〵、どういふのが宜しうございますか」僧「さうですな、成だけ厚い方が宜しい序に上書を一つ願ひ度い」帳「畏まりました、何と書きます」僧「死人大入帳と書いて下さい」帳「ヘエ成程、お寺樣だけに死人大入が筆太に「死人大入帳」と書いた物見高い所だから、多勢表に立つて見物をして居る中に一人「オー見や、此の帳面屋は旨えな、どうだい旨く書いたぢやアねえか、まるで字が活きて駈け出しさうだ」僧「帳面屋さん私は此の帳面を見合はせますよ」帳「ヘエ、どういふ譯でございますか、外の物と違ひまして死人大入帳などゝいふものは、他へ向け口がございませんが」僧「イヤ今御見物の中に活きて居るやうだ、駈け出しさうだといつた人があります、死人に駈け出されては私の方の營業にならんから、それで見合せる」帳「モシ〳〵貴所方、褒めて下さるのは宜しうございますが、此の帳面をお見合せになるといふので、私の方で損をしなければなりません、困りましたな」○「何をツ、褒めたんぢやアねえか、オウ僧侶さん、死人が生きて駈け出しちやア營業にならねえから、帳面を見合せるつて、何をいつてやがるんだ、マゴ〳〵しやがると叩き殺すぜ」出家が之を聞いて 僧「アツ、それで氣が直りましたから貰ひませう」

安に伊勢屋五兵衛さんといふ吳服屋がございます。これが頗るかつぎやで、ごへえかつぎといふのは是から始まつたのださうで、或年お正月のこと、番頭さん始め店の者がズーツと列んで「先づ明けまして御目出度う存じます」と銘々新年の御祝儀を申述べる 五「イヤ、御目出度う一陽來復、初春となると誠に快い心地のものだね」番頭「左樣でございます」五「時に權助や」權「ヒヤア」五「若水を汲んだか」權「ヒヤア、若水てえますと……」五「判らない男だな手桶に注連が張つてある、それを持つて行つて初の水を汲むのだ」權「そりやア汲んだでがす」五「ナニ」權「そりやア汲んだでがす」五「只汲んだぢやアいけませんよその橙を持つて行つて、井戸の神樣を納めながら、新玉の年立ちかへる旦より、若やぎ水を汲みそめにけり、と唱へて水を汲んで來なさい」權「ヒエー、何だか是れは譯の分んねえことだな、家の旦那どんは物を氣にする性分だから判んねえことばかりいつてるだ……さて井戸の神樣へいふ事を忘れたぞ、何だつけな、エート、何の玉だつたつけな、屁の玉ぢやアねえ、……ア、さうだ眼の球のでんぐりけえるあしたより、末期の水を汲みそめにけりか、ヘ、ツ宜んべえ、橙がフワ〳〵して土左衞門のやうだ……旦那汲んで參りました 五「ア、汲んで來たか、今私がいつた唱え方をしたかい 權「ヘエ、やりました」五「忘れやアしなからうな」權「忘れませんともね」五「モウ一遍此處でやつて見なさい」權「幾度やつても同じこんだ」五「さうでないよ、私が氣になるから云つて見ろと云ふんだ」權「そんだらやるベヱかなエ ート、眼の球のでんぐりけえるあしたより、末斯の水を汲みそめにけり、とやりやした、それでわざツとおひとだまですかと、井戸の中へ橙を打ち込んだら、土左衞門みたやうにフワ〳〵浮いて居やした、でえ〳〵土左衞門がね 五「ナゼ、然んな縁起の惡いことをいふんだ、厭だな此の人は、何かいふたんびに私に逆らうやうなことばかり云つてる、お前のやうな人はモウ家へ置きませんから、出て行きなさい」權「初春早々人を減らすといふなア縁起が良くねえ、來月の五日まで待つて貰ひてえもんだ」五「何だい來月の五日とは」權「詞しく日を切るぢやアないか 權「來月の五日になると恰度三十五日になるでがすから、滿更縁のねえこともねえだ」五「下らないことばかり言ひなさんな、呆れ返つた男だ」番「オイ〳〵、權助や、旦那樣に逆らつちやアいけません、兎に角、お雜煮を祝ひませう」五「「それが宜い」是から揃つてお屠蘇を祝ひ、御雜煮を食べ初めました 番「モシ、旦那樣 五「何だい」番「不思議なことがございます、私の戴きましたお餅の中から、金が出ましてございます 五「オヤオヤ、それは〳〵 番「これで、私がお祝ひ申ます 五「何をいふんだえ 番「餅の中から金が出ましたから、代々金持になるといふのは、如何でございます 五「成程、おぢさんのいふことは嬉しいね、餅の中から金が出たから、代々金持ちになるとは面白い、ア、快い心持ちになつた、これでスツカリ氣になつたことも直りました 權「胡麻擂番頭め、餅の中から金が出て代々金持ちになるとは、旨く縁起しやアがつたな、俺の考へなら、金の中から餅が出たから金もちだらうが、餅の中から金が出たのだから、身上をもちかねる、とは何うだね 五「又、初めやがつた、縁起の惡い奴だ、彼方へ行つてな」權助さんとう〳〵お拂はれて終つた。定 次がせきとりでございます 五 何だいせきとりとは 定「石屋の取兵衞さんでせきとり 五「馬鹿〳〵しいことを言ひなさんな縁起が惡い、初春早々碌なことは云はない、番頭さん代つてお呉れ」番「ヘエ畏まりました、定吉や誠に良くないよ、サア〳〵私が代りに……エ、申上ます 五「ハイ〳〵イ 番「鶴屋龜五郎さん 番「縁起が良いな、鶴屋龜五郎さん」次は 番「松屋竹次郎さん 五「成る程是で縁起が直りました」松屋竹次郎さんと、ハイ〳〵それから後が梅屋さんでございます 五「宜いな是で松竹梅揃つたマア此の位で留めて置から……、アツ妙な奴が來たよ、向ふを見なさい、私の友達だが早桶屋の四郎兵衞は、あの位いやな奴はない、私が此間遇つたから福の神何處へ行くと聞いたら、お前の處から出て行くと云ひやがつた其後又遇つたから、貧乏神何處へ行くんだと云つたら、お前の處へ是から行くんだと云ひやがつた、眞正にアンナ人の氣に逆らふ奴はありやアしない、初春早々あんな奴に來られて、又厭なことを云はれて心地を惡くするのは厭だから私は隱れて居て遇はないから、番頭どん何とか云つて歸してお呉れ 四「ウーイ、ア、快い心地だ、イヤ是はらんとうさん 番「入らつしやい、相變らず面白いことを仰しやる 四「だんかはどうしましたえ 番「だんかは恐れ入りましたな、只今居りません」四「エ、だんかが居ない、おかくれになつたかい」番「冗談云つちやいけません 四「今此處に坐つて居たやうだつたが姿が見えて居ない處を見ると、是は離魂病かな 番「恐れ入りましたな離魂病は 五「番頭どん、私は出ますよ……オアオア、誰かと思つたら四郎兵衞さん 四「オヤツ居たね、先づ御目出度う 五「御目出度う存じます 四「併し一休和尚の仰しやる通り、門松は冥途の旅の一里塚、目出度くもあり目出度くもなし、マア目出度いとは口にいふが、考へて見れば追々壽命が縮まつて行くのだね 五「相變らず厭な事を言ひなさる、今日は何方へ 四「惠方詣りに行きました 五「惠方詣りは結構だ、お多福辨天へでもお出掛けかな 四「どうしまして私は今日、無縁坂の方から因果寺へお詣りをして、此方へ人魂のやうに、フワリ〳〵と飛んで來ました 五「厭なことばかりいふね、併しお前さんと私とは竹馬の友だ」四「左樣〳〵、お互に斯うして一年でも長命をすると、古い友達が懐しくなる、友達も大分なくなつて了つてね、私ゃ商賣が商賣だ今度私にお前の寸法を取らせないか、暇の時に念を入れて早桶を一つ造らへ、お前さんに遺品代りに上げやう 五「どうしまして、そんなものは要りません、鶴龜々々、初春早々そんな事を云つて下さるな、どうぞ縁起直しに屠蘇でも祝つて歸つて下さい 四「ナニ屠蘇なぞは宜いよ、今私は好い心地になつてるんだから……それぢやお前が氣にするから、縁起を直して祝つて歸らう 五「それは有難い、どうぞ縁起を直して下さい 四「ジヤランボローン、カーン、チリーンと來るだらう、そーれつら〳〵惟んみるにだ── 五「驚いたね、初春早々引導を渡されては困るよ」四「アハ……、アー、好い心持になつた、エーツ、ブーツ、それでは、又近々、冥途でお目に懸りませう、ハイ、左樣なら……」五「何だいアノ人は、人の氣に逆らふことばかり云つて喜んでゐる 番「あゝいふ人が能くあるものでございます、嘸お心持がお惡いでございませう 五「ア、厭な心持ちになつた、オ、丁度船屋が來た、寶船でも買つて、縁起を直しませう、早く船屋を呼んでお呉れ 番「「オイ〳〵船屋さん〳〵 船「ヘエ」番「船を一枚おくれ」船「ヘエ」五「一枚幾らだね」船「四文でございます」五「十枚は 船「四十文でございます」五「百枚は「四百でございます」五「何處までも四の字に縁が切れませんね、止しませう」船「ナニツ」五「「止しませう、しぬ、しくじる、しじうしそんじるなどと云つて、しの字は誠に縁起の惡いものだから止めます」船「旦那、ぢやアお前さんはひやかしかえ」五「イヤひやかしといふ譯ではないが、お前の言ひ草が氣に入らないから買はないといふのだ」船「馬鹿にすんな、俺棒め、去年といふ年は、惡いことばかり續きやがつて、嬶には死なれ、子供は麻疹の上りに疱瘡、縁起直しに友達が寶船でも買つたら宜からうといふから、その氣になつて賣りに出た、今日明けだといふのに、ケチを附けられちやア、今年も碌なことはねえや、覺てやがれ、近々に來て汝えの所の廂で首を縊るからさう思つてろ」五「ア、厭なことをいふ、鶴龜〳〵」番頭さんが幾らか持たして船屋を歸して終ふ 五「縁起直しに好い船を買つて、初夢でも見たいものだ」と主人はブツ〳〵云つて居るから、ソツと家を抜け出して四角で待つてゐる處へ、威勢の好い船屋が 船「寶船〳〵、お寶お寶〳〵 番「船屋さん」船「ヘエ」番「此の先に伊勢屋といふ吳服屋があるがね、誠に旦那が物を氣にする性分だが船は一枚幾らだえ」船「四文でございます」番「四文ぢやアいけない、よもんと云つてお呉れ」船「畏まりました、お氣になさる旦那樣なら、すべてお目出度づくめに致しませう」番「さうかい、ぢやア何分賴みます」番頭がスツカリ船屋へ吹き込んで、自分はさきに店へ歸つて居ると、船「お寶〳〵、サア大當り〳〵、大當りのお寶〳〵、縁起の好い寶船でござい」五「オヤ大層威勢の好い船屋が來ました、船を買ひませう、呼んで下さい」番「畏まりました」オイ船屋さん〳〵 船「ヘイ〳〵」五「船を買ひたい、一枚幾らだえ」船「一枚よもんでございます」五「よもんは嬉しいね、どの位あるな」船「ヘエ、旦那樣のお年の數ほどございます」五「有難いな、私の歳を人に買はれて終ふのは縁起が惡いから、殘らず買ひませう」船「有難う存じます、大寶でございます」五「ナニ大寶、寶々氣に入つた、好い心持ちだ、此方へお入り」船「有難う存じます、愈々寶船の舞込みでございます」五「成程、一々いふ事が嬉しいね、餘り縁起が好いから船屋さん、お前に一口屠蘇を上やう」船「ヘエどうも有難う存じます」五「お前さんは何かい、お住ゐは何方だね」船「ヘエ、私の住つて居ります所は、日本橋の金吹町」五「縁起が宜いな、此の次にお訪ね申すよ」船「イエそれから越しました」五「オヤ〳〵何方へお越しだ」船「淺草の壽町へ」五「成程、壽といふ字は壽命の壽の字で縁起が宜いな、ぢやア今度觀音樣へでも參詣に行つた時にお訪ね申すよ」船「それから都合で又越しました」五「大層越して歩きなさるな、何方へ」船「本所の千歳町へ越しました」五「千歳町へ、千歳の松など云つて、是れも縁起が宜いな、本所の千歳町と云へば大して遠くもなし、その内にお訪ね申すよ」船「夫れから又都合で越しました」五「能く越して歩きなさるな、何處へ越しなすつた」船「淺草の福井町で」五「成程福は誠に縁起が宜いものだ、その內にお訪ね申さう、誠に威勢の宜い船屋さんだから、一口上げたいと思ふが此方へ昇つて御飯でも食べて緩くりお歸り」船「どうも旦那有難う存じます、私はもう殘らず寶をお宅に置いて參るのでございますから、緩くりと頂戴致します」五「寶を殘らず置いて行くなどは嬉しかつたね、サア〳〵一杯やつて下さい、大分いけさうだね」船「ヘエ、モウいけるどころぢやアございません、正覺坊で、幾らでも頂戴致します」五「正覺坊は宜いね、オイ〳〵辛い方を持つておいでよ……サア〳〵遠慮なくやつて下さい」船「どうも御馳走樣で有難う存じます……旦那これはどうも豪儀ですな、結構なお重詰めで、牛蒡さん、乾鯷に御成人といふのは如何で」五「成程、洒落が宜いな、牛蒡さん、乾鯷に御成人は嬉しいね」船「數の子などは數々目出度い」五「成程、宜いね、サア〳〵ゆつくりやつておくれ」船「千龜さんは三十に……オツと危ねえ、イエナニ、益々御目出度うございます」五「イヤ誠に好い心持ちや、サア〳〵遠慮なくやつてお呉れよ」船「有難う存じます、お目出度うございます、今一寸彼處へ何でございますか、奥からお顏をお出しになりましたのは御當家のお孃樣でございますか」五「ア、私の娘だよ」船「お美しい方ですな、まるでどうも辨天樣のやうでげすな」五「有難いね、娘を辨天とは嬉しいぢやアないか、オイ〳〵、紙入れを出してお呉れ……是は孃の辨天賃だよ」船「どうも有難う存じます、恐れ入ります、貴方のにこやかた所はどうしても惠比須樣のやうでございますな」五「惠比須は有難いね商人が惠比須に似て居れば、こんな結構な事はない」船「それで御當家は七福神でございます」五「エ、船屋さん、一寸御待ちよ、孃が辨天、私が惠比須、それぢやア二福ではないか」船「イエお商賣が吳服(五福)屋さんでございます。──(終り)──



賀正

營口

(順序不同)

牛莊領事 荒川充雄
營口地方事務所長 永尾龍三
營口水道電氣會社長 商業會議所會頭 加賀種二
正金銀行支店長 伊原平之助
朝鮮銀行支店長 大串盛多
三井物産會社支店長 廣岡郁次郎
振興銀行專務 石田禬助
東亞煙草製造所長 商業會議所副會頭 有福和一
商業會議所書記長 吉田文作
輸入組合理事 佐々木正章
地方事務所外事係 川島梅吉
國際運輸營口支店長 上田正喜
航運會社專務 奥村秀次
古川醫院主 古川米吉
東和公司 三島輝善
在鄉軍人分會長 池田桑作
營口郵便局長 田瀬一太郎
營口電話局長 山本太三郎
營口商業學校長 實業補習所長 二田村源次
營口小學校長 神山一二三

東亞煙草營口製造所 (イロハ順)
片岡慶二
竹本德身
塚本理作
上田新次郎
菊野五七
鈴木重男

營口印刷株式會社

煙草製造販賣 株式會社 中和公司 電話⑤五四五番

營口 水道電氣株式會社
材木商 平岡組
和洋雜貨 營口 平本洋行 電話⑤二九番
營口 ㊀乃美吳服店 電話四五番
營口新市街 元田齒科醫院
營口 運送業組合
營口 東瀛大藥房
營口石炭商組合
營口 回天堂大藥房
天泰公司 井上愼吾 電話七七番
丸美屋洋服店 電話一一七五番
營口海運合資會社
營口 盛興號支店
土木建築請負 諸金物商 山住洋行 電話三七番
御菓子司 長崎カステラ 營口 榮德軒 電話八八八番
貴金屬 時計商 營口 近江洋行本店 電話⑤二〇七番
食料雜貨 三井商店 電話一七番

食料品雜貨 岩田商店
食料雜貨 營口 羽村洋行 電話七番
印刷業 尾崎洋行 電話二三四番
文房具及印刷業 大鹽洋行 電話一二八番
營口 辻吳服店 電話一〇四番
世帶道具 和洋雜貨 熊谷商店 電話一三〇番
御菓子 山內堂
兩替 藥種 丸目洋行
高等百貨 重田屋商店 電話一六番
御旅館 清林館
御料理 仕出し 瓊の家 電話七二番
營口簡易食堂 御料理 仕出し 城山勝次郎 電話九〇七番

營口料理屋組合
武藏野
松月
芙蓉樓
濱の家
品川館
大福樓

賀正

鐵嶺

磯谷新吉

岩永唯一

荻尾開造

橋本勝藏

馬場音次

德本延藏

大内佐藏

松崎義造

辻五郎

根上藤五郎

田中鶴太郎

永田平介

宗石昂

樺太親吉

寒中に付年賀缺禮仕候　小林朝進

青柳亮

紀藤義也

下山恭次郎

白髮隆孫

藻寄準次郎

領事　近藤信一
書記生　土屋波平
書記生　木村朝一

鐵嶺尋常高等小學校職員一同

鐵嶺滿鐵醫院　醫學博士　小野健治
植島秀人
成瀨俊夫
大西三郎
脇獻七郎
脇政助
松岡市兵衛

鐵嶺在郷軍人分會長　赤堀眞一郎
鐵嶺育英學校長　大西菊治
居留民會議員　久米谷忠太
滿鐵圖書館長　東海林太郎
滿洲日報支局長　本多正

お正月の御寫眞は　永清寫眞館　松島町　電話四四番

最新流行の魁　中瀨呉服店　松島町　電話一四〇番

和洋食料品雜貨　藝陽商行　松島町　電話二八七番

陸軍御用達　安宅菓子店　附屬地　電話三〇七番

和洋食料品雜貨　力武商店　松島町　電話一四七番

流行新柄陳列　山本呉服店　電話二〇六番

技術優秀　八千代寫眞館　松島町

鐵嶺城内　綿糸布貿易商　永泰洋行　電話七八番

鐵嶺特產物組合

事務所　鐵嶺商業會議所内

組合員（いろは順）

- 松島町　橋本洋行　電話八六番
- 北五條通　細川商店　電話六二番
- 北五條通　德成泰　電話二〇五番
- 北三條通　大矢組株式會社　電話一一三番
- 北五條通　大成號　電話一七九番
- 花園町　河村商店　電話一三三番
- 北五條通　柿本商店　電話二五九番
- 北五條通　泰合油房
- 敷島町　能地商店　電話一五二番
- 元町　深尾洋行鐵嶺支店　電話二五三番
- 北五條通　弘泰洋行　電話一三四番
- 元町　權太商店　電話二七番
- 北五條通　澤井洋行　電話二三三番
- 北五條通　昌和洋行　電話二〇五番
- 朝日町　聚興洋行　電話一七八番
- [illegible]町　末吉洋行　電話二四五番

鐵嶺城裡　株式會社　日華銀行　電話　日局八八番・八〇番　中二五五番

本店鐵嶺　大矢組株式會社　支店　大連、旅順、奉天、海城、遼陽、公主嶺

鐵嶺電燈局

本田株式店　電話六五番

鐵嶺驛前　食道樂　若竹　電話一二四番

滿鐵御用達　小野洗布所　電話一七二番

和洋品雜貨　鹽田洋行　電話五八番

鐵嶺驛前　鯉淵洋服店　電話三〇一番

合資會社　千葉印刷所　電話一二一番

櫻町　旭屋洋服店　電話二五五番

松島町　共進商會　電話五番

產婆　富樫よしの　電話四三番

御料理　叶家　電話一五七番

文房具店　大和屋　電話一四四番

和洋御料理　カナリヤ　櫻町　電話一五九番

石炭商　旭號　小山仙治　電話一〇二番

井上洋行　特產物商　中野嘉一　新臺子附屬地　電話二九番

河村商店　特產物商　藪下賴二　新臺子吉野町　電話一五番　電略（カ）又ハ（カワ）

陸軍御用達　吉見洋行　電話六八番

農場部

石炭組合
怡信洋行　電話四八番
怡泰號　電話一六二番
三盛商會　電話一三八番

鐵嶺驛前　國際運輸株式會社支店　電話五二番

滿鐵陸軍指定御旅館　松花ホテル　電話一〇番

松花御料理部

松島町　松尾齒科醫院　松尾澄一

鐵嶺公會堂前　松田興行部　電話一五九番

滿洲日報販賣店　附屬地松島町　電話一四四番　居留地　電話一八六番

御料理　日東館　敷島町　電話二一九番

食道樂　あさひ　電話一二番

御料理　萬安樓　電話四九番

石黒茂

御料理　幸樓　北五條通　電話四四番

御料理　由良之助　電話一五六番

御料理　鐵嶺ホテル　電話二九番

賀正
鞍山

鞍山製鐵所
千秋寛
久留島秀三郎
梅根常三郎
矢野耕治

鞍山笑和會（順序不同）
林清勝
久留島秀三郎
岡田與作
志村重二
間野山松
太田實
堀礒右衛門
税所壯吉
田中稔
植田繁三
矢澤邦彥
日向新
青木咲吉
武田政次
加藤政人

喪中に付年賀缺禮
久下沼英

財團法人 滿洲土木建築業協會鞍山支部　電話四番

南滿洲電氣株式會社 鞍山支店　一五・五三番

滿洲興業株式會社　電話五五・四二二番

鞍山不動産信託株式會社　電話六六・二〇一番

株式會社 正隆銀行鞍山支店　電話一三四番

株式會社 滿洲銀行鞍山支店　電話六七番

吉川組出張所　電話二三九番

鞍山輸入組合　電話六一番　理事 阪元藤三郎

やまき呉服店　電話二一三・三六番

大惠商店　電話一二六番

〇國洋行　電話二二三番

片岡鐵工所　電話一〇八番

大盛堂書店　電話二四〇番

永井自轉車商會　電話四三八番

小原洋行　電話三〇九番

鞍山石炭共同販賣所　電話四七番

近江屋ホテル　電話三二八番

德昌公司　電話一七・一五二番

演藝館　電話二七〇番

金城商會　電話二九番

叶井商會　電話六五番

消費組合主事 町田烈

區長 盛佐太郎

區長 崎山英武

區長 片岡對吉

區長 門井甕

地方委員副議長 石川義助

太平號

地方委員 加藤弼

住吉長平

立山驛長 桐ケ谷德之助

病氣中に付年賀缺禮 末宗繁市

原洋品店　電話二五六番

協信洋行　電話一四九番

渥美病院　電話四一二番

石川病院　電話七三番

三好號　電話一一七番

田邊齒科醫院　電話二〇七番

丸河商店

日ノ出商會 高橋雄造

和洋御料理 月夜　電話一五二番

濱田樂器店　電話一三六番

近江洋行茶店　電話二七八番

那古屋洋行　電話三六七番

野田洋品店　電話三五七番

鞍山タクシー 双輪舍　電話三三八番

滿洲購買組合　電話五四番

美志滿屋呉服店　電話七八番

高橋勳一

大福商店

菊水堂　電話一一九番

北本靴店　電話三〇六番

御料理 橘家　電話一二五・三五五番

御料理 一樂　電話一二七・一七五番

喪中缺禮 開福　電話三〇番

日本人豆腐商 岩見屋

御料理 明月　電話四四七番

食道樂 末廣　電話七二番

割烹店 銀蝶　電話一二一番

扇屋旅館　電話一四〇番

支那料理 〇本　電話三四一番

志甫他吉

食道樂 三河屋　電話三〇一番

木澤一心堂　電話四〇一番

食道樂 鹿兒島屋　電話三四九番

金城洋服店　電話三三五番

鞍山葬儀舍　電話一三番

平井德次　電話四五七番

雨蓮舍　電話一二四番

肉より靈へ

山田武吉

明治の王政維新前後における時代の動きは、尊王攘夷が轉じて開國進取となり、その維新開國後となるや、攘夷が尊夷となり、そして一時は甚だしい歐洲崇拜時代を現じた。伊藤博文公が鹿鳴館でダンスを開催した折がその絶頂時であると言はれ、珠算を捨てゝしまへの、漢學を廢止しろの、と云はれたのも此時である。今日はそれ程でもないがその情勢は現時に至るもなほ保たれてゐる。

◇

歐洲大戰後における世界的形勢の變化は、歐洲崇拜熱を減殺したが、その代りにアメリカ崇拜熱を昂上せしめた。一時は四十度以上といふ素晴らしい熱度を見せた。モボ、モガはその産物で、それがハイカラの代表的なものとなり、大正時代前後に流行したカイゼル髭は、鼻の下に有るか無しかのチャプリン髭と代り、ロイド眼鏡が大流行といふ狀態である。之をアメリカニズムと言ふさうだ。ロシアがマルキシズムに依りて革命されると、マルクスの資本論が模倣追隨是れ事とするハイカラ的新人の憧憬の的となり、その譯書とそれに關係ある書籍とが出版界を賑はしたが、これも流行を追ふ一ツの熱であつた。

◇

マルクスの科學的社會主義が青年間に持囃されるのは、由つて來るところありで、固より單なる流行と見るべきものでは無いが、やはり一種の流行熱であつたのは爭へない。斯くして昭和の現代は年を重ぬること四年となつてもアメリカニズムとマルキシズムとが依然繁昌ぶりを示して居るが、併しこの間にも多少反省の氣味がないでもない。日本主義が叫ばれ、日本固有の國體、民性、歴史についての議論が旺盛となつたのは、その一兆であると言へやう。國粹主義者の多くは時代の推移と人心の歸嚮を知らず、その結果、近代人の心を攬り得ないが、今や外國崇拜と猢語猴冠の非なることは漸く一般的に認められ來り、天の一角に微茫として曙光の輝くが如き心地する。この機會において、吾々日本人は物質と機械とより成る現代文明より蟬脫し、以て更生一番すべきであらうと思ふ。

◇

思想を生命として創造發展するのがクルツール、物質と機械が主となつて人間が從となるのがシヴリゼーション、といふ風に自分は解釋してゐるが、現代の文明なるものはその役者であらねばならぬ。時代の動きは波の如く起伏するもので、之を外國の例に徵すれば、ギリシアのクルツール時代からローマのシヴリゼーションに移り、中世紀に至つてまたクルツールの元に還り、近代に入つて更にシヴリゼーションとなつた、と言へるだらう。今日の謂ゆる文化生活なるものは、物質生活の別名詞で、人間生活の機械化、肉慾的享樂生活、生活の非人格化に外ならぬ。斯うした生活が一般に行はれる樣になつたのは、物質と機械とが主力となつてゐる現代のシヴリゼーションの強い力のためで、多くの者はその支配を受けてゐるのである。

◇

詩が滅びた、哲學が亡びた、宗教もまた滅びた、有るものはその形骸で、靈なき屍である。それが現代の世相で、大義と士道を尚び來つた日本までが斯うした世相になつたのは、前に述べた通り、攘夷が尊夷となり、歐洲崇拜よりアメリカ崇拜に移り行き、モガやモボが持囃され、味噌も糞も一緒たに取入れて模倣追隨と猢語猴冠をこれ事としたからである。採長補短の必要は勿論で、我國は上古皇朝時代よりそれに依つて國運民命を日に日に新にまた日に新にして來たのであるから、歐米文明の長所たる科學の粹は今後もこれを受入れねばならないが、科學を基礎とする物質と機械のシヴリゼーションに餘りに陶醉した結果、大義と士道を忘れ、生命の中心たる人格を忘れ、政治、經濟、社會その他の事が道德と一致しない樣になつたのである。眞善美の本體たる靈の創造的衝動より成るところの詩が滅び、哲學が亡び、宗教が滅びたのは偶然でない。」

◇

人間は勿論、他の生物も、靈肉相待つて生きて居るのであるが、現代人の多くは肉の生活に重きを措き過ぎてゐる樣に思はれる。人はパンのみにて活きずと言つたキリストの言は、これを裏返して、人は靈のみにて生きずといふことになるも、現代の人々の多くは、肉的生活則全生活といふ謬見を抱いてゐる樣に見える。肉の糧に飢えた者に向ひ、その餓えつゝある肉の糧を與えないで、單に靈の糧を與えんとするの謬戻なるは勿論なれど、肉的飢餓者のみを生活難者と稱し、靈的饑餓者を生活難者とも何とも言はずに見逃がして居るのは、變なもので、これもシヴリゼーションの强烈な時代力に支配されてゐる結果であると觀るべきであらう。

◇

肉の生活に甚だしく饑えたものは、非凡人でない限り、その心を邪辟にするので、孟子をして「恒産なき者は恒心なし恒産なくして恒心あるは唯士のみ之を能くす」と言はしむるに至つたのである。千代萩の鶴千代君が「お腹が減つても饑じうない」と言つたのは、士のみ能くするところの武士の意地を言ひ表はしたもので、「武士は喰はねど高楊子」もまた同樣の意味のものであるが、肉的生活のいやが上にも苦しくなつて來た當今、生活の保障を得てゐた武士階級の滅びた今日、斯うした意地張や痩我慢を一般人に望むの無理な事は言ふまでもない事だ。併しながら現代人の多數は餘りに肉の生活に執着し過ぎると共に靈の生活に無頓着である樣に考へられる。肉の糧に飢えた者は餓鬼の如くに狂ひ廻り、肉の糧に飽いた者もまたその心を放辟邪肆にし、ブルジョアジーも、プロレタリアートも、相率ゐて孰も邪道に墮してゐると觀ることが出來るだらう。

◇

行詰まつた、何事も行詰まつた、と云ふ嘆聲が聞える樣になつたのは、右の如き生活の行詰まりを意味するものと解するを得べく、同時に、それはまた時代の行詰まりを意味するものと解して可からう。斯くして歐洲にもゴツトに還れ自然に還れといふ聲が起り、我國も今や漸く歐米崇拜の迷雲より醒めやうとして居るのであるが、それには眞ある人間を物質と機械の下積みにした科學文明より拔け出させ、回首一番、上下の人心をして我國固有の大義と士道に向けしめねばならぬ。世界切つての物質文明國といはるゝアメリカにも猶ほ當初の純眞なるピューリタンの精神は殘つて居り、印度その他の植民地に出稼ぎした人格喪失者たるスコアートルは兎に角、イギリスにも彼のゼントルマンの氣質が尚ほ失はれずに居るのであるから、士道の國たる日本、「天地正大氣、粹然鍾神洲」と藤田東湖によつて言明された日本は、この時代の轉換期に當り、靈を主とし肉を從とする眞實の文化國たるべく大いに努力せねばならぬ。

◇

花より團子、詩を作るよりも田を作れで、いつか世にも斯うした生活をする者が多いとすれば、經濟を一切の根幹としたマルクスの學說は、久米厚郎に次いで音樂までも非認した墨子の說と共に、それに多分の眞理が含まれてゐるのを否むわけには行かない。併し現代人は餘りに經濟的に從つて物質的になり過ぎてゐる。代々日本人は時代の轉換期に率先してこの弊を改めたいものである。

和歌

選外佳作（其一）

大連　楢本英子

一年を醫師もよばで過しつるかたじけなさをしみじみと思ふ

年明けて春にもならばおちつきて讀みたき本を讀ままく思ふ

新玉の年の始めに子供等ははやゝはにかみて辭儀なしにける

鐵嶺　小山暎雄

父母のみもとはなれて新玉の年をむかふるがはや四度なる

故ありてうとくなりゐし友に書く年賀狀は字をつゝしみにけり

長野市　小池眞澄

まづしくも部屋とゝのへて元日は屠蘇にゑひたり老父とわれと

鐵嶺　緋波

庭つ鳥あかときつぐる聲さへもあらたに聞かゆ年たつ今朝は

大連　まつみ

そのかみの友達は多くとつぎたり改姓のふみ數多とゞきぬ

香川縣　高木宏影

うぶすなの熊野神社の女夫杉今日新しく七五三飾りせり

老人も若人もなし歲分たぬ樂しさにはあれ年のはじめは

京城　石井邦武

學校の近くに住めばあら玉の年の始めの歌聞ゆなり

遼陽　伊與部笑壺

年は明けて二歲になれど去年の暮生れし吾子は未だ笑まなくに

大連　南城珍子

子供らの生ひ行くみれば己が年をくやしむ心[illegible]られにけり

大連　鈴木凍月

かすかなる光かなれど認め得て生くるうれしさは何と申さむ

鹿兒島　室屋韻二

貧しさを吾子には言はじ市に出で年玉を我あがなひにけり

さし昇る初日に向ひ祈るなり我あやまちの少かるべく

旅順　久保田愛米

雪分けつゝ吾兒と摘み來て若菁心新にけさ膳に食す

門松の葉影こまかく土に落ちて今日元日の暮るゝおしけれ

ひとむきに思ひつゝ來し老母や格子戸のうちにみ醉し給ふ

賀正

瓦房店

瓦房店地方事務所長　長井租平　外所員一同

瓦房店警察署長　清水激　外署員一同

瓦房店郵便局長　尾崎重樹

瓦房店機關區員一同

瓦房店驛員一同

瓦房店保線區員一同

瓦房店醫員一同

瓦房店列車區交友會

瓦房店檢車員一同

滿洲果樹組合

南滿洲煙草耕作組合

瓦房店滿鐵社員俱樂部

瓦房店婦人研究會

普復製粉私局長　鳥森

瓦房店　西區長　井上伊七郎　東區長　三瀬彌作

瓦房店　共榮號　森田彦三郎　電話一一番

瓦房店圖書館　主事　三浦由之助

瓦房店　小學校長　杵淵彌太郎

瓦房店地方委員（年齡順）
石丸幸作
小川政次郎
安藤榮次郎
松尾新藏
前田逸夫
金野光明
木村住造

瓦房店東區常盤街　瓦房店電燈株式會社　電話一七番　支店　熊岳城

瓦房店　公學堂長　福井優

シンガーミシン會社　瓦房店分店　市川浦治

御料理　筑紫館　電話一五一
照久金笑政金榮小外
三勇助丸勇蝶子勇同
仲居一之

瓦房店大厦街　運送業　新松尾新藏　電話七〇番

瓦房店新市街　巴商行支店　電話四五番

瓦房店新市場　支那料理　朝陽樓　電話四七番

瓦房店驛前　榮旅館　電話六九番

瓦房店東區　食料雜貨　天野商店　電話一一番

和洋菓子　滿壽屋　電話一二〇番

藥種商　高橋誠正堂　電話七九番

藥種賣藥、ペンキ　淺田商店　電話五八番

和洋雜貨明治生命　深草商店　電話三三番

高等寫眞　根本寫眞館　電話一〇九番

履物一切　森商店　瓦房店新市街

食料雜貨　島田商店　瓦房店新市街

瓦房店新市街　田中洋服店

白鶴白正宗　㊀商店　電話二六番

スター樂器店

和洋御料理　ヱベス食堂　電話一八番

普蘭店　松山館　石丸十作　電話七番

御料理　千鳥　電話三二番

滿鐵俱樂部食堂　槇戶喜一郎　電話一〇五番

學用品一切　白土宏文堂　電話一一〇番

普蘭店民政支署職員一同

普蘭店稅關監視所

小出洋行　小出英吉　電話四番

普蘭店　豐島醫院　豐島慶三　電話一二番

日本赤十字社普蘭店委員支部　今泉牛五郎

介辨業　和泉研　電話八番

三十里堡　果樹組合

普蘭店商務會長　王貴臣

代書業　狩野一二　平安街八二

普蘭店金融組合　尾股忠助

同仁街　土木建築請負業　新谷工務所　電話四一番

普蘭店福壽街　復州粘土窯業公司　電話三二番

北支那種苗農產公司　安東照　鈴木俊雄　電話一六番

普蘭店郵便局長　山根隆三

普蘭店驛長　福井十一

普蘭店小學校長　井神貞一

普蘭店公學堂長　高田九郎

大連新聞支局　藤沼長吉

滿洲日報販賣店　松崎林兵衛　橋政一　武知洋行　板橋喜久治

賀正

長春

長春領事 永井清

長春商工會議所 會頭 笠井保

長春取引所信託會社 專務 山中繁雄

吉敦鐵路局 田邊利男

國際運輸長春支店 支店長 釘宮松三郎

長春警察署長 中尾大次郎

長春郵便局長 岐部與平

長春取引所長 永原岩雄

長春地方事務所長 土肥顯

南滿電氣支店長 大浦力

長春 和登良吉

長春在鄉軍人分會長 四戸友太郎

長春輸入組合 理事 久末吉次

南滿洲電氣株式會社 長春支店

合資會社 松茂洋行

ジャパンツーリストビューロー 長春案內所 電話一三九三番

長春仁和洋行 瀨下金

長春蓬萊町 早川齒科醫院 早川俊男

聖德會長 赤羽一二

長春驛賣店 久保田金平

長春各學校長一同

長春郵便局課長一同

長春地方事務所各係長

滿鐵長春區長一同

長春驛長外主任一同

株式會社 長春倉庫

（滿洲製粉長春工場內）製粉・製麥 滿鮮企業合資會社 長春出張所 電話一二三四番

長春取引所信託株式會社

吉長鐵路管理局長 兼吉敦鐵路工程局局長 李端

長春警察署（イロハ順） 井上定弘 田中定治郎 田上乾吉 大場春吉 三上芳彥

長春取引所取引人組合

國際運輸株式會社 長春支店

長春工友會

長春旅館組合

長春料理店組合

長春石炭商組合

長春 加藤洋行

長春 東海起業株式會社

長春市場株式會社

吉林燐寸株式會社 長春支店

日清製油株式會社 出張員 清水壽

長春吉野町二丁目 合資會社 長春大和藥房

長春 仁和洋行

長春三笠町 北原紙店

長春日本橋通り 食料雜貨商 梶原洋行

長春日本橋通り 和洋百貨店 平本洋行

長春三笠町二丁目 藥種商 宮崎竹次郎

長春大和通四九 食料雜貨 三浦洋行 電話一五〇〇 六七四番

東支連絡驛賣店 峯下一郎

和洋雜貨 內外文具 書籍雜誌 商林洋行

富國徵兵保險相互會社 日清生命保險株式會社 長春代理店 南滿洲鐵道會社 警察署 憲兵隊 郵便局 御指定 滿洲日報長春營業部 富士屋旅館 館主 五味武太郎

長春東二條通 日鮮精米所 電話一二一九番

南滿瓦斯株式會社長春支店 河喜多英二

長春商工會議所 書記長 大垣鶴藏

長春興信所 清水末一

同仁醫院 市橋貞三

長春用達 石山商會

滿洲製油株式會社

長春 藤田與一郎

ライオン號 長春百貨店 赤木洋行

東二條通 西澤藥房

長春日本橋通 みしまや呉服店

長春吉野町 和洋雜貨 廣春洋行

長春吉野町 佐藤仁平洋服店

長春日本橋通り 東洋藥房

長春 金泰洋行

長春大和通 大葉商店

長春東一條通 竹島印刷所

長春千島町 三宅牧場

長春東二條通 花月軒

御樂三絃洋樂器一式 吉野屋樂器店 電一〇六八

東一條通 金城靴店

東二條通 濱木印刷所

長春吉野町 乾寫眞館

祝町二丁目 石田洋服店

長春三笠町 阿曾時計店

長春二條通 寶石堂

長春吉野町 森野商店

長春吉野町 ㊥洋行

長春富士町 蝶屋洗布所

新年所感

日本郵船株式會社 社長 白仁武

船舶經濟問題

歐洲大戰後茲に十年我海運界は時に一進一退あれ共之を概して尚未だ不況の域を脱しない此間終始內外船主の頭腦を惱ませる問題は如何に經濟的に船舶を建造運用すべきかの問題である、之が結果として燃料の消費、荷艙の利用、速力の增進等に於て最も經濟的なる內燃機船の建造熾なるは蓋し當然の次第であつて今日世界總船舶について汽船對內燃機船の噸數割合は約百分の十に達して之を大戰前の割合約千分の五に比較すれば實に霄壤の差である、尚最近世界建造中の船舶について見るも汽船三百廿九隻約百十四萬噸に對し內燃機船二百七十六隻百五十萬噸である。

由來石油燃料に惠まれざる我國の船主はこの經濟船の建造利用について已むなく愼重の態度を取らざるを得なかつたが今や「經濟船」經濟の要諦を識し右世界の趨勢に順應して近來この經濟船の建造に着手する船主漸增し目下主要會社の新造中若くは註文濟の船舶三十六隻の內二十三隻は內燃機船に屬するは同慶の至りである。

〔……〕榜する六萬噸級の建造に私かに着手したる如きは最も顯著なる事實である。

大戰後獨逸海運の復興最も目醒ましく昨年中一躍して伊佛兩國を凌駕し世界三番目の日本に殆ど迫らんとするに至つたことは特に注目に値する、其他獨逸の船舶は嶄新精鋭のもの比較的に多く十年未滿のものが六割餘（日本は約四割）を占め內燃機船は四十七萬八千噸（日本は十五萬七千噸）を算し世界各方面に勇躍して居る。又昨年五月制定の米國の新商船法はその目的、國防並に貿易の二大見地から民間海運業の獨立を確保せんとするに在るので造船貸付基金長期郵便航送契約及船舶徵發權の三要項を骨子となし船舶院總裁の聲明せる通り米國はこの新商船法の下に外國同業者に比しヨリ優秀なるヨリ快速なる船舶を續々建造せしめ政府の手厚き保護と國民の熱誠なる後援とによつて國際海運戰に必勝を期せんとするものである、卽ち新商船法の造船貸付基金を倍加して二億五千萬弗とし貸付金限度を造船原價の四分の三（從前三分の二）に增し貸付期間を二十年（從前十五年）に延ばし又利率を平均年三分（從前四分二厘五毛）に引下げたる如き如何に濃厚なる保護精神の充溢せるかを知るべきである、されば本法が俄然米國船主の造船熱を刺戟すると同時に豫て經營難を叫びつゝあつた米國造船業に一大光明を投じたことは固より當然であつて太平洋岸のダラー汽船會社外八會社は逸早く無慮三十四隻の大々的新造計畫を發表したのも偶然ではない、之が影響として海運競爭の上に最も脅威を被るものは申す迄もなく我が國の當業者であらねばならぬと思ふ。

我海運現狀と我社の期待

日本の海運は量に於て世界の三番目なるも質に於ては六番目に下らねばならぬのである、從つて我が海運の前途は船質の改善を以て急務とせねばならぬこと亦當然である。

昨年中我國の新造船は十餘萬噸に上り且年末工事中の新船も亦約三十隻十萬噸以上あるから、この船質改善の希望は着々達せられるであらうが、斯る現象は果して永續性ありや否や海運市況の實際から觀て甚だ氣遣はしく考へられるのである。

蓋し我國の海運界には造船難、燃料難、金融難といふ傳來の缺陷があるのみならず昨年中は海上勞働問題が特に深刻味を加へ、又賃銀の增額、海上保險料の値上船員保險の施行案などの爲め尠からぬセンセーションを惹起したが、一面に於て運賃市場は尚財界の不安、船腹の過剩、支那問題の紛糾等のため概して引立たなかつたので多數の船主は相變らず經營難の下に呻吟したのである。而して斯かる局面の轉回せざる限り海運界の實質的復興は當分之を實現すること至難と思はれる。

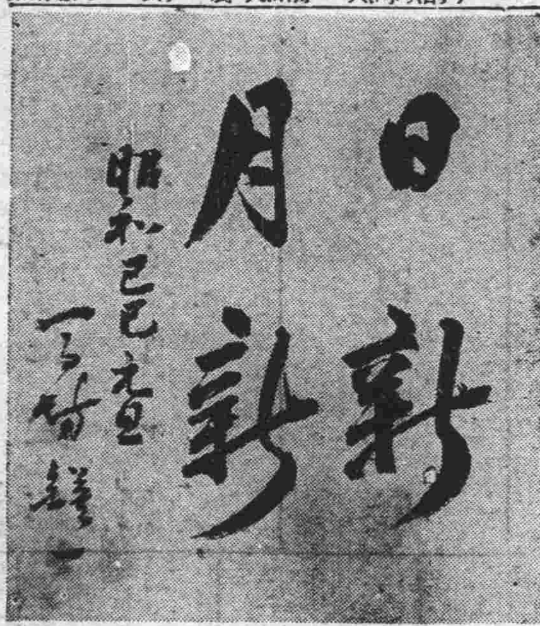
我郵船會社は此の間に處し昨年一昨年に跨がつて六千萬圓の社債を募集し新造船計畫の實行に着手したのであるが、目下この計畫の下に工事中のもの九隻（桑港線三隻、沙市線三隻、歐洲線二隻、南米線一隻）通計十一萬餘噸に上る。この內桑港線用優秀客船の第一船淺間丸は昨年十月既に進水を了し、向後續々竣工して明五年秋期までには全船竣工を告げて夫々就航する筈である。是等の新鋭は構造上經濟と效力の權衡に最も注意したから、その用途先に於て如何に强敵に出逢つても克く勝ちを制して我社公私の使命を果す上に頗る人意を强うすべきものがあると信ずる。」

大船高速主義復活と

獨米船の活躍

勸銀總裁 馬場鍈一氏筆

昨年中世界海運界に於て刮目すべき特徴は大船高速、主義の復活である。この主義は世界客船の爭霸戰に伴ふ自然の結果であつて大戰前には大西洋航海のブリユー、リボンを目標として久しく英獨兩國船の間に鬪明されたが端なく大戰亂の障礙に遭ふて一時この主義は停頓の狀態に在つたのである。然るに近來歐米間旅客貿易の復興につれてこの主義は復活し來り、殊に昨年八月北獨ロイドが四萬八千噸二十六節の大客船二隻を進水し又英國の白星線が世界第一を標



妻に對する言葉

新妻伊都子

（一）

ある夕べ、ある忘年會の席上で三上於菟吉氏が「女達かとやかくと自己の權利を主張するが、それは男を養ふようになつてからでなくてはだめだ」と一矢を私共の方へむけて來た。これに對して種々女性側から意見は出たが、今、私はその記錄をこゝへ寫さうとするのではなく、たゞ「夫婦間に——共同生活でも同じ——養ふ、養はれる」と云ふ言葉が氣にかゝるので、此言葉を中心として私考を述べてみたいと思ふ。

此「養ふ」と云ふ言葉の定義から下せば、或者が生活費を稼いできて、他の無能力な者を生活させてゆく、と云ふので、卽ち、老人小兒、不具者、病人の場合は養はるべき位置にあるが、在來の如く妻まで、其中に入れておかれたのは不當なことではなかつたらうか。

（二）

はたして妻は夫から養はれると云はれねばならぬ程無能力なものであらうか、まづさきに、妻からを解剖してみたいと思ふ。

有產階級の或る種の妻は、子を生むことを知つても、鷲の親と同樣、育てることを知らず、一家の主婦としても、家庭經濟など何のことやら分らぬ婦人は、全く不具者と同じであるから「養はれ」て居るものであらう。然し社會の大半を占めて居る無產者の妻は、生產者の夫に對して、何うしてもよき消費者とならねばならぬように出來て居る。事實の上に於ては、娼婦と同じように、媚だけを夫に呈し、誤魔化した生活をして居る妻もないとは云へぬが、すべて妻の仕事は、よき子供を生み、よき子供を育て、家庭に於けるよき消費者であれば充分尊敬にたると思ふ。然し、私がこうした妻をいかに尊敬するにたると云つても法律上では妻は「扶養」されて居るものであり、貝原益軒の女大學ではないが「追出され恥を曝す」ものとされて居るのだからやりきれない。

（三）

妻として充分に仕事をしてすら養はれると云はれるのは、卽ち生產側に女性がたゝなかつた爲に、男性の支配下におかれるようになつたのである。であるから、職業婦人の現出も、勿論大きな原因は社會組織の缺陷から起るのではあるが、男性の支配下から逃れる爲に、働くと云ふものも出て來たに違ひない。なかには、子供など生むものは馬鹿だとさへ云つて居るモガもある。相當な權利の主張から、反抗にまで向ひつゝある。

で最初に返るが、男女何れにもせよ「養ふ、養はれる」と云ふ言葉は、云ひ換れば「支配する、支配される」と云ふことで、平等な人間同志の家庭では使用すべきものではないと思ふ。養はねばならぬような妻をもつた夫は不幸であり、養はれて居るような夫があるとすれば、子供を生む資格さへ持たぬだけ、女性以下におくべきものであらねばなるまい。

繪畫上の滿洲管見

於川龍人

◇

大典直後の落ちついた正月を滿洲で迎える事になりました。私は大連へ來ました。美しく晴れた日公園へやつて來ました、青い空へ黑い神經の樣な梢を持つた木々が突き出て居りました。よく保存された並木道は冷々として直線的でアカシヤの幹は直截に近代生活をしてゐる大連人に當嵌つて迫つて居ます、ウス霧に鎖された內地には江戶版畫の情趣か必要であり、滿洲の美しさは夫自身の產む獨特なる表現を要する事でせう。なだらかな小丘に建てつらねられた新しき家並の數々も追々統一ある美しさに向つて進むるだらうと思ふ日本を離れて來た同胞か先づ滿洲へ來て何を考へ、何を產む事に努力するだらう。その生活、精神的安定に內地で育つた藝術品をその儘滿洲にうつす事よりも滿洲の產んだ美を直截にして線の太きヅルーム藏の彫刻の樣にあるものを掘り當て度い。この間滿洲の或る繪畫展を拜見に行きました。其處には內地の目まぐるしき美術界の潮流の分野を見ました。輕快な流行も見ました。夫等のものは吾々に何を語る事が出來たか。吾々は滿洲の景色を單にかいても滿洲の產むだ繪畫としては受け入れられない土地の產むだ生活の明かに反映したものを望みます。私は滿洲人形か何かの變り種の一ツ二ツを望むで居ました。

◇

私は先づ五龍山の赤く夕やけした健康に接しました。それから、坦々とした平原のはてしなくて地平の一線に依つて天と連なるところ黑衣の點々が人である事が判りました。私は此等を畫にすることを知らない。支那人が光琳を知らない事も判ります、光琳の畫の必要もないと同樣、內地の人々は淸末の四王の畫の必要ない。斯の如き意味に於て滿洲夫自身創作の手をやめてはならない、其處に生活の意義か滲められる。

◇

野に働く支那人の風俗は遠距離に於て明快、近づけば永き傳來のしつけをよくまもりたる、而して又要領を得ないヒネコビた線に圍まれた服裝が澁い變な味を感じさせる、二三間も距たれば恐らく簡潔に要領を得た事に驚く。近代日本人の服裝も生活樣式も夫自身はちつとも美しさがない。あたかも明治大正時代の工藝品の樣に。江戶時代の風俗も或は小なる形式の浮世繪以外に移す事が出來ないかも知れない。支那人の着物も三年五年の目に馴れると興味を惹く何物もなくなるかも知れない、それは傳來の型以外に一個一個の閃きに缺くる所以だ。假に平面に繪卷物の樣に橫へ橫へ長い現代支那人の風俗卷を完成することは難しい事だらうと思ふ。服裝よりも何よりも最も滿洲生活を豐富にする支那系の多くの陶磁器あるのはうれしい。最早昔日完成されて滅びた一點のすきなき過去の藝術乍らまざ／＼吾々に語つて與れる目新しき領域は澤山にある。纖弱と意識なき格なき工藝に向つて强い一千年前の警鐘を打ち鳴らして近代人に迫つて來る。滿洲の多くの覺醒された人々は內地の茶湯式觀賞を排すだらう。而して椅子、コーヒー茶碗、壁紙にも滿洲式を創り出すだらう。

◇

多の滿洲は最も室內の明るさと生活の基本となる可き調度に工夫をこらす可きだ。夫は階級の如何に係はらずしてよき洗鍊を條件とすること勿論である。室の周圍の物が自分によびかける言葉といふものは知らず知らずに恐ろしい感化をあたへるイミテーションで裝飾する人はイミテーションが矛盾でなくなる、それはおそろしい力だ。內地の樣に複雜なる外界の交錯の裡に生活するのとは異り、ことに結氷した空を窓外にながめて不斷室といふものから出る事少い此土地には餘程の慰安になり生々しい生命を見せつけるものがなくては叶はない筈である。滿洲では總ての藝術品が功利的に直接に働かなくてはならない。

◇

私は滿洲の建築の專門的樣式を知らないエトランゼに過ぎない。しかし繪になり相な種々相を見たことに小丘の線の長きものゝ斜面に氣儘な格好をした建築物は錆を洗ひ落した樣な壁と煙突の有線等によつて最も近代風な味を出してゐるものが澤山ある。さういふ家に上る赭色の道には必ず黑藍の點景人物が添はつてゐる。これはおそらくどこにも見ることの出來ない風景だらう、其處には滿洲らしさの曰ふに曰れぬガッシリした落ち附きを見せてゐる。矢張り滿洲には滿洲の建築が自然に出來上り人々を感化する事になるだらう

◇

最近滿鐵に於て松方氏の繪畫の一部分を買收する計畫ありとかきく。滿洲もめぐまれる事になる。人々は滿洲のことに多掬の荒廢を語る。けれ共其處にもひそむ憂愁といつた樣な美しさを知らなくてはならない。一時に花開き一時に落葉する滿洲の風土が同胞の創造性の上に如何に變化あるものを確立するか興味ある問題である。其時廣い樂土が出來上るわけである。



賀正



遼陽

遼陽領事代理 吉井秀男
遼陽警察署長 武波善治
遼陽衛戍病院長 田川精三郎
遼陽憲兵分隊長 古岳新治
遼陽郵便局長 福永高介
遼陽工場長 田島豐治
遼陽機關區長 福田又司
遼陽驛長 田中幸英
遼陽保線區長 川村一治
遼陽醫院長 白鳥文雄
遼陽地方委員會議長 生田友次郎
遼陽地方委員會副議長 古庄重一
遼陽居留民會長 林禮吉
遼陽在鄉軍人分會長 西正之
滿洲紡績會社專務取締役 玉木德次郎
遼陽實業會長 萩岡彌次郎
遼陽輸入組合理事 早瀬賴二
遼陽神社 平井利雄
遼陽第一區長 村井常吉
同 第二區長 山下德太郎
同 第三區長 西田爲次郎
同 第四區長 岩永安馬

土木請負 矢野薰 遼陽修家大街 大連市壽島町
旅館 遼塔ホテル
やまき吳服店 本店 遼陽昭和通 支店 鞍山敷島町
特產物商 林禮吉商店 遼陽城內西街
遼陽電燈公司 總辦 于沖漢 支配人 中村信
特產物商 高木儀三郎商店 遼陽城內
遼陽西郊外 滿洲紡績株式會社
特產物商 合資會社 深尾洋行 遼陽城內
大矢組株式會社遼陽出張所 遼陽西關
特產物商 西田商店 遼陽東洋街
棉花貿易並に綿、布團製造販賣 遼陽合資會社滿蒙棉花
油屋旅館 電一六四番
遼陽驛構內食堂 遼塔軒 電一六五番

遼陽料理店組合一同
食料雜貨 坂口商店 電話二四三番
和洋雜貨 岡山商會
食料雜貨 眞柴商店 電話一〇八番
和洋雜貨 北原洋行 電話二一七番
遼陽貨物運輸合資會社
建築請負 網島嘉平
和洋雜貨・食料品 石川洋行 電話六五番
藥種・賣藥 安達藥房 電話一六七番
食料雜貨 梶原洋行 電話二〇二番
遼陽福康裡 金聲書寓 翠卿班 會仙閣 慶祥書館 蓮香書館 蘭香閣 聚美仙寓 雲華書館 双寶書館 福康裡事務所
和洋菓子謹製 川上商行 電話七五番
建築請負 宮武市祐
遼陽飲食店組合一同
石炭 滿鐵遼陽販賣組合 泰平公司 電話二六〇番 大松號 電話一六二番 德隆號 電話一五六番 成昌號 電話一六〇番

賀正

旅順

關東長官 木下謙次郎
關東廳警務局長 藤岡兵一
關東廳內務局長 神田純一
關東廳高等官 食堂會員一同

關東軍司令官 村岡長太郎
關東軍司令部 高等官一同

旅順要塞司令官 山田勝康

旅順高等法院檢察官長 安岡靜四郎

關東廳旅順醫院長 山根正治

旅順婦人病院長 大槻滿次郎

旅順工科大學 高等官食堂一同

旅順市會議員 俱樂部員一同

旅順金融俱樂部

旅順民政署長 藤原鐵太郎

旅順市長 永山嘉一

步兵十五聯隊長 藤田進吉

旅順衛戍病院長 藤懸廣

旅順重砲兵大隊長 吉村文吉

旅順刑務所長 助川德輩

旅順療病院長 大津尙

須原坦

旅順醫院
耳鼻咽喉科部長 井波麟吉
眼科部長 宮下忠雄
小兒科部長 田中利雄
物療部長 加藤守吉
產婦人科部長 難波猛
出診部長 田上賴之

旅順第二中學校長 橫佩章吉
旅順高等女學校長 佐藤馬太
旅順師範學堂長代理 稻賀襄
旅順第一中學校長 平田芳亮

旅順警察署長 瀧慶藏

增田義道

西原

大津昇雲

旅順市嚴島町 製鹽業 矢原商會 矢原重吉 電話八一・一五一番

旅順市嚴島町 宅島商會 宅島猛雄 電話一〇三番

旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一一九番

旅順市八島町 石炭商 滿昌洋行 電話一六六番

旅順市乃木町三丁目 食料雜貨品 大島商店 電話一三八番

滿洲寫眞帖出版元 記念品御商 東京堂 乃木町三丁目 電話六一番

金太屋

吉村商會

村上信二商會

旅順市青葉町 深川齒科醫院 電話四七六番

旅順市敦賀町 塚澤齒科醫院 電話二四二番

旅順市乃木町三丁目 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町 舶來諸雜貨商 滋賀洋行 電話三七六番

旅順市乃木町三丁目 本田治三郎 電話二七七番

旅順市八島町 遼東病院 電話一四二番

旅順市青葉町四二 樋口寫眞館 電話四一七番

旅順市青葉町二 ㊂下村履物店 中西嘉七 電話三二五番

千代田生命保險相互會社代理店 石炭商 矢幡商會 入島町 電話三一・三〇六番

サクラ印サイダー、シトロン製造所 旅順櫻泉社 那須梅吉 電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

旅順市乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

旅順市乃木町三丁目 近江屋呉服店 電話七九番

旅順市敦賀町 製靴革類 阪本洋行 電話二六二番

岸本靴店

旅順市名古屋町一七 土木建築請負業 石井本一 電話一三八番

旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 築島組 電話三九七番

旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 本田與市 電話四一一番

旅順市乃木町二ノ一九 割烹商會 西田泰助 電話一四〇番

旅順市乃木町三丁目 大西商會 電話二五三番

旅順市金比羅町 トラスト製造元 タイヘンストーブ販賣 石井榮一 電話三七番

旅順市朝日町魚市場 ㊀井町商店 電話三三二番

旅順市乃木町三丁目 旅順無盡株式會社 電話二五一番

滿洲蠶絲株式會社

旅順市大津町一六 疊商 興石久作 電話三六〇番

旅順市敦賀町 表具商 原榮年堂 電話五三三番

旅順菓子同業組合

旅順質屋組合

青葉町 萬代號藥房 電四二八番
乃木町三 田中藥舖 電三三六番
青葉町 宮竹藥店 電一七〇番

乃木町 岩崎洋服店 電話三六四番
大迫町 高田洋服店 電話三九八番
乃木町 中山洋服店 電話三二九番
敦賀町 島村洋服店 電話一七九番

御旅館 寶來館 旅順市乃木町三(電五六番)
御旅館 防長館 旅順市青葉町(電二八二番)
御旅館 旅順ホテル 旅順市青葉町(電三六七番)
御旅館 福壽館 旅順市驛前(電四六〇番)

名古屋町 旅順檢番 電七一番 五九一番
乃木町 彌生 電三三七番
鮫島町 壽 電一六九番
青葉町 青葉 電一二一番
青葉町 君乃家 電四二六番
敦賀町 新花月 電二四二番
乃木町 瓢亭 電四九番

昭和園 內田興行部 電話二四番

乃木町三丁目 滿洲日報販賣店 遠洲屋 電話五三一番

旅順市青葉町 和洋雜貨 柳行李、バスケット製造販賣 外山洋行
(內外諸新聞販賣) 外山洋行新聞部

喪中に付年賀缺禮仕候
旅順市乃木町三丁目 自轉車及附屬品 田村商會支店 電話五一〇番

青葉町街燈聯合會 (イロハ順)
池田洋行 電話七四番
原田時計店
新見時計店 電話四八〇番
德商店 電話一〇九番
岡女庵 電話五〇三番
大阪屋號書店 電話三五一番
吉野羅紗店 電話一八六番
谷疊店 電話五八四番
高治洋行 電話八七番
山口商店 電話一九四番
やまこ軒 電話四九三番
中野日界堂
松崎紙店 電話一二番
文英堂書店 電話二〇三番
瑞章堂印房 電話六三番

旅順料理屋組合 (イロハ順)
奴すし 電話七六番
つぼみ 電話二八一番
吉野屋 電話四七八番
カフエーキムラ 電話六〇五番
福壽し 電話二六番
大阪や 電話二七八番
大迫屋 電話二八五番
松金 電話一三六番
すずめ 電話四〇九番
新更科 電話二五五番
千歳俱樂部 電話六二三番
伊勢屋 電話三三八番
日ノ出 電話五六六番
キング 電話三八一番
おかめ庵 電話五〇三番
柳川 電話二六六番
高橋 電話四四三番
大和軒 電話四九三番

旅順料理屋組合 (イロハ順)
西町 一力 電話一二〇番
同 蛤亭 電話二四七番
柳町 濱名館 電話六九番
西町 東洋軒 電話一〇八番
川端町 吉田屋 電話三一七番
同 旅島屋 電話一六三番
十年町 松葉 電話四三〇番
川端町 滿月樓 朝鮮料理
同 京城館 朝鮮料理
西町 榮福樓 電話三七〇番
同 吾妻樓 電話三八〇番
朝顔町 堺樓 朝鮮料理
西町 明月館 朝鮮料理
同 新萬歳 電話三二一番
川端町 笑福樓 電話二四三番
東町 春海館 朝鮮料理
川端町 昭和樓 朝鮮料理

(一)　第八千百三十號　(火曜日)　THE MANSHU NIPPO　昭和四年一月一日　(日刊)

滿洲日報



年頭の辭

歲華改まつて此に昭和四年の新春を迎へ、萬象咸清新に、神氣自ら爽澄なるものあり、先づ恭しく寶祚の無窮を壽ぎ奉り、我國運の隆昌を祈らんとす。

顧るに昨昭和三年は、今上陛下御即位てふ、我皇國の一大慶典行はせられ、擧國一致之に奉仕するの實を致し、我國體の精華を宇内に光被したといふ點に於いて、我國民が永く記念すべき年であつたことは、今更謂ふまでもない。而して内外の時局は、年初我等の豫測せる以上に多端であり、特に支那時局の變轉に伴ふ對支外交は極めて複雜且つ微妙の狀勢を示し、其の推移如何は啻に我政局の變動のみならず、國步の上に最も重大なる影響を及ぼすものとして、内外の注視は擧げて此に集中せられたる儘越年を見たのである。卽ち對支外交の展開如何、之が差當り今年に於いて我等に與へられたる中心命題でなければならぬ。

昨年の支那時局は更めて叙述するまでもなく、黨軍北伐奏功し、北方の舊勢力は忽然として其の影を潛め、歲晚に至つて靑天白日旗は東北各省にも飜へり、國民政府支那統一の覇業は此に第一段の成功を見た。然しながら其の間に於いて兵燹相踵ぎ無辜の良民は生命財產に危害を受け、行政未だ其の緒に就かず、國土は疲弊の極に達したるに加へて、兵匪蜂起して漢口、南京、濟南等の各地に、外國人の財產生命を傷害し、其の善後の措置は、國民政府の創業始政に伴ふ決權、稅權の回收、條約の改訂等の諸案件と倂せて對外折衝中に屬し新政府當事者の心勞察すべきものあるに、一方内部に於ける各種勢力の抗爭依然として舊態を離脫するに至らず、動もすれば戰雲復び長江沿岸を掩はんとし、裁兵歸農の施設未だ完からず、新政府の礎地の固定する、前途尙は遼遠の觀なきを得ない。各國の對支外交難の主因實に此に存すと謂ふべきである。

更に我が國策に關係の最も密接なる滿蒙方面を見るに、從來日本の經濟的施設を中心に、日支兩民族相融和し、協力して產業の開發福祉の增進に努め、支那本土累年の兵亂を外に全く別個の安易鄕たりし觀ありしに、昨春、東三省を本據とする北方政團の沒落に伴ひ、政變の波及を免れずして、從來の特殊地域たるの本義は、南方及び奉天の兩政團に依て殆ど無視せられ、滿蒙開發に對して甚大の犧牲を拂へる日本の努力は感謝の代りに怨嗟を以て報いられ、輕躁なる排日の氣風は漸次東三省にも瀰漫するに至らんとしてゐる。是れ我國として最も考慮すべき傾向でなければならぬ。

斯くの如くにして我國の對支外交は停頓し、我對支商權は脅威を受け、在滿邦人の前途行詰まりの聲を聽く。日支兩民族の融和と發展のために速に此の境地を打開するの途を講ずることが、兩國民共同の問題に他ならぬ。而も停頓といひ、行詰まりといひ、又總て是れ一の觀方に於ける比較的の用語に止まる。日支民族の前途は悠久である。我國家の存在は永遠である。永遠と悠久との前には、眞に一彈指の間にも如かない眼前の現象の如きは、或は深く意とするに足らぬかも知れない。素より過去の經緯と現在の事實は之を無視するわけには行かない。然しながら我等は時に高き見地に立つて永遠の將來に眼を蹝ぐ必要がある。卽ち今日を新なる出發點と擬て新なる努力をなし、新なる步みを開始する心持を有するに於いては所謂る「停頓」「行詰まり」必しも深く意とするに足らないであらう。否、寧ろ徒に眼前の功に喘いで、所謂る政治的解決を急がんとするとき却つて其の歸結の好ましからざるものある場合の多きを憂へるのである。繰返して曰ふ、日支兩民族の融和を基調とすべき兩國の關係は永遠である。對支問題は我日本民族の常に心すべき悠久の命題である。二三の政治家が手に唾して解決すべく餘りに重大であることを我等は痛感する。此の意味に於いて我國内の政治家が、對支問題を論議の中心とするは歡迎する處なるも、此の問題を以て或は政黨の離合集散の口實にし、或は政權爭奪の具に供せらるゝことを衷心より欲しない。我等は又當面の政治家に一切を委託して晏如たり得べきにあらず、我等自ら手を伸べて日支兩民族の融和を圖り、兩民族の將來のために深く圖る處なければならぬ。是れ昭和四年に於いて、我等に與へられたる重大使命であると確信する。

尊皇愛國の精神で不純思想に備へよ
光輝ある新年を迎へて
内閣總理大臣 男爵 田中義一

曠古の大禮は滯りなく濟まさせられ新に光輝ある年を迎ふるに方り謹みて上皇室の御繁榮を壽ぎ奉り下忠良なる國民の益々壯健ならんことを祈るものである。

顧みれば昨昭和三年は即位禮を中心として國民精神の最高潮に達した年であつた、近年動もすれば不純思想や頽廢的風潮の侵入に對して憂慮すべきものあるは爭はれぬところであつたが、大禮を中心として現示された尊皇愛國の精神は我國古有の美風が毅然として中外に輝き建國の精神の倍々高調せられつゝあることを證據立てたのである。

此の快心の事實が國民の希望を新にし其の愛國的活動を刺戟して彌々國家の隆盛を期待せしむるものであるは甚だ愉快である、併しながら茲にお互ひ國民の戒心を要するのは世界共通の不安である、不純思想は今後に於ても間隙に乘じて侵入せんと試みるであらう。之に備へるためには當局者の施設宜しきを得なければならぬのは勿論であるが、お互ひ國民としては大禮に際して示した愛國的精神を倍々發揮せしむることは更に緊要である。

以上の如き準備と心掛を基調として國民が協力一致するならば帝國の前途は洋々春の海の如く希望に輝き滿帆の風を孕んで昭和新政の理想に向つて船出するの感がある、現内閣成立以來の大使命であつた大禮は滯りなく濟ませられた、現内閣の政策的準備時代は無事に經過した。本昭和四年は何等後顧の憂ひなく一路昭和新政の具體化に向つて邁進すべき年であると確信して重大なる使命の前に責任を感ずるものである。茲に希望に滿ちた新年を迎ふるに際し所懷の一端を國民諸君に告げ相倶に帝國の前途を祝福し度いと思ふ。





内は同胞と協力し外は外人と融和
以て相互の福祉利益を增進せよ
滿鐵社長 山本条太郎

歲華茲に改まりて光明に輝き瑞祥に滿ちたる昭和四年の新年を迎へ天地一新日月光を增して實に感懷の言宣し得ざるものがある。一年の始め新春の期に際して自から心を新にして奮發興起し來日邁進の覺悟をなすといふとは何れの國、何れの歲も萬人の同じく感じて同じく力むることであるが我帝國國民は本年の歲首に於て殊に一種特別の生氣と活力の心膽に横溢するありて嬉々洋々春海の如き感に充ち希望と光明の溢るゝものあるは何故であらう、是れぞ誠に昨年十一月を以て聖上陛下が曠古未有の御盛儀を以て即位の大禮を行はせられ八千萬蒼生が神聖文武の聖帝を戴きて皇室の御繁榮と國運の隆昌を目のあたり仰ぎ奉れるに因れるなり、吾々國民たる者は此の目出たき大機運に際して大に奮鬪興起して國民の本分を盡くすべきである。

顧みて滿蒙の地域が日華兩國に密接の關係ありて其の開發經營は兩國親善の樞子となり國際上極めて重要の意義を有することは今更多言するまでもない惟々此の第一線に立ちて此間に活躍する吾々は平常如何なる覺悟と態度を取るべきか此の心得こそ實に將來結果の善惡、事功の成否に關する重大事と思ふ、これは外ではない、吾々は常に公明正大の心を以て共存共榮を理想と爲し國家を忘れず人道を思念し極めて着實に極めて堅忍に各々其の事に當り内は同胞の協力を固くし外は中華人及び其の他の外國人との融和を力め大なる努力を以て邁往直前すべきである、斯くして學術に思想に產業に此の地の開發文化を圖り天惠の利源に賴りて人爲の樂鄕を造り以て相互の福祉利益を增進すべきであると思ふ。

希望と光明に充ちて意義ある新年を迎へ愉快と慶祝に勝へず所懷を飾り無く吐露した次第である

年頭所感
滿鐵副社長 松岡洋右

私はこゝに光輝ありて意義ある昭和四年の新年を迎へて在滿二十萬の同胞諸君と共に昨年に繼いで復皇運の御長久を祝し奉り國運の安泰を祈ることは誠に感慨深くして又光榮のことゝ考へる次第である。

特に本年は昨年十一月今上天皇陛下御即位の大禮を行はせられ瑞氣祥雲津々浦々に滿ち盈ちて國民の胸裡には新たなる希望と光明が溢れ前途洋々として春海の如き感を爲し國光環球に輝き渡れる千古記念すべき御盛事後の御一開歲である。

我滿鐵會社も創立二十二年に亙々として諸方の同情援助の下に其の使命に精進しつゝあるが昨年一月既に言明せし如く社内整理も所期の如く進捗したるに因り更に進んで積極的に產業の開發、經濟の伸張に力を盡くさんとして居る、此際私はつくづく思念し實に感激に勝へないことは昨年の御大禮に對して七千萬蒼生の感喜敬慕の情は果して如何でありしか實に言語形容に超越して居る是れ誠に我皇室特有の事象である此の如き聖天子を戴き此の如き國體を奉ずる我國民は此の大典を機會として益々國民一體、世界を驚かせる精誠忠愛の發露を爲し頻年動もすれば世人の目に映ずる種々の悲觀的幻影を一掃して新しき希望に蘇がへり發剌たる元氣を生じた我社も此の氣運に乘じて大に努力せねばならぬ然るに今日は國際の關係ありて外交上の斷權を要することが多いが我國の眞意は聖太子歷次の詔勅に見れば反復懇欵に宣まはせられる共存共榮、王道蕩々の聖旨は益々各國に明かになり支那に於ても既に識者間には根本の諒解を爲し居れば事に觸れて起る一時の誤解も漸次光輝することになるべく又既に正當の理解を爲し居る歐米列國は彌々益々我國に同情し誠に國家の爲め東洋平和の爲め賀すべく喜ぶべきことである、私は此の如き環境時機に在つて滿蒙に活躍する同胞諸君を人生の快事を領有せらるゝ者と祝福すると同時に國運の益々發展することを望んで止まないのである。

大國民の理想を以てその職に淬勵せよ
關東長官 木下謙次郎

昭和四年の新春を迎へ茲に八千萬同胞と共に國運の隆昌と聖壽の無疆とを祈り奉るは洵に欣悅に堪へざる處である、古語に「一年之計在于春一日之計在于晨」とあり、年々歲々年頭の所感を繰返す次第であるが御即位式後第一の新年であり昭和隆運の第一歩とも考へられるので何人も自ら人心を新にして更張の氣分の溢るゝものあるを覺ゆるであらう。

熟ら宇内の形勢、世局の推移を觀察するに眼前に幾多重大なる問題が起伏して居る、一方に於ては軍備縮小、不戰條約等の國際的和平運動や經濟、勞働、保健其他各般の社會問題に付人類の福祉と進化の爲に凡百の運動が國際的にも人類的にも努力せられつゝあるに拘らず一方に於ては國際的憎惡、階級鬪爭乃至經濟競爭益々熾烈となり生存の競爭は彌々激甚にして世相の險惡、人心の不安未だ嘗て今日より甚だしきは無い、翻つて我日本を省みるに政治經濟其他諸般の社會問題漸く複雜ならんとし動もすれば思想の趣舍を異にし經濟の利害を相同じくせざるに至つて來たが併し乍ら我國民の歸嚮に關しては聖勅炳乎として遵由の大道を教へ賜ひ内は陛下を慈父と仰ぎて擧國心を一にして敬忠上に奉じ下は民心相和會して日進日新の國是に努め外は國際の敦誼と世界の平和を期し常に一致戮力國家の隆運と人類の際福に努むることを以て使命として居る。

昨秋御大禮に當り全國民が皇室に對して發露したる無比の感激と緊張とは眞に崇高の感に堪へざるものであつて能く此の民族的使命を全うするに充分なる民族的力のあることを如實に示したるものであると思ふ。

殊に吾々在滿洲の邦人は能く國運の隆昌と一視同仁常に人類の慶福を軫念し給ふ聖旨を奉體し年と共に其の氣宇を大にして能く大國民の理想を以て各其の職に淬勵すべきである、顧みれば支那の國情は比年の爭亂熄まず萬民厚生の方なく友邦の蒙る迷惑も甚だ尠からざるものがあつたが近時漸く和平の曙を見んとしつゝあるは誠に喜ぶべき現象である、一日も速かに政基を整へ善隣の和會を進め嘗て我等の祖先が相提携して東洋の文化を建設し擁護し來つた如く今後一層其の提携を密にし共存共榮の果を收むるは勿論進んで世界文化の爲に大なる寄與を爲すべき日の來らむことを切望して止まない、茲に新年に方り在滿の同胞と共に重ねて皇國の隆運と聖壽の無窮とを敬禱し併せて在住內外人各位の繁榮を祈る。

年頭の辭
關東軍司令官 村岡長太郎

新年は人生に更新の動機を與ふる深い意義を持つて居る。吾等は此機會に大に猛省して此新なる年に處する確乎不拔の決意を固めねばならぬ、白玉靈塔の光白雪旭光に閃めく朝、千想萬感交々腦裏に去來する。

今や隣邦支那は全土に亘り革新の氣分横溢して居る事の成否は別とし吾等は其立場と意氣とに對し同情と敬意とを拂ふに吝でない而も顧つて吾等日本民族の國際的環境と其使命とを想ひ吾等の住する滿洲の現狀を直觀するに迨び感慨禁じ難きものがある。

吾等在滿同胞は新年を迎ふると共に眞日本精神を作興し國民的一大自覺を以て過去一年間相互協調奮鬪した以上更に鞏固なる團結の下に各其分に應じて活躍し昭和維新の大業に貢獻せねばならぬと信ずる。

吾等の住む滿洲を日支共榮の世界的理想鄕たらしむることは在滿同胞の崇高なる當面の責務である吾等は杯を擧げて此目的の爲めに勇往邁進する在滿日本民族の首途を祝福する。

年頭の感
大連民政署長 田中千吉

萬民が等しく有らん限りの赤誠を以て御迎へ奉つた曠古の鴻典も些かの滯りなくいと嚴肅に目出度く終りを告げ聖德愈々四海に洽く國威益々中外に輝き大八洲の基礎一段と鞏固となり國民の決心の强烈なる今日に勝ることはない樣な感がする。

かゝるうちに光陰は何時しか流れて早や昭和四年の春となり、瑞雲は天に靉き、萬祥は地に滿ち、戶々の旭旗も仁風を漂はし例年と異る愉悅を感ずることは獨り私のみの氣持ではないと信ずる、皇室に於かせられては、陛下即位の大禮を終えさせ給ひ、秩父宮殿下御成婚の盛典を擧げさせ給ふ等いや榮えに榮え給ふ御事、洵に慶祝の極みである茲に新年に當り謹みて寶祚の無窮と聖壽の萬歲を祝き奉る。

今や帝國は世界の列強と伍し國運隆々として進展し國威は正に全世界を壓ふの勢ひである此偏に我皇室の御稜威の然らしむる所であつて此の盛世に生れ此の昭代に會することを得たるは吾等無限の喜びである茲に於てか吾等は如何にして此の聖恩に對へ奉るべきかを考へなければならない。

天皇陛下即位の大禮に際し下し給へる勅語に「爾有衆其レ心ヲ協ヘ力ヲ戮セ私ヲ忘レ公ニ奉シ以テ朕カ志ヲ翼成シ朕ヲシテ祖宗作述ノ遺烈ヲ揚ケ以テ祖宗神靈ノ降鑒ニ對フルコトヲ得シメヨ」と仰せられたのである此の御言葉を拜讀し臣子の分として誠に恐懼に堪えない所である協心戮力奉公の道は帝國臣民として固より勅旨を待つ迄もないことである。

明治大帝が維新の鴻圖を闢き給ふに至る間幾度となく優渥なる勅語を降し給ふたが是皆國民の履ふ所を示し給ふたのであつて何れも國家の隆替と國民の幸福を軫念あらせらるゝ聖旨の程が窺はれ唯感激に打たるゝの外はないのである舊臘教育振興に關する御沙汰を下賜せられたが此れを以て陛下が如何に國民教化に御心を注がせ給ふかを拜察することが出來る惟ふに國民の文明と無知とは國民の興亡國家の盛衰を左右する重大な問題であつて晚近我が國に於ける教育の普及文化の進步は大に見るべきものありと雖も又一面多少の缺陷なきを保し難いのであつて畏くも大正天皇が關東地方大震災の後詔書を下し給ふて「晚近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル」と仰せられたことを以ても察知される次第で誠に畏多い極みである又教育振興に關する御沙汰に於て「篤ク敎化ヲ敷キ以テ人心ノ歸趨ヲ正シ大イニ學藝ヲ振ヒ以テ國運ノ伸張ニ資セムコトヲ念フ」と諭させ給ふたことも彼是對照して考ふる時に何處迄も國家の基礎は國民にある國民の教養を全からしむることが國運を伸張し國光を顯揚する所以であることゝを示し給ふて居るのである。

私は昨冬親しく御大禮の諸儀に參列し目のあたりに、今上陛下が日々宸襟を國事に勞せさせ給ふを拜し居るのである。又前述の如く、明治大帝以來度々下し賜へる勅諭を拜誦するに及んで帝國臣民たる者は一人一人が聖旨の程を良く體得して健全有爲なる國民としての教養を完ふする樣に心掛けねばならぬことを痛感するのである今や隣邦中華民國は何時完全なる統一を見ることを得るや測り知るべからざる狀態に在り殊に滿蒙の事態は東洋平和の爲共存共榮の爲帝國に取り最も警戒を要する時機である從つて海外に第一步を踏み出して滿洲に在住する吾々の覺悟は又格別でなければならぬ宜しく聖旨を奉體し奉公の誠を致して聖恩の萬一に報い奉らなければならぬ。茲に即位大禮直後の新年に當り思ひを深くしたる點を述べて年頭の辭とする次第である。

謹賀新年
滿洲日報社

佐々木丈次　名富才之助　岡崎榮太郎　本村武盛　小寺貞治　土井丈吉　鈴木好夫　佐藤嘉之　新聞工場　助川照吉　衛本政雄　島田長四郎　瀨木雅雄　岩本貞一　高谷欣之輔　小泊正則　村田藤誠　金子兼吉　曾根四郎　山田鶴太郎　川村清三郎　浦松榮藏　岡田コトエ　寺畑海三　支社支局　小林長三郎　關谷直彌　天谷深吉　秋山豐三郎　小此木九三　山中興吉　江口光夫　谷秀一　東登一郎　内野長作　本多正　櫻井教輔　野村一郎　辻川佐助　藤田盛藏　雨宮慶臣　飯塚政之　滿日印刷所　足立孝　小山善吉　瀧野龍郎　久保信慶　瀧川義人　井上萬吉　中田義一　細矢吉四郎　渡邊重吉　萬田秋吉　戶田秀雄　市川仁四郎　國場盛秀　奧原太之助

張學良氏を首席とする東北政治分會組織さる

作相氏外十二氏を委員に任命 楊氏は參加しをらず

【奉天特電卅一日發】東北政治分會委員大要左の如く内定した

首席委員 張學良

委員 張作相、萬福麟、翟文選、常蔭槐、劉哲、張景惠、方本仁、劉尙淸、袁金鎧、莫德惠、沈鴻烈、何淸濬

東北四省政府委員正式に發表さる

委員は殆んど奉天派内より任命 關内各省と同一組織

【奉天特電卅日發】東北四省の各省政府委員卅日夜左の如く發表された

奉天省政府

首席 翟文選

委員 (民政廳長)陳文學 (財政廳長)張振鷺 (敎育廳長)王毓桂 (農鑛廳長)劉鶴齡 彭志雲 高紀毅 王樹常 王鏡寰

吉林省政府

首席 張作相

委員 (民政廳長)章啓槐 (財政廳長)榮厚 (敎育廳長)王華林 馬德恩 孫其昌 王之佑 誠允 鐘毓 熙洽 鈞

黑龍江省政府

首席 常蔭槐

委員 (民政廳長)馬景桂 (財政廳長)龐作屛 (農鑛廳長)高家驥 (建設廳長)陳耀光 孫潤庠 李彭年 孫明文 宋文郁 萬國賓

熱河省政府

首席 湯玉麟

委員 (民政廳長)鄭克庄 (建設廳長)梁國棟 (財政廳長)佟兆元 李元箸 金鼎臣

奉天熱河の兩省は張氏の直系で堅む

吉林は吉林の現任幹部を以てし黑龍江は楊宇霆氏派

【奉天特電卅一日發】四省政府の各主席及び委員の顔觸れについて某消息通は各省とも現任の民政幹部で堅めてをり結局名目は變つたが中味には何等の變化はないとみてゐる

先づ奉天についてみるに陳文學氏は現任政務廳長であり張振鷺氏は同代理廳長、王毓桂氏は敎育廳長、高紀毅氏は全省警察署長、王鏡寰氏は交涉署長、劉鶴齡氏は實業廳長、王樹常氏は命令廳長であるなどすべて現職にある者のみである、而して金、張、王(毓桂)高(紀毅)劉氏等の五人は何れも張學良氏の直系でこれ等の點からみても張學良氏から人選して南京政府に認可申請許可されたものであることが判る

○

他の三省また同樣で吉林は現任の幹部を以て堅め黑龍江は萬福麟の息萬國賓以外は殆んど常蔭槐氏系統である、就中馬景桂、高家驥、陳耀光氏等は常氏旗下の四天王といはれるもので黑龍江には楊宇霆氏の息がかゝつてゐるものとみることが出來る、熱河にありては梁國棟氏は現東邊道尹佟兆元氏は現瀋遼道尹で先づ張學良氏系とみられる、以上の如くみると吉林は吉林で堅め、黑龍江は楊派で堅め、奉天と熱河とは張學良氏系で堅められたことが明かにみられる

○

なほ今後の問題としては各省政

北平市黨部と協調組織す

共產黨系分子を極力排除 黨部の組織準備進む

府の主席及びその委員は國民黨の黨則によれば當然國民黨に入黨せねばならぬことになつてゐるが楊宇霆、袁金鎧、劉哲氏等の如く舊保安委員にして國民黨に入黨するを心よしとせざるもののあるのみならずこれ等は別に國家主義團體を組織せんとする形勢もあり東三省の將來は新國民黨員と非黨員との間に相當勢力爭ひやその他の問題が發生することは免れぬであらう、なほ國民黨々則では新入黨者は宣誓の前に形式的にもせよ試驗を受くる必要あり何人がこれが試驗に當るかが見物であらうとされてゐる

【奉天特電卅一日發】東北四省黨部及政府の確立に就いては現在の首腦者が此の機會に於て共產黨分子の活躍せんことを慮ると共に自己等の地位の確保を主眼として周到に人選を行ひ大部分は學良氏直系の人々を網羅して以て其地歩を固めんとしたものであつて特に共產黨乃至左傾學生の動勢に注意をなし廿九日より易幟に際しては豫め不穩分子を檢束したほどである、尙黨部組織及人選に關しては北平市黨部首席委員たる張繼氏の推薦せる陳震麟、齊夢蓮、張宗海、孫庚等の人々の着奉後に於て先づ奉天、吉林、チチハル、ハルビン等より之を開設し順次他の地方に及ぼす方針であると

政府委員の就任式

監誓委員の來着後行ふ

【奉天特電卅一日發】東北四省の政府委員は卅一日午前十時半東三省黨務籌備處より一般に内示されたが此等の就任式は南京中央政府の監誓委員の來奉を俟つて行ふ筈

對支外交の前途は多事になつてきた

日支交涉の將來に相當影響せん わが軍部方面の觀測

【東京卅一日發電】東三省に於ける靑天白日旗掲揚問題に關し軍部方面に於ては張學良氏がいよ〳〵東三省に靑天白日旗を掲揚するとすれば從來の關係から見て事前に日本に對し何等か通告位はして來るものと信じてゐた、然るに今回突如として掲揚するに至つたについては何等か内部に事情があつてのことであらうが

日本としては決して輕々に看過出來ぬ問題である、政府としては未だ公電に接せぬ場合でもあり且つ歲末で各閣僚とも大部分旅行中だから直に對策を協議するといふことは出來ないが來春早々閣僚の歸京を待つて從來の經過並に今回の顚末を詳細に報告して對策を協議する豫定である、今回の靑天白日旗掲揚問題は曩に林總領事が南北妥協中止を勸告した當時とは事情も變化してゐるから今日直に日本に對して重大な影響ありとも思はぬが將來の日支交涉に對しては相當重大なる關係を及ぼすに相違あるまい、即ち滿洲における鐵道交涉をはじめとして各種の交涉案件は全部擧げて國民政府の手に

移る

こととなるだらうから、日本としては之等の點に關し相當對策を講究して萬遺憾なきを期せねばなるまい、何れにしても出先官憲からの報告に接した上で對策を講究せねばならぬのだが對支外交の前途は益々多事となつて來たといはねばならぬといふに在つて對支外交の

英帝御良好

【倫敦三十日發電】ジョーヂ陛下の御不例につき今夜發表された容體書に依ると本日は安靜なる一日を過ごさせられ御病狀にも別段の御變化を拜さず

總稅務司代理エ氏きのふ辭表提出

海關行政回收を期せん

【北平特電三十一日發至急報】總稅務司代理エトワーズ氏は本日辭表を提出した、國民政府はこの機會に支那人を總稅務司に任じ海關行政の根本的回收を期す筈であると

急激な變化は來たすまい

總ての處置は訓令次第

關東廳及軍部方面の觀測

東三省は遂に靑天白日旗を掲揚し實質は第二として表面だけでも南京政府の統制下に統一されたが、關東州内及滿鐵沿線附屬地の我行政下にある地域に於ては未だ靑天白日旗は掲揚されてゐない、現に旅順港に碇泊中の東北艦隊定海、同安の二艦も依然五色旗のもとにある、東三省保安總司令部からの命令が達しないのか或は易幟の必要がないと考へられてゐるのかまた別とし支那側が日本側の肚裏を覘つてゐることは見逃す譯には行かない、これをひらたく言へば日本に氣兼をしてゐることは事實だ、但し關東廳及び軍部方面として

は勿論未だ易幟に關して正式の通告を接受してをらぬので承認するとかしないとかは第二の問題として東三省が易幟をしたからと云つてわが滿蒙の權益には何等の變化も起らないので、從つて靑天白日旗の掲揚によつて治安が紊亂される危險があれば直に當然撤去を命ずる意嚮であるもの〻如く本省よりの命令に基くことになつてゐる、其點

は今朝本紙東京特電による「事ら成行の監視」を以て終始一貫される筈だが、大體に於て東三省が易幟をしても南京政府からの特派代表が俄に三省の要席に割込み運動を起すもので無く假令制度は改正されても急激なる變化は來さぬと云ふ見解に意見は一致してゐるもの〻樣だ但し東三省の對外關係、即ち日本との交涉懸案が南京政府に全部一任されることは現東三省の首腦者等が自ら墓穴を掘る結果を招來することになるから其點は三省側でも相當考慮するだらうとみてゐる

ただ直接の影響あるものは關稅と地方の不當課稅問題だが南京政府と日本との協定成立すれば當然統一的に實施されるは [illegible] で若し不幸にして不成立に終つた際は現行の狀態を以て日本側は何處までも進むもので些少の變りは無く即ちロラストを以て進み大連の如きはアンダープ [illegible] 日本の行政地域外ではアンダー [illegible] 特殊の事情なれば現狀の儘で行くであらうと觀測してゐる

對支問題では現内閣支持

民政黨との合流を避ける 新黨の討議會度態

【東京特電卅一日發】新黨クラブには表面的に政友會と提携することは自派の立場より見て不得策であるから恰も常任委員長の選擧に於けるが如くドコまでも自主獨往の態度を一貫し强て政府に迎合せざる代りに民政黨とも合流を避くるに於ては比較的多數黨たる政友會は常に勝利を得るは確定的であるといふ寸法から今期議會に於ける同派の行動が割り出されるものと見られる、而して新黨クラブ其ものゝ結黨式は政友會との關係の展開如何に因るわけであつて當分延期されるであらうといふ

體決定的であると見ることが出來る、即ち床次氏は過般の支那視察の結果現内閣の對支方針には多少不滿の點あるも此の際は現内閣を支持し其の方針を基礎として適當に是正せしめ行く他に良策なきこと及び自己の政治的立場の好轉のためにも此際現内閣に好意を寄せ置くことが妥當であるとしてゐる而して之が爲

内部には種々の意見を有するものあるも床次氏其の人の腹は既に大

少數黨に對して臨機適宜に處置

床次氏の態度は信用出來ぬ 民政黨の對議會策

【東京三十一日發電】民政黨は床次氏歸朝後の行動につき從來の行動に依つて生ずる政界の動きに注目を拂ひ時に依つては對支問題に就て議會に於て反政府的態度に出づべしとの議論も出で極めて强硬なる幹部も一應その形勢を見てゐたが、床次、田中兩氏の會見に當り何等對支意見の聲明もせず會見後もその内容を秘して發表せざる態度に對し同氏の行動は要するに當初の觀測通り政府との提携に一歩を進めたるに過ぎず首相に何等かの要求をなしその問題が如何に進展するにせよ最早同氏の態度は信用するに足らずとなし今後は一路黨の結束を固め之等少數黨對策は臨機適宜に處置し自主獨往の根本方針で邁進するの外なしとするに至つた

政友内に近東倶樂部

【東京三十一日發電】京都以來繰返された數次の會見に依り鳩山一郎、前田米藏、岡崎邦輔等の新會及び新黨クラブと政友會との間には一脈の友交關係が釀成せられ今議會に於ける大勢既に定まつたかの如く見えるが、實際には一新會も新黨クラブも

態度 なほ頗る曖昧で準與黨として親むに足らず、されぱと

御繁多に在す兩陛下の御日常

すく〳〵と御育ちの照宮樣

岡本侍從謹話

天皇、皇后兩陛下には曠古の御盛典である御卽位式を芽出度御終了遊ばされ昭和四年の新春を迎へさせられましたが恰も今年は兩陛下並に照宮樣には赤坂離宮より

◇…宮城に 移御になつて初の新年を宮城に迎へさせられた事とて御意義は一入深きことゝ拜察して居ります、兩陛下には昨年十一月二旬に亘る京都御駐輦中の諸御儀及び十二月に入つてからの諸部隊の御親閱や行幸啓にも些かの御疲勞の御模樣も拜せず玉體愈々御健勝に渉らせらるゝことは眞に恐懼感激の至りに堪へません殊に天皇陛下には御儀式や地方行幸の他に親しく政務をみそなはせられなどし御日常は極めて御繁多に渉らせられ、最近にては御愛好の

◇…運動も 兎角御日課通りには御實行が難く一日僅に一時間内外を御乘馬遊ばされる位で之れも近侍一同が御繁劇中を特に御運動の奏請をするからに因るとが多く御政務の御繁多拜察するだに恐懼に堪へません陛下の御日課は月曜 臨時御進講三上參次博士の明治大帝の御偉業其の他文學方面の御進講

火曜 行政法淸水博士

水曜 拜謁、賜謁、外國人、樞密顧問官、麝香間祗候等

木曜 午前軍事學(陸軍、南次長、海軍、軍令部長)財政、經濟、山崎覺次郞博士、午後講話、實際學者御召

金曜 皇室令制淸水博士

土曜 生物學、服部弘太郞博士で月、木曜日には大皇后陛下も御陪席遊ばされ土曜日には右の外伊達博士の國際法、服部宇之吉博士の論語が何れも原稿で御手許に差出されるのを

◇…御閱讀 御研究になりますがこうした中にも陛下の御裁可を仰ぐ上奏書は御机に山積し多くて二十件位で、年末や議會前後には百件にも達することがあり陛下には御熱心に一々御目を注がれ御決裁遊ばされます陛下には御想像以上の御多忙に渉られます、皇后陛下には日に幾度となく照宮樣を御覽になりますが居ますことゝて

ビタミンの學說から七分搗の米食を御食り遊ばされ生物學の一研究者として範を蒼生に垂れさせ給ふ大御心の程之を拜して感涙の下るを禁じ得ません、皇后陛下にも天皇陛下の御許に御陪聽になる外毎土曜日に

◇…論語を 御研究になり更に佛國より招聘のド、ラ、サル夫人より佛語を御修得遊ばされて國母陛下としての御教養を積ませられて在す、御繁多な天皇陛下の御身邊の御注意に女官等を督勵遊ばされる上靑山に淋しくゐます皇太后陛下を御訪問御慰めになるなど麗しき御孝養の數々を盡される上に秩父宮、高松宮兩宮、各殿下を始め各皇族殿下に御心づけになりますがわけて御手許には照宮樣が

◇…御訪問 になります日曜などは兩陛下御揃ひで照宮樣の御部屋に御成り遊ばし半日を御費しあらせられることが屢とて承つてゐます、宮樣には蓄音機が殊の外御好きでレコードに合はされて色々の童謠を遊ばされることもあれば女官を御相手に可愛いゝ遊戲に御たわむれになり兩陛下の御覽に入れることもあります、兩陛下の御慈愛を身一つに受けさせられ幼き宮樣は御あたゝかくこよなき

◇…御幸福 の内にすく〳〵と御育ち遊ばされ竹の園生は新しき御代と共に彌榮えに榮えるを拜することが出來ます。

鮮銀券發行高

廿九日の現在

十二月二十九日現在の朝鮮銀行兌換券發行高は總額一億三千四百八萬三千六百九十六圓にしてその内譯左の如し(單位圓)

正貨準備 八四、一〇六、三九
保證準備 四九、九七七、三二六

上海標金情報

支那人氣乘り薄

【上海卅一日發電】本日の標金事情は材料薄と年末關係にて支那人氣乘りうす引前三十二兩八分の一約三十萬、標金約八百箱を買ひたる爲め人氣稍良好なりしも一般は日支關係懸念の傾向あり今後の雲行き注視さる

人事

卅日

◇川越茂氏(吉林總領事) 上京中の處卅日歸連

◇高柳保太郞氏(滿鐵囑託) 來連數日滯在の筈

安東時子

◇故寺内伯の長男で現朝鮮軍參謀長の寺内壽一少將十數年前から例の事件で夫人を亡つて以來、孤獨生活で專ら軍務にいそしんでゐたが◆此のほどヤトしたことから故山下汽船主の嗣子順子といふ淑徳の佳人を迎へることになつて五十二の獨身者が芳紀廿七の新婦と手に手をとつて京城に歸任の新婚旅行の頗るアマい所◆關釜連絡船で偶然出會つたのが内地から歸連を急ぐ高柳將軍と山崎代議士の二人、門司から京城までの間二人とも大に當てられて了つた◆高柳將軍は流石に此の途でも千軍萬馬を馳驅した人だけあつて大したことは無かつたが山崎氏はお蔭で發熱し本もの〻病人になつて歸つて來た

本日朝刊廿八頁

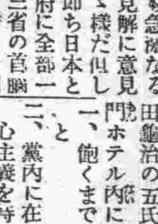
第十二回決算報告

貸借對照表(昭和三年下半期)

[illegible]

滿洲紡績株式會社

觀相大家泰幹先生



人相 骨相 運命鑑定

一月二日より十一日迄

若狹町(一二三番地) (向陽町下車)

觀相學會本部

電話七五七八番

謹賀新年

旅館鶴の茶屋

長期御滯在ノ御方ハ御相談ニ應ズ

種苗便覽 無代進呈

東京淀橋町柏木

日本種苗合資會社

喪中に付年賀缺禮仕り候

海軍中佐 久保田久晴

旅行中に付年賀缺禮仕候

吉野直治

旅行中に付年末年始の禮を缺く

菊地秋四郎

新年の御慶芽出度申納め候本年も不相變御引立の程偏に御願申上候

大連市信濃町二八

山田商店株式部

新春特別大興行

入場料 特等一圓五十錢 一等一圓 二等七十錢 三等四十錢

五郎劇

御目見得狂言

第一 喜劇 田家の春 四場

第二 喜劇 葵の短刀 三場

第三 社會劇 日蔭の花 二場

第四 喜劇 平ちやん 二場

一月一日より

歌舞伎座

謹賀新年

舊年中は格別の御愛顧を蒙り厚く御禮申上候猶本年は一層努力可仕候間倍舊の御用命奉希候

大連市大山通

實用タクシー

電話 五三八五 六二一四番

當る正月元旦より開演

東京女優歌舞伎

淺尾信治一座



御目見得

一、三番叟

一、小野道風

一、義士外傳

一、土屋主税

於 大連劇場

全國一番の封切

元日封切

マキノプロダクション最大級作品

綺斑蛇

謹賀新年

人喰蜘蛛

演藝館

對外貿易の伸長を期し 產業の振興を計り
國際競爭上優秀な地位を占めよ
大藏大臣 三土忠造

昭和新政が茲に第四年を迎ふるに當り、昨秋行はせられたる御卽位の大禮の後を受けて國民の意氣は自から揚がり、我經濟界の前途も更に一層の刷新を期待せしむるものがあります。

我財界が世界大戰以來幾多の困難蹉跌に遭遇したるに拘らず、漸次健全なる發達を遂げて其の富力を充實し組織の大を來すに至つたことは何人も疑はざる所であります、例へば輸出入總額は大正三、四年ごろの十二億圓臺に比較して最近數年間は四十餘億圓となり、銀行預金の總額は大正三、四年頃の二十億圓臺に比べて今日は百二十億圓に上つて居ります。之は一、二を採錄したのに過ぎませんが、之と同時に國家公共團體の歲計も國民の經濟も亦著しく增大して居ることは計數を擧ぐるを待たずして明かであります。從つて今後國民各自が經濟界に立つて活動するに當つては此大組織に對應したる才能と準備と覺悟とを以てし、國際競爭上に於て優秀なる地位を占むることに努力致さねばならぬと信じます。

最近金融界の情勢を見まするに金融機關の基礎は鞏固を加へ資金の供給は漸次圓滑となり事業界の整理も進捗し財界の基本は著しく良好となつたのでありますが、將來尚解決を要する問題が少くないのであります。金輸出解禁の如きは其著しきものでありまして、之が解決に付いては各方面の準備を要しますが國際貸借の改善の直接不可分の關係あることは申す迄もありません。昨年は一昨年に比し輸入超過額を增加しましたことは甚だ遺憾でありますが、尚國際貸借の狀況は二箇年に亘り著しく改善せられたのを認むるものであります。本年は官民更に一層の努力を以て內は國內產業の振興を計り外は對外貿易の伸長を期し此趨勢を益々顯著ならしむることに努めたいと考へます

曉の色を見せて 榮えゆく滿鐵事業
目まぐるしい程の新規事業も 着々として具體化

滿鐵は昭和二年七月山本社長就任依賴實務化、經濟化をモツトーとして躍進的事業振作を行つた結果は昭和三年末に至り幾分それ等に目鼻が付き出した、今山本社長就任以來の滿鐵事業の推移を見やう

◇

昭和二年度、決算に於て概數を以て營業收支を見るに

總收入　二億三千五十六萬圓
總支出　一億九千四百卅八萬圓
純益　三千六百萬圓

而して元年度決算に對比すると收入の點に於て一千四百九十四萬圓增收、支出の點に於て一千二百八十二萬の增加差引元年度より二百十一萬圓の增加を示してゐる。

◇

內譯を見るに

鐵道　收入一億一千三百二十四萬圓、支出四千五百二十四萬圓、利益六千八百萬圓
港灣　收入一千二十八萬圓、支出九百三十一萬圓、利益九十七萬圓
鑛業　收入八千二百七十九萬圓、支出七千三百四萬圓、利益九百七十五萬圓
製鐵所　收入九百二十二萬圓、支出九百三十八萬圓、損失十六萬圓

◇

さて鐵道は滿鐵の中樞をなすもので年一年收入は增加してゆく、二年度から鐵道部內にて一種の請負制度式なものにし收益を上げられるだけ上げ、支出を出來得るだけ減ずる方針を樹てゝゐるが、三年度は既に十二月十七日現在に於て七千六百七十七萬圓を上げ二年度同期に比し二百三萬圓の增額鐵道收入は一層殷盛を示してゐる。

◇

鑛業(撫順)撫順炭出炭高は元年度六百四十八萬噸、二年度は六百八十萬噸で一日二萬一千噸平均と云ふのであつた、ところが一足飛んで今年(四年)は八百十萬噸を出炭させると言つてゐる、撫順炭は今後益々出炭量增加で滿鐵の事業としては鐵道に次いでの立役者である。

◇

かくして撫順炭は年一年出炭を增しかて加へて煙臺、本溪湖等の出炭を入れると大連の埠頭は狹隘を感ずると云ふので、さきに甘井子に於ける三百萬噸積出しの石炭埠頭の創設(六年度迄には第一期の分利用し得らる)その他營口の石炭埠頭も四年の七月迄には完成しこゝでは約六十萬噸、旅順の新舊バースから約七、八十萬噸の積出が出來ることゝなるから增炭に對しては十分な手配は出來てゐるわけである、尚その上滿鐵は鶴見と名古屋に埠頭計畫を樹て既に土地の買收も出來るに至つた。

◇

次は鞍山の製鐵所である、此處は例年缺損つゞき、元年度の損失は約三百三十萬圓、所が二年度に至つて社內計算法を改めて石炭鐵道運賃を原價に近き値段を以てやると云ふことゝしてやつと十六萬圓弱の缺損となつたが、三年度卽ち四年四月迄には百萬圓の收益を上げて見せると力んでゐる、鞍山は三年度現在三百噸爐二基によつて二十萬噸の銑鐵產出をなしてゐるが更に五百噸爐の完成を待つて二十八萬噸となる豫定である、尚それ以上の計畫卽ち一貫作業その他の點では目下研究中に屬してゐるが鞍山も漸く「曉」の色を見せ出して來た、山本社長は殊に鞍山製鐵所には力を入れてゐるもので山本社長に云はせると製鐵、燃料、肥料の三種を以て滿洲の基本工業であるとなしこれが達成には懸命の努力を拂ふ方針であると云ふ、而して滿洲の製鐵は早晚日本の市場に入る外國の鐵を驅逐するに至るであらうと見られてゐる。

◇

その外滿鐵の新規事業としては南滿信託會社の設立である、これは既に關東廳の認可を得て大藏省に回附され今年(四年)早々認可されることゝなるであらう、その內容は資本金一億で拂ひ込は五千萬圓、卽ち滿鐵の所有する有價證券四千萬圓(各傍系會社及助成會社の持株)に各會社に對する滿鐵の貸金六百五十萬圓及び運輸資本として現在五百五十萬圓を出資すると云ふことで一種のシヤア、ホールデング、コルパニー(株持會社)であるが、今後專ら支那人の信託申込に應じ、大いに國際的活動を試み、滿鐵が交通政策によつて滿蒙を開發するのに對し信託會社は金融、信託の方で活動する方針であらう。

◇

その他硫安工場設立、曹達灰工場東亞勸業の引受等滿鐵の新規事業も目まぐるしい程である、かくして昭和四年となりこれが次第に具體化して行かうとしてゐる。

印度の奇鳥 夜明造巢
正隆銀行常務 糸賀庄造

元旦の形容は「新」の一字に盡きる、時間も空間も、身心も共に更新する、輪廻極まりなき時の流れに始め終りの別もなく、踏む大地は昨日のまゝで、仰ぐ太陽に變りのある筈もないが、觀る者の心氣が自から新しいのである、斯くの如く心氣の更新をもたらすところに元旦の尊さがある

× ×

曆の劈頭に立つとき各人の胸裡に徂徠するものは將來に對する新しい理想と希望とでなければならぬ、古い言葉だが「一年の計は元旦にあり」といふ、何も努めて計畫を立てやうなどいふ考へはなくとも、元旦になれば自から何かそこに考へられて來る、兎に角普通の日とは違つた氣分になることは否まれぬ事實である、所謂心機が新しくなるのである、言ひ換へれば人間が眞面目に歸るのである

× ×

人が眞面目に歸るとき、その心的態度は自から敬虔とならざるを得ない、多くの人が元旦に社に詣で神前にぬかづくのは卽ち此の心境の表れである、醉拂つて神に詣でる人は先づあるまいと思はれる、この敬虔なる心的態度を以て人生の理想と希望とを祈るとき何人といへども良心のさゝやきを聽かざるを得ないであらう、實に元旦は人心を淸め且つ新にする、ところが、元旦が過ぎて二日から五日となり十日となりお餠が次第に乏しくなるに伴れて心のねばりも漸く弛んで來る、私はこゝに特に靑年諸君のため印度の不思議な鳥の話を紹介したい

× ×

印度といへば直に炎熱灼くが如き熱帶を連想するが、その北境には寒冷雪を頂くヒマラヤの高峰が脈々と連なつてゐる、その邊一帶の氣候は晝夜によつて寒暖の差が激しく、晝の間は丸で春のやうな暖かさであるが、夜に入ると全く嚴冬のやうな寒さでとてもやり切れない、其の山奧に棲む不思議な鳥があつた、夜になると「夜明造巢々々々」と鳴きつゞけるので夜明造巢と名づけられてゐた、この鳥は晝の間は暖かいので野や山を飛び廻つて思ふ存分陽春の享樂をほしいまゝにするが夜になると寒くて堪らぬので夜中「夜明造巢」と鳴き通すのである而も夜が明けるとまた暖かくなるので巢を造ることを忘れて再び春の生を樂しむ、こんな風に夜明造巢、夜明造巢を繰返してゐる內に一夜非常な極寒が來て遂に死滅して了つたといふ哀れな鳥である

× ×

過去を顧みるとき夜明造巢の感甚だ切であるが、願はくば元旦によつて更新された氣分の緊張を持續して夜明造巢の歎を後に遺さぬやう特に前途ある滿洲の靑年諸君に切望してやまぬ。

輸入業者の期待する下半期
經濟界の前途を樂觀す
滿洲輸入組合理事長 神成季吉

長い間の懸案となつて居た例の金解禁が愈今年の三月から五月の間に實行されるものと一般に觀測されて居る金解禁後の前途については世間に

色々の

說があるが、私は頗る樂觀して居る、勿論解禁前後に於て財界に一波瀾起るのは豫期せねばならない、然し一般財界は此を底として漸次安定の域に向ひはしまいか、杞憂されるが如き金の流出の如きも引締めて有頂點とたらざる限り左程心配の要はあるまいと思ふ、更に又銀相場は今日まで印度の銀の賣出が豫想されて人氣は頗る沈衰し殆ど生產費近くまで低落して居たが、それも當分實現しさうにもなく且つ支那財界を困惑した年中行事の

動亂も

今後暫く起ると見えず、時局は安定して諸種の復興事業も勃興し外債募集の必要も起らう、斯くて銀價は之等に刺戟せられて騰貴し、銀價騰貴すれば支那人は儲かる、購買力は增大する、從つて輸入業者の新販路も此に追隨する譯である、一方關稅改正を控へて居ることゝて見越輸入も旺に行はれるであらう、斯くて上半期は兎に角として下半期からは財界の安定と相俟つて特に輸入業者は有卦に入る

時代を

迎へるに至るであらうと想像される、私は此の意味に於て頗る樂觀した氣分を持つて居る次第である

舊習を脫して「大團結」を計れ
大連商議副會頭 高田友吉

光輝ある昭和四年の年頭に於て所感を述ぶる機會を與へられたる事を感謝致します、元來愚物にて貴重な紙面を汚し益する事もないと思ひますが御勸めに從ふこと〻致します「元日や昨日の鬼が禮に來た」と云ふ俳句がありますが如く新年と共に

心身を

新しき光輝ある希望に生きるべく舊年の俗事を捨て新魂を迎へ精進する事は人生の必要な行事であります、此神の心になりたる際一年の計を建て針路を定むる事は有意義であります、今や世界の何れを見ましても多事多端でありますが就中東洋に於て其甚だしきを見るのであります、現在の日本は不景氣に閉ざゝれて諸業行詰り、人口は每年八十萬乃至百萬人の增加を見背壯年の遊民夥しく貿易は入超する等悲觀材料陳列場の觀があります、之れを解決するには產業立國政策の完成であります、之れが完成には擧國一致の要ありと思ひます、擧國一致を私等の如き一微分子が叫んだ處實現するものではありまんが此大方針の下に各自が假令二人三人なりともお互ひに團結して進めて行けば必ず完成に達するものと思はれます、彼の輸入商組合の如き始めは各所に於てそんな馬鹿な事が成立するものか、出來れば結構なるも見込なしとの評を受けましたが、微力な數人の

骨折り

でしたが幸ひに山本滿鐵社長の御賛同を受けて今日の如く成立を見有力なる團體となり社會に貢獻しつゝあります、而し私は現在にて安心するものにてはなく更に今日の三人小團員が一商店(一經濟)となり其業を擴大し遂に輸入商組合員全部が一丸となつて強固な團體となし世の生存競爭に打ちかたねばならぬのであります、又現在行詰りつゝあります油房工業も嶄新なる設備と流通資本とを以てせば打開の道があるのであります、之等も互ひに合同して缺除せる信用を回復致せば輸入商組合と共に生る事が出來ると思ひます、其他農業にても、工業にても團結力が足りない爲に發展が出來ないのであると思はれます依て產業に從事する人々が其親戚友人又は同業同種、地勢とを考察して假令小なりとも打解けた團體の下に漸進せらるゝ事を切望します、以上の如く互ひに團結して進めば不景氣も恐るゝに足らず此一端が實現せば

勇氣も

百倍して初期の目的を達成する事は容易であると思ひます、昭和維新第一年は御大典の御盛儀に浴し國民一同吾國體に感激し、大御心を奉戴し專心奉仕を誓ひたる秋恰度昭和維新第二年の新年に際會したる事は誠に芽出度き次第でありますから此機會を逸せず舊習を脫して大團結の計を建て生存の安全を期せられん事を望み以て年頭の所感と致します

財界の好轉を冷靜に期待
寧ろ昨年の裏を行くか
大連商議會頭 佐藤至誠

昨年は戊辰の年を迎へ、年初から更生の氣運漲り、財界も又好轉を見越され、殊に曠古の御大典が取り行はせられると言ふので一般も緊張し、上半期における貿易等の狀態から押しても下半期における

出超額は

相當多額に上るものとみられてゐたのであるが、その期待は不幸にして裏切られ、商工界は依然として不振狀態に推移し、且又日支懸案等も未解決のまゝ經過したので對外貿易も存外不勢を示したのであつた、殊に財界における最大懸案である金解禁問題に關しては昨秋銀行團或は實業團體において卽時斷行を要望するの氣運を生じたので、これは將來は兎も角現實的には可なり重大なる影響を及ぼす問題であるから、財界一般も之を警戒して新規事業も起らず證券界等も萎靡不振を免れなかつた、而して歲晚に至りても例年證券界にみるが如き

春高人氣

の擡頭もみず人氣は飽くまで冷靜で平穩裡に越年したのであつた、さて新春を迎へて本年の財界が如何に展開するか、もとより將來のことは俄に豫斷する事は出來ないが、舊年が全く期待はづれの連續であり、且又歲末における一般人心が飽くまで冷靜であつたことを考へると、無謀な期待をしないだけに、落着いてゐるだけに、所謂窮すると通ずると言つた工合で本年の財界は或は昨年の裏を行くのではあるまいかと思ふ、則ち金解禁の如きも本年中において斷行されることになれば勿論一時的には可なり影響を及ぼすであらうが、財界は常道に復し今までの暗雲を一掃することにならうし

支那問題

の如きも本年內には何とか目鼻がつくことになりはしないかと思ふ、又米國の所謂フーバー景氣の如きも多少反動を示したこともあるが、可なり根強いものがあるから、これはやがて生絲等の購買力を增大せしむることになり對外貿易の好轉から商工界も之に刺戟されて惠まれることになりはしないかと想像されるから昨年とは異つた期待を以て善處したいと考へてゐる次第である

己巳元朝口占
武田南陽

他鄉千里又逢春
僕々風塵寄此身
三十六年流落客
傍人應笑酒徒貧

傍人應笑酒徒貧
陋巷簞瓢證淨因
誰識風流文墨樂
心無畛域結交頻

心無畛域結交頻
醉裏狂言意最眞
握手可談天下事
同文同種亞東人

同文同種亞東人
唇齒尋盟守四鄰
相共洗心忘小憤
今朝拂拭去年塵

今朝拂拭去年塵
佳氣蒼々眼界新
來事可追吾未老
從今發憤更精神

從今發憤更精神
逢著盤根氣益振
筆陣堂々說公道
男兒豈懼喫酸辛

男兒豈懼喫酸辛
一片丹心草莽臣
北馬南船家未定
他鄉千里又逢春

賀正
四平街

四平街警察署長 警視 森脇留吉
四平街地方事務所長 三浦秀治
旅行中年始の禮を缺く 四平街取引所長 宮內虎雄
四平街信託專務 茶谷榮治郎
四洮鐵路局會計處長 宇佐美喬爾
四洮鐵路局工務處長 鈴木長明
四平街國際支店長 原田辰雄
四平街輸入組合理事 桂馨三
四平街電燈專務 平林市郎
四平街 鶴見次世
四平街 山口成淳
四平街 山添尙江
四平街 洪淳璣
四平街 岸久造
四平街 伊藤新八

四平街地方事務所 庶務係長 近藤次郎 地方係長 松田進 會計係長 野村稔人
四平街 石炭販賣 信和洋行 電話一九番
松昌公司 電話九番
陸軍御用 和洋御菓子司 四平街日進街 久月堂本店 電話二〇八番
同 興隆街 同支店 電話一七三番
四平街 料理店組合
四平街 いさむ號 電話五一三番
晝間活動開始 山本興行部 電話五一三・二五九
四平街 中村疊襖工場 中村濤吉 電話一七〇番
四平街 醬油釀造元 ㊀池田醬園 電話六五番
櫻井敎輔
菊池國治

四平街火曜會
朝鮮銀行四平街支店
正隆銀行四平街支店
四平街取引所 信託株式會社
國際運輸四平街支店
交通銀行
四平街電燈株式會社
四平街 植半旅館 電話三〇番
四平街 滿鐵會社 陸軍、關東廳御指定 小松屋旅館 電話一一六番
四平街 和洋雜貨 旅行用具 東澤洋行 電話一七番
四平街 渡邊齒科醫院 電話三二九番
四平街 竹村洋行 竹村石次郎 電話二七〇番
四平街 構內販賣 和田庄太郎 電話構內二二三・自宅五〇八番
四平街 竹本醫院 竹本二丸 電話七八番
四平街 佐藤龜記商店 電話一三番
四平街 晝夜金融株式會社 電話二七五番
四平街 藥品雜貨 クラブ代理店 大連洋行支店 本店大連、支店芝罘、龍口
四平街 日華特產商聯合組合 電話一二八番
四平街輸入組合 電話二二〇番

賀正

奉天

(順序不同)

太田雅夫
深川菊太郎
彌永茂太郎
村岡敬四郎
稻葉逸好
林榮
庵谷忱
小田信治
弘岡牛次郎
横田一雄
富村順一
吉植庄三
高橋清一
先川喜代治
中村政市
上木仁三郎
皆川秀孝
原田孝七
中山東一郎
高橋健

三谷末治郎
宮川隆
志和俊陽
野原正雄
大賀一郎
林興七
野添孝生
高橋由太郎
上田利一
香取眞策
森下知次郎
名和長正
宮越正良
濤野濤太郎
西尾一五郎
守田福松
手塚安彦
西岡正治
東亞煙草株式會社奉天支店 石原峯槌
市岡乙熊

奉天鐵道事務所
鈴木二郎
山口十助
下津春五郎
白井喜作
秋田豐作
河邊義郎
西村龜千代

東亞勸業公司

滿洲土地建物株式會社

金曜會
朝鮮銀行奉天支店
東洋拓殖奉天支店
正金銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店
正隆銀行奉天支店

奉天製麻株式會社

奉天取引所信託株式會社

滿洲市場株式會社

東省實業株式會社

滿蒙毛織株式會社

滿洲醫科大學 同豫科 同附屬病院 從事員一同

株式會社 滿洲取引所

奉天信託株式會社

井上商事株式會社出張所

奉天石炭商組合

奉天材木商組合

奉天理髮組合員一同

征矢野寫眞館

千代田自動車商會

橋口洋行

合資會社 橋本商會貿易部 稻葉町六番地 電話園七五一

アストマトール製造元 鶴原藥房 電話園一五〇五・三二八

千代田通三九 株式會社 滿蒙牧場 支店 撫順松田橋外 (電話園四四) (電話一〇六)

森林洋行

奉天橋立町一六 內海工作所 電話二五七

奉天千代田通三四 泉德號 泉德藏 電話二〇〇一

三昌洋行

保健浴場 一般料理 奉天春日公園內 奉天溫泉俱樂部 電話一八〇〇 貴賓館用二〇〇〇

奉天十間房 合名會社 大松號支店 電話六、三五番

身上興業部

大陸堂書店

南滿印刷社主 石本力造 奉天

奉天富士町五 ノダ運動具店

奉天千代田通一五 精養軒 井上駒吉 電話五七番

奉天驛前 西洋御料理 朝日軒 木村邦明 電話九九一番

奉天江ノ島町 金十三洋行(キントミ) 電話六〇七番

森洋行

奉日町七 東榮洋行 電話一七一三番

門永ラヂオ店 電話一六〇七番

市場食堂 大友佐平 電話(一一二〇番)(一八〇四番)

合名會社 藤田洋行 藤田九一郎

奉天千代田通一六 藥品と賣藥 那須藥局 處方箋調劑藥劑師 那須要

滿洲土木建築業協會奉天支部員

長谷川組出張所
原組出張所
細川組出張所
大倉土木株式會社詰所
吉川組
高岡久留工事部出張所
葛井組出張所
今井組出張所
上木組
久保田工務所
藤城組
龍井高ヶ組出張所
近藤組
榊谷組出張所
三田組出張所
島田組
志岐組出張所
岡組出張所
川畑組出張所
大同組出張所
田中組出張所
笠原組出張所
久保田組出張所
山崎工務所出張所
福昌公司工事部出張所
草場組出張所
東洋コンプレツソル
多田工務所出張所

長谷川岱次
山本秋太郎
盛田義綾
矢部濱吉
吉川康
長谷川巳弌
佐伯長太郎
今井行平
上木仁三郎
久保田伊平
藤城堅太郎
山地博
油井文一篤
菊地省一
堀江勇平
島田正人
和田信義
伊奈久忠
深町親實
高垣信郎
村田久雄
梶原太郎一
廣川忠正
吉見信夫
淡河光助
城戸竹次郎
中込周藏
岩本秦次郎

奉天地方委員會 (イロハ順)
原田覺次郎
荻原昌彦
鳥合八十二
尾崎濟
彌永茂太郎
山口精一
山本謙幹
河野通雄
赤松慶太
安達都
赤塚眞清
安藤基平
木谷辰巳
峰節翁
鹽尻彌太郎
末光源藏

奉天旅館組合
瀋陽館
ミヤコホテル
大星ホテル
大丸旅館
日進館
常盤旅館
武藏屋旅館
一力旅館
東亞旅館
滿洲旅館
春日旅館

奉天附屬地
料理屋組合員一同

奉天三業組合有志
金城館
金六
奉天檢番
菊文
金龍亭

書籍、土産物、寫眞、寶石
開光堂書店 電話一九九番

鵬遊記（第五信）

ロザンにて 大谷光瑞

十月七日午前八時、マルセーユに着す。直に上陸し停車場に向ふ。郵船代理店の多川氏來たり迎ふ。伴にグラッスに到る。十時三十三分マルセーユを發し、十三時四十三分カンヌに着す。沿道の風光極めて明媚、最も旅情を慰む。地中海岸は秋光正に闌なりと雖も、木葉未だ黄ならず、プラタナス猶緑なり。處々桑樹を見る。然れども、一般はオリブと葡萄園なり。最近はフヰロキセラの害を防ぎ得て、葡萄最も利あり。故に田畝の大半は葡萄を栽へ、オリブ及桑は多く伐りて之に代ゆ。地味は一般に佳ならずと雖も施肥の術天然の氣候を償ふて餘りあり。

◇

カンヌより自動車にてグラスに向ふ。カンヌ、グラス間十七キロメートルは鐵道無きに非ざるも、自動車を以てするの便なるに如かず。道路歩々高く、カンヌの海岸よりグラスは三百メートルの高きにあり。沿道は葡萄の外、香料植物を栽ゆ。ジヤスミナム、グランデフロラム正に花あり。此附近は世界第一の香料産地なり。大正十五年來り遊ぶや此の地を訪へり。今復來るに往昔の電車鐵道は棄て草莽に委せり。蓋し自動車の便は電車をして存在を容さゞるに至れり。汽車は貨物重量荷物の爲めその用をなせりと雖も旅客は殆ど搭乘するもの稀なり。將來の交通は恐らくは短距離に於ては自動車に敵するもの無かるべし。

◇

午後ミセル氏に會す。同氏はグラスの紳士にして篤好あり。ジヤバ農園に大正十五年ローズ・ド・メー及びジヤスミナム・グランテ、フロラを供給せし人なり。同氏の談ずる所によるに、最近化學人工香料の勃興するやグラスの栽培業者は打撃を蒙り大半は皆化學香料、若くはアルコホールを混入し、純粹の香精のみを販賣するものなし。從つてグラス香精の聲價を損ずるに至れり。纔かに兩三の工場のみ嚴に純粹の眞品を産出すと云ふ同氏と伴にコオペラチーブ工場を見る。此工場は純粹品を産出する第一流の工場なり。現時はジヤスミナム、グランテフロラを抽出せり。抽出方法は精製ベンヂンを用ゆ。此の花は從來はエンフレユヂにより脂肪に轉移せしむと雖も、工費の増加は功勞に償はず。今ベンヂン抽出法によるを以て抽出量を増加し、工費を減少せり。而してベンヂンの放散は極めて微量にして論ずるに足らず。此れにより始めて完全に花香を抽出するを得。」

◇

薔薇も亦此法を用ゆと云へり。花香は葉香、根香、實香等に比せば放散し易く、蒸氣抽出法を用ひ難し。故に往時は皆エンフユヂ法を用ゆ。唯薔薇と橙香は蒸氣抽出を用ゆと雖も、蒸氣の高溫なるを以て、動もすれば佳香を損ず。ベンヂン法を用ゆれば、低溫なるを以て決して佳香を損ぜず。ジヤバ、スカハヂの工場は葉香、根香を抽出するを以て蒸氣抽出をなすと雖も、將來花香を抽出せんと欲せば、必ずベンヂン法に頼らざるべからずトルコの香料工場は明年度より香料抽出をなさんとす。故に盡くベンヂン法による事に決し、その機械をミツセル氏に依頼せり。同氏はトルコの薔薇は優良なりと云へり。

◇

グラスの附近は薔薇とジヤスミナム、グランテ、フロラを主とす。ジヤスミナム、グランテ、フロラは花は茉莉、素馨に類すと雖も、香更に高し。樹幹は纎弱にして概ね直立せず。ジヤバ産のジヤスミナム、サンバツクの如き強幹に非ず。現時ジヤバスカハヂに此の花を移植せりと雖も、風土の異なるや、グラスの如く繁茂せず。寧ろジヤバに於ては、ジヤスミナム、サンバツクを栽培抽出するを可とす。グラス土人の言ふ所によれば、薔薇の栽培に比し多少有利なりと。蓋し八月より十一月に至るまで、花は次第に開花するを以つて、勞力の分配上薔薇の如き短期開花に比し有利なるべし。花圃は薔薇、ジヤスミナム、グランテ、フロラの外、チユベロース、ゲラニユームも亦栽培せり。其他の花香も多少これを栽へり。

◇

グラスを去る七八キロメートルにルバールと云ふ地あり。此の附近は橙を栽ゆ。橙花は皆用ゆべしと雖も、シトルス、ビガルヂアを最上とす。此の果實は苦味多く生食の用に供し難し。果皮よりも芳香を抽出し得べしと雖も、花香の爽快なるに如し。花香はネロリと通常稱せり。橙香はイタリ、シシリーを最大産地とすと雖も、一般にグラス産を最上とす。グラスの産出はシシリーの百分の一に及ばず。蓋し我邦の茶葉は、山城宇治を第一となすが如し。シトルス、ビガルヂアのみならず、一般のシトルス類は皆芳香なきに非ず。生食用の柑橘も芳香用に供し難きに非ざれども、口腹の慾は鼻を壓して之れが用となせり。故に概ね香用に供せず。シトルスビガルヂアは苦味なるを以て口腹是を好まず、故に鼻之を專用す。然れども果皮に糖を配し、マーマレードを作り芳香と少苦味を配し、朝餐の用に供せり。蓋し口腹の慾は人生五官の慾中優先權を占有せるが如し。

◇

此地にジロウと云ふ兄弟の香料工場あり。皆ミセル氏の友人なり。此工場を訪ふに兄弟共に來り、種々說明をなせり。兄弟は三十歳前後の有爲の青年なり。深くグラス香料の純粹を維持せざるを慨し、憤然自力にて工場を創設し、前に云ふコオペラチブ工場と連絡し、純粹のみを以て製品を産出せんと期せり。工場は殆ど落成すと雖も、未だ開始に至らず。恐らくは數週の後器械の運轉を見るべし。兄弟の意氣極めて賞讃するに足る。時正に六時。暮色既に暗く談ずるに時なし。再會を約し去る。

◇

グラス附近は地價高し。蓋し香料作物の如きは、極めて集約方法を用ゆるを以て、小面積に多産を期せざるべからず。時に摘花の如きは、農夫の閑暇に無償勞力を使用せざるべからず。然らざれば摘花の工費は收益を減損す。故に幾十アールの地も幾萬フランを産出せんと期せり。此に於て極度の集約方法を用ひ從つて地價の高直を免れず。本よりグラスの地は有數の避寒地にして、而も暑氣も海岸の如く甚だしからず。故に別莊地としてその需用なきに非ざるも決してその爲に高價なるに非ざるが如し。一平方メートル二十フランに價する花畝も亦少からず。葡萄も亦多く栽培せり。生食と釀造と兼ねながら之を產す。然れども未有名の釀造地に比すべからず。概ね農家自らその用ゆる所を釀し、剩あらば之を市場に出すが如し。土人の言によれば本年は乾燥異常にして、一般に作物は不良なりしがグラス附近は灌水の便ある爲め枯害を出さず、葡萄はこの異常乾燥により大豐作なりと云ふ。農夫に乞ひ畦間の葡萄を採り之を食ふに、甘味他に異れり。特にマスカツトを最優とす。

◇

此の附近は傾斜極めて急なるを以て灌渠を作り難し。故に極くアルプスより鐵管を以て水を引き飲料に供し、その餘剩を灌水となせり。從つて花香、果實の如き耐乾作物を植ゆるを以て、少許の灌水を得ばその用に足る故に山角岩頭皆一枝の鐵管により水を得べし。」

◇

グラス三日の淸遊を終りカンヌに歸り、更に轉じてエストレルの風光を賞せんと欲し、テウルよりトラヤに至る。トラヤは奇なりと雖も小なり。寧ろテウルの山角の大觀なるに如ず。テウルは一小漁村なり。その上方の山角に登れば、カンヌよりアンチブ岬角に至る大灣は開けて目にあり。島嶼列を前に布き、グラスより上方の峻嶺大山は、遠くアルプスに至るまで天半に聳ゆ。蓋しアヅル海岸中部の第一の勝景なり。午後アンチブに至る。雨あり、遊眺を恣にする能はず。アンチブの上方に至るや雨更に急なり。車を返しカンヌに歸るや急雨沛然、街道溪間の如し。カンヌに着するや、天既に暮る。夜來電雷あり。翌朝マルセールに向ふ。

◇

十一日午前九時四十分、マルセールを發しアヴヰニヨンに至るローン下流の景を勝せんが爲なり。故城崖に依り形勝雄大なり城樓に登り望むに千里双眸に入る。惜むらくはローンの濁流この附近に於て兩分し、中間に樹洲を挾み、樹高くして水を見るべからず。故にローン脚下を流ると雖も、唯だ大橋を望み淸藍を見ず。午後法皇の故宮に至る。時にチエツペリの飛行船は頭上を掠め、南天に走れり。故はコンスタンス湖畔のフリドリツヒハーフエンより南下し、地中海に出て轉じて西向し、アヅール島を經て、北米合衆國に至るなり。法皇故宮の傍の小公園は正にローンの淸流に臨めりその景は對岸ウヰルヌーブの故城の雄大なるに及ばずと雖も、ローンの水は是を償ふて餘りあり。十五時四十分の汽車に搭ぜんと欲し、停車場に至るや汽車は三十分延着せり。二十時十分リオンに着す。此夜泊す。翌日帝國領事館を訪ふ。小川領事幸ひに在り、南佛の蠶糸業の事を問ふ。午餐は三菱菊池氏の招を享く。更に再會を期し、十五時十分リオンを發しパリに向ひ、二十二時五分着す。

◇

パリ五日の滯在は全く口腹の慾樂を完ふせんが爲なり。ガストロロヂーは佛國を最上とす。此事別に記すべし。十八日夜安達大使の招宴を辱なふす。大使は廿年來の舊知なり。大正十五年歐洲に遊ぶや大使はブルツセルに在り。今石井大使の後を襲ひパリに駐箚す。河合參事官も亦從ふてパリに在り。佐藤公使も亦國際聯盟の帝國代表として正にパリに在り。皆舊知なり。談笑刻の盡きるを知らず。子夜辭し歸る。

◇

十九日ロンドンに向ふ。海峽偏南風急なりしが、波未だ高からず。ロンドン二日の滯在は戶澤中佐の約を踐み、幷せて中佐に光學の教を乞はんが爲なり。幸ひに中佐に會し、シンガポール以來の談をなし、ジヤバ滯在中光學につき群疑の百出せる問へり。蒙を啓くこと多大なり。野原正金支店長は舊知なり。同氏の招を蒙り、午後同氏と中佐と伴にキユ植物苑及リツチモンドの公園を散策せり。此日は幸ひに快晴なり。ロンドン十月に快晴を見るは稀なり。蓋し前日極めて深厚なる低氣壓のアトランチツクより來り、スコツトランドの北方を通過せしにより、その後邊に一晴の快晴を出せり然れども更に深厚なる低氣壓大西洋を東走せるを以て、二十一日午後は陰鬱なるべく、二十二日は暴風雨なるべし。故に二十一日午前意を決し海峽を渡りベルヂユムに向ふ。ドウア、カレーの間波極めて高し。カレーよりブルツセルに向ふ。

◇

翌日永井大使を訪ひ面談數時に及ぶ。午後和蘭デンハーフに至る。廣田公使は舊知なり。ジヤバの事情を談ぜり。翌日十三時十分デンハーフを發し、パリに向ふ。途中新聞を見るや二十二日夜八時、颶風ロンドンを襲ひ、ヴヰクトリア停車場の邊よりピカデリサーカスを經てオツクスフオードサーカスに至る間家屋を破壞し、大損害を與へり我等幸ひに前日決意海峽を渡れるを以てこの不慮の災難を全く免るを得たり。この颶風はロンドンに於ては稀有の事に屬し、その狀アメリカのトルナドに類す。幅員は狹小なれど破壞力は絕大なり。ロンドンに於ける通過區域は第一に殷盛の地なり。家屋のごときも極めて堅牢の大廈なり。然るに猶その害を免る能はず、風威の暴なるや知るべし。パリーに在りては安達大使の招に應ぜん爲なり。大使は今回歐朝の小幡大使の別を送らんが爲の招宴なり。不肖亦小幡大使と二十餘年の舊知なり。特に最近トルコに起業するや大使を煩はすこと少からず。今共に離杯を酌む。大使は本國に歸らんとす。我はトルコに行かんとす君向瀟湘我向秦の感なき能はず二十六日十三時二十分パリーを發し、スウキス、ロザンに向ふ二十七日ロザンに着す此行スウキスの秋色を賞せんが爲なり其勝は次回に記すべし。（十月二十七日）



初鷄　菊澤武江氏筆

賀正

公主嶺

公主嶺土曜會

滿洲銀行公主嶺支店
公主嶺電燈株式會社
公主嶺取引所
信託株式會社
正隆銀行公主嶺支店

公主嶺地方事務所長 久保田賢一

公主嶺農事試驗場長 神田勝亥

公主嶺石炭商組合

公主嶺電燈株式會社 郭家店支店

公主嶺取引所長 田邊鐶

公主嶺郵便局長 加藤三吉

公主嶺信託會社專務 藤井省策

公主嶺滿鐵醫院長 加藤榮

公主嶺驛長 深澤住男

公主嶺公學堂長 大隈勘次郎 外職員一同

公主嶺合利洋行主 小松光治

公主嶺電燈株式會社專務 宮川嘉門

公主嶺地方委員 大口靖太

公主嶺滿銀支店長 大倉太七郎

公主嶺正隆支店長 竹田計二郎

和洋雜貨商 小松洋行

小松齒科醫院

陸軍御用 楠田菓子店

和洋雜貨商 小久保洋行

東亞藥房 足立準

公茂堂 山本茂之亟

金昌堂 隆旗金次

驛構內食堂 榮商店

滿鐵社員俱樂部 食堂

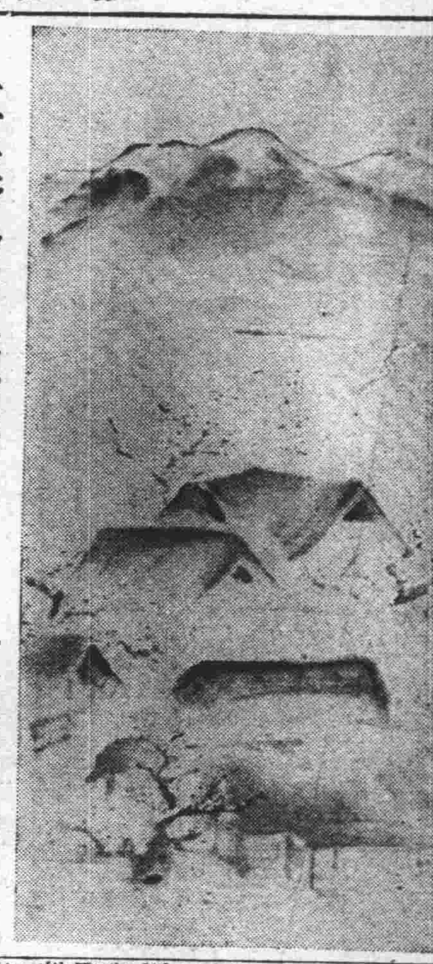
丹宗吳服店

武富洋服店

東京名物せんべい 細田商店

陸軍、滿鐵御指定 丸福旅館

會席料理 やまと



勅題「田家の朝」 菊澤武江氏筆

事業界の整理と中小工業金融

日本興業銀行總裁 鈴木島吉氏談

大正十四年頃より社債の發行は逐年增加して昭和三年十一月末に於ける會社々債の現在高は大約二十七億圓の巨額を算するに至つた、之れは大體に於て金融緩慢

金利低落の

情勢に順應した結果なること申す迄もないが、就中昭和三年に至り特融の結果、金融は一段緩慢となり金利は更に低落したので社債の發行續出し同年十一月迄の累計十億九千八百餘萬圓其内借替發行に屬するもの實に八億二千六百餘萬圓の巨額を算し社債現在高の約三分の一を占めたのである、而して右借替發行社債は大抵三四年前に發行されたもので昨年に入りて据置期限を經過したものが低利に借替へられたのであるが、試みに其の

平均利廻を

比較せんに大正十四年中發行社債の平均利廻り八分一厘二毛、昭和三年(十一月迄)中の同利廻り六分二厘六毛であつて一分八厘六毛の低下を告げた、即ち昭和三年中に借替たる社債は其れ丈有利に發行し得た次第であつて借替による差益大約一千五百萬圓餘は事業會社が利息負擔を輕減するを得たのである之れは今後數年間年々享受する事業界の利益である、加ふるに金利低落に基づく利息負擔の輕減は單に社債のみに限らず廣く商工業者の借入金並に

手形割引等

も亦同樣之に均霑し得た所であつて昭和三年十月末と前年十月末即ち其の一年間に金利低落のため全國手形交換所社員銀行の貸付、貸越及び割引金額總計に對する金利の輕減額は大約四千六百餘萬圓の巨額に達して居る、隨つて一般商工業者は金利低落の結果、社債及び銀行借入割引金だけにても合計六千百餘萬圓の利息の負擔を輕減することを得た譯であるから、事業の經營の上に何の位役立つたかは想像に難からぬのみならず、銀行整理の結果事業界の整理を促したるもの少からず之れを恐慌前に比較すれば實に靜穩も啻ならずであつて事業界は殆と安定せりと言ふも差支無き樣である、然るに安定したと思はれる事業界裡に尚時々不始末を暴露する會社ありて内容改善のため

配當の減少

を免れざるものあり、不經濟なる競爭止まずして放資家に不安の念を與ふるものなどありて斯界の暗影未だ消えぬやうである。事業界には右の如く多少不安の暗流潜在し今尚相當整理改善の餘地あるやを思はしむるのみならず、今日業況圓滿に進行せる諸事業中にも紡績、絹糸紡績の一部、製紙、製糖、セメント、モスリン、晒粉、過燐酸、石炭等の如き操業短縮とか販賣價格協定とかによつて其の經營を維持せる現狀であつて、若し斯かる協定が十分實行されない場合には果して今日の狀態を持續することが出來るか何うか疑問である、固より協定協調は各種の事業が眞實安定に到る道程たるに相違なく又事業經營を適度に有利ならしむる爲に之れを必要とするのであるが、協定は一種のトラストであつて之れを

極度に惡用

すれば消費者に不利益を與ふること明白で、其の結果生活費を高め延いては一般事業にも惡影響を生じ大局より觀て不利益たるを免れぬが、販賣協定もせず生産制限をも行はず無益の競爭を爲し可惜事業をして共倒れの運命に陷らしむるに比ぶれば遙かに思慮ある、殊に現時に處する妙對策と信ずる、併し生産制限は之れを解剖すれば設備の一部を睡眠せしめ其の資本に對しても相當の配當をなすものであつて決して理想的のものとは思はれぬ何とかして別段成績を惡化することなく各事業に投ぜる全資本の活用、即ち全能力の運轉をなし依つて生じたる生産品の

剩餘部分は

之れを海外市場に於て處分することは出來ないものであらうか、能力の一部睡眠は如何にも惜むべき事である、況んや我國の如く金解禁の準備の爲め國際貸借の改善を要すること焦眉の急なる國に於てをやである、若し此の事が可能なれば我國際貸借決濟の上に資する所大なるのみならず商品の海外販路の開拓となり軈て又事業の將來を確保する素因を作るものであるから我工業の發展策として極めて大切なる事と思はれる、次に中小業は大工業を初め一般事業の發達を補助する上に於て大切なる事業であるから金融上之れに便益を與へて其の維持發達を期すべく所謂中小工業金融問題の解決に就て各方面に種々論議されて居る

政府の方針

も此の問題の解決を期し段々實行方法を講じて居る次第であるが、本行の立場も亦同樣其の解決に盡すため年來中小工業者に對して力めて資金の供給に任じて來たのであるが何分にも中小工業者は全國各地に跨がりて其數甚だ多く其の範圍も亦甚だ廣きため本行獨り如何に努力しても僅に一部分の金融を賄得るに止まり、其の效果甚だ薄く一般の大なる期待に添ふことが出來ず大に遺憾に思つて居る、從つて中小工業金融を完全に遂行して圓滑の域に達せしむるには單に一金融機關に委することなく普く一般金融業者の協力に俟つの外無いと思ふ其の中にも

一二三流銀行

の營業が復活すれば元來中小工業金融に密接の關係を保つて居つたのであるから此の問題の一部は解決されるであらう、又各地の農工銀行が中小工業金融に活動することになり同時に多數の農工銀行を合併した勸業銀行に於ても同樣活動することになれば之等銀行の本支店が全國各地に散在せる關係上本問題は餘程解決されるであらうと考へる、元來我國は人口過多にして手工業國であり、中小工業國である全工業發展の爲めに其の經營を維持助長するは極めて緊要なるのみか之に從事する職工の多數なる點から考へても社會政策上放任すべきものでない、殊に近年中小工業の生産品輸出か

漸增の趨勢

を呈するより觀ても大に之れに保護を加へる必要を認めるのである、右の如く對中小工業金融は政府の督勵と特種普通兩金融機關の新活動とにより漸次疏通されるにしても銀行界整理前に於て行はれたやうに、不健全なる銀行から不健全なる融通か容易に得られるものと考へるならば、それは中小工業者の甚だしき考へ違ひと云はねばならぬ、中小工業者に於て堅實なる經營をなし銀行業者をして安んじて資金の需要に應ぜしむる樣改善を爲すことが肝要である、之は當業者の自ら勉む可き點であるが、更に中小工業の發達の爲めに府市の如き公共團體に於ても一個の

指導機關を

設けて機械工場其他設備の改善を促すとか又は經營上の相談に與るとか、或は徒弟のため其れ其れ專門の夜學校を設けて實際的智識を授け進歩せる技術を習得せしむる等の施設に依て今日日進月歩の工業界に適應せしむる樣相當設備を爲すことは中小工業を向上せしむる所以であつて金融問題の解決と同樣に深甚の考慮を費すべき要項なりと深く信ずる者である、中小工業の或るものは疎々帳簿を有せず自己の事業の成績を明示する證憑なきは金融を爲す者の最も不便を感ずる所であるから、會計士又は適當なる方面に就いて完全なる帳簿と其の記帳方を習得することも亦

極めて必要

と思はれる、尚原料の仕入製品の販賣に就いても多くは問屋の手を通して不當の口錢を貪られ又廉賣高買を餘儀無くされて居るもの少からず此の如き場合には金融機關の一擧手一投足に因り彼等の受くる利益は蓋し大なるものがあるであらう。ロイドバンクは倫敦に於ける大銀行の一であるが或雜誌に據ると中小資金の貸出しが口數に於て八割四分金高に於て四割三分の多きに達して居るとのことである、我國の大銀行の中小工業に對する放資の統計は分らぬ蓋し相當の割合であらうと思ふが大銀行も特殊銀行及び二三流銀行と相協力して本問題の解決を促進せんことを祈る次第である。

年頭の所感

大連取引所長 山崎平吉

昭和戊申の歳も暮れて茲に昭和四年を迎へた事は同慶の至りである、昨年に於ける當取引所の特産、錢鈔市場は共に大なる活氣を呈せずして、先づ

平凡裡

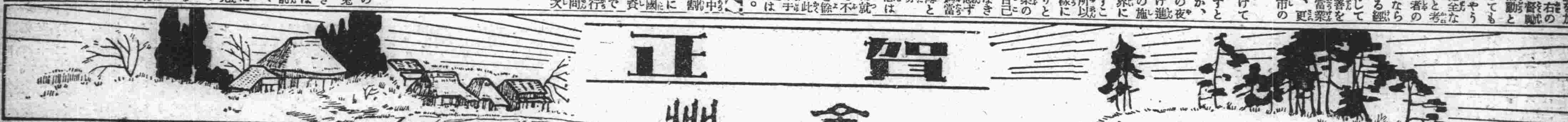
に經過したが、是は年來引續く一般財界不況に伴ふ自然の結果と見て、必ずしも悲觀するに及ばないと考へる、世の中は興廢時に繞り、經濟界も亦盛衰を繰返す事言ふ迄もない、顧みれば大正八九年を絶頂とする大戰後の財界は、その反動で大正十一年頃より世を擧げて不況の淵に沈み今に至りたる次第であるが、此の間十年の歳月を經過し、又再び財界復興好轉の兆候は、漸次諸方面に認められる、此の芽出度き

新年に

於て、更に一段の勇奮をなし、滿洲財界に愈復興氣分の瑞光を見ん事を切望す、まだ本年に於ては直に好轉活躍の時期に入る事を期待し得ないが兎に角既に不況のドン底を通り過ぎ多少の新光候を想望し得るとせばお互ひは茲に氣分を一掃して、前途の好望を認めつゝ奮勵努力すべきであると思ふ、諺に「眼前に太陽の光輝を眺めて進むときは元氣出るも、後より日沒の

光線の

影を踏んで辿るときは道遠し」と云ふ事もあるが我々は常に自重して行動すると共に、常に前途の光明を見失はないやうに注意したいと思ふ、私も昨年圖らず取引所の一人となりてより茲に一年未だ此の方面の知識と經驗淺しと雖も、新年と共に益々本務に努力したい覺悟である



金州民政支署 職員一同

關東廳農事試驗場 職員一同

綿糸紡績 內外綿株式會社 金州支店

金州農業學堂 公學堂南金書院 職員一同

關東廳種馬所 職員一同

加世田彌次郎

內外綿株式會社金州支店 村山增雄

金州驛長 廣谷源助

金州民政支署庶務課長 松木勘十郎

金州郵便局長 太田鐵也

金州金融組合理事 鹽澤角兵衛

金州驛前郵便所長 三浦健造

本丸弘

金州尋常高等小學校 職員一同

金州保線區 立光清一

盧元善

日本赤十字社金州支部 松元計介

金州海關 長岡重太郎

原田農園 戶崎靖雄 電話一三〇番

土木建築請負業 泉屋與吉 電話三六番

土木建築請負業 倉重光藏 電話一〇一番

土木建築請負業 櫻町茂 電話一二四番

南山通 福昌農園 電話一八番

南山通 南山園 電話一〇三番

鮮魚商 西園商店 西園慶助 電話一二五番

金州驛前 白石兄弟タクシー 電話一二八番

南山中並金州大孤山間乘合 金城タクシー 電話四三番

諸雜貨 阿津坂商店 電話三二番

御料理 文廼家 電話一二一番
辰巳 五郎 清香 十郎 とぼ おいよ ん
金之助 小政 千歳 早苗 お玉

諸官衙御用達 圖書雜誌 內海商店 電話一〇五番

御料理 三浦屋 電話一一番
濱勇 鈴龍 文子 かほる 玉枝 はる

御旅館 金州旅館 棗田多都代 電話三一番

金州驛前 棗田洋行 棗田久助 電話三一番

會席御料理 筑紫 田中しな 電話三七番

和洋御料理及麵類 千代廼家 重田長槌 電話七八番

御菓子商 小島商店 電話一二六番

金州奥町 關東廳指定 東亞勸業會社買賣 中空呉服店

滿洲日報並大阪朝日新聞販賣、洗濯クリーニング 山本甚太郎商店 電話六四番

滿洲日報販賣店 藥種雜貨 鳴瀨商店 電話五八番

內地歸省中ニ付年賀缺禮仕候 滿洲日報社支局長 江口光夫

大連 大連石炭商組合
石炭 滿鐵特約販賣人
佐藤組 電話四八七八・六八〇七番
織昌厚 電話五六七三・五六七八番
東萊洋行 電話九五〇六・九〇六六・八四八四番
共同組 電話四三〇二・四七〇九番
鶴田號 電話六〇〇〇・五九〇〇番
大宮組 電話五六六〇・四六六〇番
宮崎商會 電話五三二・五三一五番
東華公司 電話五六四五・九五四七・三〇七四番

竹山商會 各種煖房工事設計 竹山式放熱器 附屬品製作 竹山吉治 大連市山手町四番地 電話長六五五三番

船具、鐵管、諸機械、油、塗料 大連市監部通 岸洋行 電話四三七六・六四二〇番

大連生命保險同業組合

キツコマタ 大連市信濃町 河又醬油

賀正

撫順

山西恒郎
久保孚
大林太久美
草野友次郎
內野捨一
大尾袈裟助
田中廣吉
撫順輸入組合 理事 中原祥光
後藤愛助
飛鳥井堉他郎
平尾關太郎

撫順炭礦個所長一同

石炭 細工 山羊乳 撫順炭礦指定洗布所
大谷商會 電話二八二番

野田慶
合名會社大松號 大江維賢
矢野組出張所 平井譽治郎 東十條通り 電話四三七二番
古賀初市
中山豊
大島勇
塚田淸
齊藤茂一郎
角德一郎
松井佐兵衛
石原洋行 電話七番
石炭商 四國洋行 電話八二番

中央大街 撫順公司本店 電話八八番
滿鐵石炭特約販賣 三榮公司 電話三八八番
蓬萊洋行 電話一四五番
東四條通 乾物雜貨 前田洋行 電話二二〇番
朝日町一丁目 隅田順吉 電話二二番
飯田工業所 飯田彌三郎 電話一六四番
石炭商 西三條通り七 共榮公司 電話長三八七番
能文堂書店 電話一一四番
貴金屬時計商 山田洋行 電話三二一・一七番
森口直次郎 電話五二番
東十條通五一 榊谷組出張所 電話四三五〇番
神田工務所 電話一九七番
富澤寫眞館 本町 電話二一八番
石炭商 明星公司 電話二七八番
大衆雜誌 月刊撫順 城島德壽 撫順中央大街

滿洲土木建築業組合撫順支部
三田工務所　矢野組　田中商會
長谷川組　高岡組　細川組
坂本組　後藤工務所　吉川組
村松組　大倉組　神田工務所
飛鳥井組　伊賀原組　榊谷組
福昌公司　福井高梨組

撫順地方委員會委員一同

撫順地方醫師會（イロハ順）
長岡齒科醫院
中島齒科醫院
中村齒科醫院
柳瀨病院
山路齒科醫院
松井醫院
天生病院
淺田病院

能文堂新聞部 電話一三九番
撫順會社團
菓子商 花月堂 電話長一三番
中央大街五條停留場前 原田靴鞄店 電話三九二番
和泉呉服店 電話一一・五二九番
永安大街 履物一式 長門屋 電話四四〇番
船橋洋服店 永安大街
滿洲朝鮮專賣所 藥業專門 ハレルヤ藥店 電話四二八番 振替大連三二九四番
和洋菓子 パン 明治屋本店 電話四四九番

女學校通り 山口和夫
新らしい使命のもとに若い主人が經營する、おでんと喫茶の小さな店、靑い塔……をぜひ

撫順 純料理店組合

ビルブローカー 岡田辰藏 東二條通り
泰盛洋行 電話三〇番
白壺舍 後藤民藏 電話一八七番
山口タクシー 山口喜市 電話二五八・三六〇番
昭和タクシー 富田金次郎 驛前西ビル 電話五二一番
撫順驛前旅館 筑紫館本支店 本店 電話一九番 支店 電話四六四番
永安大街 壽旅館 電話長三番
撫順樂天地 旅館 貸間 保健浴場 電話四五六番 池田知賀良

撫順料理店組合
濱美家
新高亭
蓬萊館
近江亭
右左滿
旭館
山陽樓
金龍亭
みどり
新喜樂
一二三
日の出館
松月
いろは
山田館
組合事務所

大連

大連市浪速町二丁目 文房具測量用具 內田洋行支店 電話四五一七番 四八五六番
大連常盤橋 御菓子 みなと屋 電話六〇八五番
大連市西公園町六五番地 大連質業株式會社 電話七〇七三番
事務所 近江町一番地 大連飲食店組合員一同 電話三八四五番
大連西検番 香壽美 電話六〇三六番
大連市乃木町 中村電氣工業所 電話五六五四番

コドモページ

一等當選 童話

お年玉とスケート

山田建二作
浅枝次朗畫

順チャンはスケートが大層上手でしたが未だ下駄スケートなので皆と同じ様な靴スケートが欲しくて欲しくてたまらないのです。未だろくに走れもしない者でも銀色にピカ／＼光つたのを肩にかついで行くのを見ると順チャンは自分の下駄スケートがはづかしくてソツとマントの下にかくしてしまふのです、區長さんの子供は長さが一尺もあるロングをつけて氷の上をツバメの様に走つてゐるのを見ると順チャンは赤ン坊の様に長い紐で下駄と足を結びつけるのがたまらなく恥づかしいのでした。

「順チャン……どうして靴スケートを買つてもらはないの……?」

組の中で只一人下駄スケートをつけてゐるのを不思議に思つてゐる友達は時々こう尋ねるのでした。

「……お正月になつたら買つてもらうのだ」といつも答へるのでしたが貧乏な順チャンの家では高い靴スケート等買つてもらへるはずがありませんので順チャンはお正月が來るのが何だか恐ろしい様な氣がしてなりませんでした。

しかしお正月は遠慮なく來ました、順チャンは矢張り下駄スケートなのでもう滑りに行く元氣がありません。

「順チャン……スケートに行かない?」道順なので區長さんの坊チャンがロングを肩にしてさそひに來ました。

「あゝ僕一寸お使ひに行かなければならないから先に行つてくれ給へ」と玄關にかけてある下駄スケートを眺めながら答へました。

そして順チャンは伯父さんの家に年始に行きました、伯父さんは大層喜んでストーブの側で色々の馳走をたべさせて下さつて歸る時

「おゝ順チャンにお年玉をあげやう何か欲しいものがあるかね……?」とお尋ねになりました

「………」

「遠慮しないで言ひなさい……ハモニカか……?……空氣銃か……?エツ違ふ…一體何だい?」

「あの……」

「あの何だい……?」子供のない伯父さんは順チャンを自分の子供の様に可愛がつてくれてゐましたので大抵のものは買つてくれるのですがスケートは大部高いことを知つてゐましたので順チャンは言ひだせないのでした。

「早く言ひなさいよ……何でも買つてあげるよ」

「あの……」

「いつまであの……ばかり言つてゐるのかね……」

「あの……スケート!」と思ひ切つて言つて下を向ひてしまひました

「なーんだスケートかい。早く言へばよいのに、買つてあげるよ……」

「エ、本當ですか……」

お正月早々「うそ」は言はないよ……」

「チヤー指切しませう……」

「ハヽヽ、指切なんかしなくても今直お金を上げるから買ひに行きなさい」と言つて伯父さんは金入の中から札と五十錢銀貨をまぜて三圓だして紙に包んでくれました

「さーお年玉だよ……早く行つてすきなのを買ひなさい……」

「伯父さん有難う……これから皆と一處にスケートが出來ます今まで僕一人下駄スケートでとても恥かしかつたのです……伯父さんさようなら……」

落付いた順チャンにも似ずチヨコンと頭をさげて飛び出す様にして伯父さんの家を出て△△運動具店に急ぎました

處々凍つた道の上でころびさうになりましたがその度にポケツトのお金の包みをさわつて見ながらハーハー息を切つて走つて行きました。やつと運動具店の前に來て入口の戸をあけやうとしますと丁度そこに支那人の小孩が二人ロシヤドロツプのカンの様な中にある少しばかりの焦たご飯をうばひ合つて食べてゐました。

二人は兄弟の様でしたが枯木の様にやせてこの寒さに着物が所々破れて血の氣のない青黒い皮膚が見えてゐます。手は腐つたザクロの様で二度と見られませんでした

わずかなご飯をうばひ合つて食べてしまふと二人は元氣のない聲で「めーししんじやう……」と言ひながら店の中をのぞいてゐます。順チャンは入口のハンドルに手をかけながら入らうともせずこの有様を見てゐました

可哀相だな――あの小孩たちはたべるご飯もないのだ……あの小孩のことを考へたら靴スケートなんか買ふのはぜいたくだな――……?」

「さうだ伯父さんにはうそを言つた様になるけれど神様はきつと許して下さるだらう……頂いたお金を少しやらう……そしてそれだけ安いスケートを買はう……」と決心しましたが、しばらく金包をおさへたまゝじーツと見てゐました店の內の人が不思議そうに順チャンを見てゐます、小孩はご飯がもらへないと知るとポツリ／＼歩きだしました……

「あーツ小孩……マンマンデー……」と順チャンは夢中で呼び止めてポケツトからお金包を出して中から五十錢銀貨を一つ取つて小孩に渡しながら

「小孩……ヌクイ／＼でメシ、メシ、ホ」と申しました。小孩はビツクリして銀貨を眺めてをりましたが本當のお金だと分かるとおどり上つて喜びながら頭を地にすりつけてお禮を申しました。

順チャンはもうスケートのこと等忘れて一緒におどりたい様な氣持になりました……小孩は何遍も頭をさげながら行つてしまひました。

順チャンは相變らず店の入口におりましたが我にかへつて思はず戸をあけて店の內に入りました。

「小父さんスケート下さい!」

「ハイ」と人のよささうな主人が色々のスケートを持つて來て見せました。

包紙の中から銀色のスケートが見へると順チャンはもうたまらなくなつてくるのでした。

「小父さんこれいくらですか……?」

「五圓です」

「エツ五圓高いなもつと安いのはないですか?」

「さうですね……これなら三圓八十錢ですが……」

「三圓八十錢……こまつたな……小父さん一番安いのはいくらですか?」

「一番安いのと……これが一番安くて三圓です……」

「一番安くて三圓……!」

順チャンはガツカリしてしまひました「小孩にさへやらなければ買へたのに……」と思ふと何んだかとりかへしのつかないことをした様な氣もしました。

「困つたな……」と順チャンは小さい聲で申しました。

「お金が足りないのですか……?一體いくら足りないのです……?エツ五十錢……坊チャンではこれを二圓五十錢にまけてあげませう……」

「エツ!負けてくれる……!小父さん本當ですか?エ、小父さん?」

順チャンは目を丸くして小父さんの顔を見つめました。

「エ、負けてあげませう、私が小孩にやるのを坊ちやんが代りにあげてくれたのですから……」

「じやア小父さん僕が小孩にお金をやつたのを見てゐたのですか……?」

「えゝよく見てゐましたよ、本當に私は坊ちやんの親切に涙が出る程嬉しかつたのです、ごほうびにバンドもつけてあげませう……」

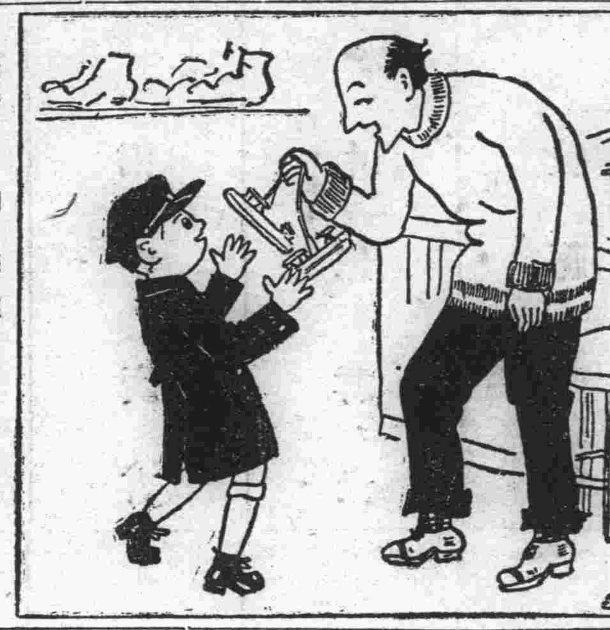
と小父さんは赤い線の入つた丈夫そうなバンドを一緒に包んで順チャンの前に出しました。

「小父さん有難うございます……僕この靴スケートがないとお友達と一處に滑れないのです……その內にお小遣ひをためてきつと拂ひますから……」

と順チャンは嬉しそうにスケートの包を胸にだきかゝへて

「小父さんキツトお金を持つて來ます……。さようなら……」

と丁寧に頭を下て店を出て行きました(をはり)



新年漫画 トン吉の正月 向沙弥作



合作童話

お窓の星(一)

石森延男作
浅枝次朗畫

第一回 石森延男　第二回 上村哲彌
第三回 弓削應明　第四回 青山捨夫
第五回 今永茂　第六回 中溝新一

「お母さん お星さんつて、生れるものなのえ」

みいちやんは、ベランダのおまどから、すんだ夜の空を、みあげながら、お母さんに、たづねました。お母さんは、おへやのなかで、一生けんめい、お針しごとです。もう、ぢきに、冬がくるんですもの。みいちやんが、からおたづねしても、お母さんは、ごへんじもなさいませんでした。

「お母さん お星さんつて、咲くものなの、え」

みいちやんは、やつぱり、まどに、ほゝづえ、つきながら、空を見あげて、おたづねしましたそれでも、お母さんは、おきゝとりなさいません。

「お母さん お星さんて、降つてくるものなの、え」



みいちやんは、じつと、お星さまの世界を、みつめて、ゐるうちに、さまざまな、けしきが、目に、みえはじめてきました。まつ白な、お星さんが、そつと歩いてきて、碧いお星さんの、そばによりそつて、きました。すると、碧いお星さんは、しづかに、手を、さしのべました。二つのお星さんは、手をくんでかろくダンスをはじめました。これを見た、ほかの、紅いお星さん、緑のお星さん、黄のお星さん、紫のお星さん――がたが、てんでに、うでをくみあつて、いつのまにか、をどり、はじめました。それが、一れつにならんで、弓なりに、をどるときは、虹のやうに見えます。ばらばらに、はれて、とびまはるときは、花ぞののやうに、見えます。

「まあ、きれいだわ。たのしさうわ、あんな、ところにいけたら、まあ、どんなに、きれいでせう」

みいちやんは、ひきつけられるやうにして、両手をのばしてみました。すると、どうでせう、しらぬまに、みいちやんは、ふはり／＼と、空中を、とんでゐるでは、ありませんか。ふと、下を見ると、みいちやんの家のまどは、明るくて、おへやの中には、お母さんが、やつぱり、一生けんめい、お針しごとを、なさつておいでになるのが、小さく、見えました。

入選童謠

一等 捨てられ小犬

上倉童夢

大さむ小さむ
冬のあさ。
小犬がおもてゞ
泣きました。
夜明の六時に
泣きました。
ねまきにたんぜん
着て出たら。
捨てられ小犬が
尾をふつて、
坊やのお手手を
なめました。

二等 おてらのかね

柴田正一

おてらのかねが
ゴーンとなつた
もーつきこうと
まつてるけれど
なかなかはやく
ならないな
きつとおてらの
ぼうさんが
きつくてやすんで
ゐるんでせう
やつとゴーンと
なりました。

懸賞兒童讀物

入選者發表

作品は順次掲載

懸賞兒童讀み物は締切日までに集つたもの童話第一種九十五篇同第二種六十二篇、童謠二百十八篇、笑話二百五十一篇、計六百二十六篇に達したが編輯局に於て嚴選の結果左の作品が入選した。

童話(第一種)

一等 お年玉とスケート 長春常盤町三丁目十一 山田健二

二等 草はほゝゑむ 朝鮮慶尚南道龜浦向島 西谷一之

三等 樂しいお正月 長春常盤町三丁目十一 山田健二

佳作 甚兵衛の子(旅順狹山武雄) 美しい人魚(朝鮮西谷一之) まあちやん(大連佐々木四郎) 蝸牛(大連中澤惠子) ロバと豚(大連猪飼千代子) 民夫さんと名馬(大連鈴木石陽)

童話(第二種)

一等 シヤウジキナヒヤクシヤウ 開原孫家大家 豐村修

二等 ジラウサントロバ 安東縣一番通四丁目 西元靜男

三等 ミゴトナモモ 大連市近江町三 坂口としろ

佳作 ラウサンノテブクロ(開原豐村水星) ヤナギノエダ(大連猪飼千代士) オシヤウガツヲムカヘニ(長春山田健二) シナジンノコドモ(尾宮具美子) シナクリトケンチヤン(奉天小早川義夫) スズメノコ(大連武藤一枝)

童謠

一等 捨てられ小犬 旅順月見町六二 上倉童夢

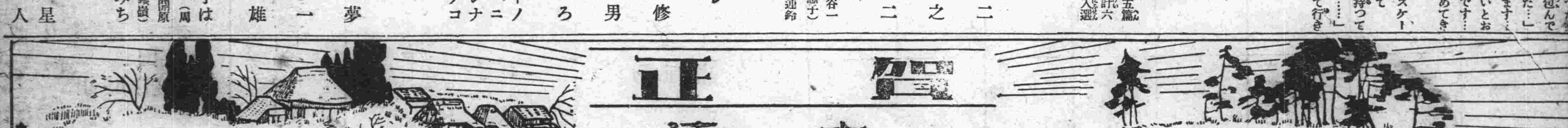
二等 おてらのかね 大連大廣場小學校尋一 柴田正一

三等 寒雀 大連伏見臺小學校尋三 東瀨戸泰雄

佳作 ろば(開原原銀嶺) 煙突掃除(大連丘ひじり) 泣く子はだまろ(旅順上倉童夢) 四十雀(撫順柳出) 村の娘(周水滿潮雨象) 山羊追ひ(周水滿潮龍象) ストーブ(開原豐村水星) 燒薯(大連濱藤正雄) 滿洲の汽車(開原原銀嶺) 田舍の驛(大連林秀逸) 影法師(京都杉江謙) 坂みち(同人)

笑話入選

四大都市 開原 豐村水星
高粱 同 同人



大連醫師會
牧田太猪藏
大津瀧藏
泉文三
星武
中原不耀夫

遞信局(いろは順)
中村富士太郎
在倫敦 緒方治郎
大津義雄
日下部鉦次郎
三木卓
篠原忠男

チエルベルジス繼續合資會社
松浦壽吉
事務所 大連市山縣通二二二福昌公司 電話七一七一番
自宅 大連市薩摩町七番地 電話四ノ五八番

建築壁材料商
合資會社 田崎商店
大連市西通り四七ノ二
電話四七一九番

辻利大連支店
大連市浪速町三丁目
電話三三八七・四七七六番

綿糸布商聯合會
會員一同(いろは順)
大連市山縣通 株式會社 日本綿花 大連支店
大連市山縣通 東洋棉花株式會社 大連支店
大連市監部通 株式會社 大信洋行
大連市大山通 株式會社 角田洋行
大連市山縣通 滿洲共益社
大連市山縣通 丸永商店大連出張所
大連市大山通 永順洋行



本社懸賞當選小說

人生の曲藝(1)

瀨野皓太作
小谷津三郎畫

ホテル・オブ・ミラクルス(一)

北滿の魔都、哈爾濱市は、華やかで而も憂鬱だ。わけても殷賑を極めてゐる東洋のモンマントルなるキタイスカヤ街は、冬寒去つて、街頭の人々もその毛皮の耳覆ひを脱ぎ、深々と兎の毛で覆はれた怪物の眼の樣な不氣味な防寒眼鏡を外して了つたとはいへ、餘寒は零度下十度を上らず、色彩さま〴〵なる電飾の店舗のみ徒らに淋しい。

街燈は青白く裸の白楊を照らし、街路は寒く明滅燈に輝かされる所キタイスカヤ街の南外れに近く、豪奢なる一軒のホテルが建つてゐる。

「哈爾濱ホテル」は土地の人たちが「ホテル・オブ・ミラクルス」と呼んでゐる樣にその宏大な建物に似ず、この繁華な街にも似つかず、如何にも暗く、不氣味な感じを、その外觀に見せてゐる。例へて言へば、荒廢した古都の中央に魔物の樣に睥睨してゐる古城の如く誰しもがその建物の前に立つて私かな戰慄を感じないものはない。蒼白く電飾された「哈爾濱ホテル」の小さな表札の下には重い黒色の扉。その扉は絶え間なく奇妙な軋りの音を立てゝ、その度毎に街路の人達は吸はれる樣に、その扉の中に消されて行く人々は、この不思議な黒い扉の前に立つ時、この飾られない黒さが、どうして、斯くも魅惑的であるかを常に疑ひながらも、その奇妙な軋りの音を聞くと、思はず足早に扉の中に呑みこまれて了ふのである。

キタイスカヤ街を驅ける自動車はその幾十臺とも知れず、このホテルの玄關に集り、綺羅に包まれた若き露人の男女を、モダーンな支那青年淑女をあるひは又邦人の數組を、この黒い扉の中に送りとゞけてゐる。しかも意味深い扉の軋りは、その度毎に重く、悲しく響いてゐる。

午後十一時頃、一しきりその軋りの音も淋れた頃、エメラルド色に塗られた自動車が一臺、滑るかの樣に明かるい街路を走り續けてゐたが、ぴたりとホテルの玄關につけると共に、一人の若い支那青年將校が下された。

彼は、ほんの暫くその黒い扉の前に立つて、首をかしげてゐたが、カツカツと拍車を鳴らして二三歩あるいたかと思ふと、忽ち扉は彼をも、重たく呑んで了つてゐた。

あとは暫く靜けさが續いた。街の電飾は、殆ど一定の間隔をおいてゐるかの樣に、パツパツと消えて行つた。

「ホテル・オブ・ミラクルス」に集つて來る此のおびたゞしい華美な人達と、この黒ぐ氣味惡い建物その黒い扉とに、一つのつながりがあらうとも見えない。だのに、この扉は今宵は數百人の人達を吸ふて、なほも扉を鎖さうともしない。

けれども「ホテル・オブ・ミラクルス」の樣はこの不思議のために、言はれてゐるのではない。一度、この重い扉を排して、ホテルの中の人となり、ホテルが誇る大食堂に入る時は、華麗全く、凡ての魂を奪ひ、歡樂全く、凡ての人の其の凡てを奪ふ壯觀は、その重く暗い外貌に比べて、殆どその對比の妙、想外に餘るものがある

さてこそ、神秘なる不思議なる奇妙なるホテルの稱呼のある所以である。

エメラルド色の自動車を乘り捨てたかの支那青年將校は、黒い扉を押して中に入る共に、外套を預るボーイに小聲で尋ねた。

「ホールのテーブルは開けてあるだらうね」

「はい、お電話がありましたので二十五番のボックスをとつてございます」

ボーイは慇懃に答へた。

青年將校は更に聲をひそめて問ふた。

「よく見渡せるところを」と言つておいたが」

「はい、舞臺近くの所ですから、充分ごらんになれます」

「いやさ、ステーヂはどうだつて好いのだ。ホール全體の人たちがよく見える所なら好いのだ」

ボーイは不思議さうに彼を見あげたが、直に彼に答へた。

「勿論、それも充分に」

「よろしい」

青年將校は、拍車を鳴らして、大またに、階段を上つて行つた。



俳句

選外佳作
「新年雜詠」　島田青峰選

○大連　橋本歌洲子

春聯や板戸板塀傾きて
春聯を貼りたる荷馬車通りけり
年賀人道連れとなり別れけり

○鹿兒島　島田直三

水音のゆるゝ若水汲みにけり
寄せ返す波も靜かや今朝の春
曉白む舟に若舟運びけり
初み空靜かに潮の響きけり
初日さす白き障子の草家かな

○撫順　大野賓雨

繭玉や客の出入の絶えまなし
繭玉や騷客どつと歸りたる
雪の消賑かに來し禮者かな
醉ひしれて再び來たる禮者かな
ホ句一つやうやくよみし三日哉
日當りて部屋明るさよ初鏡
門前に居て受取りし賀狀かな
叮嚀に會釋交はして初稽古
賣初めの看板娘着飾りて
名刺受出して靜かや御玄關
初風や人通る見ゆ雪の原
初竈飯よく出來て目出度さよ
輪飾や曉暗き深廂
門松や移り住みたる新社宅
犬と遊ぶ妻の暇や松の內
古[illegible]や小松飾りし軒柱
老犬や貧居の春の門を守る
雪晴れて俄かの寒さ初日影
掃初の塵をもやせるペチカかな
次の間に母人居ますかるたかな
隣の子かりて入れたる初湯かな
凍土に[illegible]鳴りぬ初詣
回禮やあと一軒の山社宅

賀正
大連

唐澤準吉
津田元吉
榊谷仙次郎
高岡又一郎
大連民政署高等官一同
恩田熊壽郎
高崎弓彦
大連金融組合 組合長 平井大次郎
武田正吉
立川雲平
野津孝次郎
安住時太郎
高山勝司
小島鉦太郎

山葉龜五郎
藤沼誠一郎
田中知平
大連工業株式會社 取締役 桝田憲道
大連市美濃町九拾一番地 土木建築材料商 早野康治郎 電話二四二〇七番
前川郁夫
田邊三槌
日下卓四郎
寺田良之助
大連會社金融組合 理事 橘辰之助 事務所 大連民政署內 電話八一九一ノ三六
能登町四四 森谷竹二郎 電話六二六七番
大連市吉野町 村上寅造 電話四九三七番
相川米太郎
河內山武雄

三田芳之助
副島善文
今村貫一
鈴木丈太郎
野本謙治
井上高富
三宅亮三郎
手島薰
金井章次
大西正弘
佐藤恕一
有馬邊
若月太郎
大內成美
內海安吉

高橋仁一
今井榮量
高橋猪兎喜
岡本英敏
村田懿麿
品田直知
立石保福
佐多彥美
仙波久良
宮崎愿一
槐常一藏
藤田秀助
早川高志
船田要之助
高橋武夫

賀正

安東

安東縣郵便局 西村元治郎 羽生實 矢口清藏 折田廣嗣 古川繁二 金原辰之助 吉田平次郎 櫻間四萬年

安東地方事務所長 粟野俊一

安東地方事務所 各係長

三井物産安東支店長 池上常太郎

滿鐵用度事務所安東支所主任 石橋房吉

安東滿鐵醫院長 梅田嘉四郎

安東商工會議所書記長 上田耕一郎

安東警察署長 尾崎三郎

安東保線區長 大木延邑

大村工務所々主 大村寛藏

安東縣郵便局長 河野秀雄

安東縣日陞公司 金井佐次

河合洋行主 河合芳太郎

安東縣市場通五丁目 北田榮太郎

安東州方委員會委員 金虎贊

安泰利店主 來栖健助

荒井組出張所 古賀諭

滿鮮坑木專務取締役 新羅祐三

安東驛長 白石寅治

富士瓦斯紡績安東工場長 栖原常三郎

安東守備隊長 田中信男

安東商工會議所會頭 高橋貞二

南滿電氣安東支店長 高橋芳藏

安東時事新報社長 中野初太郎

安東地方委員會委員 新美平四郎

安東取引所取引人組合委員長 原田市松

安東憲兵分隊長 廣田充雄

安東石炭販賣所主任 星澤研壽

東亞煙草安東販賣所 増田良三

伊佐奈商會安東支店長 森谷貞吉

辻山洋行主 山縣寅吉

鴨綠江採木公司 理事長 內藤確介 總務課長 橋本秀久 度支課長 吉田良繼 參事 大津峻 秘書 大野幸作

鴨綠江製材無限公司 代表者 式村茂 支配人 田中喜一

滿洲鑛山藥株式會社 社長 吉家敬造 常務取締役 明石東次郎

大連汽船株式會社支店 支店長 有吉皎作 電話 事務所 二五〇 支店長宅 二〇七番

安東縣江岸通五丁目 安東挽材株式會社 電話 事務所 一〇八・八一四番 事務自宅 七〇二番

富士瓦斯紡績株式會社 安東工場 電話 八九番

南滿洲安東縣 鴨綠江製紙株式會社 電話 一六三・三〇五番

安東縣六道溝 滿鮮杭木株式會社 電話 事務所 一三〇番 工場詰所 六三一番

明治四十一年九月創立 資本金北洋銀三百萬元 日支兩國政府合辦 鴨綠江採木公司 電話 日一二一番（受付）一七五番（販賣）一六番（會計）五九番（秘書） 支六番（受付）一九六番（總務）

安東縣銀行集會所

南滿洲電氣株式會社 安東支店 六道溝出張所 發電所

安東縣六道溝桃源 滿洲鑛山藥株式會社 電話 事務所 一三三番 倶樂部 二〇一番

安東縣六道溝 鴨綠江製材 無限公司 事務室電話 四五〇番

安東窯業株式會社 電話 一三二番

安東縣驛前通四八番地 日之出製材所 日之出製軸匣所 所主 和田賢太郎

安東取引所 取引人組合

安東縣輸入組合 理事長 中村太郎 電話 六四番

安東縣六道溝南四條通三丁目 製材 原木販賣 合資會社 宮下洋行 電話 二三・一八三番 略（ミア） 安東縣郵便局私書函第一四號

安東代理店 朝鮮郵船株式會社 近海郵船株式會社 日本郵船株式會社 國際通運株式會社 安東支店

御料理 由良之助 電話 二三九番 二九五番 主人專用 九二番

安東縣五番通八丁目 御料理 卜一 電話 二四六番

安東縣市場通二丁目二番地 國際運輸株式會社 安東支店 支店長 北村文藏

大豆粕、滿洲粟、大豆雜穀 安東縣大和橋通五丁目 朝鮮肥料株式會社 電話 四五九番

安東驛前 安東ホテル 經營主 秋吉次郎 電話代表 二四 長八四五番

石炭貿易商 安東縣五番通八丁目 藤平兄弟商會 藤平泰一 電話 一七一・二二七番

安東炭友會

安東縣江岸通四丁目 滿鮮製函株式會社 電話 三五二・七七二番

支那料理 安東縣大和橋通九丁目 金谷園 電話 日八四五 中三二四番

安東縣四番通四丁目 須田商會 須田武夫

舶來品蓄音器各種 レコード並ニ附屬品 キユーピー商會 電話 五二四番

安信無盡合資會社 電話 四五三・二二六番

安東公會堂 食堂部 電話 八九〇番

御料理 東雲 電話 一三八番

安東縣 料理店組合

和洋菓子商 横濱堂 電話 一二二・七四二番

安東縣五番通 森本寫眞館 電話 三四七番

歐米蓄音器輸入商 榮商會支店 電話 六四七番

安東縣市場通八丁目 柞蠶糸商 福原茂平治

安東縣大和橋通六丁目 三巴商店 電話 一〇四・二三四番

安東縣市場通八丁目 一木藥舗 電話 一五八番

安東縣市場通六丁目 滿洲屋呉服店 電話 一〇六・一〇七番

安東附屬地 商務會

安東縣市場通 富久壽美旅館 電話 四七番

安東縣市場通九丁目 協興洋服店 莊昇昌

鳳凰城之部

南滿洲鳳凰城 南滿黃煙組合

鳳凰城煙草耕作組合

鷄冠山之部

喪中に付年始缺禮仕候 近藤勘助

安東地方事務所鷄冠山派出所 所長 木口政之助 立石成人 井上和藏 日高清一郎

鷄冠山驛長 石川翠

鷄冠山地方委員會議長 橋口市之助

安東警察署鷄冠山派出所 栃久保武

鷄冠山保線區長 中山善七

鷄冠山公醫 占部雫

鷄冠山郵便局長 山中數雄

鷄冠山地方委員會委員 小杉輝男

鷄冠山小學校長 久居寛

安東支局 草葉强太郎 池口武夾

瑞氣天地をこめて 元旦の宮中御儀

大典後最初の御迎春

己巳の元旦、旭光は燦と輝いた柔き朝靄に包まれた大内山の曙は瑞氣をこめて霽れに晴れた常綠の禁苑は清澄な濠に浮ぶ水鳥の幾群れに搖るゝ金波銀波の中に深き影をおとして天皇、皇后兩陛下卽位大禮後初めての年宮城移御あらせられて又最初の新年の朝は八千萬赤子なべて竹の園生の彌榮に慶祝と歡喜のまことをさゝぐるなかに燦然と明ける

四方拜御儀

綾綺殿に出御

神々しき御姿にて 天神地祇を御遙拜

いとも目出度きこの朝、天皇皇后兩陛下は霜まだ深く曉闇猶濃き中に御離床遊ばされ御淨心の事もお濟ましになつて五時半といふに綾綺殿に出御、かくて陛下にはこゝにて御宿居の侍從等御介添へに奉仕するまゝに神々しき黄櫨染の

御袍に

お召替遊ばされ神嘉殿への出御にと御毛水を執らせ給ふて御劍、御裾、御鞋、御笏捧持の侍從等を前後に隨へられつゝ九條掌典長の御先導にて御拜の御座に進ませられる、陛下御拜あらせらるゝ神嘉殿南庭は夜半の中に鋪設の裝飾を終はつて前庭中央に設らへられた屋のうちには香り高き疊薦を敷き參らせ御屛風二雙は御座を限つて太古ながらのしゞまに二基の燈臺脂燭の灯たゆたう搖れて神威はひしくと迫る、かゝるうちを

御座に

着御の天皇陛下は御劍を御脇の御案に御笏を正させ給ひいとも神々しき御姿にて伊勢神宮、畝傍山陵、伏見桃山、多摩陵を初め天地四方なる天神地祇を御遙拜遊ばされ長くもしばし御默禱に御過させ國家の安穩萬民の御幸の御祈念を凝らし給ふのである、この頃曉闇漸く薄れて東天紅の空高く神苑のねぐらを放れる瑞鳥の羽ばたきはこの年の朝の大氣の中に高らかに響き渡つて輝かしき朝を迎へる、尚四方拜の儀に先立ち午前五時賢所

皇靈殿

神殿は一日祭の御設を申しあげ神饌幣物を供奠掌典長祝詞を奏し訖ると四方拜の儀を濟まさせられた天皇陛下は內掌典奉仕の神さびた御鈴の中に御拜玉串を獻ぜられ順次三殿に御拜禮遊ばすのである

歲旦祭の 御儀

侍從御代拜

この朝賢所三殿の在ます神域のほとりは全く淨めを終り松、楠の常盤木の枝參差とした中に神秘の靈氣は迫つて神々しき限りである、五時二十分宮內勤奏任官總代大禮服にて先づ

賢所に

參入し御儀に移るを待ち奉るうち、いと雅びた神樂歌の韻律とゞろくと響き渡つて掌典等恭しく神前に參進して御開扉に續いて海のもの山のもの、神饌を供し奉り本多掌典次長は年の初めの御祭祀の趣きを祝詞に奏し訖れば五時半天皇陛下御代拜の侍從は衣冠單の袖を朝風になびかせつゝ綾綺殿を出る、白の單衣に身も心も淨められた高木內掌典は一振り！二振り！御鈴の音は嚴かな響きを傳へるしゞまの中を草鞋の跫音も

靜々こ

歩みを止めた同侍從は懇なる御代拜申しあげて退下、引續いて皇靈殿神殿に御代拜し六時を過ぐる頃御儀は終るのである

御由緒深き 晴御膳

鳳凰の間で

かくて未明の御儀二つを濟ませられた天皇陛下は午前七時半鳳凰の間なる晴御膳につかせ給ふ、これよりさき五つ衣つけた竹屋女官長は御儀の間の北口にその他の女官は何れも東西南の各口に控えて大膳寮職員お運びまゐらす御膳の物を女官達は恭しくうけて臺盤二脚に上り御座の前に進めまゐらせた、やがて出御の陛下には御箸を「ひしはなびら」を聞こし召されて程もあらせられずに御箸を立てさせ給ふて入御こゝに年の初の御由緒も深き御膳の儀を終へられ御內儀に入御遊ばさるが陛下には更めて皇后陛下御共々皇女照宮様をも交へられた御親子水入らずにて限りなきよろこびのうちに目出度き年の最の御祝膳の朝餉を遊ばされる

伊勢大廟の 嚴かな歲旦祭

大御饌を奉奠して

卽位大禮も御終了になつてわけて意義深き新春を迎へた神都伊勢神宮では、輝かしき大御代奉禱の爲め大御饌奉奠の御祭典を元旦未明執行される、この朝二時より三條西大宮司以下神官等齋戒沐浴に潔齋を濟ませ三時より瑞垣御門前に庭燎を焚いて祭典の諸準備鋪設し四時三條西、熊谷大少宮司以下整列の第三太鼓を聞いて內宮齋館から參進修祓をうけ贄を調理するの儀あつて再び列を整へて正面より參入伶人の奏樂裡に大御前に神饌並に御酒を奉ると大宮司は恭しく御代萬歲を奉禱する祝詞を奏し一同拜禮次いで二獻三獻の銘酒を奉奠し撤饌の上退下こゝに內宮歲旦祭を終り午前九時から外宮において同樣御儀次第で行はれる



田家の朝……（星ヶ浦にて）

今曉三時、爆音勇ましく 耐寒踏破隊出發す

大連神社に參拜、聖上の萬歲を奉唱 自動車を連ね奉天へ

日支自動車研究所主催、本社後援の大連、奉天、撫順間耐寒自動車踏破隊は愈今拂曉三時大連を出發壯途についた、踏破隊は自動車三臺を以て組織し各自動車には車體の横腹に「大連、奉天、撫順間自動車踏破隊」の十三字を記して標識とし、研究所長阿部種臧氏指揮の任にあたり、本社特派員加藤保敏氏が

乘込み

通信の任にあたり午前三時昭和四年元朝の東天未だ紅を告げず淑氣滿街をこめる時大連神社に參拜し、遙かに東天を望んで聖上陛下の萬歲を奉禱し、轡を連ねて爆音勇ましく出發しヘツドライトに霜おく道をてらしつゝ歲末始めて開通したばかりの關東州幹線道路を辿つて

周水子

に向つたが、それより一路奉天を志し道なき道をわけて猛進する筈である

西班牙移民會社の苦力募集

【青島特電卅一日發】當地で苦力募集中であつたスペイン移民會社は保證金問題で支那側と交渉決裂したので廿一日募集苦力二千三百名に對し十圓宛の旅費を支給し解放した



けふ蓋開けの 賑かな初春興行

久振りに活氣を呈す

一年中の書入時である新春を迎へた大連興行界は一齊に活氣づき元旦より華々しく正月興行の蓋を開け大童となつて觀客の吸收に努めてゐる、先づ映畫界は寶館が琴歌子主演の「火の車お萬」帝國館が阪東妻三郎主演の「開花異相」演藝館が帝キネ作品「人喰蜘蛛」とマキノ映畫「纐玫蛇」浪速館は日活の御大典記念映畫池田富保監督の新舊兩部總出演の特作品「維新の京洛」を第一週に据えて人氣を煽つてゐる

また三日から五日まで晝夜二回協和會館に於て社員倶樂部後援の下に帝國館演藝館浪速館の三館聯映會が催されるが、第一日は浪速館の「つばさ」第二日は帝國館の「開化異相」第三日は演藝館の「夜鴉」と「森の石松」である其他青年會館では洋劇「ゴリラ」を三日から上映する

一方芝居は歌舞伎座が元旦から喜劇曾我廼家五九郎一座で大連劇場はお馴染の女歌舞伎淺尾信治一座が多數の新顏を加へて元旦初日で午後五時開幕で二日替りで開演する、遊樂館は浪花節如雲一行で各方面とも久し振りに興行界らしい景氣を煽つてゐる

奉天の興行界

奉天館　元旦より三日間晝夜二回、佛國パテー社作品通續活劇「黃色の腕」全六巻、日活現代劇父娘哀話「きつね」全七巻、日活作品「清水の次郎長」第一篇五巻、入場料特等八十錢一等六十錢

演藝館　元旦より六日間晝夜二回、大津お萬一行、江戸一流餅の曲搗き「住吉家社中」奇術綱拔け術「松旭齋一派」江戸名物丸一曲藝「都家連一派」藝題毎日替り入場料特等一圓八十錢、一等一圓卅錢二等八十錢、學生軍人半額子供卅錢

◇＝追ひ羽子＝◇

風呂敷包の中に 奉票三萬五千圓

奉天驛前で格鬪のうへ逮捕 紅梅町馬賊の片割か

【奉天特電三十一日發】奉天紅梅町の馬賊事件に關し奉天署に於ては更に三十日正午ごろ二人、同午後一時ごろ二人、午後六時ごろ一人の嫌疑者を引致し、松井司法主任主となつて三十一日朝にいたるまで徹宵取調べを續けたが、未だ眞犯人は判明しないものゝ如くである、また卅一日午前九時ごろ巡捕が驛前廣場で怪しげな支那人を格鬪の上逮捕したが、風呂敷包の中に奉票三萬五千圓を所持してゐたので奉天署では眞犯人の一味ではないかと取調べてゐる

消防出初式

瓦房店に於る

【瓦房店特信】瓦房店における消防出初式は七日午後零時半警鐘三點打と共に事務所前廣場に隊員集合し人員の點檢、監督官の訓示、消防長答辭等あり閉式の順序であるが、なほ當日は市內を練り廻り氣勢を上たるのち午後三時より公會堂に於て新年の宴會を催す筈である

のんびり

暮れた大晦日 いづれの街でも 迎春の準備整ひ

逝く昭和三年歳暮の宵は浪速町から伊勢町界隈にかけて寒つ風の中にも賑やかなさわめきを見せてゐる、街々は長の不景氣にすつかり馴れつ子になつてそゝくさとしたあわたゞしい樣子は見えず悠暢な中に、賑はしさを示してゐる、各街々には大きな門松は案外少いが正月を迎へる準備は出來上つて新しい年よもういゝぞと云つた氣分が見えてゐる、歲晩の風景は餘りにものんきである

巳歲生れの藝妓

卅七歲はとめ姐さん一人 廿五歲が十八人ゐる

輝かしい新玉の初春を迎ぐ美濃町花街の美しい藝妓さんで巳年生れの當り年に相當する別嬪さんが十九名ゐるその顏振れを紹介すると



◇—井筒 とめ（三七）

北村席 笑奴
同 小勝
同 宇女二
同 歌一吉
淡月 三彌
同 市美松
哲のや 喜美勇
同 喜久若
同 力〇
鷹のや 勇美子
同 お京
富や 光奴
玉のや まき子
相生 榮龍
吉田屋 とし三
紀の國 須磨子
小川席 美津彌
松坂屋 三津綱
（以上明治三十八年生れ）
井筒 とめ
（明治二十六年生れ）

と云つた順序で三十八年生れが十八名二十六年が一人である



◇—北村席 笑奴（二五）

初春の三ヶ日 天氣晴朗

少し寒いが風は柔ぐ

◇…十二月卅一日大連觀測所の豫想し得るお正月三日間の天氣は——お正月の三日間は天氣晴朗で雪は降らぬ、がしかし氣溫は少しく下り零度下五、六度のところを上下し、風は三十一日正午十米突そこくであるが一日、二日、三日となるにつれ次第に衰へてゆくと云ふのである、コウして見るとお正月はまあ惡いが天氣はよしと云ふところであらう。

◇…目下（卅一日正午觀測）シベリヤ方面は低氣壓で一般奧地は寒氣きびしくその影響で南滿一帶も氣溫は下つてゐる滿洲の十二、一、二の三ケ月は世界に於ても珍しい晴天の好時期であると云ふ、これを統計によつて見ると明治三十八年以來二十五年間に正月元旦に雪の降つたのは四十四年四十五年その他計四回で風はあつても天氣はよい方であると。

大晦日の火事

痴情の放火か

三十一日午前七時四十分ごろ市內西通三四番地信託ビル三階清水久子（二〇）方押入の中より失火幸ひにも近隣の人々の發見努力により押入內部布團衣類等を燒失したのみで大事に至らず消火したが大連署司法係では失火の原因に疑はしき處あり痴情關係による放火ではないかと久子並に關係者を招致目下嚴重に取調べを進めてゐる

東京管內の年賀狀

七千九百四十萬

【東京三十一日發電】年賀郵便特別取扱は二十九日で締切つたが東京遞信局管內總數は七千九百四

天氣豫報

一日（晴）北の風

日出七時十二分日沒四時四二分
滿潮前一時四十分 後二時五分
干潮前八時三十分 後八時卅分

各地の溫度

	午前十一時	昨日最低
大連	零下五、三	零下四、五
旅順	同 三、〇	同 三、四
營口	同 五、二	同 一二、一
奉天	同 七、三	同 一五、四
長春	同 一二、七	同 一五、五

けふのラヂオ

昭和四年一月一日（火曜日）
自午前十一時
一、祝歌 大連高等音樂學校生徒
二、挨拶 遞信局長櫻井學
三、謠曲 高砂 梅若流滿櫻會
四、謠曲 老松 喜多流白井靖敏
五、獅子舞 櫻川連中
六、長唄 末廣がり唄ピアノ村岡樂童、三味線中村愛子

賀正

大連著名商店

昨年中は厚き御愛顧を賜り深く御禮申上ます本年は猶一層總ての點に改善を加へまして皆樣日頃の御愛顧に酬ゆべく努力致しますから何卒倍舊の御眷顧を御願申上げます

和洋雜貨化粧品類の豐富なること大連第一

浪速町の 浪華洋行 電話代表五一七九番

昨年中は格別の御引立に預り厚く御禮申上候昨冬類燒の厄に遭ひました弊店も皆樣の御高庇によりて店裝を新にして尙一層改善し御眷顧に酬ゆるべく期して居ります此上とも彌增しての御引立御願申上ます

和洋家具 世帶道具商 船塚商店 大連市浪速町一一〇番地 電話 四三七九 七五四三番

舊年中は格別の御引立に預り御厚禮申上候尙本年も層一層の御愛顧奉願上候

舊冬賣出中は人員不足の折柄萬事不行屆勝にて何とも申譯無御座候甚だ略儀にては候へ共紙上を以て右御詫申上候

昭和四年一月一日

大連市浪速町一 岩倉洋行 同

三井ならでは出來ぬこの催し 興味津々たる 三井の福袋大賣出し

◇正月二日、三日、四日の三日間、◇金五圓袋、拾圓袋、拾五圓袋（毎日各々百袋づゝ）◇アット驚く在庫品豐富◇御正月の晴着に市價相場より絕對三割安にて！

裾模樣、訪問着、繪羽羽織 丸帶、古濱小紋、西陣御召

賣出期間中 弊店特製印入 風呂敷、ドル入呈上

大連 三井呉服店 電話長六六六五番

確實 低廉

時計、貴金屬 寶石商 營口近江洋行 大連販賣部 大連市浪速町（浪速館隣）電話六六七三番

營業種目 ピアノ、オルガン、バイオリン、ハーモニカ蓄音器、レコード、其他洋樂器並附屬品一式 西洋家具、室內裝飾品、水道衛生器具、建築材料、內外電氣、瓦斯材料直輸入

株式會社 山葉洋行 大連市信濃町五拾六番地 電話代表四一四八番 振替口座大連八二番

出張所 奉天浪速通三十六番地 電話四六九八番 賣店 大連市浪速町三丁目 電話四三一〇番


明るく淸らかな
昭和四年の初春になりました
皆樣には愈々御淸福に御越年遊ばされまして芽出度く御慶びを申納めます。昨年中は一方ならぬ御引立を仰ぎまして健かに業責を果すことの出來ましたのは偏に御高情による處と厚く御禮を申上げます。
ミツワ石鹼
改暦と共に心氣一新し、更に業務に努力精進し、商品の品質の改善應需の至便を念じ、皆樣の御厚誼の萬分の一に報ひ度いと存じます。何卒一層の御眷顧を賜はります樣お願申上げます。
昭和四年元旦
ミツワ石鹼本舖
丸見屋商店
藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋
營業所 東京市下谷區二長町
店主 三輪善兵衛

滿洲日報
元旦號　其の二

經濟界の前途は一層落着くだらう

日本銀行總裁　土方久徵氏談

昭和三年の經濟界を回顧すれば特に著しい二つの現象がある。即ち其の第一は上半期に於ける金融緩漫に因る金利の低下である。其の第二は下半期に於ける金解禁問……

……めに對外爲替相場も天井迄暴騰せず、公社債其他有價證券の如きも底を突くやうな暴落振りは示さなかつたやうである。故に之を一言にして云へば氣迷ひの狀態であつ……

……し、經濟界の有力なる團體が率先して當局へ之を建議するに及び、殆ど其の實現の日が迫つたかと見るもの多く、爲替は再び活氣を帶び來り十月中旬には連日飛躍して……

上半期に

考慮し

政策上

……の施設はあ……には種々……けれども、それは暫く措いて……は或程度迄、商工業者自身が……現實に對する鍵を握つて居るの……はないかと考へる、換言すれば……解禁の期日を心配して當局の意……を揣摩臆度しつゝ不安定なる日……を送つて居るよりも、輸出入業者なり、製造業者なり、自らが今日……これが實施されたと同樣の覺悟で……

促進策

普通銀行

金融の緩漫は依然繼續か

好景氣來は未だし

勸銀總裁　馬場鍈一氏談

高利奮債

金融緩漫

外國の

爲替市場と商工業者の覺悟

樂觀される世界の趨勢

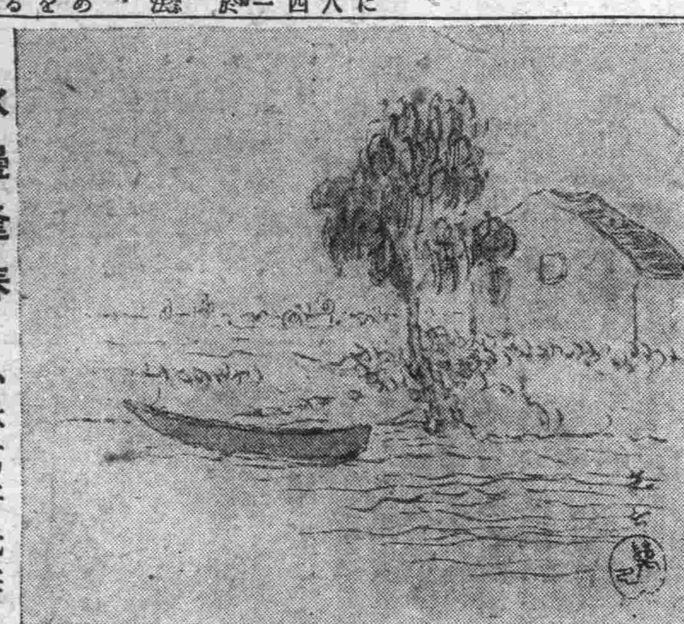
正金銀行頭取　兒玉謙次氏談

金解禁の

經濟界は

下半期

內地に



水邊逢春　小林萬吾氏筆

經濟界の活況は未だ望まれぬ

速に金解禁を斷行せよ

朝鮮銀行總裁　加藤敬三郎氏談

金融恐慌以來

活況を帶びて

改正を

案件て

活動が

基礎を

將來の農政問題

前農林次官　矢作榮藏

有効な

波及し

實現を

農會の

お正月と古川柳

（上）

高橋月南

賀正

大連

大連水曜會

東洋拓殖會社大連支店
朝鮮銀行大連支店
中國銀行大連支店
橫濱正金銀行大連支店
大連商業銀行
大連株式商品取引所
大連取引所信託株式會社
大連取引所錢鈔信託會社
滿洲銀行
交通銀行大連支店
金城銀行大連支店
正隆銀行

滿洲の住心地と滿洲で得た體驗

本社の質問に對する（一）

在滿各地有力者夫人の回答

本社は在滿各地の有力者夫人に對して次の如き質問を試みた

一、滿洲の御生活は幾年になられますか
二、滿洲は住みよいと思ひますか、住み惡いと思ひますか
三、滿洲の生活によつて如何なる御體驗を得られましたか
四、これからの滿洲邦人は如何なる家庭生活を目標とすべきでせうか、

右の箇條に對して左の如き回答があつた、回答を寄せられた人々に對して謝意を表する

旅順　大津しづよ
一、前後通して十八年
二、住みよいと思ひます
三、日々の生活がすべて貴い體驗と思ひます、特別に申上ぐる事はありません
四、平和、圓滿、誠實、勤勉、禁酒、禁煙等、以上は元よりこれからの滿洲婦人の家庭生活に限つたことではありますまい、只一つこれからは一層質實に子供達にも「勿體ない」といふ觀念をもう少し注入したいと思つてゐます

關原　佐竹ひで子
一、明治四十二年十月に渡滿しましたので丁度二十ケ年になります
二、住みよい土地と存じます
三、私は子供養育上非常に苦心致しました、それは滿洲の氣候が乾燥し勝なので受ける病氣に惱まされたからです、故に滿洲では四季を通じて室内の温潤を完全にせねばならぬことを深く感じさせられました
四、滿洲は内地と異り天然の風景に依り慰安さるゝ天惠がありませぬから自然之れを家庭に求めねばなりませぬ、故に私は主人の精神と趣味に服從同化致しまして助ける迄は及ばずとも妨げぬことを目標として參りましたが、今は子供も大きくなりましたので之れからは一歩進んで内外共に主人の精神と趣味に一致して暮したいと存じます

旅順　丸澤初子
一、滿二年八ケ月になります
二、住みよいと思ひます
三、内地で全く使用いたしませんでした事の御座いませぬペチカの暖かい體驗をいたしました
四、なかなかむづかしい御質問で簡單に御答出來ませぬ

奉天　小川勇
一、十七年
二、住みよいと思ひます
三、短しと雖も十七年間の體驗を此狹い紙面へ一々書くわけには參りません、如何なる事が聞きたい眼目ですか
四、滿洲婦人と申しても日本婦人も支那婦人もあるわけですから人類愛を目標とするに限ると思ひます

營口　[illegible]さく
一、十九年
二、住み善いと思ひます
三、體驗と申せば寒いが温かく暮せてありがたいと申す位です、但し體の字に就いて申しますなれば
四、お質ねの旨趣が能くわかりませんが日本人として恥かしからぬことでも申しませうか

哈爾濱　栗栖蔦子
一、滿十一年になります
二、物質的には住みよいと思ひますが精神的には住みにくい處だと思ひます
三、社會といふことを知る年頃から私の滿洲生活が始まりましたので特に滿洲に於てといふものでありませんが、此處もやつぱり日本内地の延長で男子の横暴と婦人の無自覺とを體驗したと思ひます
四、植民地生活といふ考への標語「どうせ」といふとをやめて郷土生活「働き」を目標とすべきでせう

奉天　久野文子
一、滿八年七ケ月
二、住みよいと思ひます
三、衞生上の注意が大切と存じました、殊に氣候の代り目に子供の上に注意を要します
四、質素儉約を主としてもつと働くことの尊さを知つてほしいと思ひます

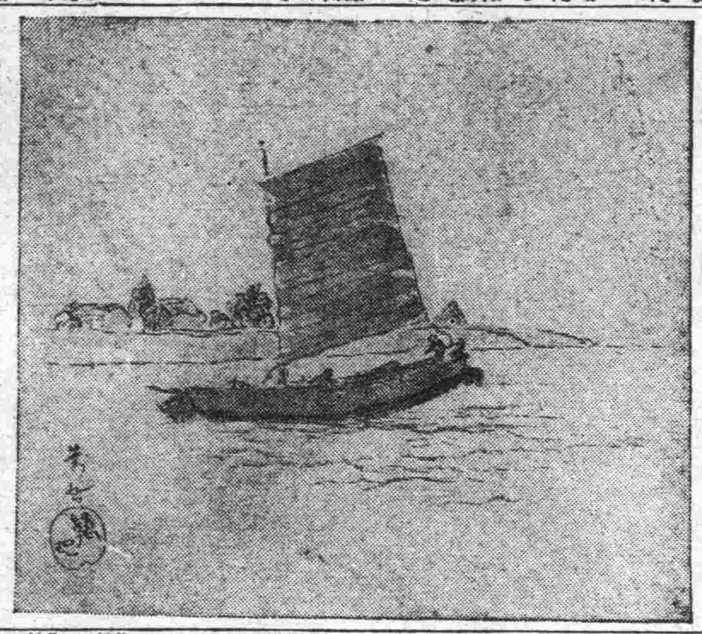
旅順　宮下みね
一、五年になります
二、住みよいと存じます
三、特にとりたてゝ申上る程のことも御座いません
四、極せまき見聞で御返事申上るのも如何かと存じますが、あまりに呑氣すぎるやうに思はれます、今少しお互ひに眞劒味をもつてよりよき家庭生活を營む事が出來ますやう心がけたいと存じます

瓦房店　谷時子
一、十二年になります
二、住みよいと思ひます
三、目下の時期に直面して思ひ浮ばれますのは防寒採暖の點から引いて服裝や住宅等相當改善を要すると思はれます
四、質實簡易化、時間の經濟化等を目標として

旅順　篠密子
一、四年になります
二、滿洲と申しましても旅順より外存じませんが大變すみよい處だと思ひます
三、生活様式が全然變つたといふ程でもありませんからとりたてゝ申す程の事もありません
四、眞面目でありたいと思ひます

旅順　河本久子
一、二年と九ケ月になります
二、まことに住みよいとおもひます
三、御國に對する感謝の念を深くしました
四、舊弊を改むると共に日本婦道を忘れぬ様に

大連　藤根八重
一、二十二年になります
二、家庭を持つた初から滿洲の生活ですから住みよいと思ふ外ありません



春帆　小林萬吾氏筆

三、最初隨分不自由も見ましたが今は全く内地と差なくむしろ却て暮し易いのだそうで一度歸つた人が再び來ることを思へば惠まれたものだと思ひ植民地でかうした心で暮せるのも皇國の有難さとつくづく感謝してゐます
四、堅實な精神を以て少しづゝでも進歩に志しあたら立派な内助者であらねばなりません

大連　大内光子
一、九年になります
二、住みよい處と思ひます
三、諸國の方々の御集まりの爲に人情美の豐な處は御座いますが……周圍の刺戟が御座いませんだけに時勢に一歩づゝおくれがちに思ひます
四、下馬評を遊ばしてるひまに讀書でも澤山遊ばして智識慾をさかんにし自己の信念をモツと强めまして强く明るく生きたならばと愚考迄に

大連　岡内光子
一、大正十年四月に來まして約八ケ年になります
二、住みよい所である樣に思はれます
三、東京に比較して何となく伸んびりしてゐますが、その代り餘り呑ん氣過ぎてこれではならぬと反省することが多う御座ります
四、月給取の家庭でも實業家の家庭でも夫にばかり働かせて主婦が逸樂に耽る樣なことなく滿洲を理解すると共に夫の職業をもよく理解し同心協力繁榮幸福なる家庭を形造るのを目標と致しませう

四平街　竹本初子
一、在滿十四年になります
二、住みよいと思ひます
三、國と國との日支親善は容易ではありませんが、支那の個人性を理解することによつて個人と個人との日支親善は困難でなく吾々在滿邦人の心掛けによつて鞏固なる日支親善の實を擧げる事の出來ることを深く體驗致しました
四、滿洲を墳墓の地と定め健實に子女の教養に努力すべきでせう

撫順　草野すま
一、二十年になります
二、住みよいと存じます
三、内地に比して心身共により多く刺戟を受け易いやうに存じますこれは寒暑共にはげしき自然の力に依るのではないかと存じます、又反面には内地よりも幾分經濟的に惠まれてゐますのと周圍の環境に依つて不知不識の間に緊張を缺でるやうに存じます
四、總てに健實なる合理的生活を目標と致すべきで御座いませうまれには私共婦人の修養と向上を計らなければなりますまいと存じます

遼陽　吉井嘉代子
一、三ケ年になります
二、住みよいと思ひます
三、虚禮に過ぎて居る事、冗費の多い事、總て勞力をおしむで居る事
四、國家觀念の基に經濟を計る事勞力をおしまざる事、總て嚴格にすること、仁義愛を目標とすること

大連　岡部捨子
一、[illegible]年
二、大變暮し良いと思ひます
三、西洋風の生活を少しとり入れて餘程簡單になつたと思ひます
四、種々の無駄をはぶき其内に樂しい家庭生活を造り上る樣に心掛けたいと思ひます

長春　古川けい子
一、十四年
二、雨も尠くて住よい土地です
三、大陸氣分とでも申しますか氣分がのんびりして日暮しが出來ますが子供の教育は滿洲よりか内地が宜しい樣な氣持が致します
四、滿洲十四年の生活を振り返つて考へますと御はづかしい樣です、子供相手に唯其の日暮しで過ごしました、社會の文化は日に進んでまゐります、夫れに連れて人の思想も變化してまゐりますが、如何に文化程度は進みましても人の思想は變りましても家庭生活だけは婦人は婦人たるべき良妻賢母の心掛けで家庭にのぞまなければならんものと思ひます

齊々哈爾　早川芳子
一、十四年（南滿八年北滿六年）
二、所謂感覺的の滿足を以て人生の幸福の標準とするならば滿洲殊に私共の居る北滿は「住み惡い處」と申す外はありません、零下四十度の酷寒、四季を通じての殺風景な自然、新鮮なお魚を味はふ事も出來ず、よい藝術を鑑賞する事も出來ず。然し私はそれにも拘らず「滿洲は住みよい處」と御返事する事を躊躇致しません。
第一、因習に囚はれず周圍の何の拘束も受けずに自分の善いと信ずる處を遠慮も氣兼もなく家庭生活に實行して行ける爲め思ひ切つた衣食住の改善も出來、從つて自由にのびやかに家庭生活を心から樂しむ事が出來る點
第二、邦人の比較的少い奥地にあつては家庭以外に慰安少き爲め夫婦間の信頼、同情等の念が强められ自然家庭は圓滿になり得る點
第三、内地生活者に比し經濟的壓迫を受けざる點
第四、滿洲生活者は男女とも比較的向上心强き知識階級である爲交際に依り相互に啓發さるゝ處多く且愉快なる交際が出來る點
第五、文化都市ならざる當地に於てさへ保温、採光、排水等に申分なき設備の社宅住居には何等不便の點なきのみならず寒氣の爲の苦痛等は一向に蒙らざる事
三、當地で數年間の支那大官夫人達との交際に依り彼等の無爲なる日常生活を見た眼で我日本婦人の大多數の肉體的にも精神的にも潑剌たる緊張した生活振りを思ふ時誠に心强い感じが致しますが尚一方眼を轉じて英米獨婦人等の聰明なる主婦振りを見る時まだまだ彼等から學ぶ處多きをシミジミ感じさせられます（之は第三の御答には當らないかも知れませんが實感そのまゝを）
四、第一滿洲の天地を益々住心地よく又各自がもつと健全な眞面目な充實したる然も潤ひある生活をなす事が出來る樣主婦としての努力をなす事、第二家庭婦人といへどもたえず社會の動きに眼を開き少くとも時代の落伍者にならぬ樣不斷の精進をなす事。

賀正

大連

大連市浪速町伊勢町角
鈴木呉服店
電話（代表）五二九八番　振替大連四八番

大連市大山通り
徳海屋洋服店
電話 四三四二・七五一五番

大連市吉野町六七番地
株式會社大連株式信託會社
株式會社第二大連株式信託會社
電話八〇八五番

滿洲特産物輸出貿易商
サ　瓜谷長造商店
大連市山縣通一〇一番地
電話 長四四二六番・六九三六番・七七六四番
發電略號（ウ）又（ウリ）

大連市浪速町二丁目
奥田時計店
電話六七三一番

大連市浪速町三丁目
同　支店
電話三八九七番

藥品貿易商
大連市山縣通
株式會社乾卯大連支店
電話 三〇一七・五六九〇番

日本賣藥株式會社大連支店
營業所　大連市浪速町三丁目
電話（代表）六一三〇・六一三九・八五六六番

營業品目　鋼鐵材、建築材料、諸工業機械、雜穀肥料
株式會社大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店　大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店　奉天小西邊大街
鋼鐵工場　大連市香取町六番地
製油工場　大連市千代田町十一番地
倉庫部　大連市東郷町二五番地

營業科目
一、電燈電力の供給並此等に附帶する事業の經營
二、電氣鐵道乘合自動車の經營並此等に附帶する事業の經營
三、電氣機械器具の販賣又は賃貸
四、當會社と同種事業に對する投資
五、所有土地建物の賃貸
資本金貳千五百萬圓
南滿洲電氣株式會社
專務取締役　横田多喜助
本店　大連市常盤橋中央ビルデング
支店　奉天支店、長春支店、安東支店、鞍山支店
出張所　連山關出張所、海城出張所

大連市山縣通
三井物産株式會社
大連支店
電話代表七一〇一番

瓦斯
熱用　燈火用　動力用　工業熱用
副産物
瓦斯コークス　コールタール　硫酸アンモニヤ　瓦斯カーボン
資本金壹千萬圓
南滿洲瓦斯株式會社
專務取締役　富次素平
本社　大連市西通一一七番地
電話代表八一八一番　（重役廳專用）八四七八番
支店　鞍山支店、奉天支店、安東支店、長春支店

先驅―滿蒙開發の
楔子―東洋貿易の
國際運輸株式會社

賀正

大連

大連市常盤橋中央ビルディング
大連海上火災保險株式會社
電話四五一一二番

大連市紀伊町八番地
株式會社 **金福鐵路公司**
電話八五七二番

大連製氷株式會社
常盤町三三
電話四八七二・五四八〇・六三一三

大連市監部通三九番地
政記輪船股份有限公司
總理 張本政 鞠躬
電話代表番號四一四一番

大倉商事株式會社
大連出張所
大連市山縣通大倉ビル

貿易銭鈔輸出入商
大連市大山通り五十八番地
永順洋行
電話 四三三九番 五四八六番 七六六五番

大連市敷島町四十九番地
大連株式商品取引所
商品取引人組合
商品現物取引組合

大連市伊勢町
山本運動具店
電話五九七九番

大連市信濃町
遼東ホテル
電話 四一三一番 四一七一番

大連市磐城町八九（西通り筋）
博多屋本店
電話四四五三番

純植物性 テイワイ脂（特製硬化大豆油）
西洋料理、西洋菓子、天麩羅用
大連油脂工業株式會社

大連市八幡町二番地
株式會社 **大連車夫合宿所**
電話六〇二〇番

大連市浪速町三丁目
花乃屋本店
電話 八九五九、七二〇七番

輸出入
鐵金物、電機並機器、自動車、ロープ、ベルト、鑛油
SKFベアリング、其他工場並に船舶用品
石材、ドロマイト、木材、セメント、煉瓦、其他建築材料
麥粉、砂糖、海產物其他食料品
洋酒、毛糸、雜貨器其他洋雜貨
土木建築
大連市山縣通二百十三番地
FC **福昌公司**
電話代表番號七一七一番
振替貯金口座大連一〇六〇番
倉庫 一般倉庫業務 大連市寺內通二十九番地（電話六〇六三番）
保險 豐國火災、大阪海上火災、日本共立火災、ヤンノース、ブリチシ、エンド、マーカンタイル 各保險會社代理店

大連市山縣通大倉ビルディング內
株式會社 **鴻業公司**
電話 七三九五番 七七四八番

大連市山縣通
東亞土木企業株式會社
電話三六九八番

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地
株式會社 **大連中央土地本店**
大連市若狹町三番地
大連中央土地株式會社**大連支店**
電話三四五一番・八二三〇番

大連木材組合一同

大連市奥町
大連商品信託株式會社
電話八一三一番

大連市淡路町
菱川大昌堂藥局
電話七八九三番

大連市伊勢町
井町大連製肉所
電話七二〇八番

同　支店
電話四〇二三番

大連市伊勢町五十一番地
榮商會
電話八三九〇番

ニチロパン
大連市浪速町
日露洋行
電話六六六〇番

は
大連市信濃町市場
羽月商店
電話七二九六・四五四三番
本店 西通一〇四番地

滿洲日報配達
共同新聞店
大連市但馬町
電話六六六七番

製菓原料問屋
大連市信濃町一〇八
菊水堂
電話四六八九番

大連市監部通二丁目百〇九番地
水道、衛生、暖房
溫水、設計、監督
工事請負並に材料販賣
(高) **高石商會**
電話三五〇二番

大連市信濃町一三五番地
木村屋本店
電話七〇八七番

大連市大山通一四
藤川篤助商店
電話四七三九番

大連市岩代町
三島屋洋服店
電話六五四九番

文房具、運動具
大連市浪速町三丁目
天野満書堂
電話四九九四番
振替大連六三番

活版、石版印刷、文房具
大連市大山通り
小林又七支店
電話六一六一番

大連生命保險同業會

逢阪町遊廓組合員一同

賀正

哈爾濱

八木元八

古澤幸吉

[illegible]雄

[illegible]

[illegible]

高橋[illegible]一

宗像金吾

和登商行哈爾濱支店主任
龍田道德

山崎金次

[illegible]

岩永浩

哈爾濱松浦洋行
水上多喜雄
哈爾濱中央大街
電話三三九一・三九六九
支店 齊々哈爾雷家胡同昭和祥
電話一九一

北滿ホテル

橫濱正金銀行
哈爾濱支店

哈爾濱モストワヤ街
寶石貴金屬蓄音機
前田時計店
電話三一九一振替大連三三九〇

國際運輸株式會社
哈爾濱支店

哈爾濱モストワヤ街七八號ジヤパンツーリスト局會員
純日本式
茶代廢止
名古屋ホテル
電話客室用三〇〇七・事務用二〇二八
振替口座大連四五八
自動車部・食堂直營
電話二〇二八

和登商行哈爾濱支店

增田貞一

釋河野龍丸

成發東

萩原紙店

寶石類金銀裝身具
御求めの節は
ハルビンモストワヤ街名古屋ホテル隣
岩間商會寶石部
丈夫で柄の上品なロシヤ綟紗を販賣致します、御入用の節はハガキで御申越下さいますれば早速見本を御送りします

哈爾濱埠頭區地段街
新隆號
石川竹二
私書函三七〇番
自働電話 事務所四六三八番 貯木場二三九五番
電話略語(イシ)又ハ(イ)

哈爾濱日本醫院

東洋拓殖株式會社
哈爾濱支店

朝鮮銀行
哈爾濱支店

石原重高

日清製油株式會社
保田文雄

軍司義男

忌中に付年末年始の禮を欠く
佐々木盛一

岡茂

石炭商組合
日隆洋行
合昌泰
竹內商會
松茂洋行
新隆號
ゼレズニヤコフ

島田千代治

東省實業株式會社
哈爾濱支店

中東海林採木有限公司

得昌號
金隆號
德泰號
組合事務所

熊澤洋行

講談　巳形金（みなるかね）

松林伯知

元祿の末江戸日本橋石町一丁目に深堀屋三右衛門といふ小間物問屋、その頃の金で十萬兩以上の財產と云はれました、女房お露との間に正太郎、お豐といふ男女二人の子を擧げ、正太郎は、早二十歳、お豐は十七の花盛り、ことに天性備はる美人でございますから、親としては可愛くて堪らない、或る時 三「モウ、乃公達も追々老る年又お豐に、やがて嫁に出さなければならん身體ゆゑ、今の內に京、大阪、大和廻りをして來たい」と家は正太郎と、確かりした番頭に任せて親子三人、外に治兵衛といふ若い者を一人供に連れて江戸を出立したのは秋の初め、品川から五十三次を恙なく京都へ着し、此處は名所古蹟の多い所ゆゑ、數日を費して隈なく見物いたし、それより奈良大阪を廻つて居る內に妻のお露が 露「ねえ貴夫、此娘は日頃辨天樣を信仰して、本所一つ目の辨天樣へ每日參詣をして居ますが、貴夫が平常仰しやる通り、辨天樣は福の神樣、信心を籠めたら家も繁昌し、娘も良い所へ嫁づけられるだらうと思ひますから此處まで來たのを幸ひ、寧そ嚴島の辨天樣へ御參詣をしたら何うでせう」三「成る程、然うだ、嚴島は日本三景の內の一つ、只でさへ見物したい所、況して信心する辨天樣へ參詣するといふ、こんな結構なことはない、それでは、然うしやう」とそれから大阪の川口へ來て、船問屋へ賴み、小倉丸といふ船へ乘つて、安藝國嚴島へ着し、此處も見物して、翌日、嚴島へ參詣の船を出して貰ひ、好い心持に波の上を渡つて島へ着き、辨財天の大廊下に登りました時には、宛も龍宮城へ入つたやうな心地がいたしました、その日は、參詣をして近所だけを見物し、大鳥居を前に見たる海岸の結構なる宿屋へ着いて風景を見ながらゆつくりと休息をいたし、翌日は山へ登り、景色の宏大なるを見物し、此處彼處と見て歩いて居ると、その邊に襤褸を纏ふた一人の乞食、年の頃二十五六にもなるか、色淺黑くして筋骨逞しき立派な人物、頻りに謠をうたつて居ります、三右衛門之を見て 三「ヤレ〱、見受ける處人品賤からぬ樣子、定めし、由緒ある人の成れの果と思ふが、お氣の毒の事である」と云ひつゝ、若干かの鳥目を與へた、乞食は格別有難いといふ態度もせず、一寸頭を下げて 乞「是は〱恐れ入る、手前は此の土地の者であるが、世にも人にも疎まれて、恥かしながら乞食の境遇、イヤ面白からぬ浮世でござる」三右衛門聞いて 三「イヤ、お前さんの境涯としたら面白くない世の中と思ふは道理だが今天下泰平に治まり、誠に有難い德川樣の御治世、又良い事もあらうから、決して不遇を悲觀してはなりませんぞ」乞「ハヽヽ、御貴殿などは有難く思はれるか知れんが我等に取つては一向に有難くも忝なくもない、併し飛んだ疎忽を申して甚だ失禮、お見受け申せば江戸のお方らしい、美くしい娘御を持たれて嘸樂しき事でござらう」三「是は恐れ入つた、サアサお豐參らう、乞食に賞められても餘り有難くもないな」と笑ひながらその場を去り、見物を濟まして宿へ歸つて參りました、處が俄に空合が惡くなり、風さへ出でて何となく暴模樣、假令僅かの處でも海を越ゆるに暴られては大變、これは寧そ、モウ一日逗留して終はうと、誠に此の嚴島が居心地が好いので、その夜も泊る事になり、三右衛門夫婦は二階で食事をして居る間に、お豐は供の治兵衛と宿屋の門口へ出て往來を見て居りますと、ベロ〱に醉つた武士が二人突然それへ來掛り ○「ヤツ、是は江戸の娘好い處で出會つた、最前其方の親父が乞食と話をして居た時に傍から一寸垣間見て、扨ても美しい娘と思つたが、當家に逗留して居られたか、乞食などに言葉を交すとは苦々しい、拙者等は直此の先の旅宿に居る者、同道して酒の酌をして貰ひたい」と無理に連出し丁度五日目、お豐が突然立歸つて參りました、宿の者は之を見ると「アレお孃さんお歸んなさいましたか」と早速深堀屋三右衛門へ告げる、三右衛門夫婦並に治兵衛も店へ出て來て「マア、無事に歸つて來て目出度い」と喜び 三「それにしても五日の間何處にどうして暮して居た」と尋ねると「お豐はさのみ悲しむ樣子もなく 豐「アノ日兩人のお武家さんに山の中へ連れ込まれ、已に酷い目に遭ふ處を、晝間父さんがお金を遣つて口を利いたお菰さんが來て助けて下され、而して今日まで山の中を彼方此方步いて居ました」豐「ハイ、それで漸く此處まで出て來ました」といふ言葉に、どうやら怪しい節もあるが、何しろ無事に歸つたのが何より目出度いと深くも訊さず、その翌日早々船に乘つて大阪へ戻り、東海道を滯りなく江戸へ着しましたのはその年の暮、間もなく明けて春になると不思議やお豐の腹が段々せり出して來ました、サア茲に大問題が起つて、あれこれと詮議の末、終にお豐の口から打ち明したのは「彼の日嚴島で惡漢兩人に拐帶され、既に强姦れんとする處を助けて吳れた乞食といふのは彌六と云ふ人で暴風雨のために宿へも歸れず、或る堂宮に一夜を明す中、ツイ羞づかしき契りを結び夫から四日別れともなく、お菰さんと一緒に山の中に暮らして居ました」といふ實に以外の話、扨ては乞食彌六といふ者の胤を宿せしかと今更騷いだ處が斯うなつては仕方がない、嫁の口はあつてもやれず、次第に腹は膨れて、終に月滿ちて生れたのは男の子、その乞食が彌六といふから彌太郎と名を命け、育てゝ居る中に早や十年の星霜を送りました、その中に不幸にも深堀屋の隣家から出火し全燒けとなり、其後續いて稼業は寂れ、昨日に變る貧しき生活、その年の暮には僅か三兩の金の爲に、大晦日が越されぬと云ふ情ない始末、此の時お豐が「私は今まで出さう〱と思ひながら、出さずに居ましたが、兄さん、アノ唐木の小箱を開けて見て下さい」正「何だ、唐木の小箱といふのは」豐「いつぞやアノ宮島で彌六さんといふ人に別れる時、お前死ぬほど困る事があつたら此の小箱を壞して身を立てろと仰しやつたが、是までは死ぬほどの難儀もしませんゆゑ出さずにゐましたが、今たつた三兩のお金の爲に大晦日が越されないと云ふ深堀屋の哀れな境遇、兄さん事に依つたらお金でもあるかも知れない故、どうぞ之を壞して……」と神棚に載せて置いた唐木の小箱を下ろしてそれへ出した、正太郎も 正「成る程是は何か仔細があるだらう何であるか兎も角もさういふのなら開けて見やう」と漸くの事で蓋を開けて見ると、何やら書いたものが一枚貼つてある 豐「何か兄さん書いてあるぢやアありませんか」正「ウーム、お父さん斯んなものが書いてあります、世の中に手詰るものは黄金なり、中あけて見よ福德の神」三「それでは中に何かあるのだらう」正「然うでございませう」とその紙を剝すと唐木の小箱の中に又桐の箱が入子になつて居る、この桐の箱を開けると、中に金木綿に包んだ綿がある、その綿を脫つて見ると這は如何に、目方二百匁もあらうといふ黄金にて、何れ名人の作らしい小蛇が一つ、金色燦爛として映ゆきばかり、吃驚した正太郎 正「ヤツ、是は黄金の蛇、どうして斯んなものが…」三「オ、是は容易ならん品、中々三兩や五兩の物ではない、事によつたら二三百兩もする、餘程の作物らしい、家主初め借金取りが來たら、之を見せて來春まで待つて貰はう」といつて居る處へドヤドヤやつて來た懸取連中、此の黄金の蛇を見せて來春まで待つて吳れと賴むと、何れも承知して歸つた、一夜明けると正太郎が右の作物を金庫役人の後藤さんの處へ持つて行つて見て貰ふと後藤さんが「是は世にも稀らしい品だ」とある鑑定家に見せると 鑑「此の品こそ昔藝州廣島の城主福島正則の家に傳はつた蛇形の黄金と云つて、元內義弘から傳はつたものにて、天下の逸品ともいふべき重寶である」といふ鑑定が付いたので、終に之が役人の手から將軍家へ御覽に入れると、八代の將軍吉宗公、悉く御意に召し、此の蛇形の黄金を御買上になつて金千兩といふ大金を深堀屋へ下げられました。のみならず之が御緣となり、深堀屋が大奧へ御出入をして小間物一切を入れることになつたから、忽ち身代も回復して通町、隼町へ立派な店を開き今まで逼塞いて居た出入の者も昔に返つて繁々足を入れると、ふのは是れ世の中の人情、一時は見すぼらしき姿をして居たお豐も美しく化粧して、奧に祀る辨財天を守護して居るといふ有樣、所がある日黑斜子の衣類に仙臺平の袴を穿き、五所紋の羽織を着し、裝飾も立派な大小を帶し、供の者を連れて深堀屋の店へ來た武士、主人に面會し少し內分の話があると云つて奧へ通る、正太郎が出て來意を尋ねると 武「つかん事を伺ふが、お妹御のお豐さんは御健康か」正「ハイ、健康でございますが、貴所樣は誰方樣で…」武「イヤ恥を申さんでは分らんが手前は十餘年前、場所は安藝の嚴島で、若氣の至り心ならずも其頃乞食に身を變へて辨財天に參籠し神の利益を受けんとして、却つて道ならぬ行ひをなした福島彌六と申す者、お豐どのと契りを籠めて五日の間の樂しき夢、本意なき別れを致したる際、家に傳はる重寶、蛇形の黄金を後の記念として御渡し申した處、その黄金が近頃上樣の御手に入りしと承ります我喜び之に過ぎず、御役に立つて僥倖でござる、併しお豐どのは其後如何致されたかと存じ、鐵面皮くも懷しさの餘り今日お尋ね致しだる次第でござる」正「エ、」とビツクリした正太郎 正「扨ては貴所が彌六樣でございましたか」彌「イヤ、誠に面目次第もない」正「阿父さん、阿母さん、一寸來て下さい、お豐〱早くお出で」三「何だえ、正太郎」とそれへ出て來た三右衛門夫婦 三「オ、お前さんは先年のお乞食…」露「アレ、お前さん飛んでもない事を仰しやつて、どうぞ貴所、お氣にお掛けなさらないやう」と云つてる所へお豐が 豐「何です兄さん」とそれへ來て彌六を見て一時はアツと驚いたが、又嬉しさが込みあげて、長の年月待ちに待つたる甲斐あつて、戀しと思ふその人が訪ねて來たとは夢かとばかり氣も勇み、一子彌太郎の手を取つてそれへ進み寄り 豐「マア、彌六樣、いつも御無事でお目出度う存じます、私も此のやうな子まで出來まして」と、彌太郎をその膝下に突きやる 彌「オ、扨てはお前はあの時に妊娠して斯樣な子を擧げたか」と膝へ引き寄せ顏を眺め、餘りの嬉しさに淚さへ浮め 彌「恥かしや御當家の御主人、一夜二夜と思ふ內五夜の契りに御貴殿の娘を長く寡婦同然、一人の子まで擧げさせ、捨置きし此身の罪どうぞ勘辨に與りたい、一旦乞食と身は窶せども、それは全く心得ありて致せし事、今は松平安藝守に召抱へられ、八百石の祿を食み福島彌六正房と申す」之を聞くと正太郎が 正「夫れでは若しや貴所は福島正則樣に御由緒のある御方ではございませんか」彌「如何にも、お話申すも淚の種、今は八百石に甘んじて、安藝殿臣下になり居れど、元を質せば大々名、先祖は豐臣家股肱の臣福島左衛門太夫正則、幼年の頃より殿下に仕へ、未だ秀吉公姬路に在して正則は市松と言ひし頃、熊見川にて南條元續、小鴨元晴の首を討ち、初めて百石を賜はつてより、山崎の合戰、賤ケ嶽の戰ひに戰功を顯はし、文祿の役には朝鮮に渡つて大功を立て、殿下薨去の後正則は德川家の養女たる滿天院を妻とし、關ケ原の戰ひに又拔群の功を奏し、之が爲めに備後安藝の二ケ國を賜はり、四十九萬八千石の大々名となりしが、慶長八年正則の嫡子正之、德川家に背きし事あり、それが爲め幽閉の後命を縮られ、次男正勝相續せしが、慶長十五年に至り正則又德川家に背かんとし、元和五年終に改易となり僅かに越後國魚沼、信州川中島の二ケ所に於て六萬石の祿をあてがはれ生涯を川中島に託しく送つて寬永元年六月四日相果て申した、茲に於て幕府はその祿高を沒收され一族其跡を絕ちしが、只一人正則が玉江といふ妾に產せし八郎丸といふ男子あり、之は庶子なるが故に他に預けしを後に玉江が八郎丸を連れ藝州安藝國へ歸り、其儘八郎丸は土着し、其伜を八郎次郎と云ひて矢張り安藝國にあり、其八郎次郎の子と生れしが則ち此の彌六正房、父の八郎次郎が死に臨んで我祖先が一旦領せし安藝國、萬一德川に事あらばその機に乘じて此の國を我が自に歸せよと遺言したれど、今は德川の天下泰平にして、それも成らず、なれども亡き父が最後に臨みて遺せし言葉は耳朶を去らず、後に乞食に姿を窶し、嚴島に參籠して、只管德川の滅亡を祈りしも、運勢昌んにして名君現れ、沖も我等が望むこと難しと終に、その心止み、江戸表へ來らんとする時、圖らずも、松平安藝守殿の江戸入府の途中須磨の浦にて多くの狼藉者現れしを某出で追ひ散らし安藝守殿の御身に恙なかりし功に依つて召抱へられ、初めは國表へ送られ僅[illegible]祿なりしが、其內福[illegible]なりと相分り、破格の[illegible]百石の高祿を賜り、此[illegible]されし處、我祖先より傳はれる蛇形の黄金が當將軍へ御買上げになりしと聞き、不思議のことに思ひ、段々樣子を尋ねしに、當家より出でし事が分り、お豐どの、貞節と孝道とに依つて彼の記念に渡せし蛇形の黄金が役に立ちしを喜び、恥を忍びて今日罷り出でたる次第」と、彌六正房が始終の物語りに、お豐は勿論正太郎、三右衛門夫婦の者の喜びは幾千か 三「誠に福島樣、こんな目出度い事はございません、此の上はどうぞお豐をば改めてお迎へ下され度いものでございますが、如何にございませうや」彌「それは素より某も娘御に對し、一旦誓ひし言葉もあれば、未だ今日まで妻も迎へず、商家に生ひ立ちし娘が堅苦しき武士の妻となるは迷惑でもあらうが、豐どのに是非參つて貰ひたい、正太郎殿も否やはあるまいが」正「何で否やがございませう、此のやうな結構なことはございません」と茲に話が整つて、先づ御目出度いといふので酒宴を開き、內祝言を致し、改めてお豐、正太郎を福島の家へ引取り、婚禮の披露も濟ませ、いとも樂しき家庭を作りまし[illegible]又本石町[illegible]て、愈繁[illegible]干支に因[illegible]これにて讀切と致します。（終り）



和歌　氷見曉美氏選

天

京城岡崎町一〇一飯森方　齋藤葡秋

めでたしや醉ひたるらしき聲擧て誰やらむはや年始に來たる

だしぬけに年始にきたる魚屋の大きその聲に驚きにけり

溫突に眠らむとしつゝ靜かなるこの正月も食ひ飽きにけり

初荷いま投げつゝ通る小蜜柑の座敷に一つころがり來つも

地

大連市常盤町大連神社前橋本方　天明生

日每逢ふ人々ながらこの朝け言更めて祝詞まをさむ

人

鐵嶺、鹽田重織方　坪倉重美

ひそやけき元日の朝にありにけりかへりみらるゝこその事など

ひとすぢに歩みきたりしこの道をなほし行かむが今朝の誓ひぞ

選後の言葉

氷見曉美

滿日社から囑されて諸氏の新年應募歌を選すると云ふのは何かの因緣である。眼力乏しく珠を瓦と見損なつた點があるかも知れないが充分心は配つたつもりである。應募歌數は總計五百九首應募者は新潟、山形、長野、大阪、兵庫、香川、愛媛、福岡、佐賀、大分等の內地各府縣、朝鮮各地、南滿洲一帶の地にあつて相當盛であつたことをよろこぶ。採つた數は總て八十二首、應募總歌數に比してその數の少いのは紙面の都合もあつて止むを得ないのである。

採らなかつた歌に就いては若干の感想がある。一々に就いて愚見を述べることの出來ないのが遺憾であるが、總じて歌に生動する命がなかつた。これは賀言慶語とでも言ひたいおめでた盡しの言葉或は材料の綴り合せに終つたからである。さう云ふ側には「賤が伏屋」「賤が軒端」と隨分賤々と言ひ放つて居るのが多かつた。必ずしも作者その人が時代に取殘されて居るのではあるまい。歌の場合にのみさうなのであるまいか、そこが自分等には奇妙に思はれるのである。今はもう昭和の四年である。明治時代の所謂新派の歌に類するものも採らなかつた。蒔き繪の小櫛が光らうが光るまいが、文金島田が狆子をつからがつくまいが、そんな材料は兎も角それに一貫する感動がなく、小手先の綴り合せであるからである。

以上の外になほもう一類採らなかつたものがある。新年の回顧を罵倒し、名刺受に叩頭して歸る人々のつまらなさと言ふ樣なことを歌つた類である。この一類の作者には現代人の歌には現代思想が盛られて居るべきであると言ふ考へが働いて居ると思つた。頭は決して思想そのものを盛るの器ではない、これはかしは昭和百年が來やうが變らぬと思ふ。斯うした類別を經て小生は小生の主義主張するところに一致するものを選びあげた。

選んだものには、作者の感動の一々異れるものが夫々に生動して居ることをかたく信ずるものである。終りに滿日歌壇の愈々盛ならんことと應募者各位の御精進を祈つて筆を擱く。妄言多罪



賀正

大連



社團法人 滿洲土木建築業協會　在大連有志（イロハ順）

商號	氏名	所在・電話
市川工務所	市川金太郎	大連市若狹町 電六四四四番
伊賀原組	伊賀原岩吉	同神明町 電五〇八七番
合資會社池內組	池內新八郎	同但馬町 電五二七四番
今井組	今井行平	同敷島町 電六八八七番
合資會社原組	原半次郎	同八幡町 電六二三三番
林工務所	林七藏	同東公園町 電六六〇二番
合資會社星野組	星野侊司	同若狹町 電六六七九番
東洋コンプレツソル株式會社	右近熊吉	同敷島町 電五七三〇番
千輪工務所	千輪進	同東公園町 電五三三八番
岡組	岡常次郎	同彌生町 電三九九二番
大倉土木株式會社出張所	加藤貞利	同山縣通 電二四二三一番
大桑洋行	大桑辰雄	同西公園町 電五〇三二番
合資會社華勝公司	大江卯之松	同山縣通 電八四五二番
大連工材株式會社	福井米次郎	同入船町 電四五六九番
合資會社大同組	河村統治	同山縣通 電三三七〇番
高岡久留工務所	高岡又一郎	同紀伊町 電四八〇七番
株式會社多田工務所	多田耕一	同淡路町 電四七八九番
葛井組	葛井新助	同但馬町 電四四二八番
辻組	辻吉太郎	同能登町 電六〇六七番
草場工務所	草場又一	同北大山通 電六二五〇番
合資會社久保田組	久保田勇	同山縣通 電八四七〇番
矢野組	西津春治	同播磨町 電四二三五番
福昌公司	相生由太郎	同山縣通 電七一七一番
福井高梨組	福井猪和太	同東公園町 電三五四九番
柳谷組	柳谷仙次郎	同能登町 電六七九一番
合資會社三田組	三田芳之助	同越後町 電四八五〇番
白川洋行	山內基信	同紀伊町 電七〇五三番
志岐組大連支店	高石清彥	同信濃町 電七〇七二番
蛭田組	蛭田福太郎	同榮町 電六九七番
石井組大連支店	石井本一	同惠比須町 電六七三四番
吉川組大連支店	碇山順亮	同西公園町 電六三九三番

社團法人 滿洲土木建築業協會　大連市山縣通一五八番地　電話四六二三番

體育堂　大連市大山通り三十二番地　電話三七二三番

大連海運業聯合會々員

所在	會員
山縣通一八一	日本郵船株式會社出張所
山縣通一二九	栃木商事株式會社出張所
山縣通二二三	大阪商船株式會社支店
山縣通一九九	大連汽船株式會社
山縣通一八	高橋商會
山縣通一四四	大連東和汽船株式會社
紀伊町二二	合資會社辰馬商會
山縣通一五三	合資會社大三商會
加賀町三〇	田中商事株式會社支店
山縣通一三〇	堤商店
北大山通四	宇田商會
加賀町四	山下汽船株式會社支店
濱町三	滿洲船渠株式會社
敷島町六	合資會社丸二商會
山縣通二二一	國際運輸株式會社
山縣通八七	合資會社後藤商會
敷島町六	合資會社永和公司
土佐町二六	帝國汽船株式會社出張所
山縣通二〇〇	阿波國共同汽船株式會社支店
須磨町六	株式會社澤山兄弟商會出張所
山縣通一八二	三井物產株式會社船舶部
山縣通一七七	合資會社宮崎商會
山縣通一九二	合資會社靖和商會

久保田寫眞製版所　大連市武藏町六六　電話八六三一番

滿洲船渠株式會社　大連市濱町　電話（代表）七一九五番
同　大連工場　大連市濱町三番地　電話（代表）七一九五番
同　埠頭出張所員詰所　大連市大棧橋甲埠頭　電話六三〇三番
同　旅順工場　旅順市東鄉町　電話四番一八〇番一八二番

大連市信濃町市場組合　電話四七六三番

大連錢鈔取引人五日會

商號	所在	電話
和盛泰錢莊	大連市駿河町二	電五一八一番
和泰錢莊	大連市愛宕町三三	電四三七二番
泰信錢莊	大連市奧町二三	電五一五一番
泰記錢莊	大連市奧町一八	電五一〇一番
山田錢莊	大連市信濃町二八	電五一三五番
廣來錢莊	大連市監部通八八	電五一二三番
永順錢莊部	大連市大山通五八	電六五五三番
東華錢莊	大連市奧町七六	電六一二三番
義升福錢莊	大連市愛宕町二三	電六一五五番
永泰錢莊	大連市山縣通	電八七四五番
仁記錢莊	大連市監部通二二	電五一九一番
德泰公司	大連市山縣通五	電六一六四番
山本錢莊	大連市山縣通六三	電五一四一番
純昌號錢莊	大連市山縣通一八	電六一九五番
東裕錢莊	大連市山縣通一八	電五一五七番

大連旅館組合　大連市信濃町（遼東ホテル內）　電話（代表番號）四一三一番

大連質屋業組合　電話六〇二四番

賀正

大連

大連華商公議會
正會長 張本政
副會長 劉仙洲
同 李升海
電話 四八六八番・四三五六番

鐵材商
大連市吉野町四十一番地
畑中佐太吉商店
振替口座大連九三七番
電話四七二七二番
電信略號（ハタ）

大連市西崗子宏濟街七七番地
積善堂
主人 朱春山
電話四四五二番

建築材料
石炭販賣
大連市近江町二番地
徳和公司
電話六一八一番

大連市伊勢町五十九番地
北支那青果株式會社
電話八七七〇番

大連市信濃町
満洲水産株式會社
電話四五三三・七〇五七番

満洲寫眞通信社
大連市三河町
荻野順次
電話六八〇五番

大連市伊勢町四八
合名會社 **高橋商店**
電話四七〇七・三八三九番
忌中に付年始の禮を欠く

大連酒商組合（いろは順）

白鶴 發賣元	嘉納合名會社大連支店
澤龜 同	宅合名會社大連支店
白鹿 同	合名會社辰馬商會
大關 同	黒岩大連支店
富久娘 同	富久洋行
忠勇 同	増屋
櫻正宗 同	扶桑號高見商店
白菊盛 同	合資會社肥塚大連支店
菊正宗 同	鐵谷商店
富士東洋一 同	株式會社柴谷洋行
白雪 同	鈴鹿商店

磐城會

ラクダ屋	石田卯吉郎
和盛洋行	西川虎太郎
東亞物産館	大波多具一
勝又洋服店	勝又文彦
羅紗貿易	河野小七郎
三井呉服店	田村英雄
田中屋	田中乙吉
伊勢屋	高尾音次郎
三好野	村地俊次
泰昌公司	山本靜夫
松井商店	松井市右衛門
柳霞堂	藤田政太郎
新高	藤村喜平
満壽屋	小嶋新三
カフエーアオヤマ	青山政雄
新潟物産	佐藤豊
森薬舗	森繁八
モリタヤ	森川正二

大連米穀同業組合員（いろは順）

同生厚精米所	遼東精米所
大矢組株式會社	大島屋商店
渡邊商店	河又出張所
大連精糧株式會社	泰東精米所
田中商店	高山商店
泰宏洋行	名藤商店
中矢商店	村上商店
桑野商店	山喜商店
慶和徳	福永洋行
復茂東	福順義精米所
甲信洋行	永順義
越後屋商店	寺田商會
協盛泰精米所	共進洋行
城川洋行	裕泰洋行
志摩洋行	順記精米所
城島商店	泉陽精米所
盛進商行	

室内装飾
和洋家具
製造販賣
大連市西通二丁目
ヤマトヤ商店
松浦常一
電話六八三一番

大連市吉野町二六
一萬堂印房
電話七八五九番

大連タクシー
營業所
本店 常盤橋 電話 五七七四番・三八六八番
支店 西部 電話 九五二四番
若松町 電話 九三〇一番
出張所 旅順驛前 電話 四五二三番・五一五番

金銀兩替錢鈔取引
公債社債株式賣買
大連市山縣通五番地
株式會社 徳泰公司
電話 錢鈔部 六六四番・六六五番・六六七番・四六五番
證券部 五一四番（長距離）
振替貯金口座（大興八五六番）
受信略號（カブトク）

營業科目
油布、雨傘、日覆、天幕、洋傘、足袋、運動靴、多幸足袋、洋服、室内装飾、家具其他各種服類各種材料並以上營業に附隨する各種の業務
大連市橋立町
大連工業株式會社
電話 四一六番・八二三八一番
登録受信略號 タイレンタイコ
發信略號（タコ）又は（コ）

大連市監部通
東亞煙草株式會社
大連販賣所
西村義郎
電話長四二七三番

大連食料品問屋組合員
大谷支店
三星洋行
京和洋行
爾宜田商店
中村商店

大連市山縣通五十四番地
三菱商事株式會社
大連支店
電話代表八一五一番

大連市磐城町
満壽屋モスリン店
電話五二〇七番

營業種目
醫療工業衛生製造材料賣藥販賣品
大連市三笠町五番地
昭和洋行
電話四六二九番

森永製菓會社
明治製菓會社 特約店
製菓卸問屋
機械製、花アラレ類、煎豆ピーナ掛物類、其他各種
木村屋分店
大連市若狹町五丁目一九九
電話六八六八番
振替大連一三〇八番

小崗子露天市場事務所
電話三七二四番

御料理
大連老虎灘
千勝館
電話七〇四六番

大連市トキワ橋中央ビル
中央食堂
電話八四八三番

大連市信濃町日本橋際
吾妻旅館
電話四六四六番
富士屋旅館
電話五二八六番

小崗子料理店組合一同
電話四三三六番

大連市若狹町六〇番地
ペーチカ煖房請負
宮崎組大連支店
電話五二四二番

アカシヤ洗布所
電話三八〇七・五七五一番
KOダイオーク
電話七九三六番

吉野町八五
おきな
電話八二四八番

日本足袋株式會社代理店
アサヒ地下足袋、アサヒマタナシ地下足袋、アサヒ家庭總用足袋、アサヒ小供靴種々
大連市磐城町八十一番地
泰盛洋行
電話八七一七番

大連市岩代町
夏木瀬印刷所
電話六三三七番

小間物化粧品小雜貨
大連市信濃町一四一
小泉専治商店
電話七二〇三番

菓子原料卸問屋
大連市西通九〇番地
松村兄弟商會
電話四九七一番

大連市愛宕町（正金裏）
松本洋服店
電話三九三五番

大連市敷島町六二
歌舞伎座
電話四五三八・六七四六番

大連市若狹町
大連劇場
電話三九三八番

日活共營
大連市浪速町一〇七
浪速館
電話四六五四番

大連市岩代町三七
寶館
電話三七五八番

帝キネ共營
大連市西廣場
演藝館
電話五三〇七番

松竹共營
大連市信濃町三三
帝國館
電話六九五四番

映畫のお話

森岩雄

【一】

日本映畫界に對する幾つかの議論を試みやうと思ふ。先づ規模を大にして、日本映畫界對外國映畫界の問題から始める。

日本は元來、活動寫眞發明の一事から、常に映畫上の後進國であり、外國映畫の刺戟によつて、漸次今日の地歩を占めるに至つたのである。その間、恩惠を蒙る以外のことは殆と爲し得ない狀態である。尠くとも、市川左團次によつて露西亞に「カブキ」を紹介した程のことすら、日本映畫は對外的に積極的な進出を示してはゐない。

その代り、歐米映畫、並に映畫上の理論の輸入に就いては、日本は正に世界有數であらう。米國映畫の重なる作品は殆と大部分輸入されることは勿論、歐洲、主として獨、佛、英の優秀畫の目ぼしいものも大抵は製作後餘り年數を經ない内に、日本市場に表れるやうになつてゐる。現に、外人によつて經營されてゐる支社の數も五、六數へることが出來る。

映畫製作上の理論は、單行本として發行されたものは云ふまでもなく、當業雜誌、その他文藝雜誌新聞等に掲載されたもので、相當價値あるものは續々と飜譯又は紹介されてそのあたりに何等の間隙はない程である。

是を文學と比較する時、外國文學のいかにも飜譯紹介の速かなことには感心するが、映畫の如く直接的ではなく、時間の關係から云つても映畫程ではない場合が多いと思ふ。第一、映畫の場合、飜譯されるものは映畫中の文學的材料である「字幕」だけで、生命である畫面は斷るまでもなく原形そのまゝが映し出されるのである。更に之を映畫と形式に於て最も近似してゐる「演劇」と比較する時、我々は「外國演劇」の姿を捉へるには、その一要素たる脚本を讀み場面の寫眞を見、更に演出者の意見、又は批評家の紹介等によつて想像するより他にはなく、その眞價を把握することは到底出來得ないことである。それに比べて映畫はどうであらう。我々は稀な例を除けば紐育で、巴里で、伯林で封切られたそのまゝのプリントに接することが出來るのである。

かうした點からばかり考へても映畫に携はる者が、いかに正確に觀察し、採り入れ可きところは採り入れることが出來るか、驚くべきものがある。

その上に、價値ある實際家、及び批評家の文獻の紹介は不斷の注意と努力に依つて日々行はれてゐるし「映畫の國際化」はあらゆる文化的事業の中で、最も有効に且つ敏速に行はれてゐるのである。

だから我々はチヤプリンの心をムルナウの意見を、ガンスの信仰を、何等の誤譯なしにそのまゝスクリンの上で接し得られるのである。即もそれは所謂「少數なる知識階級」ばかりではなく、ひろく大衆的にである。

斯の如くに、日本映畫界は、外國映畫の影響を受けるとは極めて便利な立場にあつて、何等の痛痒を、文學の如くに、演劇の如くに感ずる必要はないのである。ところが、左樣なる有利な日本映畫界にして私の意見に從へば不滿なることが二つある。それは私共映畫界の者が當然此の不滿を除去すべく昭和四年度の事業としなければならない「二つ」なのである。

その一つは「發聲映畫」である。發聲映畫は明かに一つの流行である。流行病が非常に猖獗を極めてゐる如き恐ろしき狀態を以て世界に蔓りつゝある。米國は既に「流行」の域を脫し、今や歐洲の地を席捲せんとしてゐる。極東の地へ使はるも、單に時期の問題となつてゐる。發聲映畫に對しては、一部の人々、殊に映畫藝術家と稱せられる人々からは、映畫の本質を損ふものであつて、映畫上の邪道を行くものであると云はれてゐる。誠に「邪道」であつても、それは立派な「存在理由」を持つてゐる。映畫は科學の產物である。映畫科學の進歩が、發聲映畫を生むだことが、それ程、不自然な現象ではない、極めて當然だと思はれる位である。その初期のものが、いかに不完全だからといつて、日本映畫界が冷笑を事とし、これが輸入に垣を作るが如き偏見に對してはあく迄も戰はねばならぬと思ふ。活動寫眞の最初がどれ程完全であつたか、映畫史の最初の頁を回顧すれば自から解ることゝ思ふ。

第二の不滿は露西亞映畫の輸入されないことである。我々は過去より殆ど十分過ぎる程、米國映畫を研究することは出來てゐる。それに伴つて獨、佛、英等の映畫もひとり新露西亞の代表作品なるものが、それは傳はるところに依れば新しき内容と形成を持つたものであると云ふが、それらに接することの出來ないことである。映畫商人は映畫の内容から日本政府の干渉を恐れて輸入しないし「赤化宣傳」の意の强調されてゐないと思はれるものまでが、その傾向に曳づられてゐるのは殘念至極である。當局の露西亞映畫に對する干渉が噂の如くであるならば、今年の事業の一つとして、その諒解運動に着手すべきではないかと思ふ。

【二】

映畫外の映畫問題は以上でその要點を卸した。これから、日本映畫の問題になる。製作の方面を主として論じてみやう。



田家の朝　於川龍人氏筆

日本映畫製作の中心は「映畫劇」に力點が置かれてゐる。曾て我々は舞臺劇をそのまゝ撮影したに過ぎぬ、演劇代用映畫の横行を嘆いて此映畫劇運動に努力したことがあつた。此の運動は大體に於て成功したといつてよく、日本映畫劇の二種別たる時代劇も、現代劇も、映畫特有の技巧によつて組立てられ、日に日に演劇模倣から遠ざかりつゝある。新派劇に於ける女形の活躍、舊劇に於ける辯詞の跋扈等はその影をひそめ、西洋風の映畫手法によつて作られるに至つたことは我等の喜びである。けれども、現在の映畫劇の程度を以てしたらまだ演劇的に過ぎるものが多分にあることを認めなければならぬ。而も映畫的技巧を驅使することばかりが映畫製作者の本領であるべきではない。更に民衆の生活の上に、新しい健やかな力となつて働きかける内容を、今後の映畫は持つことに努力しなければならない。映畫が新時代の藝術たることの價値は、一つにその點に存在すべきである。

此の立場から、現在の日本映畫製作者の働き振りを見てみる。成程、其處には外國映畫乃至外國映畫理論より學び得た知識によつて映畫的な技巧を自由に驅使することの出來る人々の幾人かを考へることは出來る。併し果してその幾人かゞ今述べたが如く我々の生活を充實せしめ、勢ひづけることをも滿足させてゐるかといへば決してさうは云へない。

最近の作品を檢討した結果、自分は、例へば伊藤大輔、大河内傳次郎の努力による作品、牛原虛彦、鈴木傳明の奮鬪による作品等の一部分に、映畫の明日的進路を發見する位である。

從つてから云ふことが云へると思ふ。我々は既に舞臺から映畫を開放する運動には殆ど成功した。今後は映畫の中に民衆の心を掴み民衆の生活を力づける「意圖」を有ち、しかもそれを能く洗練された技巧によつてその映畫を作らうとする新人の出現こそ日本映畫界が最も望んでゐることであるといふことだ。

右に述べたのは、日本の映畫劇に就いてである。映畫の範疇で「映畫劇」は一番に勢力を占めてはゐるが、同時に芝居的な技巧に毒されるところも價値の上から十分考慮すべき點である。さうしたことから我々は所謂實寫物と稱せられる部類に屬する映畫に非常なる期待を持つてゐるのである。

「實寫物」といふからには、要するに觀兵式、火事、水泳等の記錄的映畫なのではあるが、最近に於ては「自然」を撮影する技術が進むと共にその編輯仕上に著しい進歩が見られて來た。そして遂に現在では一つの「映畫藝術」としての存在價値さへ、有するものが出來上るやうになつた。

併し此の實例と理論は遺憾ながら日本映畫界を左迄こ動かしてはゐない。過去に於て或は日本アルプスの實寫に或は黑部峽谷の實寫に相當の優秀作品もないではないが、何れも單なる實寫に終つて報告的な興味、記錄的な目的以上には出でず、外國の「モアナ」「チヤング」「地上」等の映畫には到底比較すべくもないのである。

「チヤング」には動物學上の興味以上に貴い人間生活の努力が見てゐる者の心をうつ「地上」に於てもやはり同じことが云ひ得る。「モアナ」の魅力は南海風物の美しさより島人の純な美しさが虛僞に滿ちた我々の醜さを反省させる程强いところにある。

我々はさうした魅力を日本映畫に求めて止まないのである。監督だ、脚本だ、俳優だ、大道具だ、さうしたこしらへものゝ世界に眞を求める仕事も面白く且つ意義はあらう。併し大自然そのまゝの美しさを映畫的に再現する道を切りひらくことも日本映畫界は全く誰も手を染める者がないだけに必要なことではないかと思ふ。

【四】

昨年度の調査に依ると日本全國の映畫常設館數は一、〇四三で、一昨年度の調査に依ると一ケ年を通じての觀覽者數は一億三千六百廿九萬人以上で、現在人口の二・二八倍に相當するといふ。粗雜な譬へにして云へば、日本人は一年に誰でも二回以上映畫を見てゐるといふことになる。

而も我々が考へなければならないことは人々は義務的に映畫を見に行くのではなく自ら進んで行くといふことである。他動的に與へられるのではなく自ら求めて赴くのである。さう考へて來ると千有餘の映畫常設館が夜毎そのスクリンを飾る映畫の内容に思ひがうつらざるを得ないのであるが、果して我等映畫人は耻なくして是を省みることが出來るであらうか。

何等の意味なき刺戟、唾棄すべき低級なる感傷主義、適用を誤りたる愛國心、それらが實に主要なる題材として扱はれてゐる怨みがないであらうか。

映畫事業家は云ふかも知れぬ。これでお金が儲かるのだ。これでよいのだ。これ以上のものを求める必要はないのだ。映畫は商賣であつてその他何ものでもないと。

今かゝる考へのいかに誤りであるかを十分に說く餘白を持たぬが簡單に說かう。映畫の價値は根本に於ては、その精神的所產にあるべきでその他の何ものにもないことである。映畫事業の利益問題は第二義的なものとして考ふべきで、これが映畫の根本的な價値になるべきものではないのである。

映畫は適確なる知識を民衆に與へ且つ明るく正しい情操を民衆に養はしめるところにのみ使命を有してゐるのである。

利益を映畫製作より得んが爲めに、誤れる知識を强ひ、時代錯誤的教訓を與へやうとする行爲は一種の罪惡である。（終り）

賀正

開原

井上芳雄　羽原力太郎　二之宮景吉　二之宮謙　千々和正彦　大川廣太郎　大重篤　川崎亥之吉　川島定兵衛　上部山九效　高垣寛吉　龍田道德　奈良正彦　牛島義雄　山本松次郎　安田佳藏　前田信二　前川勝三郎　松本辰吉　牧野武次

遠藤憲治郎　相良禮三　佐竹今信　佐藤祐太郎　菊地薫　三田泰三　宮田春信　清水楠次郎　久富一二三　平岡雄吉　關野芳造　杉之原孝善　洪淳亨　鄭冕極

滿洲電氣株式會社　電話長一二〇番

開原取引所

特產物貿易 委託賣買　開原公司　電話長三八三番
出張所　哈爾賓地段街　電話四三一八番　朝鮮定州城内　電話長六一番

橫濱正金銀行開原支店　電話長二五番

朝鮮銀行開原支店　電話長一〇〇番

正隆銀行開原支店　電話長一一〇番

日清製油株式會社開原出張所　電話長二番

開豐長途鐵軌汽車公司

和登商行開原出張所　電話長三〇番

高等旅館　二葉旅館　電話長二八番

高等料理　二葉　電話二八番

石炭商　利生洋行　電話長三五九番

松昌公司　電話長一二四番

藥種賣藥、精米業、[illegible]

賀正

大連火曜會々員名簿（イロハ順）

飯塚祇
石本鎖太郎
石田禮助
糸賀庄造
原田光次郎
保々隆次
堀諫
富次素平
岡虎太郎
奥田千之
和田敬三
西山勉
神成季吉
貝瀬謹吾
横田多喜助
田中千吉
田中喜介
田邊敏行
田村羊三
高柳保太郎
竹中政一
谷口英次郎
安田柾
村井啓太郎
村井啓次郎
宇佐美寛爾
黑田誠
山本条太郎
山口啓三
山崎平吉
松岡洋右
松田義雄
古澤丈作
藤根壽吉
藤田臣直
神鞭常孝
小日山直登
寺田虎次郎
櫻井學
齋藤良衛
佐藤至誠
佐方文次郎
木部守一
北代眞幸
杉野耕三郎

大連市西公園町六九　鶴見齒科醫院　電話八二〇三番

大連市伊勢町九四　川越口齒腔科醫院　電話六五三五番

大連市浪速町　㊎まるきんや　小間物店　電話五六一〇番

大連市浪速町三丁目　和洋雜貨　野崎洋品店　電話三二七九番

大連市信濃町一二三　藥種直輸入　石川萬壽堂　電話四三四四番

大連市若狹町越後町角　吉成製版所　電話三六九一番

大連市浪速町一五　貴金屬細工　大村洋行　電話三七二八番

警察署長　植田德次

郵便局長　岩井繁守

地方事務所長　河內由藏

醫院長　新井決

小學校長　上田鎚彌

驛長　稻川利一

機關區長　七田積

電燈會社事務　原豐吉

神職　山內茂義

白川洋行　山下義明

井上齒科醫院　井上竹四郎

本願寺住職　浮津弘道

西島常次郎

大石橋電燈株式會社

喪中に付年賀缺禮仕候　梅廼家旅館　小林才治

大石橋煤廠　電話七七番
伊藤謙次郎
關甲子郎
黃子臣
任獻忱
梁海民
張子香

陸軍御用達　雜貨商　石川洋行　電話四十四番　振替大連九二五番

圖書雜誌　紙類　文房具　山口石文堂　電話二十八番

御料理　日本館　外藝妓酌婦一同　電話十番

和洋料理　福住　外藝妓酌婦一同　電話十一番

手打そば　蕎し仕出し　福住庵　電話五十一番

御料理　壽し　環之屋　外藝妓酌婦一同　電話四十六番

御料理　芙蓉樓　外酌婦一同　具性岳

陸軍御用達　和洋菓子商　三谷日新堂　電話三十番

梅月旅館　電話二十七番

諸新聞取次　代書業　細野芳枝　電話四十四番

吉林總領事館　工藤正次

吉林滿鐵公所長　吉原大藏

森林經營附屬企業　各種原木製材鐵道用枕木坑木電柱等　共榮起業株式會社　電話二一七六八番

共榮起業株式會社　取締役　戶田盛次

吉林官商合辦　華森製材公司　電話三〇〇番

東洋醫院　鈴木浩　前田翠　謝文山

東洋醫院　齋藤源治郎

製函製材原木　吉林木材興業株式會社　電話七〇二番

裕泰號　堀井覺太郎

國際運輸支店長　三ケ島伊作

吉林同文商業學校長　井ノ上暉雄

福昌號　吉武常一

吉長鐵路管理局　吉林工務段長　吉田貞次郎

吉長鐵路管理局　吉林事務段長　私市一太郎

吉敦鐵路工程局　第一工務段長　蕭定先

東洋醫院　花田孫平

東洋醫院　河內□大

吉林質屋組合

各種原木枕木坑木其他特種材　富士木材公司　電話五七四番 二六五番

高等洋服調進　松本洋服店　電話一〇七番

高等旅館　名古屋旅館　電話二〇〇番

高等旅館　日清ホテル　電話四番

吉林料理屋組合

滿洲日報
元旦號 其の三

醫學の上から見た現代人の文化生活
すべてが矛盾だらけ

醫學博士 高田義一郎

一、現代文化生活

現代人は賢明である、現代人は敏感である、その賢明で敏感な人々のすることに、もとよりそつのあらう筈がない、一から十まで頭の天邊から足の爪先まで中々上手に立廻つて居ることを肯定するに對して、誰れでも躊躇することは出來ないであらう、しかしその現代人の所謂「文化的生活」なるものにも醫學といふ眼鏡をかけて見る場合に少々ばかり「如何かなあ?」と首を傾けさせられる點が無いでもない、それを一つ二つ御紹介──と云つては不都合であるから──御披露に及んで江湖の指教を仰ぎたいと思ふものである。斷じて文化生活に對する反逆でもなければ又冒瀆でもないのであるから、怒るのを後にして氣を靜めて此のわからず屋のダヽツ兒の言葉に、一應耳を傾けて貰ひたいと思ふ心が切である、

二、藥品愛好

現代の人々は中々藥品が好きである、病氣の時には止むを得ないけれども、平生達者でピン〳〵してゐる時にでも少くとも二、三種の藥を服用してゐるのがザラに在るのは一體どうしたものであらうか!食事の前後に何か粉藥を飲んでゐるので

「何處かお惡いのですか?」と尋ねて見るとニヤ〳〵笑ひ乍ら「いゝや、病氣ではありませんが、ヂアスターゼを一寸……」と答へる人がある、そうかと思ふと、旅行先にまで「ヴイタミンA」といふ樣なものをわざ〳〵攜帶に及んで三度々々缺かさずに飲んで居る人もある、今ではもう下火になつたが數年前カルシユーム入のパンが流行してカルシユーム入のパンや飲料水、その他いろ〳〵の飲食物が出來た頃に日々の米の飯を炊く時にカルシユームの何とかいふのを入れる人が多かつた、而して

「それを入れると何か違つた所がありますか?」

と質問して見ると

「ハイ、第一飯の澤までが違ひますよ!」

と得意になつて答へる、しかし考へて見るのにヂアスターゼもヴイタミンも或は又カルシユームも普通に飲食をして居る場合ならば特別にそれを藥劑として藥屋から購入してまで飲まないでも決してその缺乏を訴へない筈である、無論、それを藥劑として内服しても決して有害ではないから飲んではいけないと云ふのではない、たゞ特に内服して果して著しい効果が現れるか如何かを疑ふこと並に食物としてそれを攝取するのに比して藥劑として内服するのは遙かに高價に上るから少からず不經濟であらうと思ふまでゝある、故に若も

「それは乃公の趣味である──或は道樂なのである、金は有り餘つて居るから、餘計な差出口は無用だ!」

と云はれるならば我輩又何をか云はんやで、默々として引下るまでのことである、又特に弱さうにも見えない人や、寧ろ人並以上に強壯らしい人でありながら、好んで補劑や滋強劑の類を常用したり精力旺盛に見える癖に、日常何々強精劑と稱する効力の如何はしい藥劑の類を、絶えず愛用する人々の多いことも亦注目に値する樣に思はれる、そう云へばその人々は反對に

「乃公達はその藥劑を愛用するが故に強壯なのである──或はお前は原因と結果とを逆に見て居るからいけない!」

と反駁するかも知れないが、これこそ少々一種の道樂に近いかと──失禮ながら──考へさせられる節がある、更にもつと以上の藥劑通になると、好んで鼻の孔へ「コカイン」を滴下して、之を頭腦明晰法の一種の樣に心得て居るか如く見えるが、之は「コカイン」の爲めに鼻の通りがよくなつて一寸氣持がよくなるからであらう、しかし此の氣持のよいのは、ホンの一時的のことで、之を味はんが爲には幾度も〳〵此の「コカイン」滴下を反覆すべき必要を生ずるのであるし「コカイン」はだん〳〵馴れるに從つて利き目が少くなつて來るから日月を經るにつれて、著しくその分量を増加しなければ到底以前の如き氣持のよさを味はへないことになつてしまうものである、而してその裏面には直にコカイン中毒症といふ恐るべき病魔が凄い微笑を湛へながら爪牙を鋭くして今にも攫みかゝらうとして立つて居るのであるが、それを知つてか知らずにか、すまして勇敢に「コカイン」の滴下を繼續して止めない人々に對しては、一寸挨拶の仕樣に苦む次第である、之でこそ藥屋は萬歳であらうけれども、まさか藥屋を喜ばさんが爲の慈善的行爲でもあるまい、一體全體、何か故に現代人はかくまでいろ〳〵の──無くもがなの──藥劑を愛好するのであらうか?考へれば考へる程わからなくなつて來る次第である。

三、海水浴全盛

數年來の海水浴の流行はすばらしいもので、海水浴も現代人に缺くべからざるものゝ樣に考へ、海水浴に行かない者は共に文化を語るに足らぬ樣な有樣で、全國到る處の海岸に、赤綠黄紫、色とりどりの美しい海水着が春の花の如く開展せられて居る姿は全く物凄いばかりである、無論海水浴は衛生上によろしい、萬里の長風を心行くばかり呼吸し、玉の肌に惜げもなく日光浴をさせるだけでも既に十分の効果はあるから新調の上等な海水着の午前海水に入ることを躊躇して砂の上を翔廣げた孔雀樣に濶歩するだけでも決して文句を云ふ必要は無いのである、しかしながら腑に落ちないのは、「避暑」といふ言葉であつて暑を避けんが爲に海濱へ行くならば、海濱生活が都會にある自宅よりも涼しくなければならないのに、事實は反つて之を裏切つて居はすまいかといふ懸念である、海濱も北海道か樺太まで遠征するならば氣温が低いから直に首肯し得られるのであるが、鎌倉や須磨、明石では東京、大阪邊と氣温に大差があらうとも思はれないから、住居の方で涼を求めなければならないことになつて來る、然るに猫も杓子も押出して宿屋も民家も大入滿員を極め、空室の少い關係から、自宅よりも遙かに狹つ苦しい部屋に起居することを餘儀なくせられるのみならず、スグそばに他所の人々が居る關係上、自宅でならば猿股一つ、腰卷一枚で寢そべつて居る人までも、義理にも浴衣の一枚位は引つかけて居なければならないと云ふ始末である、自宅よりも狹い所に自宅以上に衣服を羽織つて他所行きの態度を取つて居ては假令都會よりは少し位風通しがよいとしても、果して何の避暑ぞやと云ひたくなつて來るではないか──その關係を十分承知して居ながら──中には苦い金の無理算段をしてまでも──その暑苦い「避暑」と稱する海水浴をしなければならないのは表面は兎に角、事實は衛生の爲ではなくつて近所や友人乃至親戚等への見えが少からず手傳つて居はしないか?

「お隣の××さんとこでも避暑したんですもの、うちでも行かなきや見つともないぢやありませんか!」

と云つたり、或は

「あの〇〇(同僚の名)でさへ、うち中、鎌倉へ出かけたから、乃公の所も明日から逗子へ出かけやう!行かずにくすぶつて居ちやア、氣が引けるからね!」

といふ樣なのが、存外、避暑の動機になつて居るのが多いことは無いであらうか?之が若し一度も避暑の出來ない私の邪推であるならば幸福である。

四、温泉陶醉氣分

夏の海水浴のそれの如く冬には温泉へ行くことが又中々盛んである、温泉!之も亦至極衛生上にいゝこと勿論である、底の知れない地中から、滾々と流れ出て盡くる時のない天然の靈泉に心行くばかり温められていろ〳〵の鑛物の溶液に依つて靜かに柔かに撫られて居るばかりか、出でゝは又山懷の清らかな自然の風光を恣まにして居れば幾十年來の痼疾も必ず輕快せずには居られない道理である、即ち温泉の流行は衛生思想の普及を象徴したものとして大に謳歌しなければならないのであるが……親く温泉地の此所彼所を見て見ると、必ずしもさういふ人ばかり居るに定まつて居ない樣である、温泉地、又はその附近には、申合せた樣に、藝者屋や料理屋の類はあるが、それ以外の娯樂機關はあまり見當らない樣である附近の名勝舊蹟を尋ねるにしても本來山間の谿谷の樣な所に多い、交通に不便勝ちな温泉地である上に、リヨーマチで運動の自由を缺いたり、慢性病で活動の出來にくい人々は、山川の跋渉を望むことは無理であらう、豫め心掛けて讀むべき書物や、書くべき原稿を攜へて行く人でない以上、長期間の退屈凌ぎに、どうしても藝者を招いで酒を飲むとになるのはもとより自然の數であらう、そんな關係から折角の結構な温泉の陶醉が酒色三昧に陷り酒池肉林の逍遙になつてしまつて、衛生とは正反對に、不攝生の限りを盡すことになるのは不思議千萬なことである、これに對して、現代人は果して何と答へるであらうか?、即ち

「酒池肉林の逍遙が出來るからこそ、温泉へ行くんぢやないか!野暮なことをいふな?」

とせゝら笑ふか或は又

「失敬なことをいふな!それは温泉へ行くべき金と時間とを持つて居ない處の、汝のひがみに過ぎないのだ!」

と叱り飛ばすか?、私は何卒、その後者であらんことを願つて止まないものである。

五、郊外住宅

煙筒の煤煙と、自動車の臭氣と、塵芥の土砂や、いろ〳〵の黴菌の類を交へた紅塵萬丈の渦卷となつて、そこで執務しなければならない都會人の健康を、むごたらしくも奪ひ去らうとして居る今日郊外の生活が喜ばれ、且つ理想とされるのは、もとより當然のことである、況んや、地價が安く、町内のつき合ひが少く、經濟的であつて、一擧兩得なるに於いてをやで、之には誰一人、異論のあるべき筈がない、けれども郊外の文化住宅といふものが、或は傾斜の急な赤瓦の屋根といふ、お定まりの外形に重きを置き過ぎて、採光や通風、乃至煖房裝置等の衛生的設備に至つては、あんまり考へない樣な氣味はないであらうか、無論良い家も澤山あるが、屋根さへ赤瓦ならば文化住宅で、どんなに日あたりが惡くつても苦にならない──否得意である人も、一人や二人は有りはしないかと氣づかうのである、それに郊外となれば、水道か瓦斯かのどつちかが、不便になり勝ちである、瓦斯の方は或はない方が反つて衛生上いゝ點があるかも知れないが、水道の方になると、井戸を掘る必要が起つて、水質の良否が問題である上に、飲用水の貯へ方等に、少からず衛生上考慮すべきことが起つて來る、或場所に依ては、之が爲にチブス等に罹る心配があるかも知れない、兎に角、郊外生活には不便が附き物で、瓦斯はあつても壓力が少かつたり、電氣は無論有るけれども往々停電をして見たりするのであるから、郊外生活といふ以上は十分郊外氣分の味はへる處、山林や田畑に近くつて、野趣横溢といふ空氣と日光とに惠まれた處を選ばなければその本旨に添はない譯である、然るに郊外生活を口にしながら、町はづれで未だ紅塵萬丈の域を離れないばかりか、道路の完備して居ないことや、撒水等不行屆きの爲めに、市内より以上に不潔な砂塵濛々と卷上る處で、草木の如きは一本も見へず大小の工場は近所まで建込んで居る處にお定まりの文化住宅を建、得意になつて居る人のあるは、不思議所か反つて氣の毒な樣な心持さへ起つて來るのである、これでは郊外生活の長所を一つも持つて居ないで、市内と異なる點は單に不便と不潔との二つのみではないか、執務するための通勤に時間がかゝつたり、郵便の速達がきかない位はかまはないが、砂ほこりや飲料水の惡いことが氣にならないのは寧ろ滑稽に思はれてならない郊外生活をする位ならば、多少の不便はもとより覺悟の上のことで餘計の時間を要しても、瓦斯があるから、通勤に十分や二十分位つてもなくても思ひ切て都市から遠ざかつた日光と空氣との天惠の豐富な地域を選ばなければならないであらう、途中の時間はそれだけ早く起きることに依つて補はれて、それが爲に一層健康になることも出來る、瓦斯のない位は石油コンロでも間に合はすに十分ではないか、而して水質の選定には少しく注意すれば、いくらでも良い所を見出し得るであらう、郊外生活ならば、思ひ切り離れた方が良い、生はんかの都市續き──町はづれ──の郊外ならば寧ろ、都市の中央に居る方が、遙かに衛生的で良からうと考へるものである屋根瓦は赤くなくつても、文化住宅といへるのではなからうか?若しさへすれば!赤瓦の屋根があつても、郊外に建つて居ても、内容や場所の選定が無方針であれば、文化住宅といふにふさはしくないものなのではなからうか?。

一層の努力と奮鬪を希望
◇……昭和四年を迎へて

伯爵 兒玉秀雄

思ひ出の深い滿洲を去つてから丁度一ケ年になる。自分が初めて滿洲に赴任したのは、恰も大震火災の

直後 であつた、随つて東海道線もまだメチヤ〳〵で、自分達が汽船で横濱を發つた時分など、京濱地方はまだ餘焔濛々として天に冲し、轟々たる爆發の響きは夜となく晝となく随所に起つて實に悽慘身に迫るの感があつた、此の時代に於て初めて滿洲に着任した自分達はその一たび大連埠頭に上陸するや「ア、斯くの如き平和境が現世に於て又と外に見得られやうか?」とは其

瞬間に 深く自分の腦裏に刻み込まれた第一印象であつた斯くて足掛け五年に亘る在官の期間を自分達は在滿の諸君並に支那官民諸君の深甚なる同情によつて最も愉快に經過して來た、随て其の去るに臨んでも、又となき晴れ〳〵した氣分を以て滿洲と袂を別つた譯であつて、爾來一年に垂々として居るけれども自分は今に尚その愉快なりし在滿の當時を偲ぶと常にその平和的印象を

感謝 居る次第である

過去一年間に於ける滿洲は比較的激甚なる變化を各方面に及ぼして居るとは云へ苟くも我國權の發揚に至つては毫厘も之れに動搖を來さないのは御同樣國家の爲め洵に慶賀に堪へざる處であつて、斯くは一面に於て我國策が儼として不變不動のものであると共に他面に於て在滿の諸君が滿洲に於ける事態を克く理解し其の進むべきは勇敢に進み、隱忍すべきは能く自重して以て共存共榮の

大精神 を遂行するに於て遺憾なき努力の結果に外ならない。想ふて茲に到れば自分は只管に在滿諸君の國家的精神の旺盛なるに深き敬意を表せざるを得ないのである。今や曠古の御盛儀たる御即位の大禮も滯りなく終つて茲に昭和四年の新天地を迎ふることゝなり我々八千萬國民は擧つて叡明なる聖天子を戴いて更に

新しい 時代を創せんとする此の希望に滿ち〳〵た時に方つて自分は我在滿の諸君が滿洲に於ける文化的開發と經濟的發展に直面して一層の努力と奮鬪とを惜まれざらんことを、國家の爲め遙かに衷心から希望して止まないのである。茲に昭和四年の新春に當り我滿洲日報から求めらるゝまゝに一言以て

年首の 所懷を陳ぶると共に滿洲及び滿洲に在住する諸君の將來を祝福せんとするものである。



石榴圖 大野斯文氏筆

支那キネマ界の銀幕明星

上海にて 品花生

一昨年だつたか、大連で邦人に支那映畫紹介の意味で支那映畫鑑賞會が中日文化協會によつて催されたはずである。大連に居ない筆者はそれに

◇…參會 する由もなかつたが、あの會で支那映畫をはじめて見た人たちは恐らく日本のそれにも増して支那映畫のまだ〳〵幼稚極まるものである──ことを感得されたであらう。あのとき紹介された映畫は「紅玫」だつたかと思ふが「紅玫瑰」なり支那映畫中にあつても別段とりたてゝ言ふほどの作ではないが、しかし傑作と言はれるのだつてまだ大したものではない。支那のキネマはまだ〳〵幼稚なものではあるが、しかし幼稚ながら現狀まで漕ぎつけて來た過去に於ける

◇…努力 と進歩、および將來に於ける好望までをもそれによつて否定すべきでないと思ふ。キネマ好きと言ふだけでその道には全く門外漢の筆者は、もとよりキネマ論をやる分際ではないが、支那映畫を見るとき映畫の幼稚なのに比して女優だけは過ぎものだと思はれる程優れてゐるように思ふことである。支那キネマ界の

◇…將來 は「男明星」によつてではなく「女明星」によつて開かれるように見受けられる。支那キネマ界の「女明星」の目ぼしいところを紹介してみたい。



楊耐梅 支那キネマ界の最初の明星で今日なほ第一人者を以て自他ともに許してゐる。小説「玉梨魂」を脚色した映畫で筠倩に扮して出演したのが人氣を博したはじまりでその後、パテー會社の「採花女」に出演し、明星プロダクションでは「誘婚」「好哥々」「新人的家庭」「空谷蘭」に主役を演じ、最近ではモダンガール余美顔の事跡を脚色した「奇女子」に出演して人氣を呼んでゐる。聲樂、ダンスにも長じて舞臺にも立つことがある。

王漢倫 當今聲望並びなき明星で、王漢倫の出現によつてさしもの驕兒楊耐梅も押され氣味で現在天一プロダクションに所屬してゐるが、月給三百弗、支那「女明星」中の最高給料とりとある「棄婦」「摘星之女」「春閨夢裡人」「好寡婦」等が有名である





張織雲 支那のリ、アンギツシユである。悲劇に巧みで、又天眞にして人をして可憐を覺えしめる。「空谷蘭」「梅花落」「玉潔冰清」等近年來の代表的作品を作つてゐる。

黎明暉 新文學家黎錦暉氏の愛女である。「葡萄仙子」「可憐的秋香」等支那最初の歌劇を演じたのみならず、斷髪の先驅者でもある。キネマ界に入つてからは「戰功」「小廠主」等によつて謳はれ、最近では「透明的上海」が有名である。

丁子明 内氣な讀書好きなこの社會には珍らしい明星だそうな。「愛情與黃金」が傑作である。



李旦旦 辛亥革命の起る少し前、廣東將軍鳳山を爆殺した李應生君の娘である。父に從つて永く歐洲に遊び歸國後父應生君が黎民偉君とゝもに民新プロダクションを始めるに及んで民偉君の細君林楚々とゝもに出演するに至つた。「玉潔冰清」が處女出演である。



韓雲珍 ロマンテイクな表演に於て第一人者とされてゐる。「透明的上海」「上海三女子」「風流少奶々」等でフアンをよろこばしてゐる。



林楚々 民新プロダクション監理黎民偉君の細君である。アメリカ生れ、アメリカ育ちで夫君が民新の經營を始めるとゝもにカメラの前に立つようになつた。「和平之神」「三年以後」等に出演し端重大方を以て珍重がられてゐる。

毛劍佩 支那劇の老生として有名な毛韻珂の娘である。親の阻止を肯かず一昨年はじめてキネマ界に投じたが親ゆづりか藝がうまい。最近「金穣恨」を主演した。

黃柳霜 これはハリウツドで働いてゐるが、支那人は「黃明星」を海の彼方アメリカに有することを大に得意がつてゐるので附錄に……



蔣耐芳 まだ少女であるが商務印書館の國光プロダクションの「歌場奇緣」の主役を演じて人氣を博した。

胡蝶 舊劇物に秀でゝゐる「白蛇傳」「孟姜女」「西遊記」等が評判である。

田家朝 鈴南 森幾太郎

山廓田村箇々松、朝暾一拂著新容、太平恩澤冬藏滿、處々炊烟淑氣濃

御題恭賦「田家朝」 吉川鐵華

隔水橋邊四五家、炊煙上處見晨霞、風前識得寒香近、門外紅梅欲發花

老虎灘新年卽事 前人

松籟濤聲洗俗塵、海天東望曙光新、休言邊塞猶氷雪、日麗風和迎上春

賀正

本溪湖

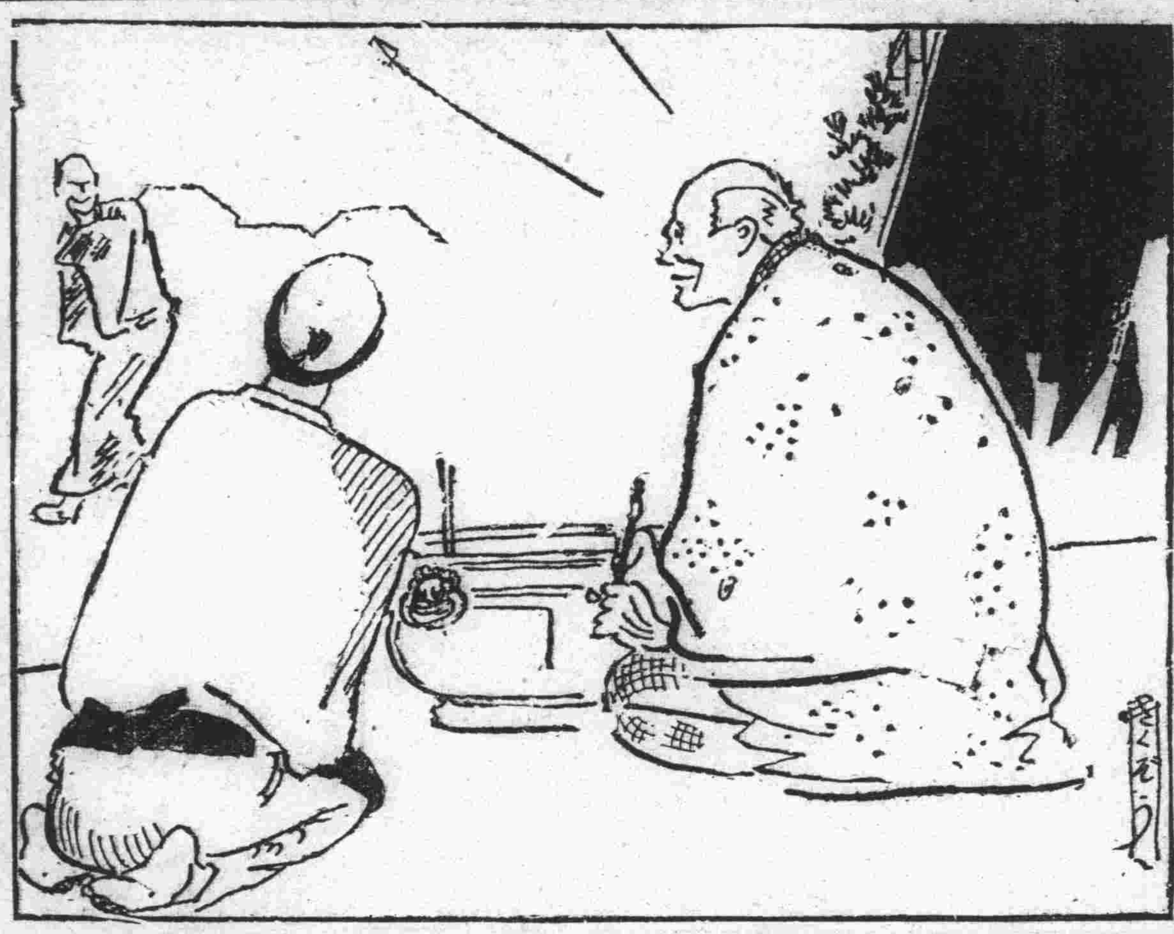
本溪湖煤鐵有限公司

山[illegible]金吾
羽[illegible]喜郎
飯島宗平
梶山又吉
日高長次郎
市毛正敬
須田德市
中山通治
野尻 虎
吉村藤吉

落語 七福神

三遊亭圓生

初春の事でございますから、七福神、寳船といふ御目出度いお噺を申上げます、物事を能く氣にして縁起を祝ふなどといふ方がございますが、總て世の中は、目出度い事があるから、目出度ないこともあるし、悲しい事があるから嬉しい事もあるのですから、悟つてしまへば何でもないもので、けれども何方が宜いかといへば、誰しも目出度い方を好むのが人情でございますが、最も甚だしい人があります、之れを俗にかつぎやと申します、お古いお噺に、僧侶さんが帳面を誂へたといふのがございます。僧「帳面を一つ誂らへて下さい」帳面屋「ヘイ〱、どういふのが宜しうございますか」僧「成だけ厚い方が宜しいやうですな、序に上書を一つ願ひ度い」帳「畏まりました、何と書きます」僧「死人大入帳と書いて下さい」帳「ヘエ成程、お寺樣だけに死人大入帳、畏まりました」帳面屋の主人が筆太に「死人大入帳」と書いた、物見高い所だから、多勢表に立つて見物をして居る中に一人「オー見や、此の帳面屋は旨えな、どうだい旨く書いたぢやアねえか、まるで字が活きて駈け出しさうだ」僧「帳面屋さん私は此の帳面を見合はせますよ」帳「ヘエ、どういふ譯でございますか、外の物と違ひまして死人大入帳などゝいふものは、他へ向け口がございませんが」僧「イヤ今御見物の中に活きて居るやうだ、駈け出しさうだといつた人があります、死人に駈け出されては私の方の營業にならんから、それで見合せる」帳「モシ〱貴所方、褒めて下さるのは宜しうございますが、此の帳面をお見合せになるといふので、私の方で損をしなければなりません、困りましたな」○「何をツ、んぢやアねえか、オウ僧侶さん、死人が生きて駈け出しちやア營業にならねえから、帳面を見合せるつて、何をいつてやがるんだ、マゴ〱しやがると叩き殺すぞ」出家が之を聞いて僧「アツ、それで氣が直りましたから買ひませう」爰に伊勢屋五兵衛さんといふ呉服屋がございます。これが頗るかつぎやで、ごへえかつぎといふのは是から始まつたのださうで、或年お正月のこと、番頭さん始め店の者がズーツと列んで「先づ明けまして御目出度う存じます」と銘々新年の御祝儀を申述べる 五「イヤ、御目出度う一陽來復、初春となると誠に快い心地のものだね」番頭「左樣でございます」五「時に權助や」權「ヒヤア」五「若水を汲んだか」權「ヒヤア、若水てえますと……」五「判らない男だな手桶に注連が張つてある、それを持つて行つて初の水を汲むのだ」權「そりやア汲んだでがす」五「ナニ」權「そりやア汲んだでがす」五「只汲んだぢやアいけませんよ、その橙を持つて行つて、井戸の神樣へ納めながら、新玉の年立ちかへる旦より、若やぎ水を汲みそめにけり、と唱へて水を汲んで來なさい」權「ヒエ、何だか是れは譯の分んねえこな、家の旦那どんは物を氣にする性分だから、判んねえことばかりいつてるだ……さて井戸の神樣へいふ事を忘れたぞ、何だつけな、エート、何の玉だつたつけな、屁の玉ぢやアねえ、……ア、さうだ眼の球のでんぐりけえるあしたより、末期の水を汲みそめにけりか、ヘ、ツ宜んべえ、橙がフワ〱して土左衛門のやうだ……旦那汲んで參りました」五「ア、汲んで來たか、今私がいつた唱え方をしたかい」權「ヘエ、やりました」五「忘れやアしなからうな」權「忘れませんとも」五「モウ一遍此處でやつて見なさい」權「幾度やつても同じこんだ」五「さうでないよ、私が氣になるから云つて見ろと云ふんだ」權「そんだらやるベエかなエート、眼の球のでんぐりけえるあしたより、末期の水を汲みそめにけり、とやりやした、それでわざツとおひとだまですかと、井戸の中へ橙を打ち込んだら、土左衛門みたやうにフワ〱浮いて居やした、でえ〱土左衛門がね」五「ナゼ、然んな縁起の惡いことをいふんだ、厭だな此の人は、何かいふたんびに私に逆らうやうなことばかり云つてる、お前のやうな人はモウ家へ置きませんから、出て行きなさい」權「初春早々人を滅らすといふなア縁起が良くねえ、來月の五日まで待つて貰ひてえもんだ」五「何だい來月の五日とは、嚴しく日を切るぢやアないか」權「來月の五日になると恰度三十五日になるでがすから、滿更縁のねえこともねえだ」五「下らないことばかり言ひなさんな、呆れ返つた男だ」番「オイ〱、權助や、旦那樣に逆らつちやアいけません、兎に角、お雜煮を祝ひませう」五「それが宜い」是から揃つてお屠蘇を祝ひ、御雜煮を食べ始めました 番「モシ、旦那樣」五「何だい」番「不思議なことがございます、私の戴きましたお餅の中から、金が出ましてございます」五「オヤオヤ、それは〱」番「これで、私がお祝ひ申ます」五「何をいふんだえ」番「餅の中から金が出ましたから、代々金持になるといふのは、如何でございます」五「成程、おぢさんのいふことは嬉しいね、餅の中から金が出たから、代々金持ちになるとは面白い、ア、快い心持ちになつた、これでスツカリ氣になつたことも直りました」權「胡麻搗番頭め、餅の中から金が出て代々金持ちになるとは、旨く瞞着しやアがつたな、俺の考へなら、金の中から餅が出たから金もちだらうが、餅の中から金が出たのだから、身上をもつかねる、とは何うだね」五「又、初めやがつた、縁起の惡い奴だ、彼方へ行つてな」權助さんとう〱おひ擲はれて終つた。定吉がせきとりでございます 五「何だいせきとりとは」定「石屋の取兵衛さんでせきとり」五「馬鹿〱しいことを言ひなさんな、縁起が惡い、初春早々嫌なことは番頭さん代つてお叱り」番「ヘエ畏まりました、定吉や誠に良くないよ、サア〱私が代りに申上ます……エ、申上ます」五「ハイ〱」番「鶴屋龜五郎さん」五「縁起が良いな、鶴屋龜五郎さん」番「次は松屋竹次郎さん」五「成る程是で縁起が直りました」松屋竹次郎さんと、ハイ〱それから後が梅屋さんでございます 五「宜いな是で松竹梅揃つたマア此の位で留めて置かう……、アツ妙な奴が來たよ、向ふを見なさい、私の友達だが早桶屋の四郎兵衛は、あの位いやな奴はない、私が此間遇つたから福の神何處へ行くと聞いたら、お前の處から出て行くと云ひやがつた、其後又遇つたから、貧乏神何處へ行くんだと云つたら、お前の處へ是から行くんだと云ひやがつた、眞正にアンナ人の氣に逆らふ奴はありやアしない、初春早々あんな奴に來られて、又厭なことを云はれて心持を惡くするのは厭だから、私は隱れて居て遇はないから、番頭どん何とか云つて歸してお呉れ」四「ウーイ、ア、快い心地だ、イヤ是は番頭さん」番「入らつしやい、相變らず面白いことを仰しやる」四「だんなはどうしましたえ」番「だんなは恐れ入りました只今居りません」四「エ、だんなが居ない、おかくれになつたかい」番「冗談云つちやいけません」四「今此處に坐つて居たやうだつたが、姿が見えて居ない處を見ると、是は離魂病かな」番「恐れ入りましたな離魂病は」五「番頭どん、私は出ますよ……オアオア、誰かと思つたら四郎兵衛さん」四「オヤツ居たね、先づ御目出度う」五「御目出度う存じます」四「併し一體和尚の御しやる通り、門松は冥途の旅の一里塚、目出度くもあり目出度くもなし、マア目出度いとは口にいふが、考へて見れば追々壽命が縮まつて行くのだね」五「相變らず厭な事を言ひなさる、今日は何方へ」四「惠方詣りに行きました」五「惠方詣りは結構だ、お多福辨天へでもお出掛けかな」四「どうしまして私は今日、無縁坂の方から因果寺へお詣りをして、此方へ人魂のやうに、フワリ〱と飛んで來ました」五「厭なことばかりいふね、併しお前さんと私とは竹馬の友だ」四「左樣〱、お互に斯うして一年でも長命をすると、古い友達が淋しくなる、友達も大分なくなつて了つてね、私ゃ商賣が商賣だから、今度私にお前の寸法を取らせないか、暇の時に念を入れて早桶を一つ造らへ、お前さんに進品代りに上げやう」五「どうしまして、そんなものは要りません、鶴龜〱、初春早々そんな事を云つて下さるな、どうぞ縁起直しに屠蘇でも祝つて歸つて下さい」四「ナニ屠蘇なぞは宜いよ、今私は好い心地になつてるんだから……それぢやお前が氣にするから、縁起を直して祝つて歸らう」五「それは有難い、どうぞ縁起を直して下さい」四「ジヤランボローン、カーン、チリーンと來るだらう、そーれつら〱惟んみるにだ—」五「驚いたね、初春早々引導を渡されては困るよ」四「アヘ……、アー、好い心持になつた、エーツ、ブーツ、それでは、又近々、冥途でお目に懸りませう、ハイ、左樣なら……」五「何だいアノ人は、人の氣に逆らふことばかり云つて喜んでゐる」番「あゝいふ人が能くあるものでございます、嘸お心持がお惡いでございませう」五「ア、厭な心持ちになつた、オ、丁度船屋が來た、寳船でも買つて、縁起を直しませう、早く船屋を呼んでお呉れ」番「オイ〱船屋さん〱」船「へエ」番「船を一枚おくれ」船「へエ」五「一枚幾らだね」船「四文でございます」五「十枚は」船「四十文でございます」五「百枚は」船「四百でございます」五「何處までも四の字に縁が切れませんね、止しませう」船「ナニツ」五「止しませう、しぬ、しくじる、しじうしそんじるなぞと云つて、しの字は誠に縁起の惡いものだから止めます」船「旦那、ぢやアお前さんはひやかしかえ」五「イヤひやかしといふ譯ではないが、お前の言ひ草が氣に入らないから買はないといふのだ」船「馬鹿にするな、篦棒め、去年といふ年は、惡いことばかり續きやがつて、嬶には死なれ、子供は麻疹の上りに拖擒、縁起直しに友達が寳船でも賣つたら宜からうといふから、その氣になつて賣りに出た、今日明けだといふのに、ケチを附けられちやア、今年も碌なことはねえや、覺てやがれ、近々に來て汝えの所の廂で首を縊るからさう思つてろ」五「ア、厭なことをいふ、鶴龜〱」番頭さんが幾らか持たして船屋を歸して終ふ 五「縁起直しに好い船を買つて、初夢でも見たいものだ」と主人はブツ〱云つて居ります、番頭さんが氣が利いて居るから、ソツと家を拔け出して四角で待つてゐる處へ、威勢の好い船屋が 船「寳船〱、お寳お寳〱」番「船屋さん」船「へエ」番「此の先に伊勢屋といふ呉服屋があるがね、誠に旦那が物を氣にする性分だが船は一枚幾らだえ」船「四文でございます」番「四文ぢやアいけない、よもんと云つてお呉れ」船「畏まりました、お氣になさる旦那樣なら、すべてお目出度づくめに致しませう」番「さうかい、ぢやア何分頼みます」番頭がスツカリ船屋へ吹き込んで、自分はさきに店へ歸つて居ると、船「お寳〱、サア大當り〱、大當りのお寳〱、縁起の好い寳船でござい」五「オヤ大層威勢の好い船屋が來ました、船を買ひませう、呼んで下さい」番「畏まりました」オイ船屋さん〱 船「ヘイ〱」五「船を買ひたい、一枚幾らだえ」船「一枚よもんでございます」五「よもんは嬉しいね、どの位あるな」船「ヘエ、旦那樣のお年の數ほどございます」五「有難いな、私の歳を人に買はれて終ふのは縁起が惡いから、殘らず買ひませう」船「有難う存じます、大寳でございます」五「ナニ大寳、益々氣に入つた、好い心持ちだ、此方へお入り」船「有難う存じます、愈々寳船の賣込みでございます」五「成程、一々いふ事が嬉しいね、餘り縁起が好いから船屋さん、お前に一口屠蘇を上げやう」船「へエどうも有難う存じます」五「お前さんは何かい、お住ゐは何方だね」船「ヘエ、私の住つて居ります所は、日本橋の金吹町」五「縁起が宜いな、此の次にお訪ね申すよ」船「イエそれから越しました」五「オヤ〱何方へお越しだ」船「淺草の壽町へ」五「成程、壽といふ字は壽命の壽の字で縁起が宜いな、ぢやア今度觀音樣へでも參詣に行つた時にお訪ね申すよ」船「それから都合で又越しました」五「大層越て歩きなさるな、何方へ」船「本所の千歳町へ越しました」五「千歳町へ、千歳の松など云つて、是れも縁起が宜いな、本所の千歳町と云へば大して遠くもなし、その内にお訪ね申すよ」船「夫れから又都合で越しました」五「能く越して歩きなさるな、何處へ越しなすつた」船「淺草の福井町で」五「成程福は誠に縁起が宜いものだ、その内にお訪ね申さう、誠に威勢の宜い船屋さんだから、一口上げたいと思ふが此方へ昇つて御飯でも」船「旦那有難う存じます、私はもう殘らず寳をお宅に置いて參るのでございますから、緩くりと頂戴致します」五「寳を殘らず置いて行くなどは嬉しかつたね、サア〱一杯やつて下さい、大分いけさうだね」船「ヘエ、モウいけるどころぢやアございません、正覺坊で、幾らでも頂戴致します」五「正覺坊は宜いね、オイ〱辛い方を持つておいでよ……サア〱遠慮なくやつて下さい」船「どうも御馳走樣で有難う存じます……旦那これはどうも豪儀ですな、結構なお重詰めで、牛蒡さん、乾鯡に御成人といふのは如何で」五「成程、洒落が宜いな、牛蒡さん、乾鯡に御成人は嬉しいね」船「數の子などは數々目出度い」五「成程、宜いね、サア〱ゆつくりやつてお呉れ」船「千瓢さんは三十に……オツと危ねえ、イエナニ、益々御目出度うございます」五「イヤ誠に好い心持ちや、サア〱遠慮なくやつてお呉れよ」船「有難う存じます、お目出度うございます、何でございますか、今一寸後處へ奥からお顔をお出しになりましたのは御當家のお孃樣でございますか」五「ア、私の娘だよ」船「お美しい方ですな、まるでどうも辨天樣のやうでげすな」五「有難いね、娘を辨天とは嬉しいぢやアないか、オイ〱、紙入れを出してお呉れ……是は纔の辨天賞だよ」船「どうも有難う存じます、恐れ入ります、貴方のにこやかた所はどうしても惠比須樣のやうでございますな」五「惠比須は有難いね、商人が惠比須に似て居れば、こんな結構な事はない」船「それで御當家は七福神でございます」五「エ、、船屋さん、一寸御待ちよ、娘が辨天、私が惠比須、それぢやア二福ではないか」船「イエお商賣が呉服（五福）屋さんでございます。」——（終）



賀正

營口

（順序不同）

- 牛莊領事 荒川充雄
- 營口地方事務所長 永尾龍三
- 營口水道電氣會社長 商業會議所會頭 加賀種二
- 正金銀行支店長 伊原平之助
- 朝鮮銀行支店長 大串盛多
- 三井物產會社支店長 廣岡郁次郎
- 振興銀行專務 石田禮助
- 東亞煙草製造所長 商業會議所副會頭 有福和一
- 商業會議所書記長 吉田文作
- 輸入組合理事 佐々木正章
- 地方事務所外事係 川島梅吉
- 國際運輸營口支店長 上田正喜
- 海運會社專務 奧村秀次
- 古川醫院主 古川米吉
- 東和公司 三島輝善
- 在鄉軍人分會長 池田桑作
- 營口郵便局長 田瀨一太郎
- 營口電話局長 山本太三郎
- 營口商業學校長 營口實業補習所長 二田村源次
- 營口小學校長 神山一二三
- 東亞煙草營口製造所（イロハ順） 片岡慶二 竹本德身 塚本理作 上田新次郎 菊野五七 鈴木重男
- 營口印刷株式會社
- 煙草製造販賣 株式會社 中和公司 電話四五四五番

- 營口 水道電氣株式會社
- 材木商 平岡組
- 和洋雜貨 營口 平本洋行 電話長二九番
- 營口 乃美呉服店 電話四五番
- 營口新市街 元田齒科醫院
- 營口 運送業組合
- 營口 東瀛大藥房
- 營口石炭商組合
- 營口 回天堂大藥房
- 天泰公司 井上愼吾 電話七七番
- 營口海運合資會社
- 丸美屋洋服店 電話一一七五番
- 營口 盛興號支店
- 土木建築請負 諸金物商 山住洋行 電話三七番
- 御菓子司 長崎カステラ 營口 榮德軒 電話八八八番
- 貴金屬 時計商 營口 近江洋行本店 電話長二〇七番
- 食料雜貨 三井商店 電話一七番

- 食料品雜貨 岩田商店
- 食料雜貨 營口 羽村洋行 電話七番
- 印刷業 尾崎洋行 電話二三四番
- 文房具及印刷業 大鹽洋行 電話二八番
- 營口 辻呉服店 電話一〇四番
- 世帶道具 和洋雜貨 熊谷商店 電話一三〇番
- 御菓子 山内堂
- 兩替 藥種 丸目洋行
- 高等百貨 重田屋商店 電話一六番
- 御旅館 清林館
- 御料理 仕出し 瓊の家 電話七二番
- 營口簡易食堂 御料理仕出し 城山勝次郎 電話九〇七番
- 營口料理屋組合 武藏野 松月 芙蓉樓 濱の家 品川館 大福樓

賀正

鐵嶺

磯谷新吉

岩永唯一

萩尾開造

橋本勝藏

馬場音次

德本延藏

大内佐藏

松崎義造

辻五郎

根上藤五郎

田中鶴太郎

永田平介

宗石昂

權太親吉　假寓 相州鎌倉[illegible]寺内

喪中ニ付年賀缺禮仕候　小林朔造

青柳亮

紀藤義也

下山恭次郎

白髮隆孫

藻寄準次郎

領事 近藤信一
書記生 土屋波平
書記生 木村朔一

鐵嶺尋常高等小學校職員一同

鐵嶺滿鐵醫院 醫學博士 小野健治
植島秀人
成瀨俊夫
大西三郎
脇獻七郎
脇政助
松岡市兵衛

鐵嶺在郷軍人分會長 赤堀眞一郎
鐵嶺青英學校長 大西菊治
居留民會議員 久米谷忠太
滿鐵圖書館長 東海林太郎
滿洲日報支局長 本多正

お正月の御寫眞は　永清寫眞館　松島町 電話四四番

最新流行の魁　中瀨呉服店　松島町 電話一四〇番

和洋食料品 雜貨　藝陽商行　松島町 電話二八七番

陸軍御用達　安宅菓子店　附屬地 電話三〇七番

和洋食料品 雜貨　力武商店　松島町 電話一四七番

流行新柄陳列　山本呉服店　電話二〇六番

技術優秀　八千代寫眞館　松島町

鐵嶺城内 綿糸布 貿易商　永泰洋行　電話七八番

鐵嶺特産物組合　事務所 鐵嶺商業會議所内
組合員(いろは順)
松島町 橋本洋行 電話八六番
北五條通 細川商店 電話六二番
北五條通 德成泰 電話二〇五番
北三條通 大矢組株式會社 電話一一三番
北五條通 大成號 電話一七九番
花園町 河村商店 電話一三三番
北五條通 柿本商店 電話二五九番
北五條通 泰合油房
敷島町 能地商店 電話一五二番
元町 深尾洋行鐵嶺支店 電話二五三番
北五條通 弘泰洋行 電話一三四番
元町 權太商店 電話二七番
北五條通 澤井洋行 電話一三三番
北五條通 昌和洋行 電話二〇五番
朝日町 聚興洋行 電話一七八番
柳町 末吉洋行 電話二四五番

鐵嶺城裡 株式會社 日華銀行　電話 日長八八番 八〇番 中二五五番

本店鐵嶺 大矢組株式會社　支店 大連、旅順、奉天、海城、遼陽、公主嶺

鐵嶺電燈局

本田株式店　電話六五番

食道樂 若竹　鐵嶺驛前 電話一二四番

滿鐵御用達 小野洗布所　電話一七二番

和洋品雜貨 鹽田洋行　電話五八番

鐵嶺驛前 鯉淵洋服店　電話三〇一番

合資會社 千葉印刷所　電話一一二番

櫻町 旭屋洋服店　電話二五五番

松島町 共進商會　電話五番

藝妓 富樫よしの　電話四三番

御料理 叶家　電話一五七番

文房具店 大和屋　電話一四四番

和洋御料理 カナリヤ　櫻町 電話一五九番

石炭商 旭號 小山仙治　電話一〇二番

井上洋行 特産物商 中野嘉一　新臺子附屬地 電話(臺)二九番

河村商店 特産物商 藪下賴二　新臺子吉野町 電話(臺)一五番 電略(カ)又ハ(カワ)

陸軍御用達 吉見洋行　電話六八番
農場部

石炭組合
怡信洋行 電話四八番
怡泰號 電話一六二番
三盛商會 電話一三八番

鐵嶺驛前 國際運輸株式會社支店　電話五二番

滿鐵 陸軍 指定御旅館 松花ホテル　電話一一〇番
松花御料理部

松島町 松尾齒科醫院 松尾澄一

鐵嶺公會堂前 松田興行部　電話一五九番

滿洲日報販賣店　附屬地松島町 電話一四四番　居留地 電話一八六番

御料理 日東館　敷島町 電話一九二番

食道樂 あさひ　電話八二番

御料理 萬安樓　電話四九番

石黒茂

御料理 幸樓　北五條通 電話四〇番

御料理 由良之助　電話一五六番

御料理 鐵嶺ホテル　電話二九番

賀正

鞍山

鞍山製鐵所
千秋寛
久留島秀三郎
梅根常三郎
矢野耕治

鞍山笑和會 (順序不同)
林清勝
久留島秀三郎
岡田與作
志村重二
間野山松
太田實
堀礒右衛門
税所壯吉
田中稔
植田繁三
矢澤邦彦
日向新
青木唉吉
武田政次
加藤政人

喪中に付年賀缺禮
久下沼英

財團法人 滿洲土木建築業協會鞍山支部 電話四番

南滿洲電氣株式會社 鞍山支店 電話五・五三番

滿洲興業株式會社 電話五五・四二二番

鞍山不動產信託株式會社 電話六六・二〇一番

株式會社 正隆銀行鞍山支店 電話一三四番
株式會社 滿洲銀行鞍山支店 電話六七番

吉川組出張所 電話二三九番

鞍山輸入組合 電話六一番
理事 阪元藤三郎

やまき呉服店 電話二三六番

大惠商店 電話一二六番

○國洋行 電話二二三番

片岡鐵工所 電話一〇八番

大盛堂書店 電話二四〇番

永井自轉車商會 電話四三八番

小原洋行 電話三〇九番

鞍山石炭共同販賣所 電話四七番

近江屋ホテル 電話三二八番

德昌公司 電話一七・一五二番

演藝館 電話二七〇番

金城商會 電話二九番

叶井商會 電話六五番

消費組合主事 町田烈

區長 盛佐太郎

區長 崎山英武

區長 片岡對吉

區長 門井甕

地方委員副議長 石川義助

太平號

地方委員 加藤弼

住吉長平

立山驛長 桐ケ谷德之助

病氣中に付年賀缺禮 末宗繁市

原洋品店 電話二五六番

協信洋行 電話一四九番

渥美病院 電話四一二番

石川病院 電話七三番

三好號 電話一一七番

田邊齒科醫院 電話二〇七番

丸河商店

日ノ出商會 高橋雄造

和洋御料理 月夜 電話一五二番

濱田樂器店 電話一三六番

近江洋行茶店 電話二七八番

那古屋洋行 電話三六七番

野田洋品店 電話三五七番

鞍山タクシー 双輪舍 電話三三八番

滿洲購買組合 電話五四番

美志滿屋吳服店 電話七八番

高橋勳一

大福商店

菊水堂 電話一一九番

北本靴店 電話三〇六番

御料理 橘家 電話一二五・三五五番

御料理 一樂 電話一二七・一七五番

喪中缺禮 開福 電話三〇番

日本人豆腐商 岩見屋 電話四四七番

食道樂 末廣 電話七二番

扇屋旅館 電話一四〇番

志甫他吉

木澤一心堂 電話四〇一番

金城洋服店 電話三三五番

平井德次 電話四五七番

御料理 明月

割烹店 銀蝶 電話一二一番

支那料理 ○木 電話三四一番

食道樂 三河屋 電話三〇三番

食道樂 鹿兒島屋 電話三四九番

鞍山葬儀合 電話一三番

雨蓮舍 電話一三四番

肉より靈へ

山田武吉

明治の王政維新前後における時代の動きは、尊王攘夷が轉じて開國進取となり、その維新開國後となるや、攘夷が尊夷となり、そして一時は甚だしい歐洲崇拜時代を現じた。伊藤博文公が鹿鳴館でダンスを開催した折がその絶頂時であると言はれ、珠算を捨てゝしまへの、漢學を廢止しろの、と云はれたのも此時である。今日はそれ程でもないがその惰勢は現時に至るもなほ保たれてゐる。

◇

歐洲大戰後における世界的形勢の變化は、歐洲崇拜熱を減殺したが、その代りにアメリカ崇拜熱を昂上せしめた。一時は四十度以上といふ素晴らしい熱度を見せた。モボ、モガはその產物で、それがハイカラの代表的なものとなり、大正時代前後に流行したカイゼル髭は、鼻の下に有るか無しかのチヤプリン髭と代り、ロイド眼鏡が大流行といふ狀態である。之をアメリカニズムと言ふさうだ。ロシアがマルキシズムに依りて革命されると、マルクスの資本論が模倣追隨是れ事とするハイカラ的新人の憧憬の的となり、その譯書とそれに關係ある書籍とが出版界を賑はしたが、これも流行を追ふ一ツの態であつた。

◇

マルクスの科學的社會主義が青年間に持囃されるのは、由つて來るところありで、固より單なる流行と見るべきものでは無いが、やはり一種の流行熱であつたのは爭へない。斯くして昭和の現代は年を重ぬること四年となつてもアメリカニズムとマルキシズムとが依然繁昌ぶりを示して居るが、併しこの間にも多少反省の氣味がないでもない。日本主義が叫ばれ、日本固有の國體、民性、歷史についての議論が旺盛となつたのは、その一兆であると言へやう。國粹主義者の多くは時代の推移と人心の歸嚮を知らず、その結果、近代人の心を攫り得ないが、今や外國崇拜と鸚語猴冠の非なることは漸く一般的に認められ來り、天の一角に微茫として曙光の輝くが如き心地する。この機會において、吾々日本人は物質と機械とより成る現代文明より解脫し、以て更生一番すべきであらうと思ふ。」

◇

思想を生命として創造發展するのがクルツール、物質と機械が主となつて人間が從となるのがシヴリゼーシヨン、といふ風に自分は解釋してゐるが、現代の文明なるものはその役者であらねばならぬ。時代の動きは波の如く起伏するもので、之を外國の例に徴すれば、ギリシアのクルツール時代からローマのシヴリゼーシヨンに移り、中世紀に至つてまたクルツールの元に還り、近代に入つて更にシヴリゼーシヨンとなつた、と言へるだらう。今日の謂ゆる文化生活なるものは、物質生活の別名詞で、人間生活の機械化、肉慾的享樂生活、生活の非人格化に外ならぬ。斯うした生活が一般に行はれる樣になつたのは、物質と機械とが主力となつてゐる現代のシヴリゼーシヨンの強い力のためで、多くの者はその支配を受けてゐるのである。

◇

時が滅びた、哲學が亡びた、宗教もまた滅びた、有るものはその形骸で、靈なき屍である。それが現代の世相で、大義と士道を尚び來つた日本までが斯うした世相になつたのは、前に述べた通り、攘夷が尊夷となり、歐洲崇拜よりアメリカ崇拜に移り行き、モガやモボが持囃され、味噌も糞も一緒くたに取入れて模倣追隨と鸚語猴冠をこれ事としたからである。採長補短の必要は勿論で、我國は上古皇朝時代よりそれに依つて國運民命を日に日に新にまた日に新にして來たのであるから、歐米文明の長所たる科學の粹は今後もこれを受入れねばならないが、科學を基礎とする物質と機械のシヴリゼーシヨンに餘りに陶醉した結果、大義と士道を忘れ、生命の中心たる人格を忘れ、政治、經濟、社會その他の事が道德と一致しない樣になつたのである。眞善美の本體たる靈の創造的衝動より成るところの時が滅び、哲學が亡び、宗教が滅びたのは偶然でない。」

◇

人間は勿論、他の生物も、靈肉相待つて生きて居るのであるが、現代人の多くは肉の生活に重きを措き過ぎてゐる樣に思はれる。人はパンのみにて活きずと言つたキリストの言は、これを裏返して、人は靈のみにて生きずといふことになるも、現代の人々の多くは、肉的生活即全生活といふ謬見を抱いてゐる樣に見える。肉の糧に飢えた者に向ひ、その飢えつゝある肉の糧を與えないで、單に靈の糧を與えんとするの謬戾なるは勿論なれど、肉的飢餓者のみを生活難者と稱し、靈的饑餓者を生活難者とも何とも言はずに見逃がして居るのは、變なもので、これもシヴリゼーシヨンの强烈な時代力に支配されてゐる結果であると觀るべきであらう。

◇

肉の生活に甚だしく饑えたものは、非凡人でない限り、その心を邪路にするので、肉の糧が先決問題となり、孟子をして「恒產なき者は恒心なし恒產なくして恒心あるは唯士のみ之を能くす」と言はしむるに至つたのである。千代萩の鶴千代君が「お腹が減つても饑じうない」と言つたのは、士のみ能くするところの武士の意地を言ひ表はしたもので、「武士は喰はねど高楊子」もまた同樣の意味のものであるが、肉的生活のいやが上にも苦しくなつて來た當今、生活の保障を得てゐた武士階級の滅びた今日、斯うした意地張や瘦我慢を一般人に望むの無理な事は言ふまでもない事だ。併しながら現代人の多數は餘りに肉の生活に執着し過ぎると共に靈の生活に無頓着である樣に考へられる。肉の糧に飢えた者は餓鬼の如くに狂ひ廻り、肉の糧に飽いた者もまたその心を放肆邪肆にし、ブルジヨアジーも、プロレタリアートも、相率ゐて孰れも邪道に墮してゐると觀ることが出來るだらう。」

◇

行詰まつた、何事も行詰まつた、と云ふ嘆聲が聞える樣になつたのは、右の如き生活の行詰まりを意味するものと解するを得べく、同時に、それはまた時代の行詰まりを意味するものと解して可からう。斯くして歐洲にもゴツトに還れ自然に還れといふ聲が起り、我國も今や漸く歐米崇拜の迷夢より醒めやうとして居るのであるが、それには靈ある人間を物質と機械の下積みにした科學文明より抜け出させ、回首一番、上下の人心をして我國固有の大義と士道に向けしめねばならぬ。世界切つての物質文明國といはるゝアメリカにも猶ほ當初の純眞なるピユリタンの精神は殘つて居り、印度その他の植民地に出稼ぎした人格喪失者たるスコアートルは兎に角、イギリスにも彼のゼントルマンの氣質が尚ほ失はれずに居るのであるから、士道の國たる日本、「天地正大氣、粹然鍾神洲」と藤田東湖によつて言明された日本は、この時代の轉換期に當り、靈を主とし肉を從とする眞實の文化國たるべく大いに努力せねばならぬ。

◇

花より團子、詩を作るよりも田を作れで、いつか世にも斯うした生活をする者が多いとすれば、經濟を一概の根幹としたマルクスの學說は、久葬厚禮に次いで音樂までも非認した墨子の說と共に、それに多分の眞理が含まれてゐるのを否むわけには行かない。併し現代人は餘りに經濟的に從つて物質的になり過ぎてゐる。代々日本人は時代の轉換期に率先してこの弊を改めたいものである。」

和歌

選外佳作(其一)

一年を醫師もよばで過しつるかたじけなさをしみじみと思ふ　大連　國本英子

年明けて春にもならばおちつきて讀みたき本を讀ままく思ふ

新玉の年の始めに子供等はやゝはにかみて辭儀なしにける　鐵嶺　小山暎雄

父母のみもとははなれて新玉の年をむかふるがはや四度なる

故ありてうとくなりゐし友に書く年賀狀は字をつゝしみにけり　長野市　小池眞澄

まづしくも部屋とゝのへて元日は屠蘇にゑひたり老父とわれと　鐵嶺　樵波

庭つ鳥あかときつぐる聲さへもあらたに聞かゆ年たつ今朝は　大連　まつみ

そのかみの友達は多くとつぎたり改姓のふみ數多ときぬ　香川縣　高木宏影

うぶすなの熊野神社の女夫杉今日新しく七五三飾りせり

老人も若人もなし歳分たぬ樂しさにはあれ年のはじめは　京城　石井邦武

學校の近くに住めばあら玉の年の始めの歌聞ゆなり　遼陽　伊與部笑壺

年は明けて二歳になれど去年の暮生れし吾子は未だ笑まなくに　大連　南城珍子

子供らの生ひ行くみれば己が年をくやしむ心忘られにけり　大連　鈴木凍月

かすかなる光かなれど認め得て生くるうれしさは何と申さむ　鹿兒島　室屋禎二

貧しさを吾子には言はじ市に出で年玉を我あがなひにけり

さし昇る初日に向ひ祈るなり我あやまちの少かるべく　旅順　久保田愛栄

雪分けつゝ吾兒と摘み來て若菜心新にけさ膳に食す

門松の葉影こまかく土に落ちて今日元日の暮るゝおしけれ

ひとむきに思ひつゝ來し老母や格子戸のうちにみ醉し給ふ

賀正

瓦房店

瓦房店地方事務所長　長井租平　外所員一同

瓦房店警察署長　清水激　外署員一同

瓦房店郵便局長　尾崎重樹

瓦房店機關區員一同

瓦房店驛員一同

瓦房店保線區員一同

瓦房店醫員一同

瓦房店列車區交友會

瓦房店檢車員一同

滿洲果樹組合

南滿洲煙草耕作組合

瓦房店滿鐵社員俱樂部

瓦房店婦人研究會

局長　鳥森

瓦房店　西區長　井上伊七郎　東區長　三瀨彌作

瓦房店　共榮號　森田彥三郎　電話一一一番

瓦房店圖書館主事　三浦由之助

瓦房店小學校長　杵淵彌太郎

瓦房店地方委員(年齡順)　石丸幸作　小川政次郎　安藤榮次郎　松尾新藏　前田逸夫　金野光明　木村住造

瓦房店東區常盤街　瓦房店電燈株式會社　電話一七番　支店　熊岳城

瓦房店公學堂長　福井優

シンガーミシン會社瓦房店分店　市川浦治

御料理　筑紫館　電話一五一　照久金笑政金榮小外　三勇助丸勇蝶子勇仲居一同　之

瓦房店大厦街　運送業　新松尾新藏　電話七〇番

瓦房店新市街　巴商行支店　電話四五番

瓦房店新市場　支那料理　朝陽樓　電話四七番

瓦房店驛前　榮旅館　電話六九番

瓦房店東區　食料雜貨　天野商店　電話一一番

和洋菓子　滿壽屋　電話一二〇番

藥種商　高橋誠正堂　電話七九番

藥種賣藥、ペンキ　淺田商店　電話五八番

和洋雜貨明治生命　深草商店　電話三三番

高等寫眞　根本寫眞館　電話一〇九番

吳服物一切　森商店　瓦房店新市街

食料雜貨　島田商店　瓦房店新市街

瓦房店新市街　田中洋服店

白鶴白正宗　㊀商店　電話二六番

スター樂器店

和洋御料理　エベス食堂　電話一一八番

普蘭店　松山館　石丸十作　電話七番

御料理　千鳥　電話三二番

滿鐵俱樂部食堂　槇戶喜一郎　電話一〇五番

學用品一切　白土宏文堂　電話一一〇番

普蘭店民政支署職員一同

普蘭店稅關監視所

小出洋行　小出英吉　電話四番

普蘭店　豐島醫院　豐島慶三　電話一一三番

日本赤十字社普蘭店委員支部　今泉牛五郎

介辨業　和泉研　電話八番

三十里堡　果樹組合

普蘭店商務會長　王貴臣

代書業　狩野一二　平安街八二

普蘭店金融組合　尾股忠助

同仁街　土木建築請負業　新谷工務所　電話四一番

普蘭店福壽街　復州粘土窯業公司　電話三二番

北支那種苗農產公司　安東照　鈴木俊雄　電話一二六番

普蘭店郵便局長　山根隆三

普蘭店驛長　福井十一

普蘭店小學校長　井神貞一

普蘭店公學堂長　高田九郎

大連新聞支局　藤沼長吉

滿洲日報販賣店　松崎林兵衛　橋政一　武知洋行　板橋喜久治

賀正

長春

長春領事 永井清

長春商工會議所 會頭 笠井保

長春取引所信託會社 專務 山中繁雄

吉敦鐵路局 田邊利男

國際運輸長春支店 支店長 釘宮松三郎

長春警察署長 中尾大次郎

長春郵便局長 岐部與平

長春取引所長 永原岩雄

長春地方事務所長 土肥顓

南滿電氣支店長 大浦力

長春 長 和登良吉

長春在鄉軍人分會長 四戸友太郎

長春輸入組合 理事 久末吾次

南滿洲電氣株式會社 長春支店

合資會社 松茂洋行

ジャパンツーリストビューロー 長春案內所 電話一三九三番

長春仁和洋行 瀨下金

長春蓬萊町 早川齒科醫院 早川俊男

聖德會長 赤羽一二

長春驛賣店 久保田金平

長春各學校長一同

長春郵便局課長一同

長春地方事務所各係長

滿鐵長春區長一同

長春驛長外主任一同

株式會社 長春倉庫

(滿洲製粉長春工場內) 製麥 製粉 滿鮮企業合資會社 長春出張所 電話一三三四番

長春取引所信託株式會社

長春警察署 (イロハ順) 井上定弘 田中定治郎 田上乾吉 大場春吉 三上芳彦

吉長鐵路管理局局長 兼吉敦鐵路工程局局長 李端

長春取引所取引人組合

國際運輸株式會社 長春支店

長春工友會

長春旅館組合

長春料理店組合

長春石炭商組合

長春 加藤洋行

長春 東海起業株式會社

長春市場株式會社

吉林燐寸株式會社長春支店

日清製油株式會社 出張員 淸水壽

長春吉野町二丁目 合資會社 長春大和藥房

長春 仁和洋行

長春三笠町 北原紙店

長春日本橋通り 食料雜貨商 梶原洋行

長春日本橋通り 和洋百貨店 平本洋行

長春三笠町二丁目 藥種商 宮崎竹次郎

長春大和通四九 食料雜貨 三浦洋行 電話五六七 一〇〇四番

東支連絡驛賣店 峯下一郎

和洋雜貨 內外文具 書籍雜誌商 林洋行

富國徵兵保險相互會社 日清生命保險株式會社 長春代理店 滿洲日報長春營業部 南滿洲鐵道會社 警察署 憲兵隊 郵便局 御指定 富士屋旅館 館主 五味武太郎

長春東二條通 日鮮精米所 電話一二一九番

南滿瓦斯株式會社長春支店 河喜多英二

長春商工會議所 書記長 大垣鶴藏

長春興信所 淸水末一

同仁醫院 市橋貞三

長哈用達 石山商會

滿洲製油株式會社

長春 藤田與一郎

ライオン號 長春百貨店 赤木洋行

東二條通 西澤藥房

長春日本橋通 みしまや呉服店

長春吉野町 和洋雜貨 廣春洋行

長春吉野町 佐藤仁平洋服店

長春日本橋通り 東洋藥房

長春 金泰洋行

長春大和通 大葉商店

長春東一條通 竹島印刷所

長春千島町 三宅牧場

御琴三絃洋樂器一式 吉野屋樂器店 電一〇六八

東二條通 濱木印刷所

祝町二丁目 石田洋服店

長春二條通 寶石堂

長春吉野町 (平)洋行

長春東二條通 花月軒

東一條通 金城靴店

長春吉野町 乾寫眞館

長春三笠町 阿曾時計店

長春吉野町 森野商店

長春富士町 蝶屋洗布所

新◦年◦所◦感

日本郵船株式會社 社長 白仁武

船舶經濟問題

歐洲大戰後茲に十年我海運界は時に一進一退あれ共之を概して尚未だ不況の域を脫しない此間終始內外船主の頭腦を惱ませる問題は如何に經濟的に船舶を建造運用すべきかの問題である、之が結果として燃料の消費、荷物の利用、速力の增進等に於て最も經濟的なる內燃機船の建造盛なるは蓋し當然の次第であつて今日世界總船舶について汽船對內燃機船の噸數割合は約百分の十に達して之を大戰前の割合約千分の五に比較すれば實に霄壤の差である、尙最近世界建造中の船舶について見るも汽船三百廿九隻約百十四萬噸に對し內燃機船二百七十六隻百五十萬噸である。

由來石油燃料に惠まれざる我國の船主はこの經濟船の建造利用について已むなく愼重の態度を取らざるを得なかつたが今や船舶經濟の要諦を諳し右世界の趨勢に順應して近來この經濟船の建造に着手する船主漸增し目下主要會社の新造中若くは註文濟の船舶三十六隻の內二十三隻は內燃機船に屬するは同慶の至りである。」

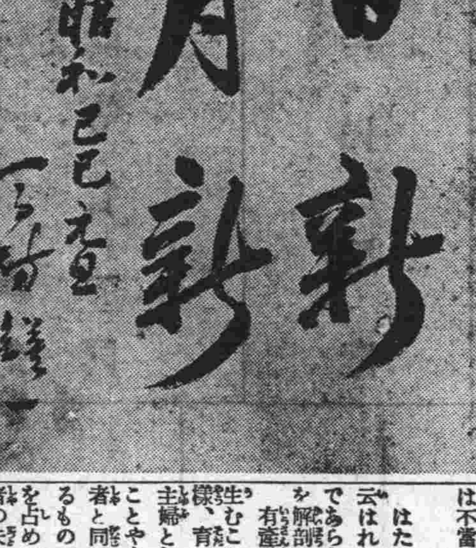
大船高速主義復活と

獨米船の活躍

昨年中世界海運界に於て刮目すべき特徵は大船高速、主義の復活である。この主義は世界客船の爭覇戰に伴ふ自然の結果であつて大戰前には大西洋航海のブリユー、リボンを目標として久しく英獨兩國船の間に闘明されたが端なく大戰亂の障碍に遭ふて一時この主義は停頓の狀態に在つたのである。然るに近來歐米間旅客貿易の復興につれてこの主義は復活し來り、殊に昨年八月北獨ロイドが四萬八千噸二十六節の大客船二隻を進水し又英國の白星線が世界第一を標榜する六萬噸級の建造に私かに着手したる如きは最も顯著なる事實である。

大戰後獨逸海運の復興最も目醒ましく昨年中一躍して伊佛兩國を凌駕し世界三番目の日本に殆ど追及せんとするに至つたことは特に注目に値する、其他獨逸の船舶は斬新精鋭のもの比較的に多く十年未滿のものが六割餘(日本は約四割)を占め內燃機船は四十七萬八千噸(日本は十五萬七千噸)を算し世界各方面に勇躍して居る。

又昨年五月制定の米國の新商船法はその目的、國防並に貿易の二大見地から民間海運業の獨立を確保せんとするに在るので造船貸付基金長期郵便航送契約及船舶徵發權の三要項を骨子となし船舶院總裁の聲明せる通り米國はこの新商船法の下に外國同業者に比しヨリ優秀なるヨリ快速なる船舶を續々建造せしめ政府の手厚き保護と國民の熱誠なる後援とによつて國際海運戰に必勝を期せんとするものである、卽ち新商船法の造船貸付基金を倍加して二億五千萬弗とし貸付金限度を造船原價の四分の三(從前三分の二)に增し貸付期間を二十年(從前十五年)に延ばし又利率を平均年三分(從前四分二厘五毛)に引下げたる如き如何に濃厚なる保護精神の充溢せるかを知るべきである、されば本法が俄然米國船主の造船熱を刺戟すると同時に擧て經營難を叫びつゝあつた米國造船業に一大光明を投じたことは固より當然であつて太平洋岸のダラー汽船會社外八會社は逸早く無慮三十四隻の大々的新造計畫を發表したのも偶然ではない、之が影響として海運競爭の上に最も脅威を蒙るものは申す迄もなく我が國の當業者であらねばならぬと思ふ。



勸銀總裁 馬場鍈一氏筆

我海運現狀と我社の期待

日本の海運は量に於て世界の三番目なるも質に於ては六番目に下らねばならぬのである、從つて我が海運の前途は船質の改善を以て急務とせねばならぬこと亦當然である。

昨年中我國の新造船は十餘萬噸に上り且年末工事中の新船も亦約三十隻十萬噸以上あるから、この船質改善の希望は着々達せられるであらうが、斯る現象は果して永續性ありや否や海運市況の實際から觀て甚だ氣遣はしく考へられるのである。

蓋し我國の海運界には造船難、燃料難、金融難といふ傳來の缺陷あるのみならず昨年中は海上勞働問題が特に深刻味を加へ、又賃銀の增額、海上保險料の値上船員保險の施行案などの爲め少からぬセンセーションを惹起したが、一面に於て運賃市場は尙財界の不安、船腹の過剩、支那問題の紛糾等のため概して引立たなかつたので多數の船主は相變らず經營難の下に悶めて居たのである。而して斯かる局面の轉回せざる限り海運界の實質的復興は當分之を實現すること至難と思はれる。

我郵船會社は此の間に處し昨年一昨年に跨がつて六千萬圓の社債を募集し新造船計畫の實行に着手したのであるが、目下この計畫の下に工事中のもの九隻(桑港線三隻、沙市線三隻、歐洲線二隻、南米線一隻)通計十一萬餘噸に上る。この內桑港線用優秀客船の第一船淺間丸は昨年十月既に進水を了し、向後續々竣工して明五年秋期までには全船竣工を告げて夫々就航する筈である。是等の新鋭は構造上經濟と效力の權衡に最も注意したから、その用途先に於て如何に强敵に出逢つても克く勝ちを制して我社公私の使命を果す上に頗る人意を强うすべきものがあると信ずる。」

妻に對する言葉

新妻伊都子

(一)

ある夕べ、ある忘年會の席上で三上於菟吉氏が「女達がとやかくと自己の權利を主張するが、それは男を養ふようになつてからでなくてはだめだ」と一矢を私共の方へむけて來た。これに對して種々女性側から意見は出たが、今、私はその記錄をこゝへ寫さうとするのではなく、たゞ「夫婦間に――養ふ、養はれる」と云ふ言葉が氣にかゝるので、此言葉を中心として私考を述べてみたいと思ふ。

此「養ふ」と云ふ言葉の意義から下せば、或者が生活費を稼いで來て、他の無能力な者を生活させてゆく、と云ふので、卽ち、老人小兒、不具者、病人の場合は養はるべき位置にあるが、在來の如く妻まで、其中に入れておかれたのは不當なことではなかつたらうか。

(二)

はたして妻は夫から養はれると云はれねばならぬ程無能力なものであらうか、まづさきに、妻から解剖してみたいと思ふ。

有產階級の或る種の妻は、子を生むことを知つても、鶩の親と同樣、育てることを知らず、一家の主婦としても、家庭經濟など何のことやら分らぬ婦人は、全く不具者と同であるから「養はれ」て居るものであらう。然し社會の大半を占めて居る無產者の妻は、生產者の夫に對して、何うしてもよき消費者とならねばならぬように出來て居る。事實の上に於ては、娼婦と同じように、媚だけを夫に呈し、誤魔化した生活をして居る妻もないとは云へぬが、すべて妻の仕事は、よき子供を生み、よき子供を育て、家庭に於けるよき消費者であれば充分尊敬にあたると思ふ。然し、私がこうした妻をいかに尊敬するにたると云つても法律上では妻は「扶養」されて居るものであり、貝原益軒の女大學ではないが「追出され恥を曝す」ものとされて居るのだからやりきれない。

(三)

妻として充分に仕事をしてすら養はれると云はれるのは、卽ち生產權に女性がたゝなかつた爲に、男性の支配下におかれるようになつたのである。であるから、職業婦人の現出も、勿論大きな原因は社會組織の缺陷から起るのではあるが、男性の支配下から逃れる爲に、働くと云ふものも出て來たに違ひはない。なかには、子供など生むものは馬鹿だとさへ云つて居るモガもある。相當な權利の主張から、反抗にまで向ひつゝある。

で最初に返るが、男女何れにもせよ「養ふ、養はれる」と云ふ言葉は、云ひ換れば「支配する、支配される」と云ふことで、平等な人間同志の家庭では使用すべきものではないと思ふ。養はねばならぬような妻をもつた夫は不幸であり、養はれて居るような夫がありとすれば、子供を生む資格さへ持たぬだけ、女性以下におくべきものであらねばなるまい。

繪畫上の滿洲管見

於川龍人

◇

大典直後の落ちついた正月を滿洲で迎える事になりました。私は大連へ來ました。美しく晴れた日公園へやつて來ました、青い空へ黑い神經の樣な梢を持つた木々が突き出て居りました。よく保存された並木道は冷々として直線的でアカシヤの幹は直截に近代生活をしてゐる大連人に當擬つて迫つて居ます、ウス霧に鎖された內地には江戶版畫の情趣が必要であり、滿洲の美しさは夫自身の產む獨特なる表現を要する事でせう。なだらかな小丘に書てつらねられた新しき家並の數々も追々統一ある美しさに向つて進むるだらうと思ふ日本を離れて來た同胞が先づ滿洲へ來て何を考え、何を產む事に努めるだらう。その生活、精神的變態にうつす事よりも滿洲の產んだ美を直截にして線の太きヅルー人種の影響の樣にあるものを掴り當て度い。この頃滿洲の或る繪畫展を拜見に行きました。其處には內地の目まぐるしき美術界の潮流の分野を見ました。輕快な流行も見ました。夫等のものは吾々に何を語る事が出來たか。吾々は滿洲の景色を單にかいても滿洲の產むだ繪畫としては受け入れられない土地の產むだ生活の明かに反映したものを望みます。私は滿洲人形か何かの變り種の一ツ二ツを望むで居ました。

◇

私は先づ五龍山の赤く夕やけした健康に接しました。それから、坦々とした平原のはてしなくて地平の一線に依つて天と連なるところ黑衣の點々が人である事が判りました。私は此等を畫にすることを知らない。支那人が光琳を知らない事も判ります、光琳の畫の必要もないと同樣。內地の人々は淸末の四王の畫の必要ない。斯の如き意味に於て滿洲夫自身創作の手をやめてはならない、其畫に生活の意義が淨められる。」

◇

野に働く支那人の風俗は遠距離に於て明快、近づけば永き傳來のしつけをよくまもりたる、而して又要領を得ないヒネコビた線に圍まれた服裝が澁い變な味を感じさせる、二三間も距たれば恐らく簡潔に要領を得た事に驚く。近代日本人の服裝も生活樣式も夫自身はちつとも美しさがない。あたかも明治大正時代の工藝品の樣に。江戶時代の風俗も或は小なる形式の浮世繪以外に移す事が出來ないかも知れない。支那人の着物も三年五年の目に馴れると興味を惹く何物もなくなるかも知れない、それは傳來の型以外に一個一個の閃きに缺くる所以だ。假に平面に繪卷物の樣に橫へ橫へ長い現代支那人の風俗卷を完成することは難しい事だらうと思ふ。服裝よりも何よりも最も滿洲生活を豐富にする支那系の多くの陶磁器あるのはうれしい。最早昔日完成されて滅びた一點のすきなき過去の藝術乍らまざまざ吾々に語つて具れる目新しき領域は澤山にある。織器と意なき格なき工藝に向つて强い一千年前の警鐘を打ち鳴らして近代人に迫つて來る。滿洲の多くの覺醒された人々は內地の茶湯式觀賞を排すだらう。而して椅子、コーヒー茶碗、壁紙にも滿洲式を創り出すだらう。

◇

冬の滿洲は最も室內の明るさと生活の基本となる可き調度に工夫をこらす可きだ。夫は階級の如何に係はらずしてよき洗練を條件とすること勿論である。室の周圍の物が自分によびかける言葉といふものは知らず知らずに恐ろしい感化をあたへるイミテーションで裝飾する人はイミテーションが矛盾でなくなる、それはおそろしい力だ。內地の樣に複雜なる外界の交錯の裡に生活するのとは異り、ことに結氷した空を窓外にながめて不斷室といふものから出る事少い此土地には餘程の嚴安になり生々しい生命を見せつけるものがなくては叶はない筈である。滿洲では總ての藝術品が巧利的に直接に働かなくてはならない。

◇

私は滿洲の建築の專門的樣式を知らないエトランゼに過ぎない。しかし繪になり相な種々相を見たことに小丘の線の髮きものゝ斜面に氣儘な格好をした建築物は鎖を洗ひ落した樣な壁と煙突の斗線等によつて最も近代風な味を出してゐるものが澤山ある。さういふ家景人物が添なはつてゐる。これはおそらくどこにも見ることの出來ない風景だらう、其處には滿洲らしさの曰ふに曰れぬガッシリした落ち附きを見せてゐる。矢張り滿洲には滿洲の建築が自然に出來上り人々を感化する事になるだらう

◇

最近滿鐵に於て松方氏の繪畫の一部分を買收する計畫ありとかきく滿洲もめぐまれる事になる。人々は滿洲のことに多少の荒廢を謳ふいつた樣な美しさを知らなくてはならない。一時に花開き一時に落葉する滿洲の風土が同胞の創造性の上に如何に變化あるものを確立するか興味ある問題である。其時廣い樂土が出來上るわけである。

賀正

遼陽

遼陽領事代理 吉井秀男

遼陽警察署長 武波善治

遼陽衛戍病院長 田川精三郎

遼陽憲兵分隊長 古岳新治

遼陽郵便局長 福永高介

遼陽工場長 田島豐治

遼陽機關區長 福田又司

遼陽驛長 田中幸英

遼陽保線區長 川村一治

遼陽醫院長 白鳥文雄

遼陽地方委員會議長 生田友次郎

遼陽地方委員會副議長 古庄重一

遼陽居留民會長 林禮吉

遼陽在鄕軍人分會長 西正之

滿洲紡績會社專務取締役 玉木德次郎

遼陽實業會長 萩岡彌次郎

遼陽輸入組合理事 早瀨賴二

遼陽神社 平井利雄

遼陽第一區長 村井常吉

同第二區長 山下德太郎

同第三區長 西田爲次郎

同第四區長 岩永安馬

土木請負 矢野薫 遼陽佟家大街 大連市磐島町

旅館 遼塔ホテル

やまき呉服店 本店 遼陽昭和通 支店 鞍山數島町

特產物商 林禮吉商店 遼陽城內西街

遼陽電燈公司 總辦 于冲漢 支配人 中村信

特產物商 高木儀三郎商店 遼陽城內

遼陽西郊外 滿洲紡績株式會社

特產物商 合資會社 深尾洋行 遼陽城內

大矢組株式會社 遼陽出張所 遼陽西關

特產物商 西田商店 遼陽東洋街

棉花貿易並に綿、布類製造販賣 合資會社 遼陽滿蒙棉花

油屋旅館 電一六四番

遼陽驛構內食堂 遼塔軒 電一六五番

遼陽料理店組合一同

食料雜貨 坂口商店 電話二四三番

和洋雜貨 岡山商會

食料雜貨 眞柴商店 電話一〇八番

和洋雜貨 北原洋行 電話二一七番

遼陽貨物運輸合資會社

建築請負 綱島嘉平

和洋雜貨・食料品 石川洋行 電話六五番

遼陽福康裡 金聲書寓 翠卿班 會仙閣 慶祥書館 蓮香書館 蘭香閣 聚美仙寓 雲華書館 双寶書館 福康裡事務所

藥種・賣藥 安達藥房 電話一六七番

食料雜貨 梶原洋行 電話二〇二番

和洋菓子調進 川上商行 電話七五番

建築請負 宮武市祐

遼陽飲食店組合一同

石炭 滿鐵遼陽販賣組合 泰平公司 大松號 德隆 成昌 電話二六〇

賀正

旅順

關東長官 木下謙次郎
關東廳警務局長 藤岡兵一
關東廳內務局長 神田純一
關東廳高等官 食堂會員一同
關東軍司令官 村岡長太郎
關東軍司令部 高等官一同
旅順要塞司令官 山田勝康
旅順高等法院檢察官長 安岡靜四郎
關東廳旅順醫院長 山根正治
旅順婦人病院長 大槻滿次郎
旅順工科大學 高等官食堂一同
旅順市會議員 俱樂部員一同
旅順金融俱樂部

旅順民政署長 藤原鐵太郎
旅順市長 永山嘉一
步兵十五聯隊長 藤田進吉
旅順衞戍病院長 藤懸廣
旅順重砲兵大隊長 吉村文吉
旅順刑務所長 助川德輩
旅順療病院長 大津尙
須原坦
旅順醫院
耳鼻咽喉科部長 井波讀吉
眼科部長 宮下忠
小兒科部長 田中利雄
物療部長 加藤守吉
產婦人科部長 難波猛
出診部長 田上穎之
旅順第二中學校長 橫佩章吉
旅順高等女學校長 佐藤馬太
旅順師範學堂長代理 稻賀褒
旅順第一中學校長 平田芳亮
旅順警察署長 瀧慶藏
增田義道
西原
大津昇雲

旅順市嚴島町 製鹽業 矢原商會 矢原重吉 電話八一・一五一番
旅順市嚴島町 宅島商會 宅島猛雄 電話一〇三番
旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一一九番
旅順市八島町 石炭商 滿昌洋行 電話一六六番
旅順市乃木町三丁目 食料品雜貨商 大島商店 電話一三八番
滿洲寫眞帖出版元 記念品御商 東京堂 乃木町三丁目 電話六一番
金太屋
吉村商會
村上信二商會
旅順市青葉町 深川齒科醫院 電話四七六番
旅順市敷賀町 塚澤齒科醫院 電話二四二番
旅順市乃木町三丁目 櫻井時計店 電話一九五番
旅順市乃木町 諸船舶來貨商 滋賀洋行 電話三七六番
旅順市乃木町三丁目 本田治三郎 電話二七七番
旅順市八島町 遼東病院 電話一四二番

旅順市青葉町四二 樋口寫眞館 電話四一七番
旅順市青葉町二 ㊂下村履物店 中西嘉七 電話三二五番
千代田生命保險相互會社代理店 石炭商 矢幡商會 入島町 電話三一・三〇六番
旅順櫻泉社 サクラ印サイダー、シトロン製造所 那須梅吉 電話二一八番
諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番
旅順市乃木町三丁目 ㊎ゑびす屋吳服店 電話一三〇番
旅順市乃木町三丁目 近江屋吳服店 電話七九番
旅順市敷賀町 製靴革類 阪本洋行 電話二六二番
岸本靴店
旅順市名古屋町一七 土木建築請負業 石井本一 電話一三八番
旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 簗島組 電話三九七番
旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 本田與市 電話四一一番
旅順市乃木町二ノ一九 [illegible]商會 西田泰助 電話一四〇番
旅順市乃木町二丁目 大西商會 電話二五三番
旅順市金比羅町 トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 石井榮一 電話三七番
旅順市朝日町魚市場 ㊀井町商店 電話三三二番
旅順市乃木町三丁目 旅順無盡株式會社 電話二五一番
滿洲蠶絲株式會社

旅順市大津町一六 疊館 興石久作 電話三六〇番
旅順市敷賀町 表具商 原榮年堂 電話五三三番
旅順菓子同業組合
旅順質屋組合
青葉町 萬代號藥房 電四二八番
乃木町三 田中藥舖 電三三六番
青葉町 宮竹藥店 電一七〇番
乃木町 岩崎洋服店 電話三六四番
大迫町 高田洋服店 電話三九八番
乃木町 中山洋服店 電話三二九番
敷賀町 島村洋服店 電話一七九番
御旅館 實來館 旅順市乃木町三(電五六番)
御旅館 防長館 旅順市青葉町(電二八二番)
御旅館 旅順ホテル 旅順市青葉町(電三六七番)
御旅館 福壽館 旅順市驛前(電四六〇番)
名古屋町 旅順檢番 電七一番・五九一番
乃木町 彌生 電三三七番
鮫島町 壽 電一六九番
青葉町 青葉 電一二一番
青葉町 君乃家 電四二六番
敷賀町 新花月 電二四二番
乃木町 瓢亭 電四九番
昭和園 內田興行部 電話二四番
乃木町三丁目 滿洲日報取次店 遠洲屋 電話五三一番
旅順市青葉町 和洋雜貨 御柳行李・バスケット製造販賣 外山洋行
(內外諸新聞販賣) 外山洋行新聞部
旅順市乃木町三丁目 自轉車及附屬品 田村商會支店 電話五一〇番
喪中に付年賀缺禮仕候

旅順料理屋組合(イロハ順)
西町 一力 電話一二〇番
同 蛤亭 電話二四七番
柳町 濱名館 電話六九番
西町 東洋軒 電話一〇八番
川端町 吉田屋 電話三一七番
同 旅島屋 電話一六三番
十年町 松葉 電話四三〇番
川端町 滿月樓 朝鮮料理
同 京城館 朝鮮料理
西町 榮福樓 電話三七〇番
同 吾妻樓 電話三八〇番
朝顏町 堺樓 朝鮮料理
西町 明月館 朝鮮料理
同 新萬歲 電話三二一番
川端町 笑福樓 電話二四三番
東町 春海館 朝鮮料理
川端町 昭和樓 朝鮮料理

旅順料理屋組合
奴すし
つぼみ
吉野屋
カフェーキムラ
福壽し
大阪や
大迫屋
松金
すずめ
新更科
千歲俱樂部
伊勢屋
日出
キング
おかめ庵
柳川
高橋
大和軒

瑞章堂印房
文英堂書店
松崎紙店
中野日界堂
やまこ軒
山口商店
高治洋行
谷疊店
吉野羅紗店
大阪屋號書店
岡女庵
德商店
新見時計店
原田時計店
池田洋行